

和泉市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和8年3月

和 泉 市

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
7	調査結果の信頼性.....	2
8	集計および分析の方針.....	2
II	調査結果のまとめ.....	3
1	回答者の属性（問1～問9）.....	3
2	男女共同参画について（問10～問13）.....	3
3	家庭生活、子育て等について（問14～問22）.....	3
4	教育について（問23～問27）.....	4
5	労働について（問28～問35-1）.....	4
6	地域活動などへの参画について（問36～問37-1）.....	5
7	防災について（問38）.....	5
8	政策・方針決定の場への参画について（問39）.....	5
9	配偶者などへの暴力について（問40～問42）.....	6
10	男女共同参画の推進について（問43～問47-1）.....	6
III	調査結果.....	7
1	回答者の属性.....	7
2	男女共同参画について.....	15
3	家庭生活、子育て等について.....	28
4	教育について.....	70
5	労働について.....	83
6	地域活動などへの参画について.....	110
7	防災について.....	124
8	政策・方針決定の場への参画について.....	127
9	配偶者などへの暴力について.....	130
10	男女共同参画の推進について.....	157
11	自由意見.....	180
IV	参考資料.....	181

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 27 年度に策定した「第 3 期和泉市男女共同参画行動計画（オアシスプラン）」及び「和泉市配偶者等からの暴力防止及び被害者の支援に関する基本計画（DV防止基本計画）」が、令和 8 年度で計画期間が終了するにあたり、改めて男女共同参画に対する市民の意識や現状について把握し、次期計画策定の基礎資料とするため実施しました。

2 調査対象

本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民から無作為に抽出した男女 3,000 人

3 調査期間

令和 7 年 12 月 11 日～令和 8 年 1 月 8 日

4 調査方法

郵送配布、郵送・WEB 併用回収（調査期間中に、はがきによる礼状兼依頼状の配布 1 回）

5 回収状況

配布数	回収数	回収率
3,000件	1,165件	38.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が 1 桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が 1 桁の場合は、コメントを差し控えています。

7 調査結果の信頼性

市民調査を実施する場合、本来は全市民を対象とすることが望ましいですが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果（全数調査の結果に近い調査結果）を得ることになります。

今回の調査結果がどの程度の精度を持った回答結果であるかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算定し、検証します。

標本誤差“ δ ”は次の式で算定されます。

$$\delta = \kappa \sqrt{\frac{M-N}{M-1} \times \frac{p(1-p)}{N}}$$

記号の説明

記号	項目	内容
δ	標本誤差	上記による
M	母集団	16歳以上の人口数：152,981人
N	有効回収数	1,165通
κ	信頼度による定数	信頼度95%の時、1.96
p	結果の比率	50%の時が最も大きな値となる

標本誤差算定結果

結果の比率 p : (1-p)	50% : 50%	40% : 60%	30% : 70%	20% : 80%	10% : 90%
標本誤差 (δ)	±2.86%	±2.80%	±2.62%	±2.29%	±1.72%

全市民に聞かず、一部の人のみに聞いたことで生まれる「結果のズレ」のことを標本誤差といいます。標本誤差の算定結果について、「賛成 90% : 反対 10%」の場合、誰に聞いてもほしい同じ結果になるので、誤差は小さくなります。「賛成 50% : 反対 50%」の場合、聞く人によって結果が変わりやすく、一番不安定な状態です。

この結果、今回の調査結果は、95%の確率で $50 \pm 2.86\%$ の範囲内（信頼度 95%）となります。

※例：今回と同じ調査を、同じ調査対象（本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民）の中から調査対象を変えて 100 回行えば 95 回は今回の調査結果で得られた結果の範囲内の結果が得られると推定できます。

8 集計および分析の方針

本報告書における各設問の集計・分析は、全体の傾向把握に加え、主に以下の視点に基づいて実施・記載しています。

【関連調査（大阪府調査）との比較】

令和 6 年度に大阪府が実施した「男女共同参画にかかる府民意識調査」において同種の設問が存在する場合は、比較結果を記載し、相対的な傾向を分析しています。

【経年変化の把握】

過去の調査（平成 25 年度調査）において比較可能なデータが存在する設問については経年比較を行い、時系列での変化を可視化しています。

【特徴的な傾向の抽出（クロス集計）】

属性別のクロス集計を行い、統計的に有意な差がみられるものや、特筆すべき特徴的な傾向が表れている集計結果を重点的にピックアップして記載しています。

Ⅱ 調査結果のまとめ

1 回答者の属性（問1～問9）

回答者の性別をみると、男性47.6%に比べて女性が51.0%と女性の割合が高くなっており、年代をみると、「70歳代」の割合が最も高く21.3%、次いで「50歳代」が19.2%、「60歳代」が18.8%となっています。

家族構成は「二世帯世帯（親と子）」の割合が48.8%を占めており、「一世帯世帯（夫婦だけ）」（30.8%）、「1人世帯」（14.1%）を合わせると、核家族世帯が93.7%を占めています。

配偶者・パートナーの有無については、女性では年代が下がるほど、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「未婚」の割合が高い傾向にあります。また、女性40歳代、女性50歳代、男性70歳代、男性80歳以上で「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」の割合が高くなっています。

最終学歴、現在通学している学校については、女性で「短期大学、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校」の割合が男性と比べ22.3ポイント高くなっており、一方で男性では女性に比べ「四年制大学」の割合が22.1ポイント高くなっています。

2 男女共同参画について（問10～問13）

男女の地位の平等感について、過去調査から「平等である」とする割合が高くなっている項目は、①家庭生活、②職場、⑦社会通念・慣習・しきたりとなっています。一方で、⑤政治の場、⑦社会通念・慣習・しきたり、⑧全体として については、「男性の方が優遇されている」と考える人が依然として多くなっています。依然として固定的な性別役割分担意識の傾向がみられることから、優遇感の強い分野における「平等感」を底上げする啓発が必要です。

また、「男は仕事、女は家庭」という考え方について否定的な意見をもつ人については、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、個人や家庭にとって良い」の割合が過去調査に引き続き最も高くなっており、次いで「性別で役割分担をすべきでない」を理由に挙げる回答者が4割を超えています。一方で、「男は仕事、女は家庭」という考え方自体については、“そう思う”の割合が3割にとどまるものの、男性の高年齢層を中心に肯定的な意見が他の層に比べて高く、市民に対して、性別役割分担意識を解消するための効果的な啓発やアプローチの方法を検討していくことが求められています。

3 家庭生活、子育て等について（問14～問22）

男女の平等感について今回の調査結果からみると、『⑤子どもを産む回数や時期などは、女性の意思も尊重すべきである』という考え方において“そう思う”の割合が高くなっており、過去調査と比較しても増加傾向にあります。また、『②女性は結婚したら、自分自身のことより家庭を中心に考えて生活した方がよい』『③夫の親を妻が介護するのは当然である』といった項目では“そう思わない”などの否定的な意見が過去調査に比べて増えており、徐々に平等感や個人の尊重への意識が高まってきていることがうかがえます。

しかし、性別でみると、いくつかの項目で男女の意識の差がみられ、特に『⑥結婚してもうまいかかないときは、結婚を継続しなくてもよい』では男性に比べ女性で肯定する割合が高くなっています。一方で、『①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』『④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』『⑦夫婦は別の姓を名乗ってもよい』といった項目では、女性に比べて男性で“そう思わない”の割合が高くなっており、依然として保守的な意識がみられます。

また、家庭での役割分担について、他の項目に比べ、『⑧子どもの教育としつけ、学校行事の参加』学校行事の参加では「両方同じ程度の役割」の割合が高くなっています。

一方、①生活費をかせぐ、⑩自治会・地域活動への参加については「男性の役割」、③日常の家事、⑨乳幼児の世話については「女性の役割」とする割合が高くなっています。

実際に家事・育児に携わる時間をみると、①平日、②休日ともに女性に比べて男性で「なし」や「1時間未満」の割合が高くなっており、実際の家庭生活では、依然として男性の参画が少ないことが明らかとなっています。男性自身の意識改革とともに、働き方の見直し、社会全般に向けてのワーク・ライフ・バランスの考え方の浸透など参画できる環境づくりが求められます。

ワーク・ライフ・バランスの状況を見ると、希望では「仕事と生活をバランスよく」の割合が高いものの、現実では、男性で「どちらかという仕事を優先」の割合が、女性に比べて17.5ポイント高くなっています。また、実際に育児・介護休業制度を「取得したことがない」理由としては、男女ともに「他の家族など、ほかにする人がいたため」が最も高いものの、男性では「仕事が忙しい」の割合も女性より高く、仕事優先の現状がうかがえます。

また、男性の家庭生活への参加を進めるために必要なことについては、女性で「男性自身の抵抗感をなくすこと」や「社会の抵抗感をなくすこと」の割合が高く、男性で「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」の割合が高くなっています。

これらのことから、性別による固定的な役割分担意識の解消とともに、ワーク・ライフ・バランスの考えを浸透させ、仕事と家庭生活の両立を可能とする環境づくりを進めることが求められます。

4 教育について（問 23～問 27）

女の子と男の子のしつけや教育について、「性別にこだわらず、同じようにしつけや教育をする方がよい」の割合が64.8%と最も高くなっています。また、女の子、男の子でどのように育ったらよいかについて、過去調査と比較すると、女の子では「経済的自立ができる人に」、男の子では「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が増加しており、男女ともに自立した生活能力を求める傾向が強まっていることがうかがえます。男女共同参画社会の実現に向けて、性別による役割分担意識を解消し、個々の能力を最大限に発揮できる環境を整えることは不可欠であり、特に学校教育において、男女を必要以上に区別せず、個人の個性と能力を尊重した指導を公平に行うことが重要であり、今後は教育現場と家庭が連携し、多角的な視点から次世代の意識形成を支援していくことが求められます。

5 労働について（問 28～問 35-1）

回答者の仕事をやめた経験は、男性に比べて女性の方が「ある」の割合が高く、結婚や出産を機に離職する傾向がうかがえます。

女性が仕事をすることについては、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」の割合が43.3%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」の割合が18.0%となっており、継続就労を肯定する人が再就職希望者を大きく上回っています。

実際に仕事をやめた理由をみると、女性では「結婚のため、やめざるを得なかったから」「出産・育児に専念したかったから」「結婚したら専業主婦・主夫になりたかったから」「出産・育児のため、やめざるを得なかったから」の割合が高くなっており、ライフイベントにより仕事を中断している実態があります。女性が結婚や出産、子育てをしながら仕事を続けるため「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」、「労働時間の短縮や子育て中の残業の免除など柔軟に働ける職場づくり」を必要としている割合が半数を超えており、職場での休暇の取得しやすい雰囲気づくりやフレックスタイム

などの柔軟性の高い働き方の整備が必要となります。

6 地域活動などへの参画について（問 36～問 37-1）

現在、地域活動に参加している人の割合は、全体で 20.0%となっており、「特にしたくはない」の割合が 7割近くに達している状況です。一方で、「してみたい」とする人の割合は 9.8%ですが、平成 25 年度調査と比較すると減少傾向にあり、今後の地域活動を担う人材の確保が課題となっています。

地域活動をする際の障壁については、女性で「家事・育児が忙しく、時間がない」の割合が高く、男性で「仕事が忙しく、時間がない」「経済的な余裕がない」の割合が高くなっており、性・年代別にみても年代が下がるにつれて育児や仕事で時間がないといった回答の割合が高くなる傾向にあります。育児や仕事をしながらでも参加できる活動の周知や若者から高齢者まで参画することのできる社会づくりが必要となります。

7 防災について（問 38）

防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要が特にあるものについては、前回調査と比較し、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）」「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」の割合が増加しており、近年、の能登半島地震とはじめ様々な大災害が多くメディアで取り扱われたことから市民の防災への関心、意識が上昇していることが見られます。また、女性では「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」、男性では「防災・復興に関する計画の策定のための防災会議などに女性が参画し、男女共同参画の視点を計画や防災マニュアルなどに反映すること」の割合が高くなっていることから、男女双方の視点を取り込まれるような体制づくりに加え、年代、障害の有無など様々なケースに配慮した設備等の環境を整えることが重要となります。

8 政策・方針決定の場への参画について（問 39）

政治・行政・職場や地域において、政策方針決定の場への女性の参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が 36.9%、「女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない」の割合が 36.3%となっています。性別にみると、女性で「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が高くなっています。

また、平成 25 年度調査と比較すると、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が増加しています。性・年代別にみると、女性では 40 歳代から 80 歳以上まで年代が上がるほど「女性の能力開発の機会が不十分」の割合が高く、男性では 20 歳代から 70 歳代まで年代が上がるほど「女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない」の割合が高くなっています。

地区別にみると、光明台や南松尾はつが野では「意識」の問題、郷荘では「組織運営」、北池田では「能力開発」、南池田や榎尾、富秋では「積極性」に関する項目がそれぞれ高くなるなど、地域により異なる傾向がみられます。

これらのことから、依然として根強い性別役割分担意識を解消するとともに、男性側の意識改革を促すこと、さらには意思決定層における「男性優位の組織運営」そのものを構造的に見直すことが必要となります。あわせて、今後は各地区の課題の特性に応じた、きめ細やかな啓発や支援施策を展開していくことが求められます。

9 配偶者などへの暴力について（問 40～問 42）

配偶者・パートナー間での行為についての暴力認識は、『⑫子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう』について該当する認識が高まっており、直接的な危害以外にも面前DVなどが重大な暴力に該当するという意識が浸透してきていることがうかがえます。一方で、『⑦何を言っても無視し続ける』については「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」が高くなっており、精神的な嫌がらせへの認識にはまだばらつきが見られます。

配偶者や親密な関係にある恋人からの暴力被害については、様々な暴力の形態があるなかで、いずれも女性の被害が多いこと、また他の項目に比べて『②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど』といった精神的な暴力被害について、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた被害経験の割合が高くなっています。このため、暴力は身体的なものだけでなく、心理的・性的な暴力や制限など多岐にわたることを再認識し、被害者が自身の受けている苦痛を正當に認識できるような啓発活動を強化することが必要です。

また、暴力被害の経験者の相談状況については、「どこにも相談しなかった」の割合が 49.2%と最も高くなっており、また、相談しなかった人は男性で多くなっています。相談しない理由としては、「相談するほどのことではないと思った」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」の割合が 28.8%、「自分にも悪いところがあった」との割合が 27.6%となっており、被害者が諦めや自責の念を抱いている状況がうかがえます。このため、相談を無駄と感じさせない実効性のある救済措置の明示と、男性被害者も躊躇なく助けを求められる相談体制等の充実が求められます。

10 男女共同参画の推進について（問 43～問 47-1）

男女共同参画社会を実現するために、特に重要なことについては、「女性や男性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」の割合が 47.9%と最も高くなっています。女性では「女性も経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、力の向上を図る」「仕事や賃金面で男女格差をなくす」「保育や介護などの施設やサービスの充実を図る」の割合が高くなっており、生活に密着した課題の解決と経済的自立への支援が求められています。

男女共同参画社会を実現するために市民ができることは、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分業意識にとらわれないようにする」の割合が高く、平成 25 年度調査と比較しても増加傾向にあることから、意識変革の実践を促す継続的な啓発が重要です。

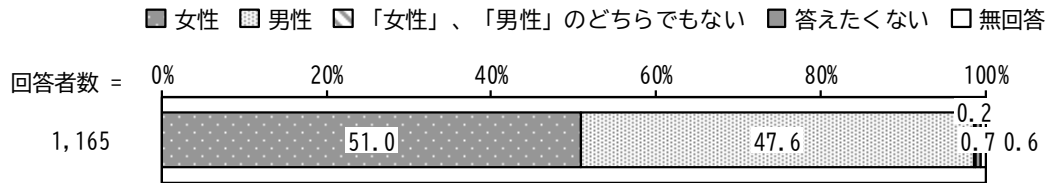
和泉市が男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設として設置している「男女共同参画センター」については、「知らない」の割合が 81.7%にのぼっています。さらに認知している層でも利用経験が「ない」の割合が増加していることから、単なる名称の周知にとどまらず、利用のきっかけとなる魅力的な事業展開や利便性の向上を図り、市民にとって身近で使いやすい施設へと転換することが必要です。

Ⅲ 調査結果

1 回答者の属性

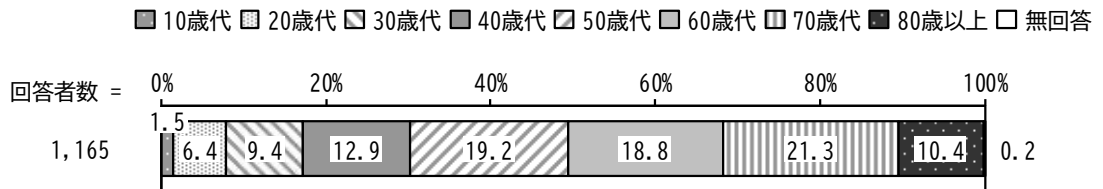
問1 あなたの性別は。(○は1つ)

「女性」の割合が51.0%と最も高く、次いで「男性」の割合が47.6%となっています。



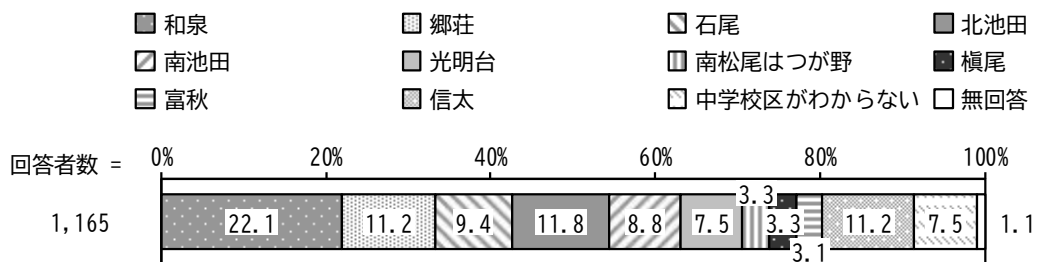
問2 あなたの年代は。(○は1つ)

「70歳代」の割合が21.3%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が19.2%、「60歳代」の割合が18.8%となっています。



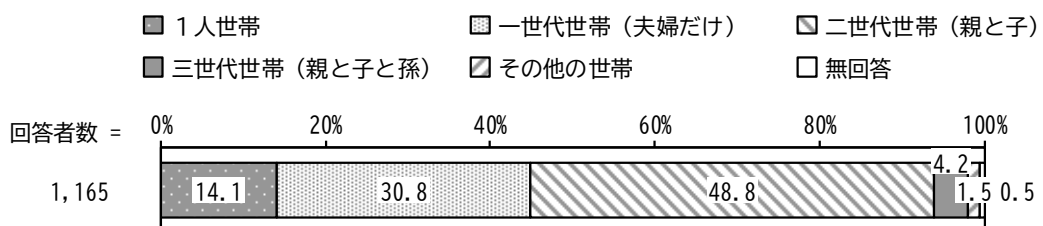
問3 あなたがお住まいの地域（中学校区又は義務教育学校区）はどこですか。中学校区がわからない方は、町名をお書きください。(○は1つ)

「和泉」の割合が22.1%と最も高く、次いで「北池田」の割合が11.8%、「郷荘」、「信太」の割合が11.2%となっています。



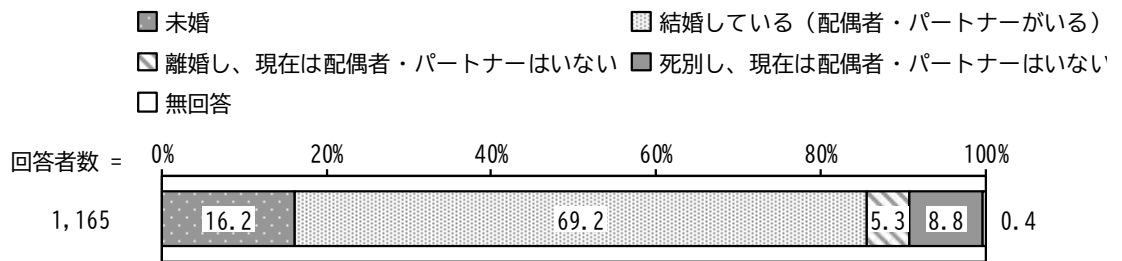
問4 あなたの家族構成はどれにあてはまりますか。(○は1つ)

「二世世代世帯（親と子）」の割合が48.8%と最も高く、次いで「一世世代世帯（夫婦だけ）」の割合が30.8%、「1人世帯」の割合が14.1%となっています。



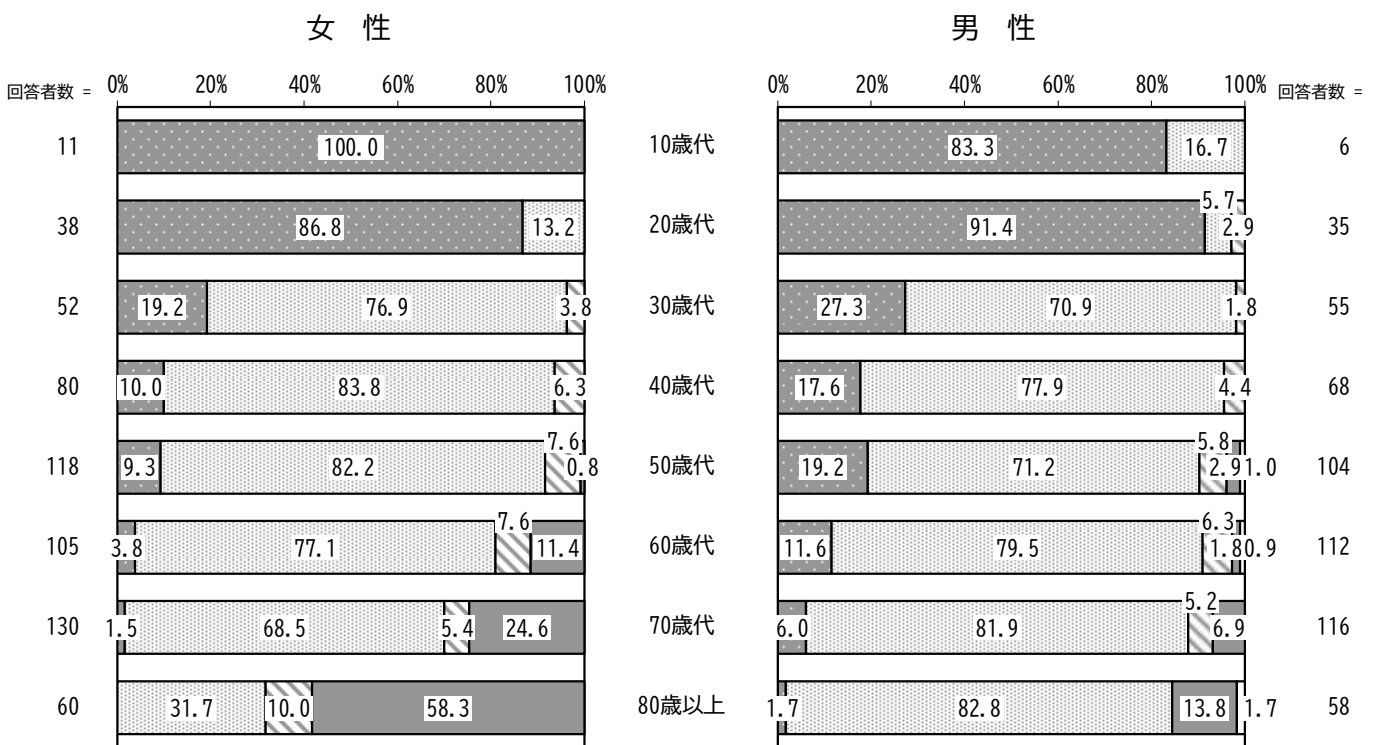
問5 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。またはしていましたか。（○は1つ）

「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」の割合が69.2%と最も高く、次いで「未婚」の割合が16.2%となっています。



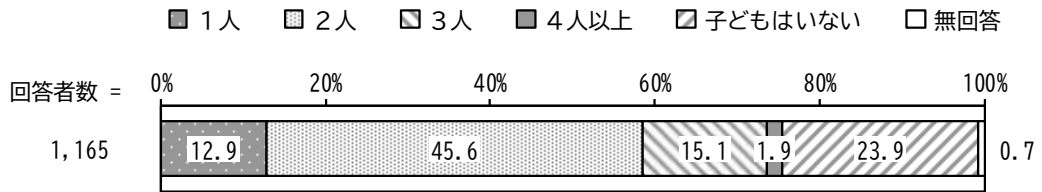
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では年代が下がるほど、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「未婚」の割合が高い傾向にあります。また、女性40歳代、女性50歳代、男性70歳代、男性80歳以上で「結婚している（配偶者・パートナーがいる）」の割合が高くなっています。



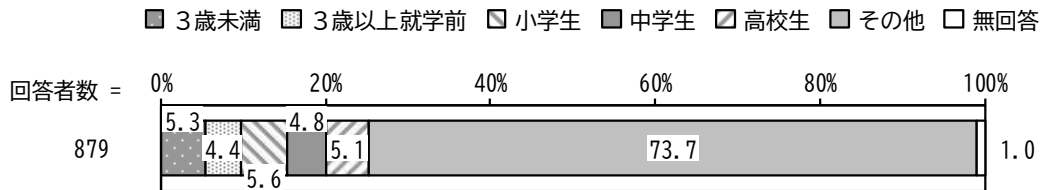
問6 あなたにはお子さんがいますか。(別居を含む)(○は1つ)

「2人」の割合が45.6%と最も高く、次いで「子どもはいない」の割合が23.9%、「3人」の割合が15.1%となっています。



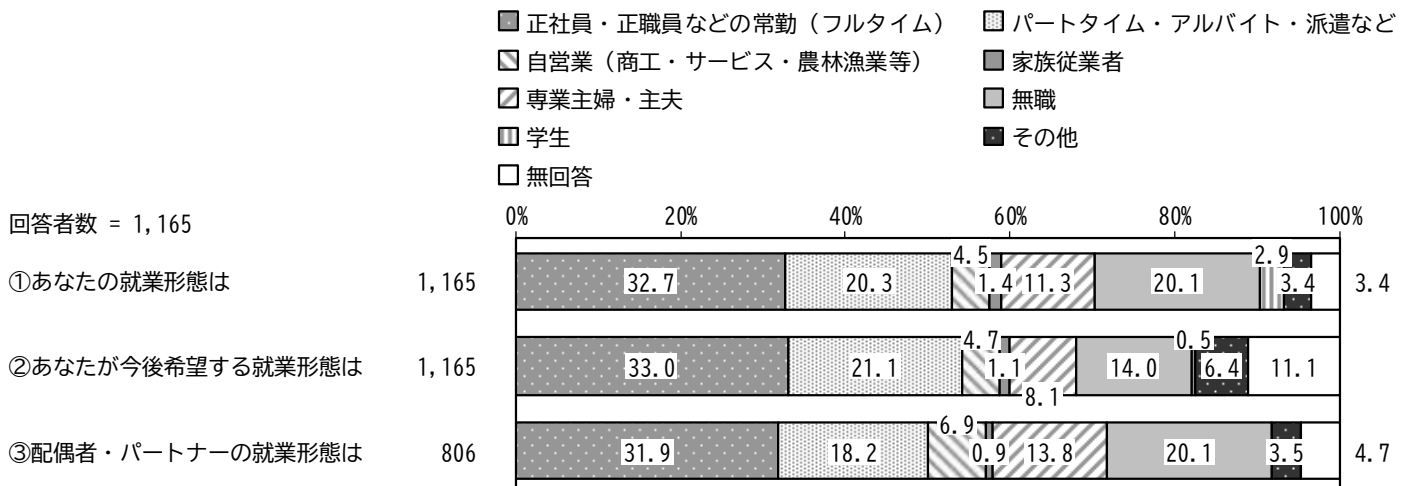
問6-1 お子さんがいる方にお聞きします。
一番下のお子さんはどれにあてはまりますか。(○は1つ)

「小学生」の割合が5.6%と最も高くなっています。



問7 あなたの現在の就業形態、また、今後あなたが希望する就業形態についてお答えください。(①~②のそれぞれについて1つに○) また、配偶者・パートナーがおられる方は③についてもお答えください。(○は1つ)

『②あなたが今後希望する就業形態は』で「正社員・正職員などの常勤(フルタイム)」「パートタイム・アルバイト・派遣など」「その他」が、『③配偶者・パートナーの就業形態は』で「自営業(商工・サービス・農林漁業等)」「専業主婦・主夫」が、『①あなたの就業形態は』で「家族従業者」「学生」が、『①あなたの就業形態は』『③配偶者・パートナーの就業形態は』で「無職」が高くなっています。

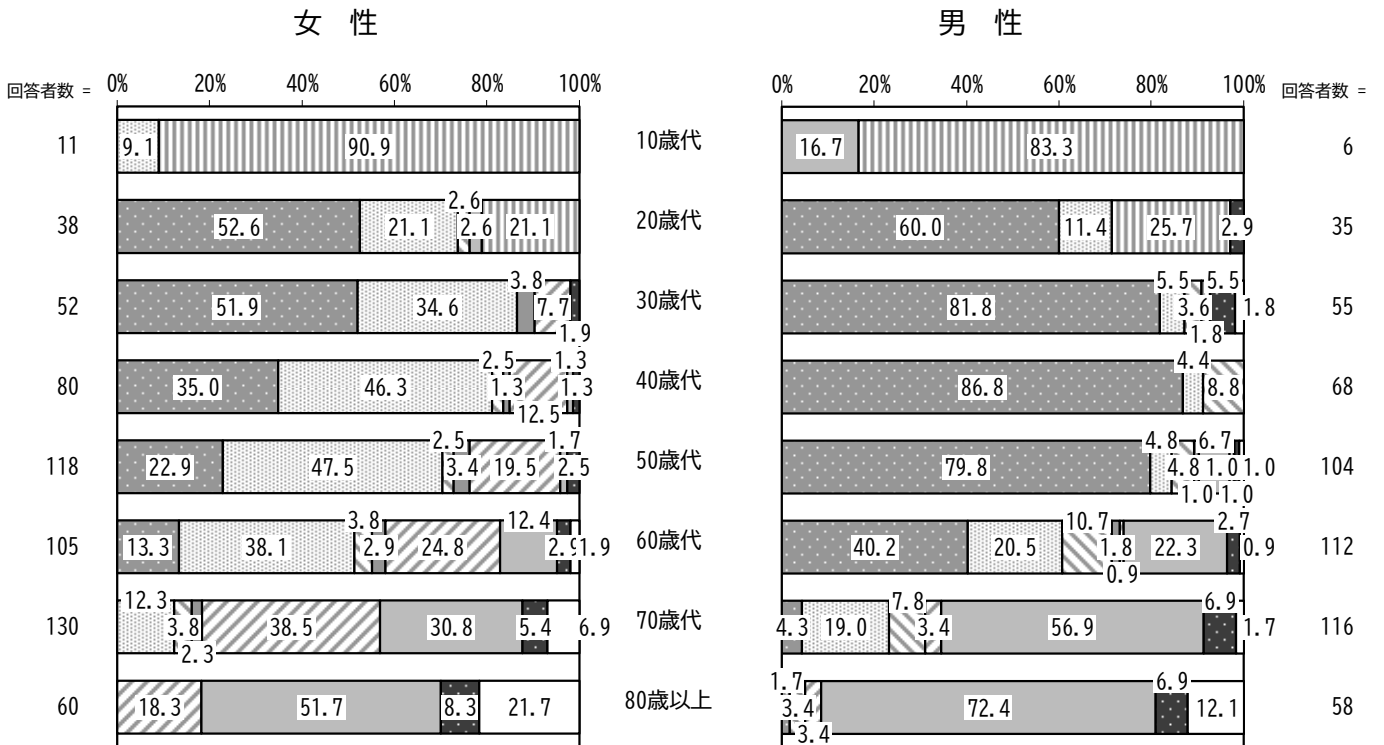


①あなたの就業形態は

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「正社員・正職員などの常勤（フルタイム）」の割合が高い傾向にあり、男性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「無職」の割合が高い傾向にあります。また、女性40歳代、女性50歳代で「パートタイム・アルバイト・派遣など」、女性70歳代で「専業主婦・主夫」の割合が高くなっています。

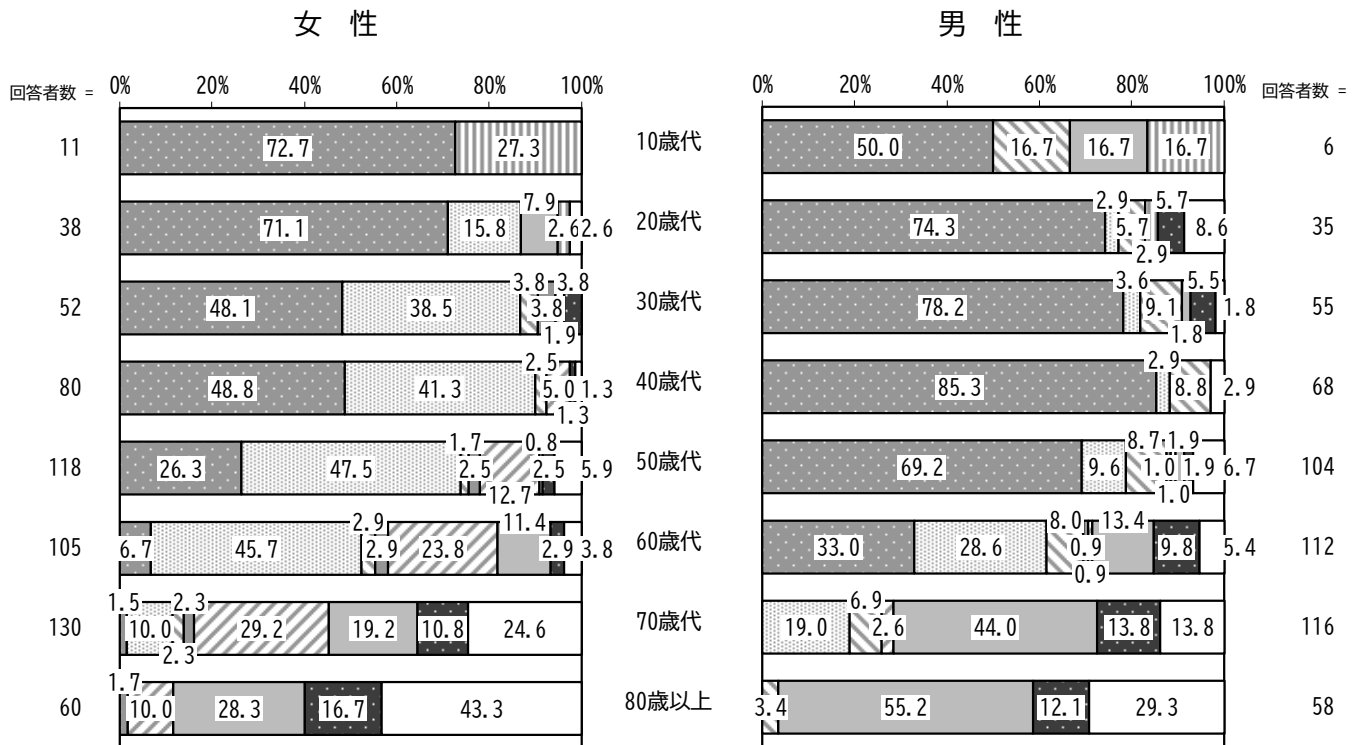
- 正社員・正職員などの常勤（フルタイム）
- パートタイム・アルバイト・派遣など
- 自営業（商工・サービス・農林漁業等）
- 家族従業者
- 専業主婦・主夫
- 無職
- 学生
- その他
- 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から70歳代まで年代が上がるほど「専業主婦・主夫」の割合が高い傾向にあり、「正社員・正職員などの常勤（フルタイム）」の割合が低い傾向にあり、男性では20歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「無職」の割合が高い傾向にあります。また、女性50歳代、女性60歳代で「パートタイム・アルバイト・派遣など」の割合が高くなっています。

- 正社員・正職員などの常勤（フルタイム）
- パートタイム・アルバイト・派遣など
- 自営業（商工・サービス・農林漁業等）
- 家族従業者
- 専業主婦・主夫
- 無職
- 学生
- その他
- 無回答

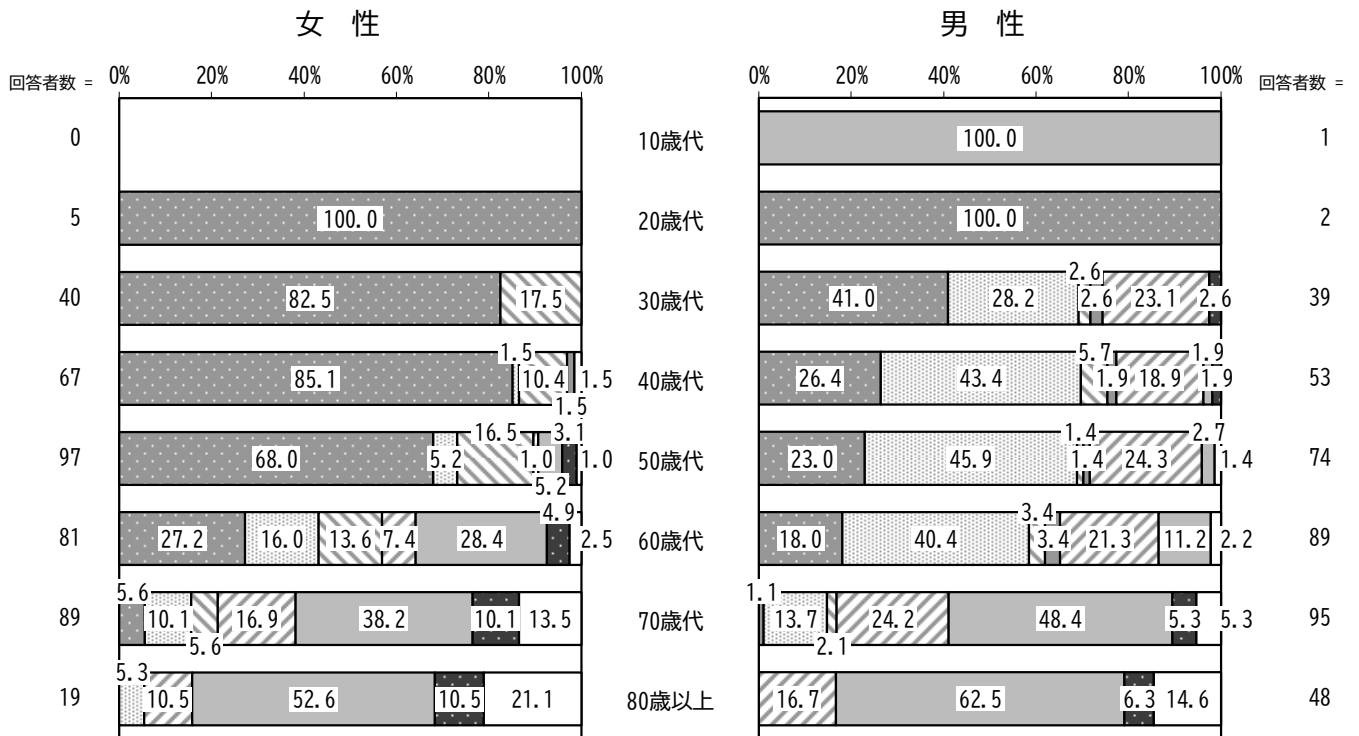


③配偶者・パートナーの就業形態は

【性・年代別】

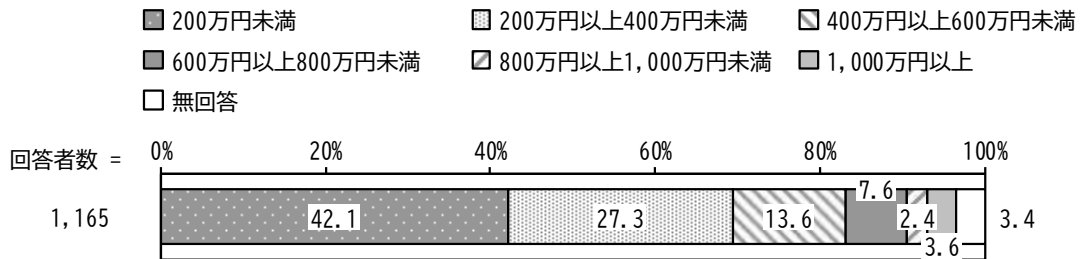
性・年代別にみると、女性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「正社員・正職員などの常勤（フルタイム）」の割合が高い傾向にあり、男性では20歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「無職」の割合が高い傾向にあり、「正社員・正職員などの常勤（フルタイム）」の割合が低くなっています。また、男性40歳代、男性50歳代で「パートタイム・アルバイト・派遣など」、男性50歳代、男性70歳代で「専業主婦・主夫」の割合が高くなっています。

- 正社員・正職員などの常勤（フルタイム）
- パートタイム・アルバイト・派遣など
- 自営業（商工・サービス・農林漁業等）
- 家族従業者
- 専業主婦・主夫
- 無職
- 学生
- その他
- 無回答



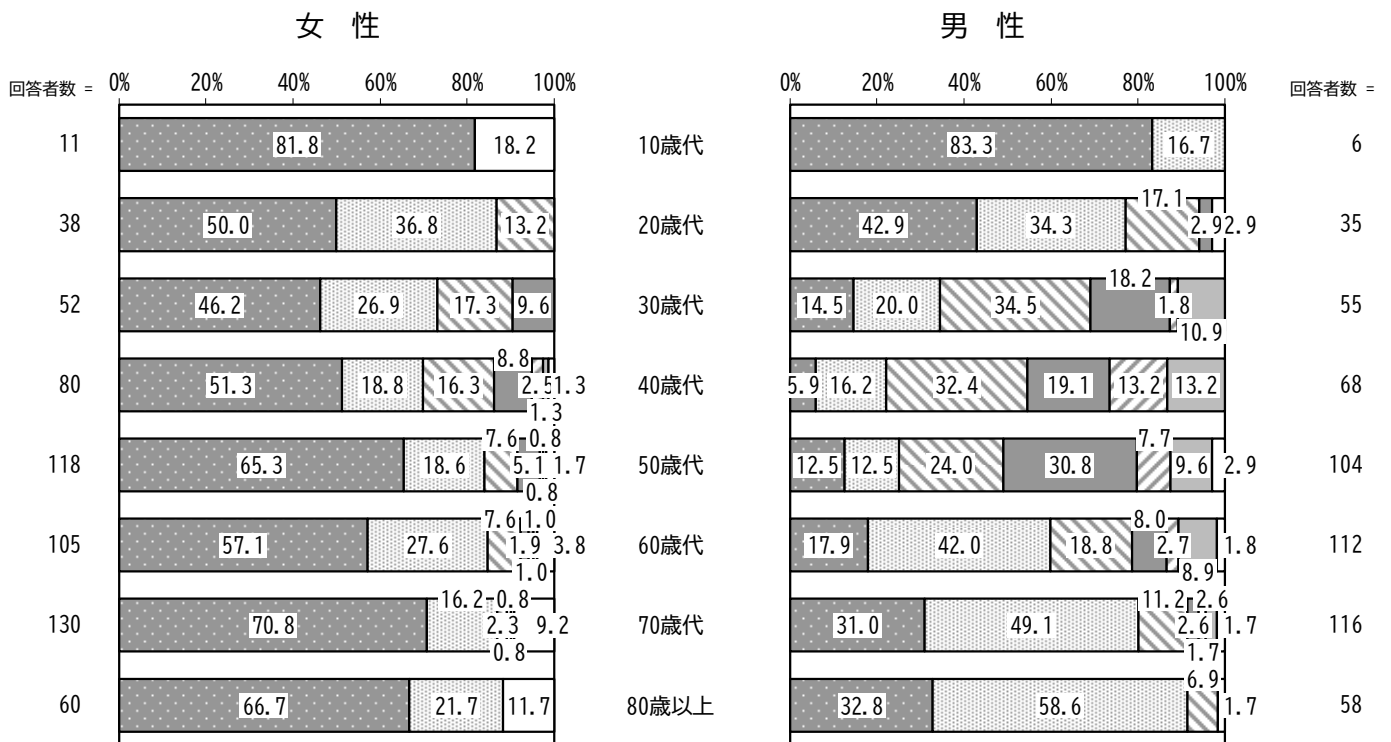
問8 昨年あなたご自身の年間所得はいくらでしたか。(〇は1つ)

「200万円未満」の割合が42.1%と最も高く、次いで「200万円以上400万円未満」の割合が27.3%、「400万円以上600万円未満」の割合が13.6%となっています。



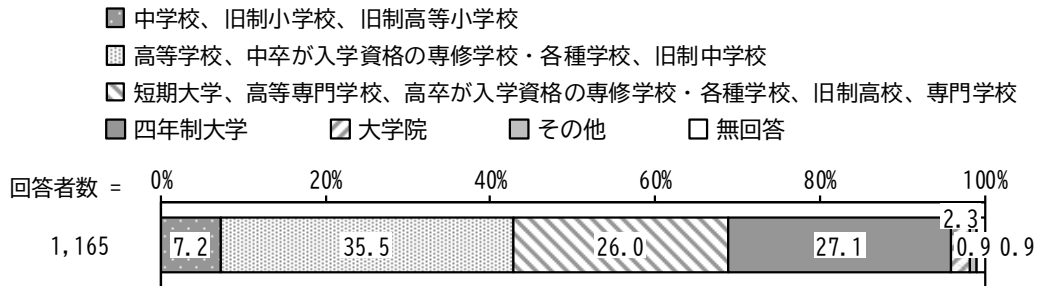
【性・年代別】

性・年代別にみると、男女ともに80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「400万円以上600万円未満」の割合が高くなっています。また、男性80歳以上で「200万円以上400万円未満」の割合が高くなっています。



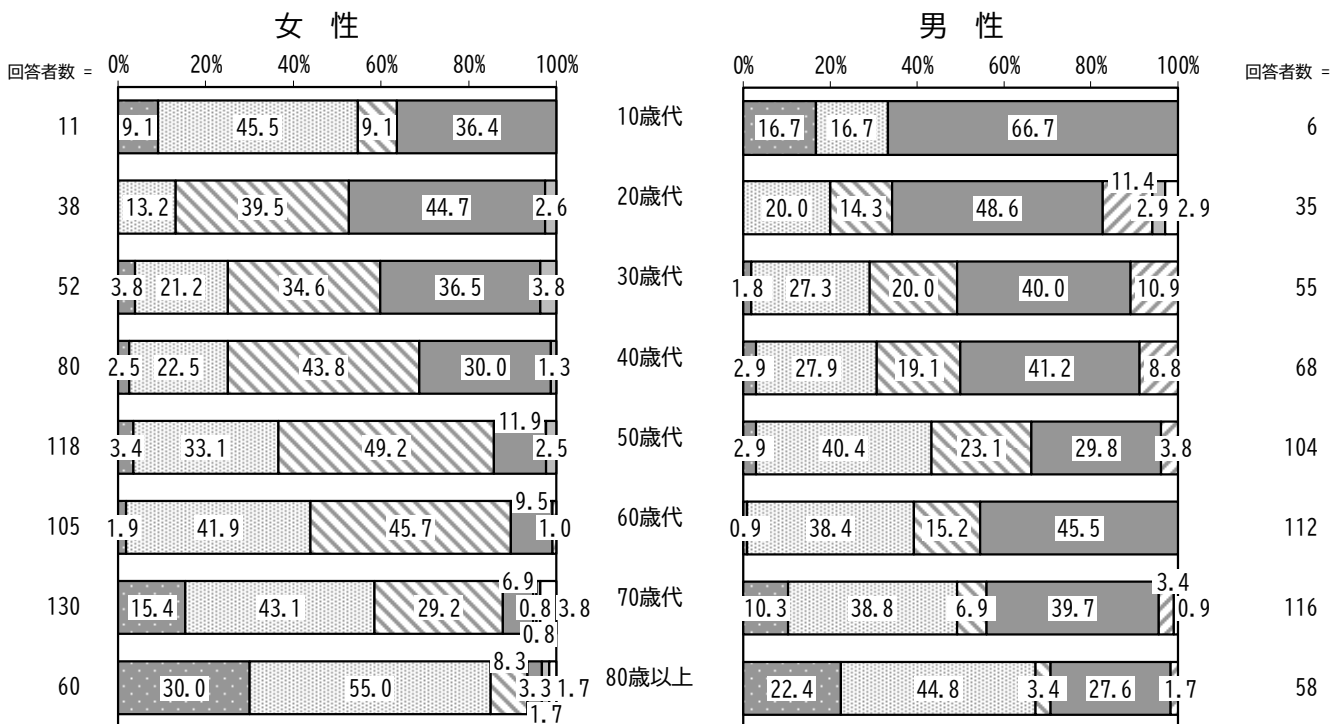
問9 あなたが最後に通われた学校（中退を含む）はどれにあてはまりますか。在学中の方は、現在通学されている学校をお答えください。（○は1つ）

「高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校」の割合が35.5%と最も高く、次いで「四年制大学」の割合が27.1%、「短期大学、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校」の割合が26.0%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校」の割合が高く、「四年制大学」の割合が低く、男性では60歳代から20歳代まで年代が下がるほど「大学院」の割合が高くなっています。また、女性50歳代で「短期大学、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校」の割合が高くなっています。

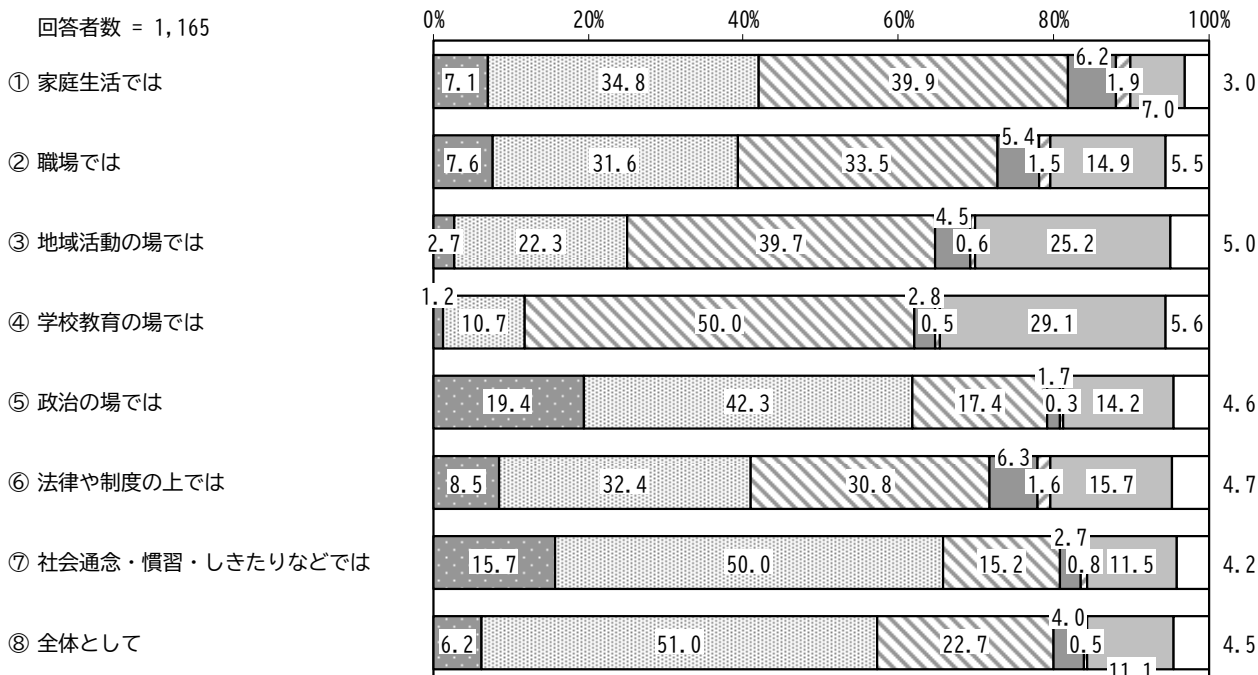


2 男女共同参画について

問 10 あなたは次のような分野で男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。
 (①～⑧のそれぞれについて1つに○)

『⑤政治の場では』で「男性の方が非常に優遇されている」が、『⑧全体として』で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、『④学校教育の場では』で「平等である」「わからない」が、『⑥法律や制度の上では』で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が、『①家庭生活では』で「女性の方が非常に優遇されている」が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

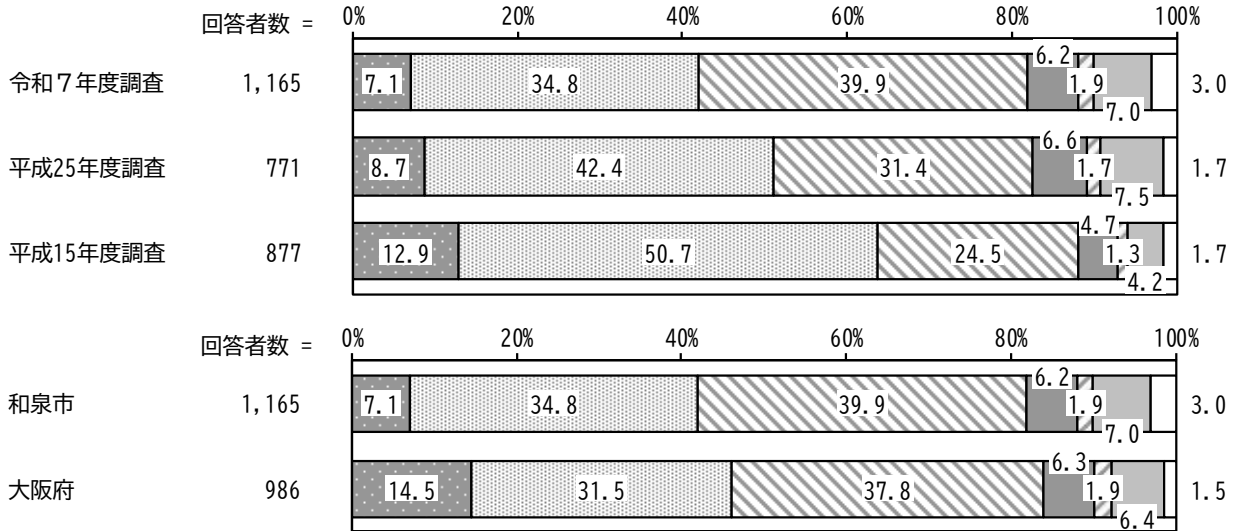
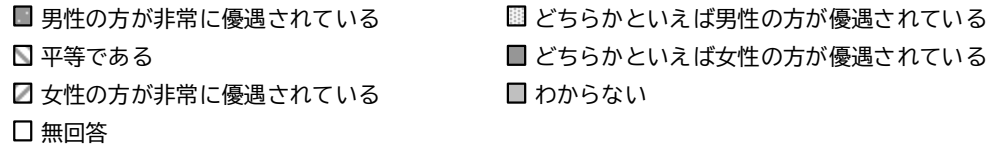


①家庭生活では

【経年・府比較】

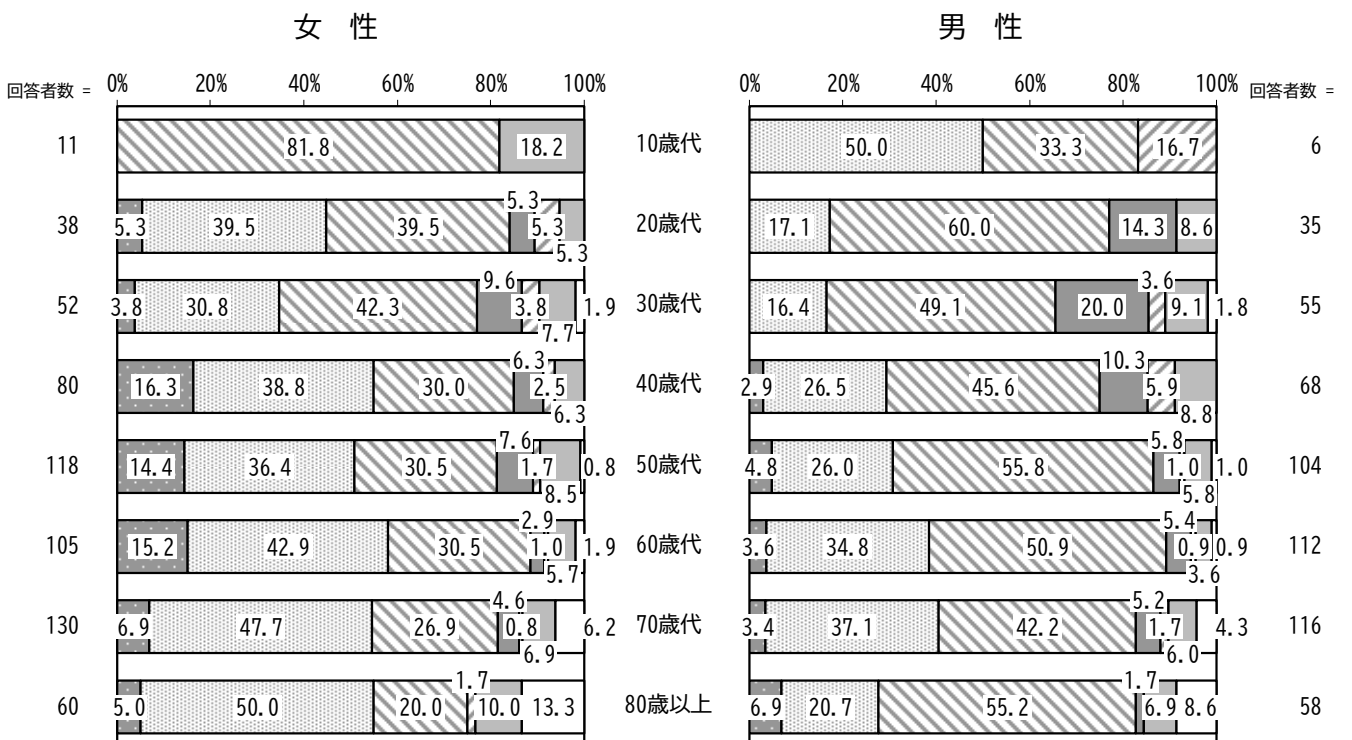
過去調査と比較すると、平成15年度調査から「平等である」の割合が増加しています。一方、“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど“女性の方が優遇されている”の割合が高い傾向にあります。また、女性40歳代、女性60歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



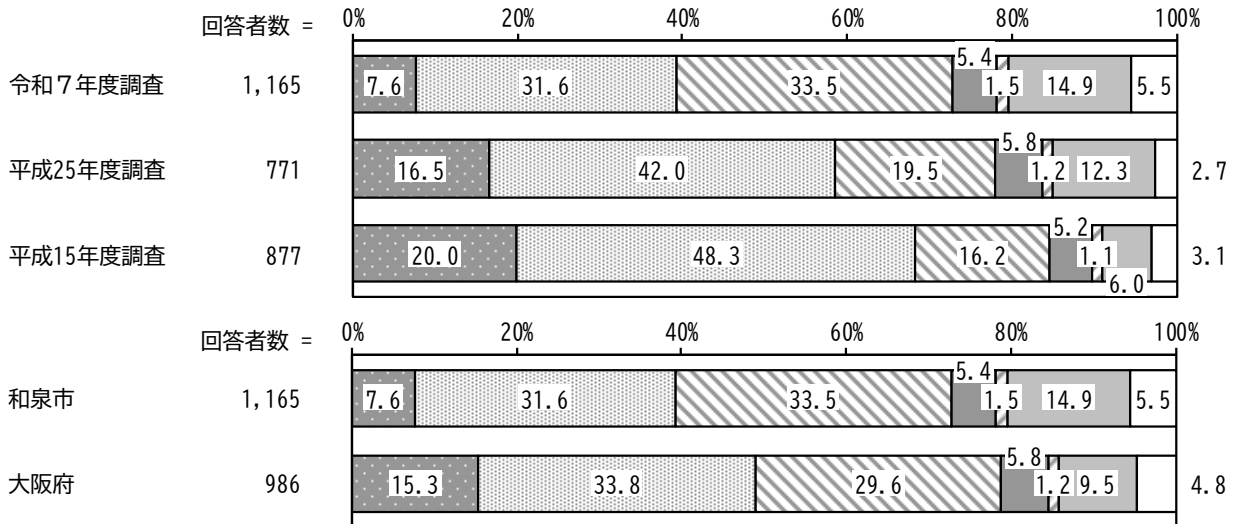
②職場では

【経年・府比較】

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「平等である」の割合が増加しています。一方、“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。

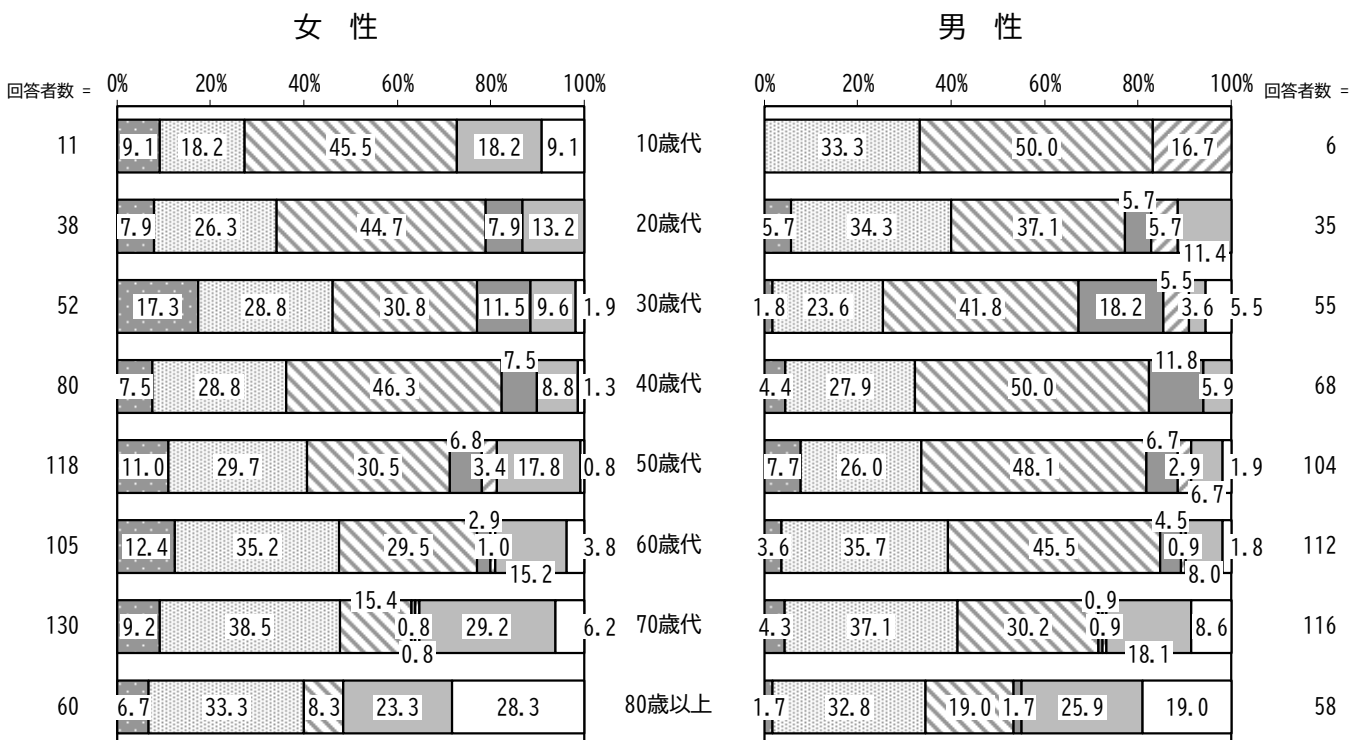
大阪府と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



【性・年代別】

性・年代別にみると、男女ともに80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性40歳代、男性50歳代で「平等である」の割合が高くなっています。



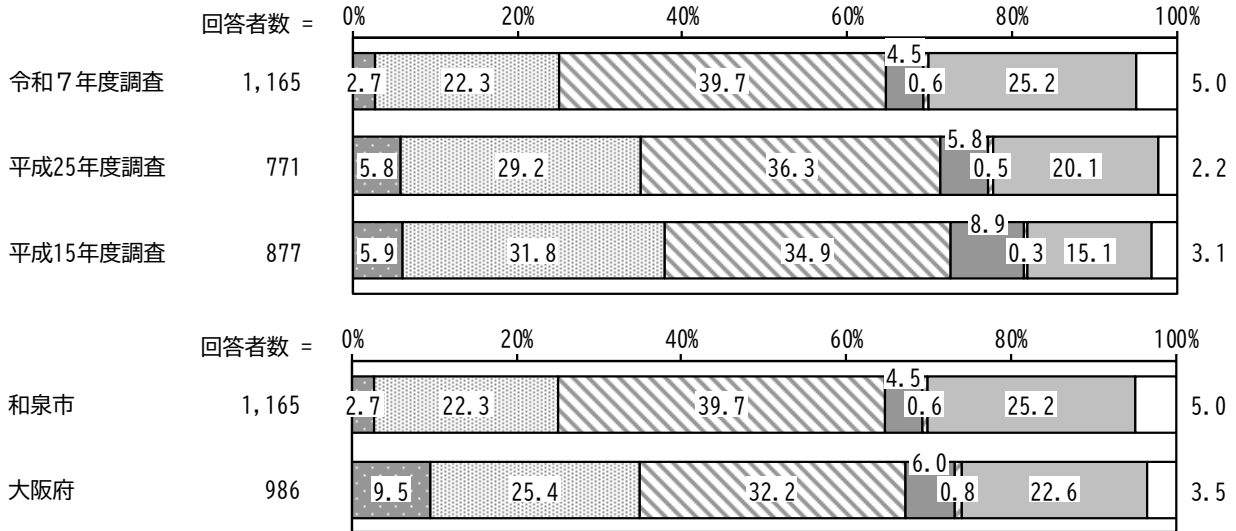
③地域活動の場では

【経年・府比較】

過去調査と比較すると、平成15年度調査から“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。

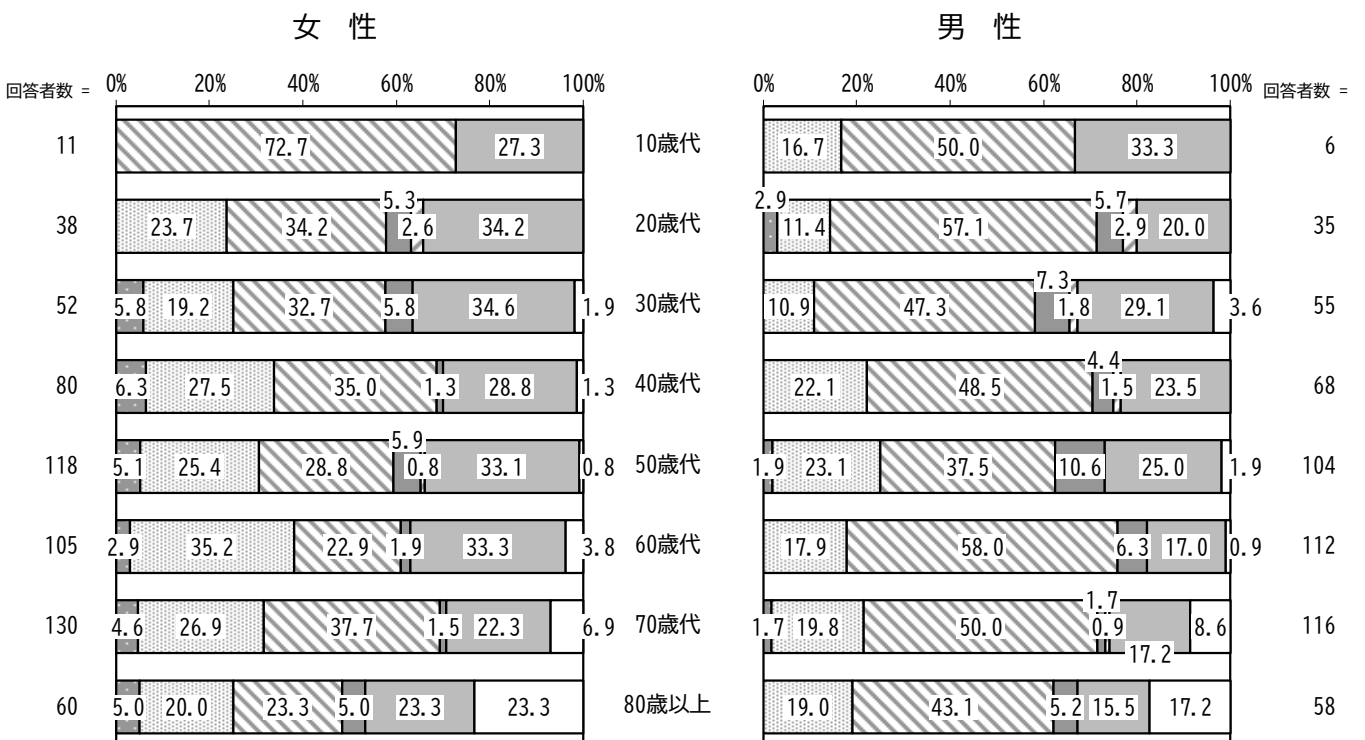
大阪府と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が高い傾向にあります。また、女性60歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



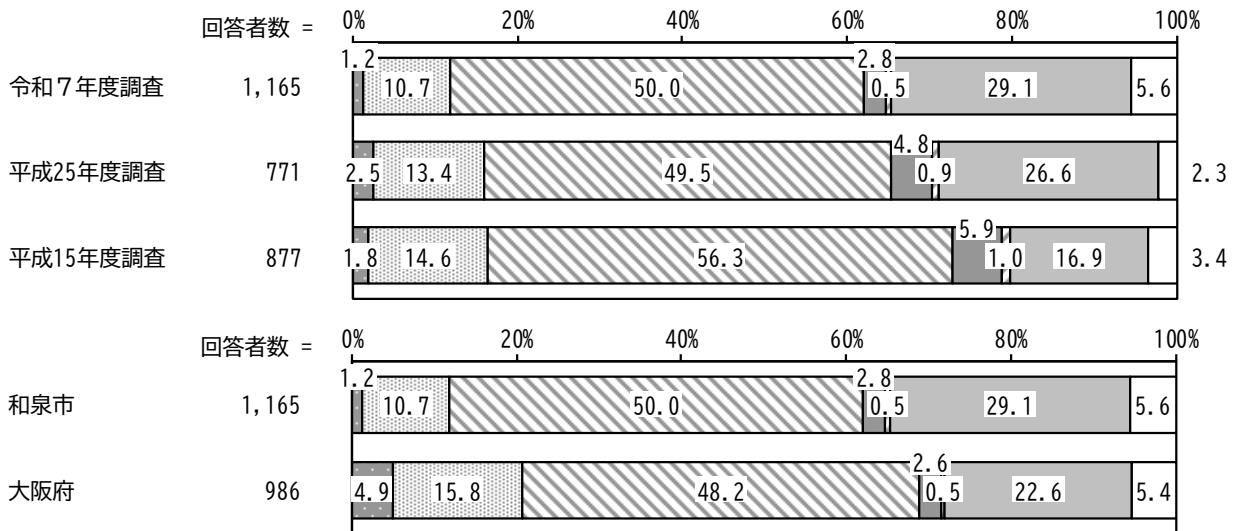
④学校教育の場では

【経年・府比較】

過去調査と比較すると、大きな変化はみられません。

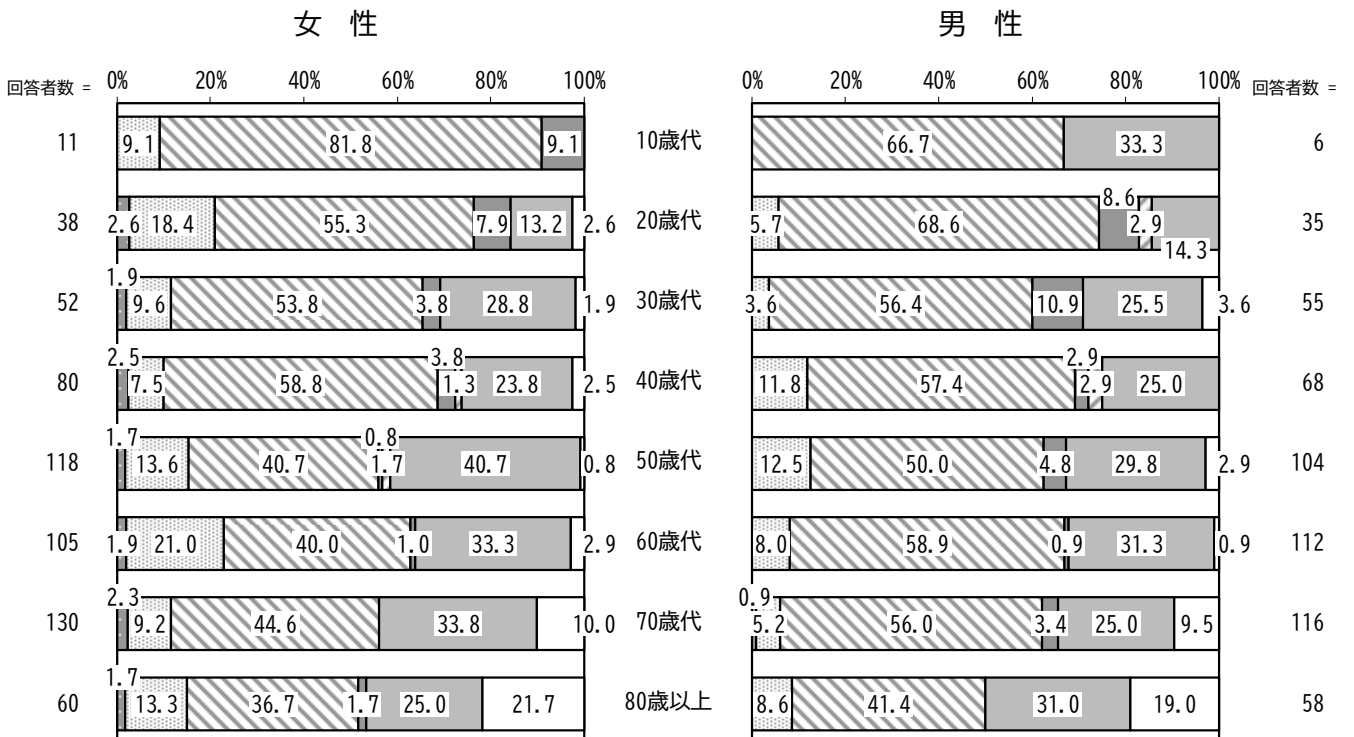
大阪府と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど“女性の方が優遇されている”の割合が高い傾向にあります。また、女性60歳代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



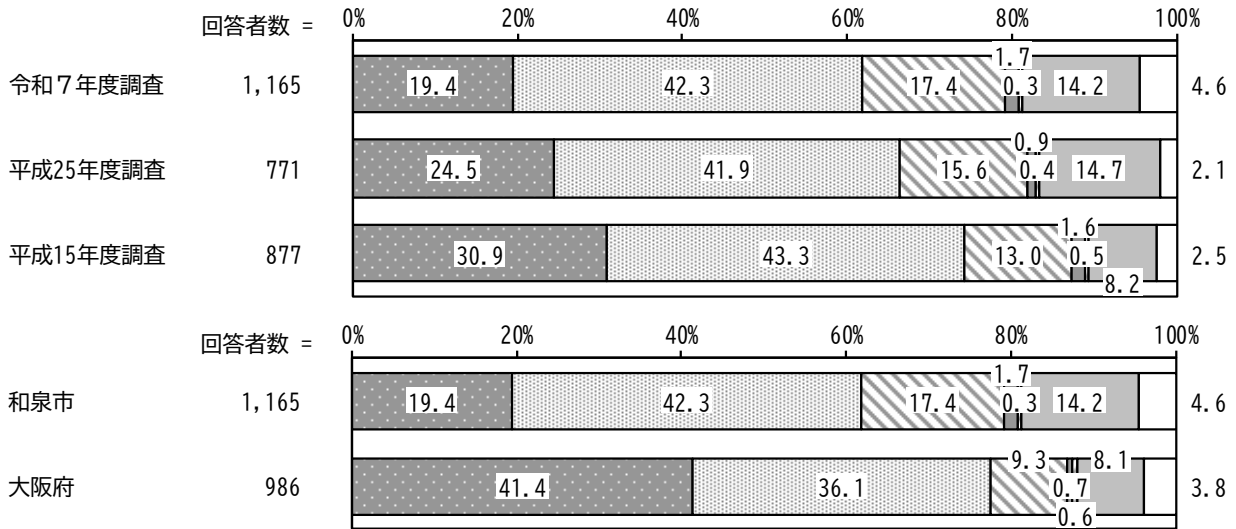
⑤政治の場では

【経年・府比較】

過去調査と比較すると、平成 15 年度調査から“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。

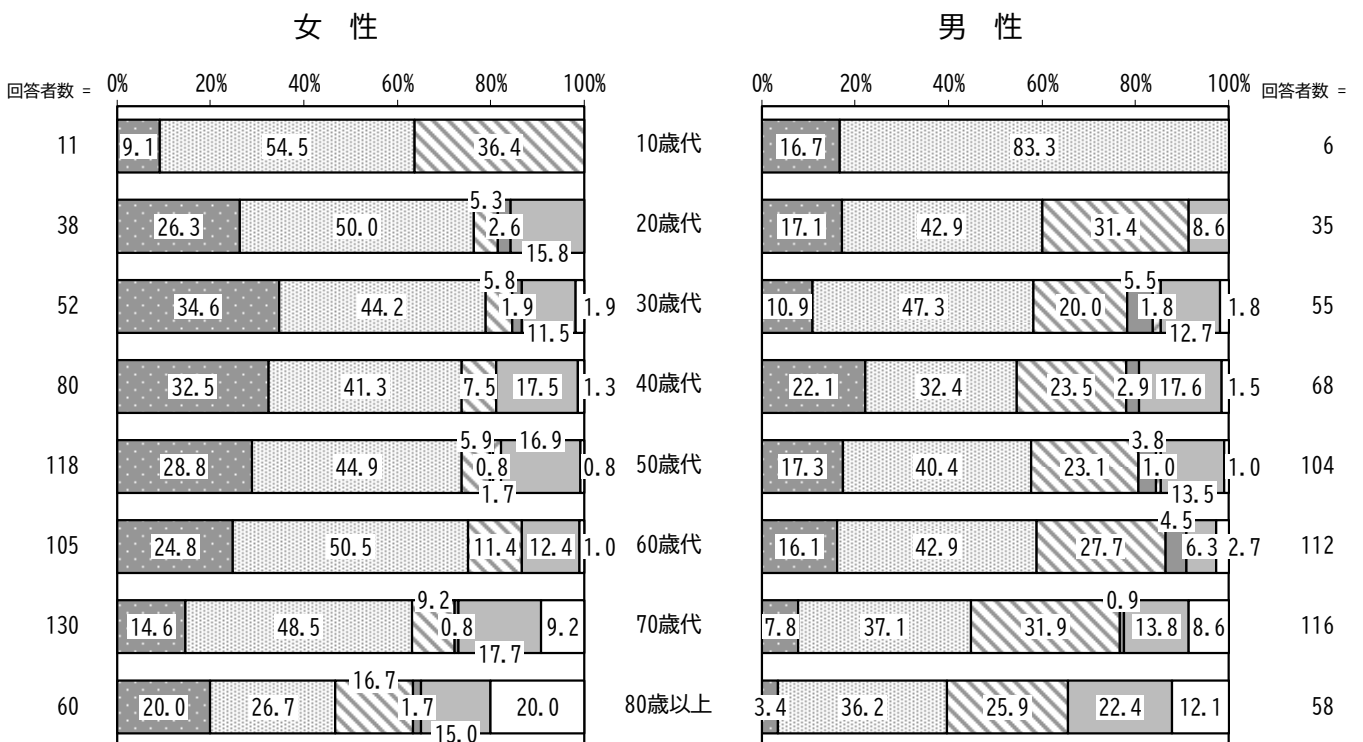
大阪府と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど“男性の方が優遇されている”の割合が高い傾向にあり、男性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「平等である」の割合が高い傾向にあります。また、女性30歳代、女性40歳代で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



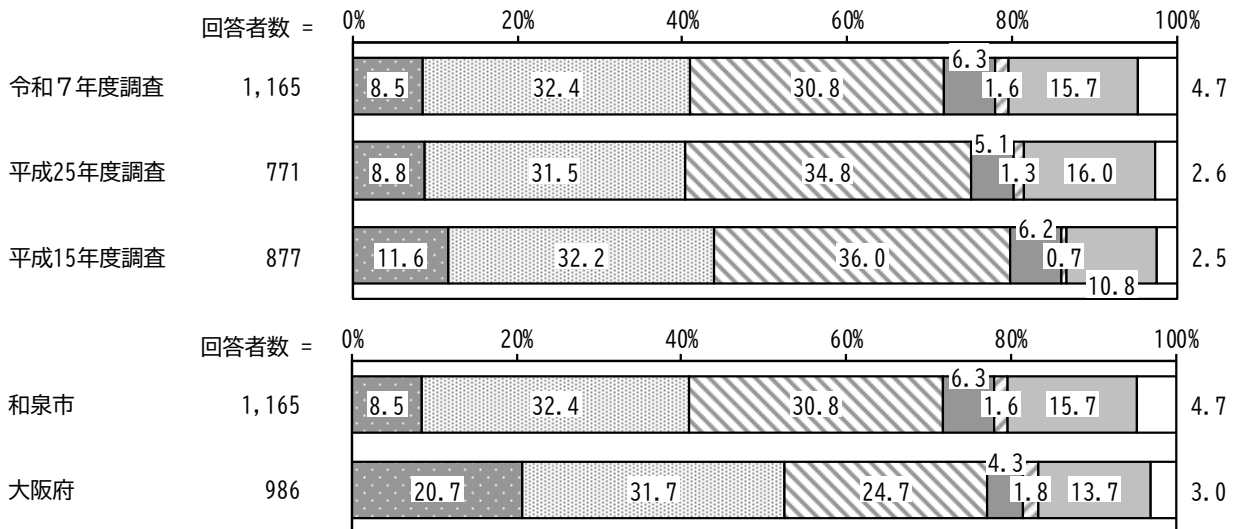
⑥法律や制度の上では

【経年・府比較】

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「平等である」の割合が減少しています。

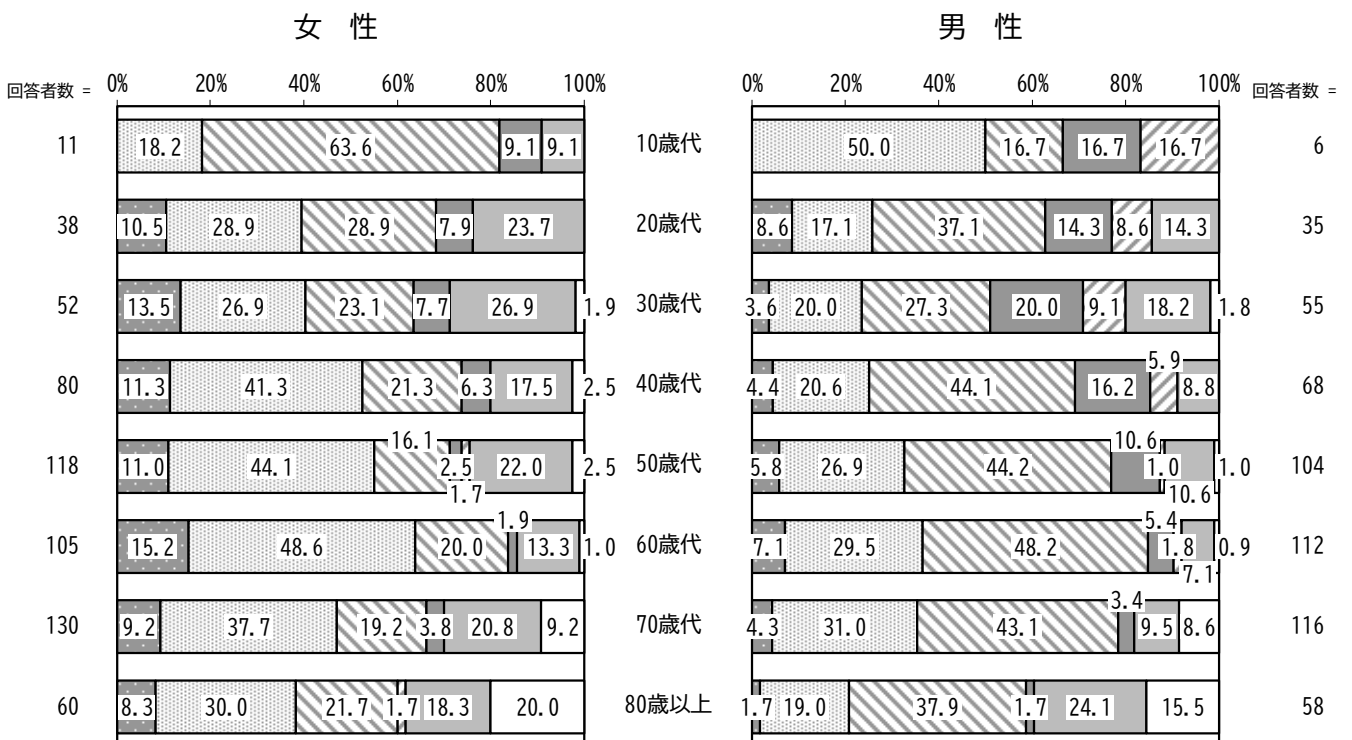
大阪府と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高く、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、女性60歳代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



⑦社会通念・慣習・しきたりなどでは

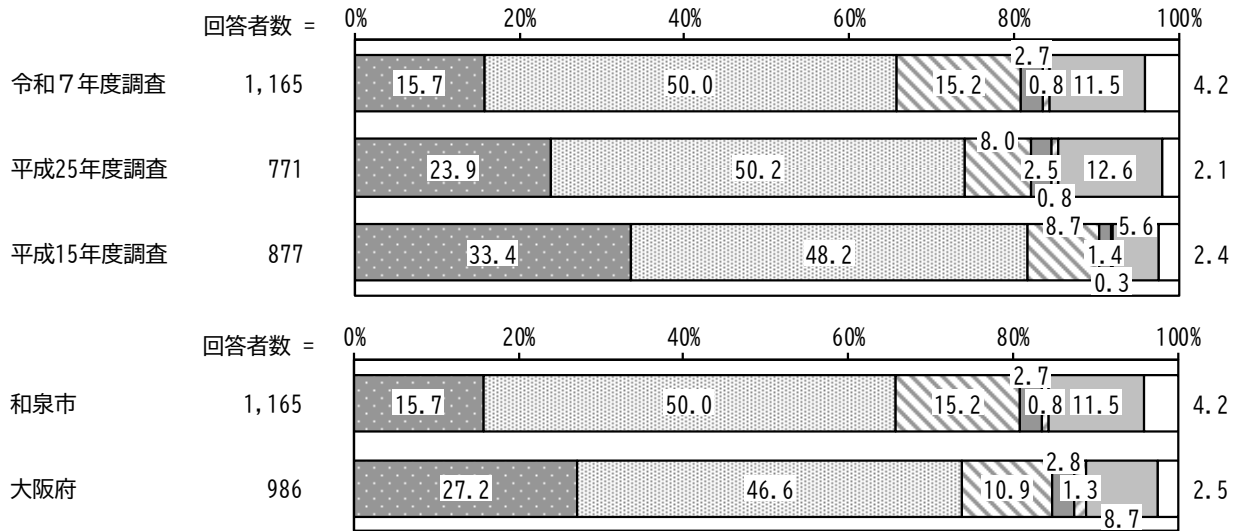
【経年・府比較】

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「男性の方が優遇されている」の割合が減少しています。

また、平成25年度調査から「平等である」の割合が増加しています。

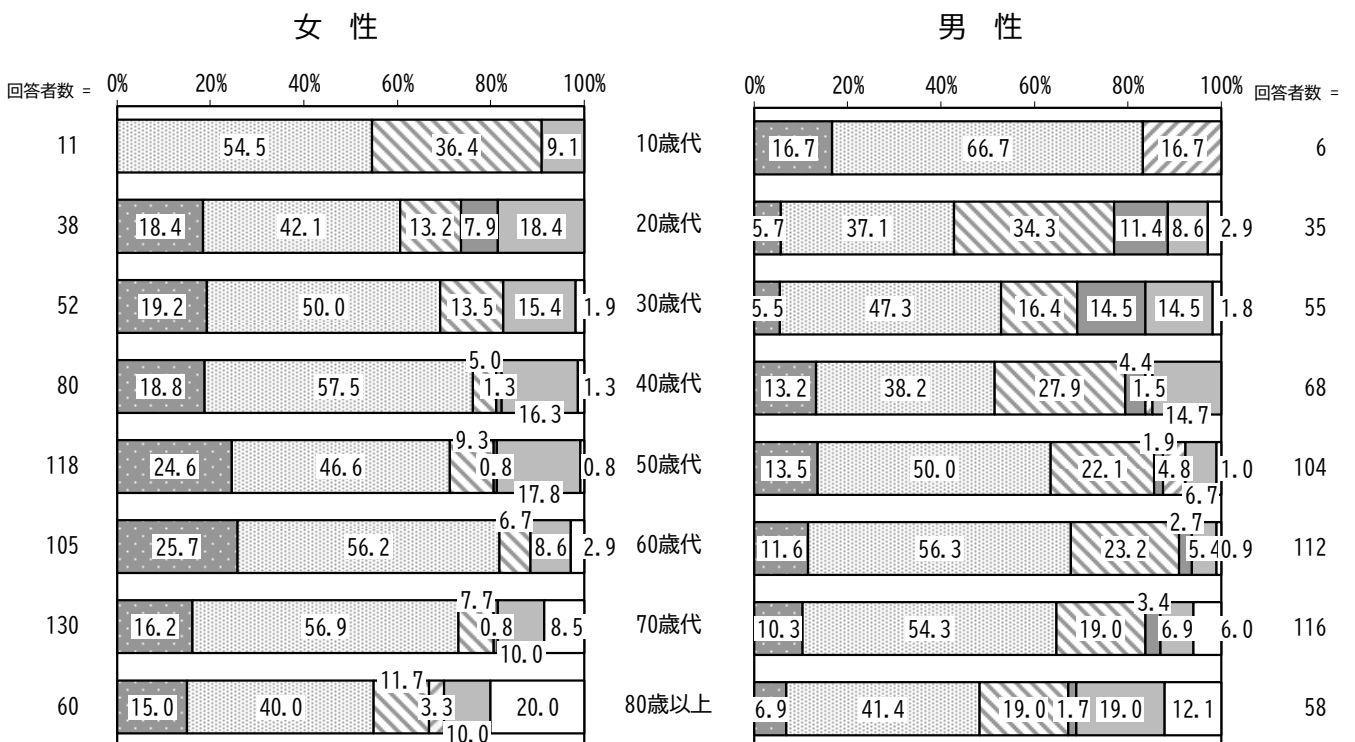
大阪府と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では20歳代から60歳代まで年代が上がるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高い傾向にあります。また、女性60歳代で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高く、女性80歳以上で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。



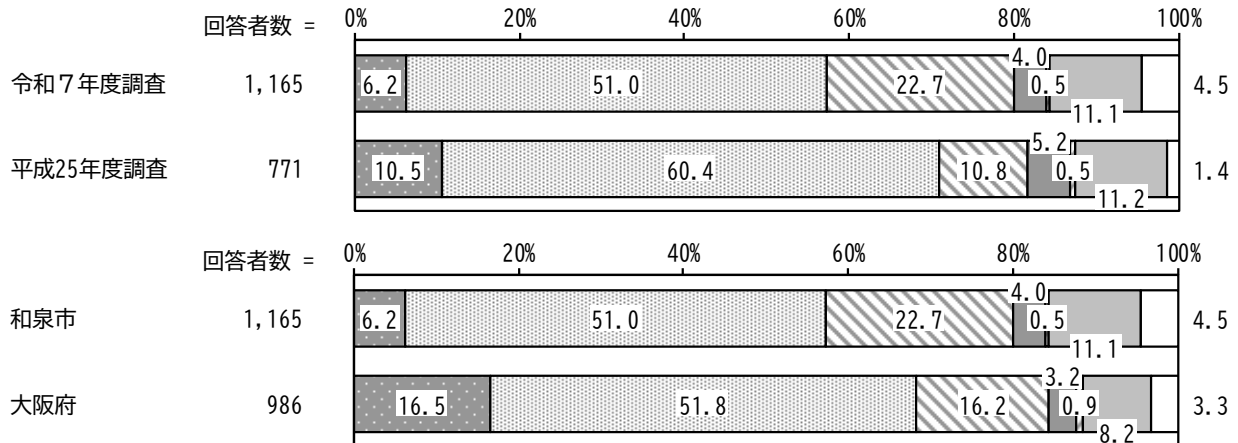
⑧全体として

【経年・府比較】

平成 25 年度調査と比較すると、「平等である」の割合が増加しています。一方、“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。

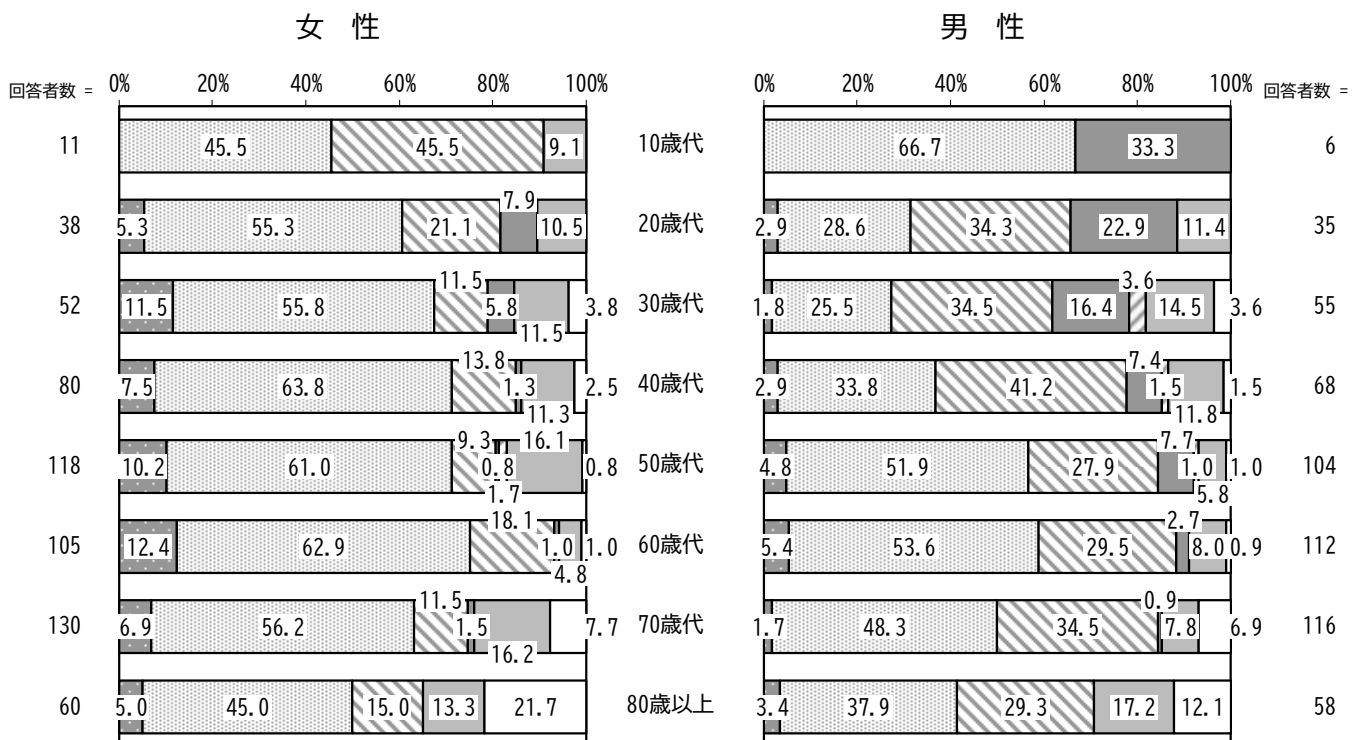
大阪府と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど“男性の方が優遇されている”の割合が高い傾向にあり、男性では年代が下がるほど“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性40歳代、女性50歳代、女性60歳代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



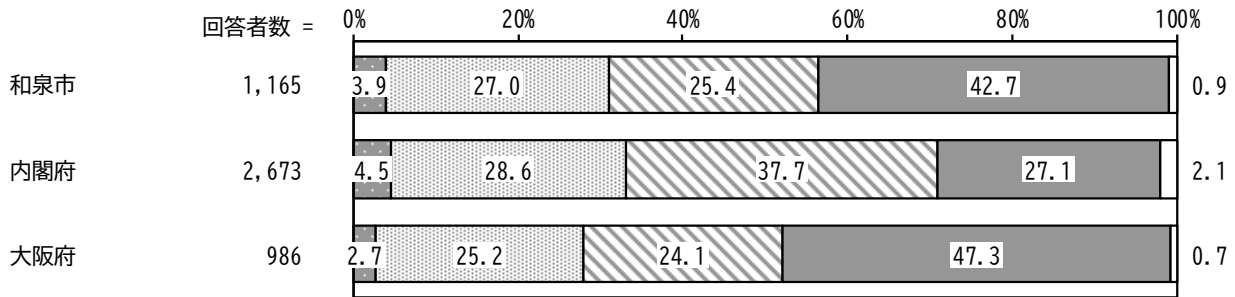
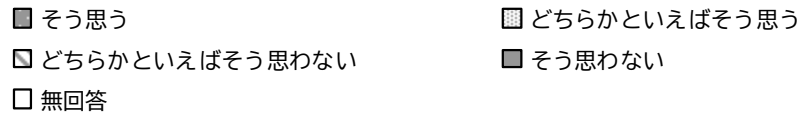
問11 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

【国・府比較】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が30.9%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が68.1%となっています。

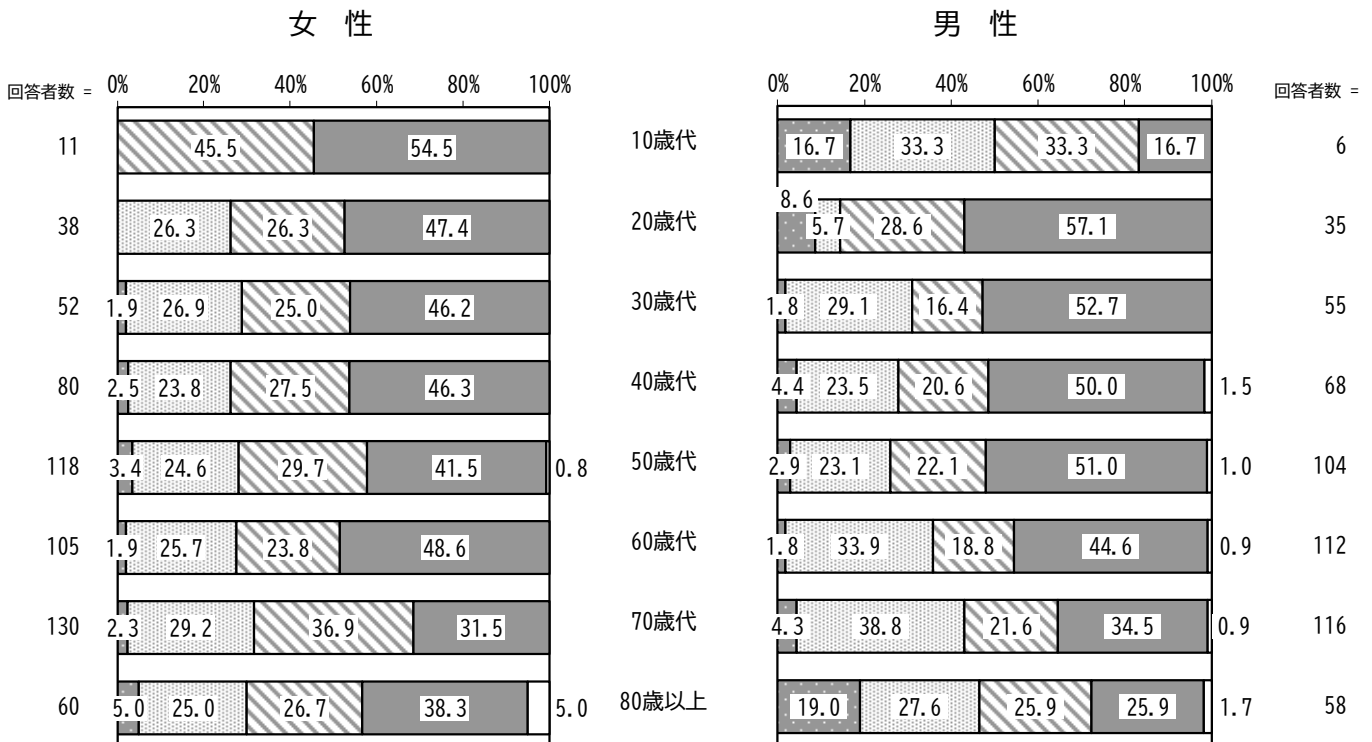
内閣府と比較すると、「そう思わない」の割合が高くなっています。

大阪府と比較すると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

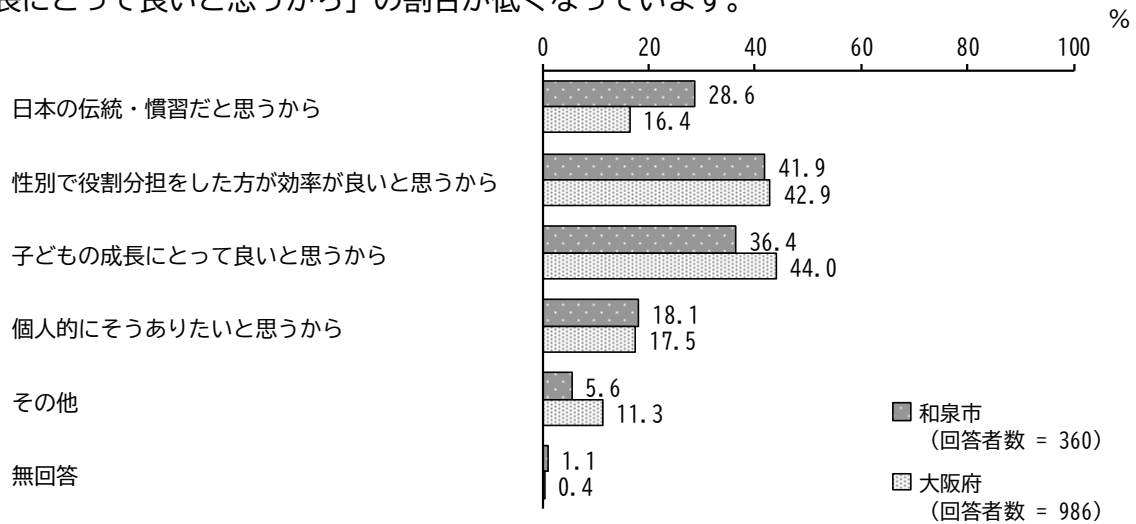
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“そう思わない”の割合が高い傾向にあります。また、男性80歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。



問12 問11で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答された方にお聞きします。
 そう思う理由を教えてください。(〇はいくつでも)

「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」の割合が41.9%と最も高く、次いで「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が36.4%、「日本の伝統・慣習だと思うから」の割合が28.6%となっています。

大阪府と比較すると、「日本の伝統・慣習だと思うから」の割合が高くなっています。一方、「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が高く、男性では50歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「個人的にそうありたいと思うから」の割合が高くなっています。また、男性80歳以上で「日本の伝統・慣習だと思うから」、男性50歳代で「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」の割合が高くなっています。

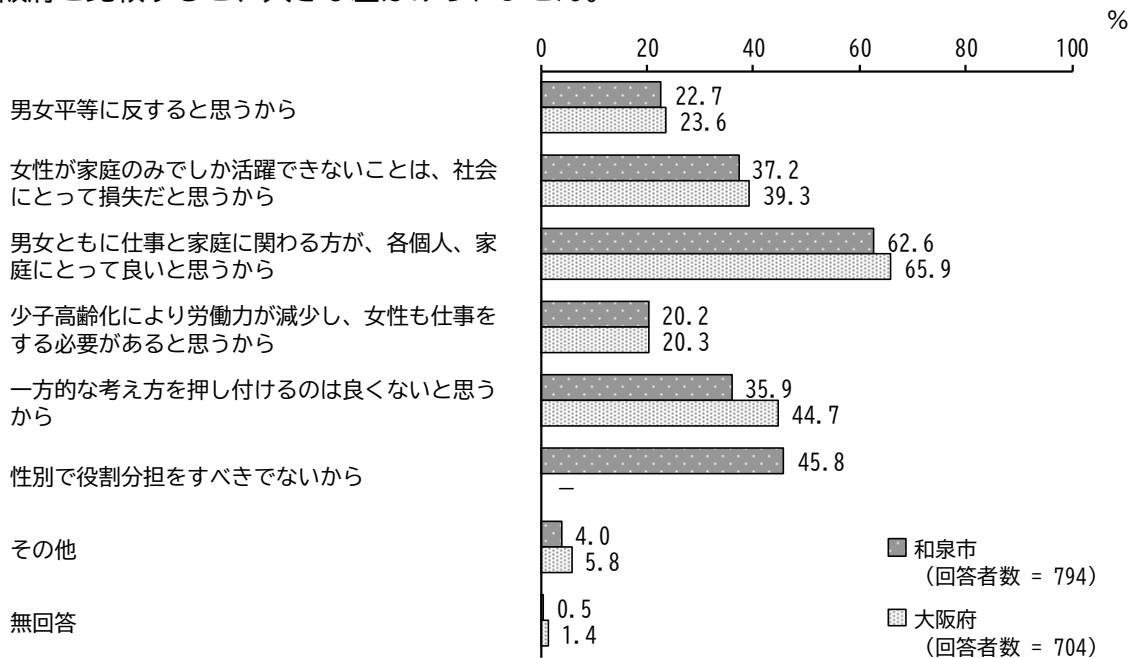
単位：%

区分	回答者数 (件)	日本の伝統・慣習 だと思うから	性別で役割分担を した方が効率が良い と思うから	子どもの成長にと って良いと思うか ら	個人的にそうあり たいと思うから	その他	無回答
全体	360	28.6	41.9	36.4	18.1	5.6	1.1
女性							
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	10	50.0	10.0	20.0	20.0	10.0	0.0
30歳代	15	6.7	40.0	40.0	33.3	33.3	0.0
40歳代	21	19.0	47.6	42.9	23.8	0.0	0.0
50歳代	33	12.1	42.4	42.4	18.2	6.1	0.0
60歳代	29	24.1	51.7	34.5	13.8	3.4	0.0
70歳代	41	31.7	31.7	34.1	17.1	2.4	7.3
80歳以上	18	50.0	33.3	22.2	22.2	5.6	0.0
男性							
10歳代	3	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
20歳代	5	0.0	60.0	60.0	20.0	0.0	0.0
30歳代	17	23.5	35.3	47.1	11.8	11.8	0.0
40歳代	19	21.1	47.4	57.9	31.6	5.3	0.0
50歳代	27	29.6	51.9	37.0	7.4	11.1	0.0
60歳代	40	25.0	47.5	40.0	10.0	5.0	2.5
70歳代	50	36.0	48.0	26.0	18.0	0.0	0.0
80歳以上	27	51.9	37.0	29.6	18.5	3.7	0.0

問13 問11で「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答された方にお聞きします。
 そう思わない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」の割合が62.6%と最も高く、次いで「性別で役割分担をすべきでないから」の割合が45.8%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」の割合が37.2%となっています。

大阪府と比較すると、大きな差はみられません。



※大阪府では、「性別で役割分担をすべきでないから」がありませんでした。

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では20歳代から60歳代まで年代が上がるほど「少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから」の割合が高くなっています。また、女性60歳代、女性70歳代で「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」、女性30歳代、女性50歳代で「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」、女性20歳代で「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」「性別で役割分担をすべきでないから」の割合が高くなっています。

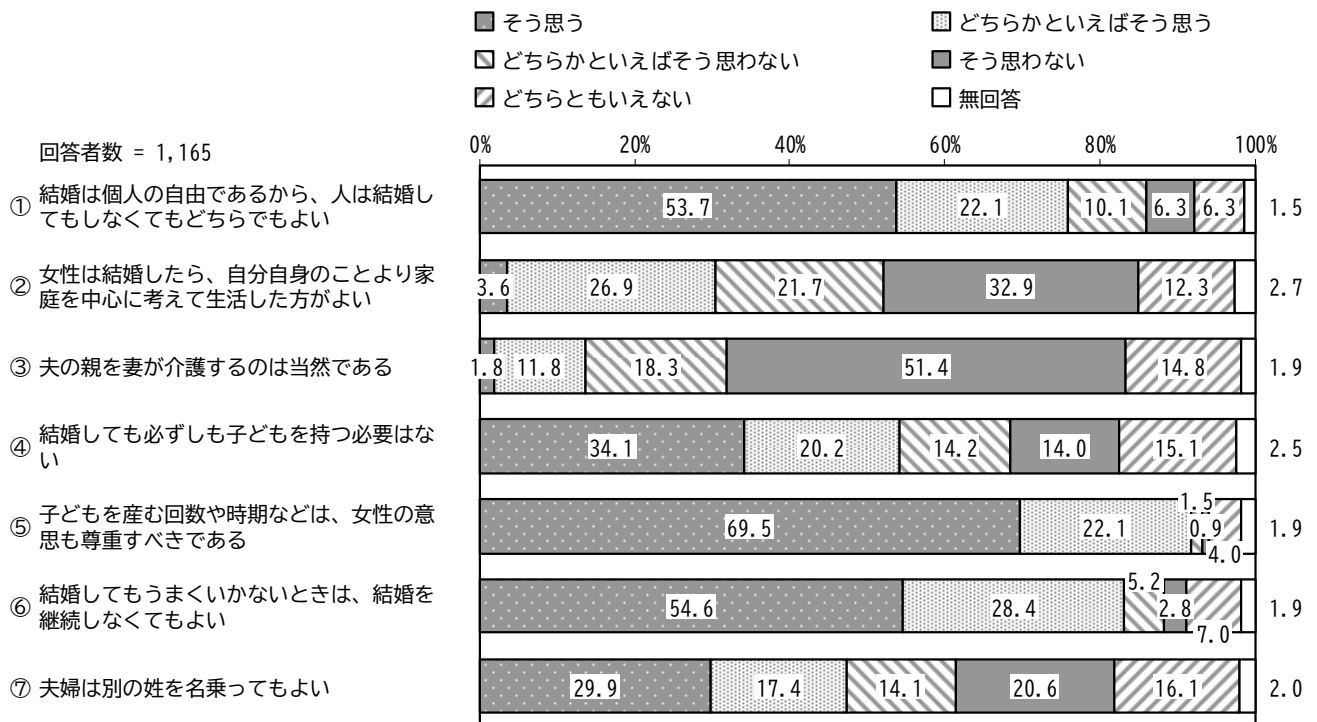
単位：％

区分	回答者数(件)	から男女平等に反すると思う	女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから	男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから	少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから	から一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから	性別で役割分担をすべきでないから	その他	無回答
全体	794	22.7	37.2	62.6	20.2	35.9	45.8	4.0	0.5
女性 10歳代	11	45.5	27.3	45.5	18.2	54.5	27.3	0.0	0.0
20歳代	28	25.0	35.7	60.7	7.1	53.6	71.4	3.6	0.0
30歳代	37	29.7	29.7	75.7	21.6	32.4	59.5	13.5	0.0
40歳代	59	20.3	32.2	64.4	16.9	27.1	62.7	10.2	0.0
50歳代	84	19.0	23.8	73.8	15.5	32.1	46.4	6.0	0.0
60歳代	76	27.6	51.3	72.4	30.3	42.1	52.6	2.6	0.0
70歳代	89	15.7	52.8	66.3	27.0	42.7	46.1	4.5	0.0
80歳以上	39	15.4	43.6	53.8	28.2	28.2	43.6	0.0	2.6
男性 10歳代	3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
20歳代	30	30.0	26.7	53.3	6.7	46.7	46.7	0.0	0.0
30歳代	38	7.9	21.1	60.5	7.9	44.7	55.3	5.3	0.0
40歳代	48	22.9	37.5	60.4	12.5	27.1	37.5	2.1	0.0
50歳代	76	27.6	38.2	48.7	17.1	28.9	34.2	2.6	1.3
60歳代	71	26.8	38.0	56.3	26.8	46.5	43.7	2.8	1.4
70歳代	65	20.0	36.9	61.5	23.1	27.7	30.8	0.0	0.0
80歳以上	30	26.7	33.3	63.3	23.3	26.7	30.0	0.0	0.0

3 家庭生活、子育て等について

問 14 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。
 (①～⑦のそれぞれについて1つに○)

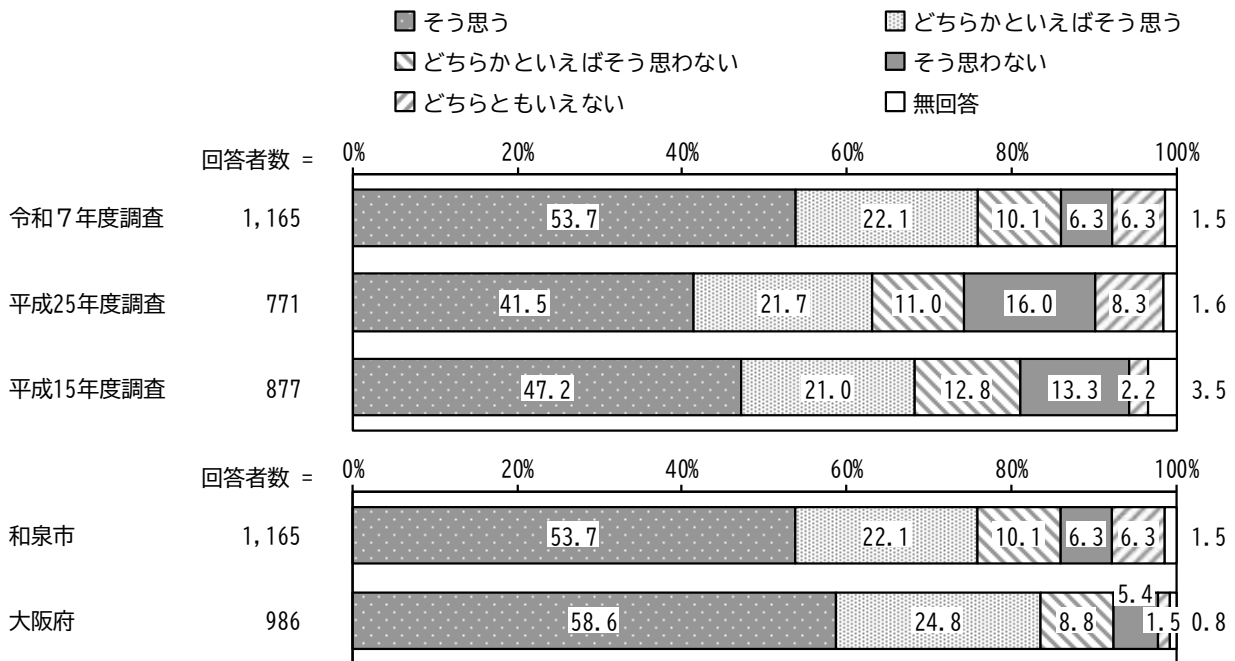
『⑤子どもを産む回数や時期などは、女性の意思も尊重すべきである』で「そう思う」が、『⑥結婚してもうまくいかないときは、結婚を継続しなくてもよい』で「どちらかといえばそう思う」が、『②女性は結婚したら、自分自身のことより家庭を中心に考えて生活した方がよい』で「どちらかといえばそう思わない」が、『③夫の親を妻が介護するのは当然である』で「そう思わない」が、『⑦夫婦は別の姓を名乗ってもよい』で「どちらともいえない」が高くなっています。



①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい

【経年・府比較】

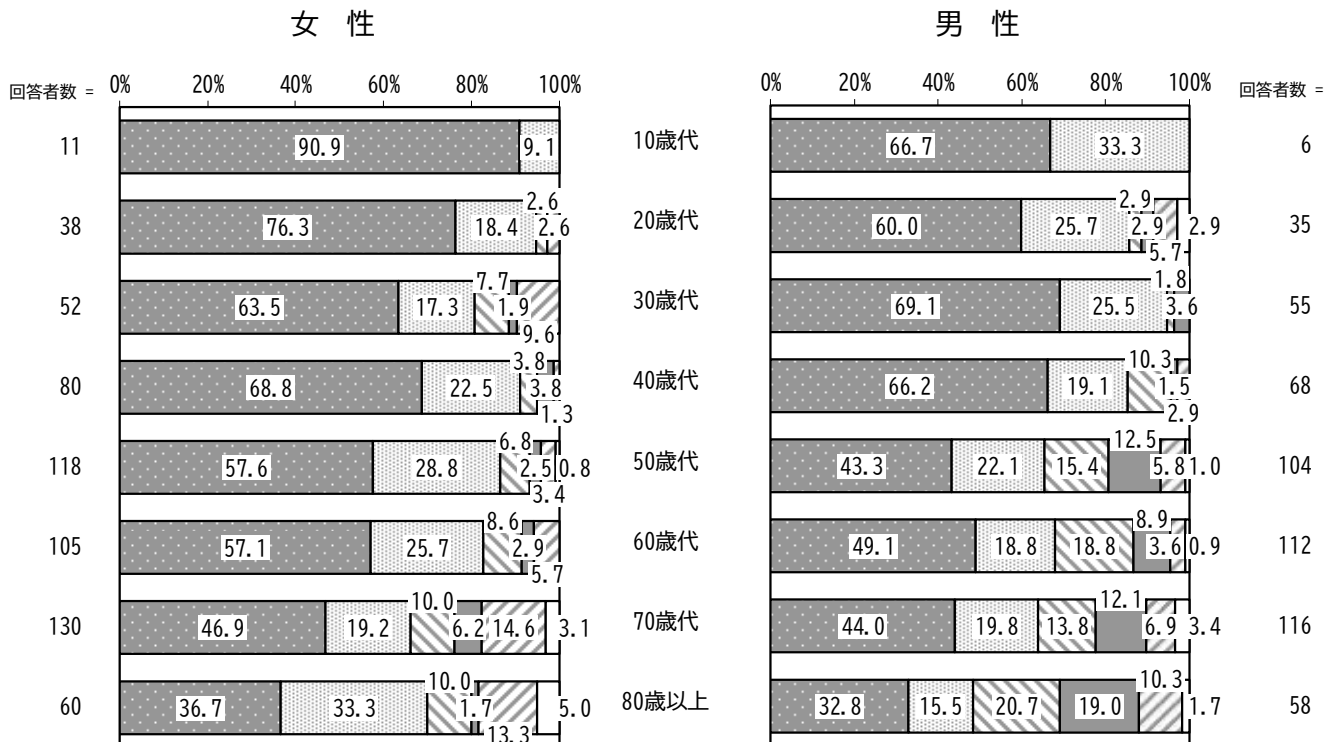
過去調査と比較すると、平成25年度調査から“そう思う”の割合が増加しています。
大阪府と比較すると、“そう思う”の割合が低くなっています。



※大阪府では、「どちらともいえない」が「わからない」となっていました。

【性・年代別】

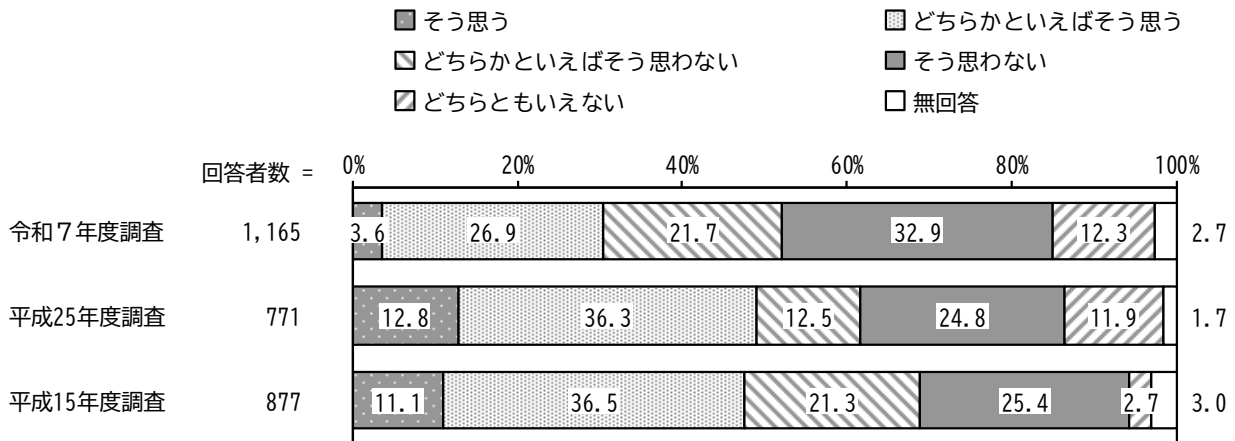
性・年代別にみると、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど“そう思う”の割合が高い傾向にあります。また、女性80歳以上で「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。



②女性は結婚したら、自分自身のことより家庭を中心に考えて生活した方がよい

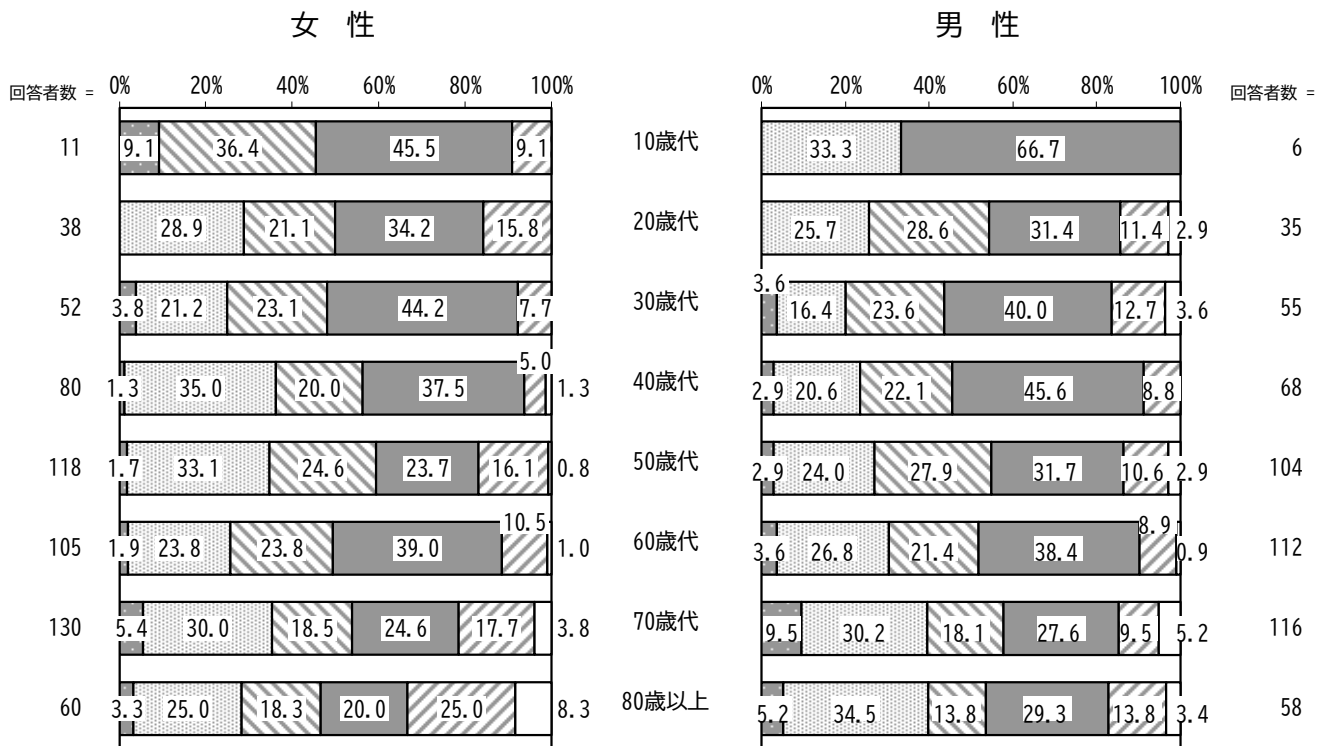
【経年比較】

過去調査と比較すると、平成 25 年度調査から “そう思う” の割合が減少しています。



【性・年代別】

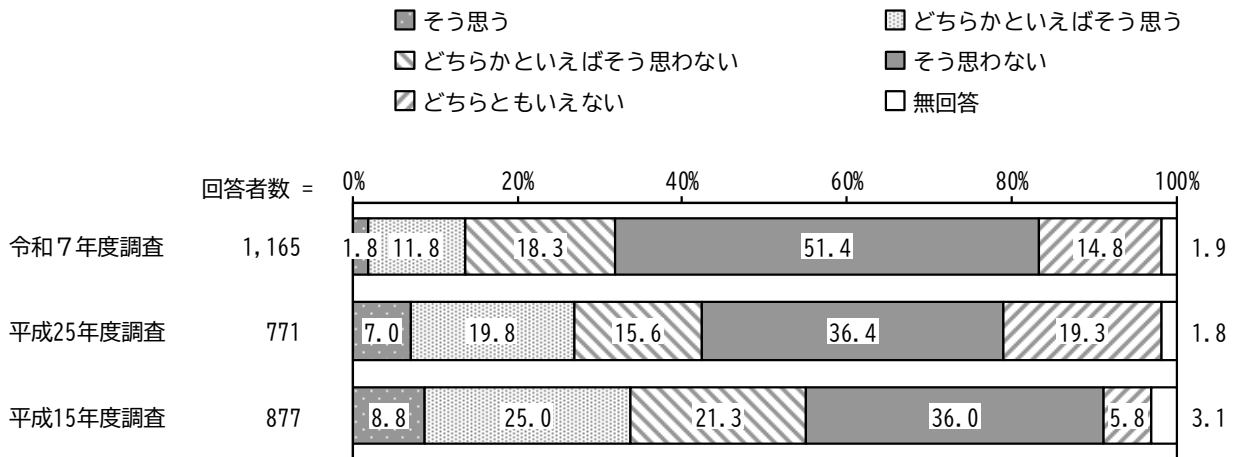
性・年代別にみると、男性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど “そう思う” の割合が高い傾向にあります。また、女性30歳代で「そう思わない」の割合が高くなっています。



③夫の親を妻が介護するのは当然である

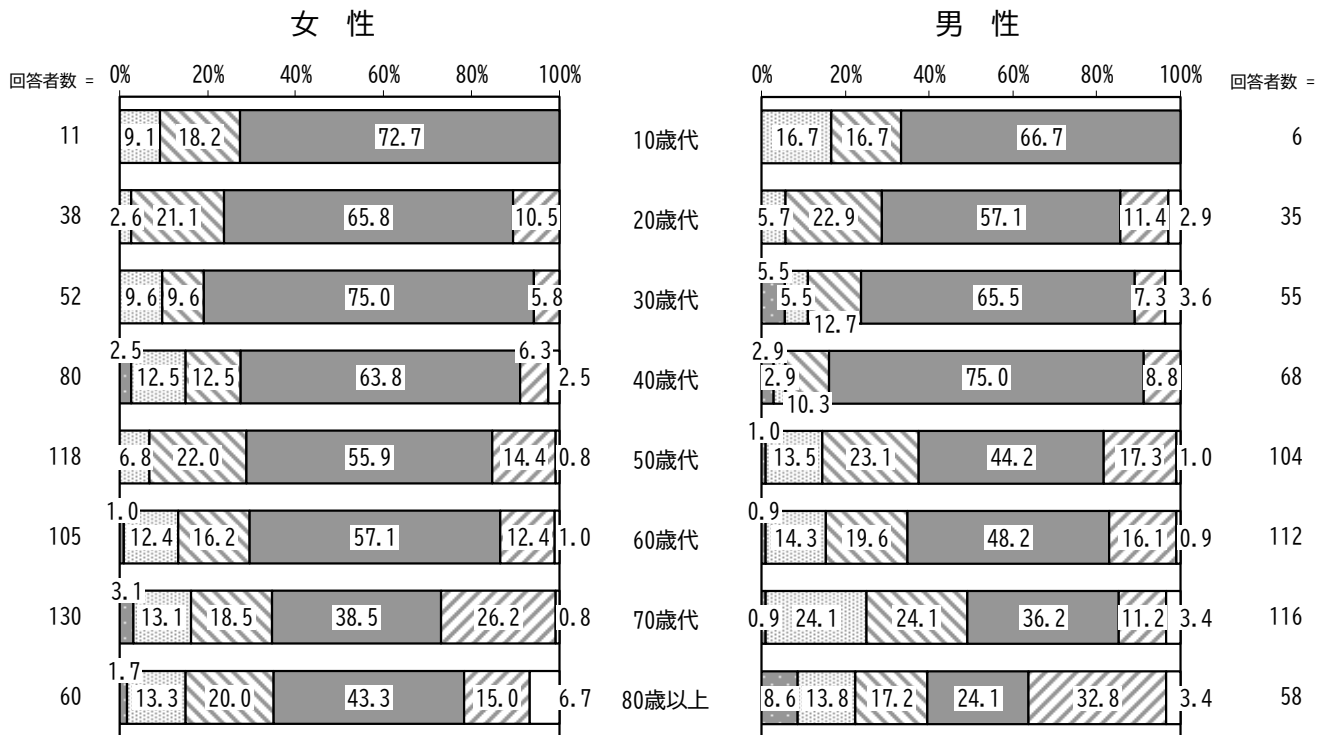
【経年比較】

過去調査と比較すると、平成15年度調査から“そう思う”の割合が減少しています。



【性・年代別】

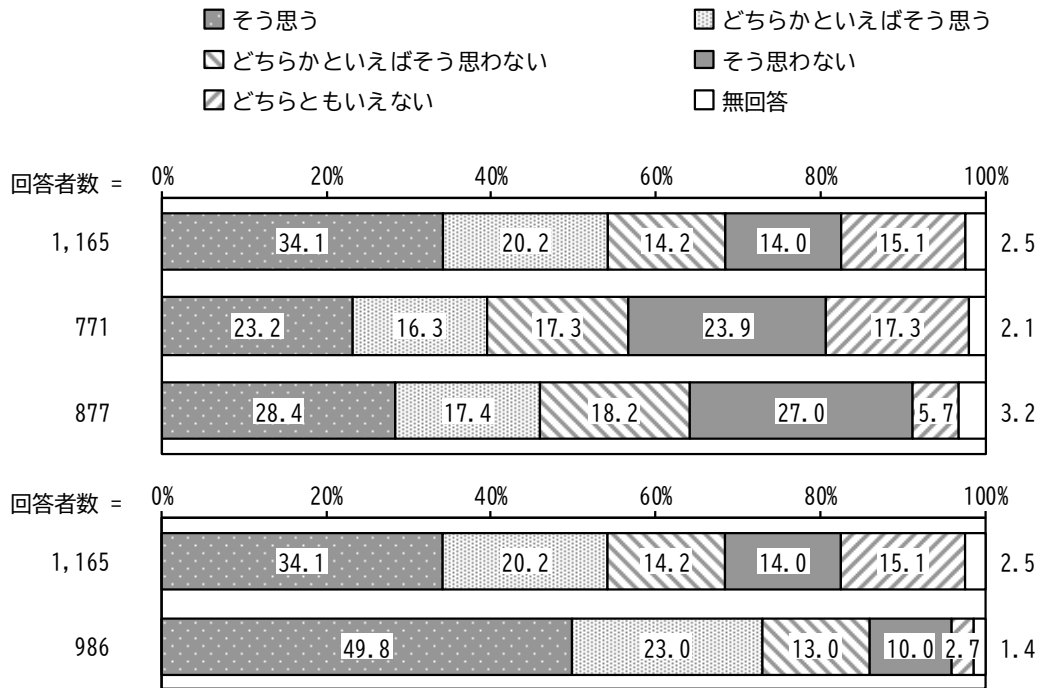
性・年代別にみると、女性では70歳代から10歳代まで年代が下がるほど、男性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど“そう思わない”の割合が高い傾向にあります。また、男性70歳代で「どちらかといえばそう思う」、女性30歳代、男性40歳代で「そう思わない」の割合が高くなっています。



④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

【経年・府比較】

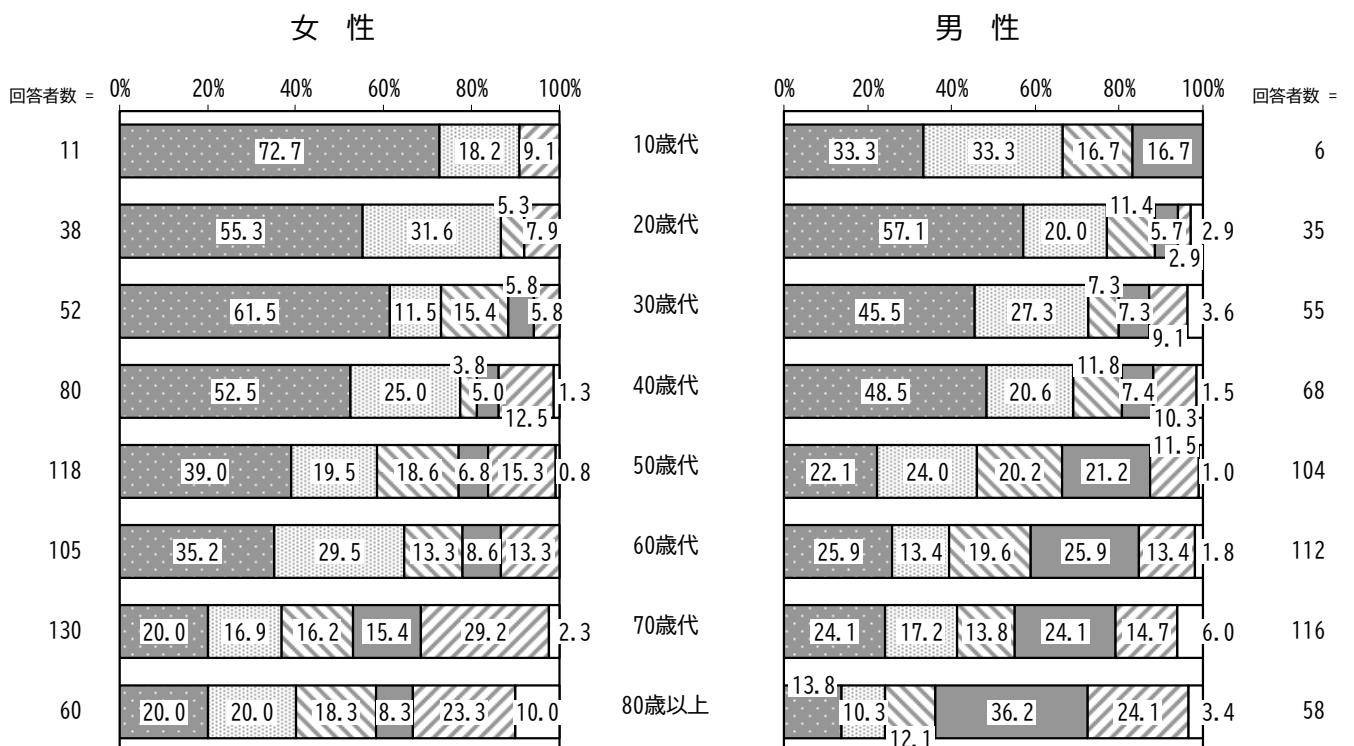
過去調査と比較すると、平成15年度調査から“そう思わない”の割合が減少しています。大阪府と比較すると、“そう思う”の割合が低くなっています。



※大阪府では、「どちらともいえない」が「わからない」となっていました。

【性・年代別】

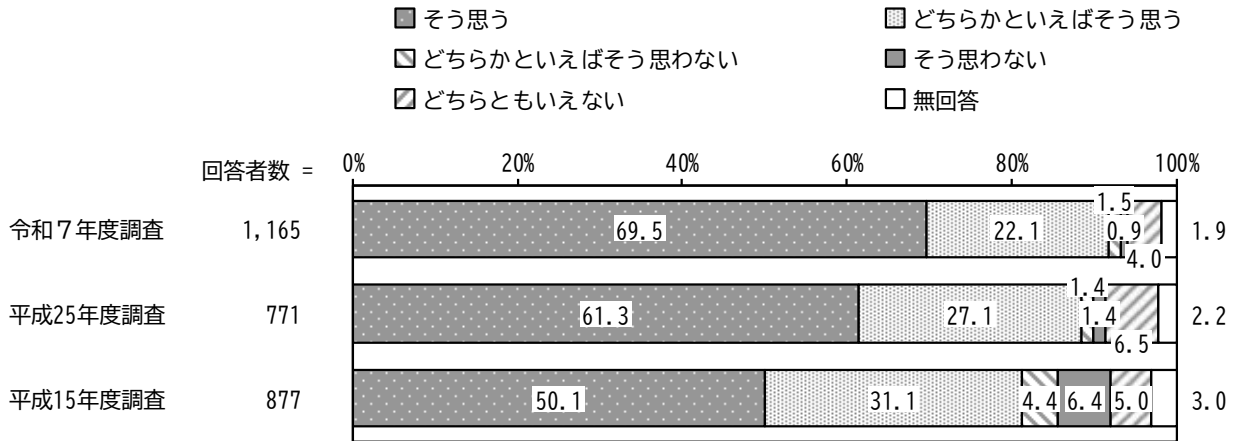
性・年代別にみると、男性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど“そう思う”の割合が高い傾向にあります。また、女性20歳代で「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。



⑤子どもを産む回数や時期などは、女性の意思も尊重すべきである

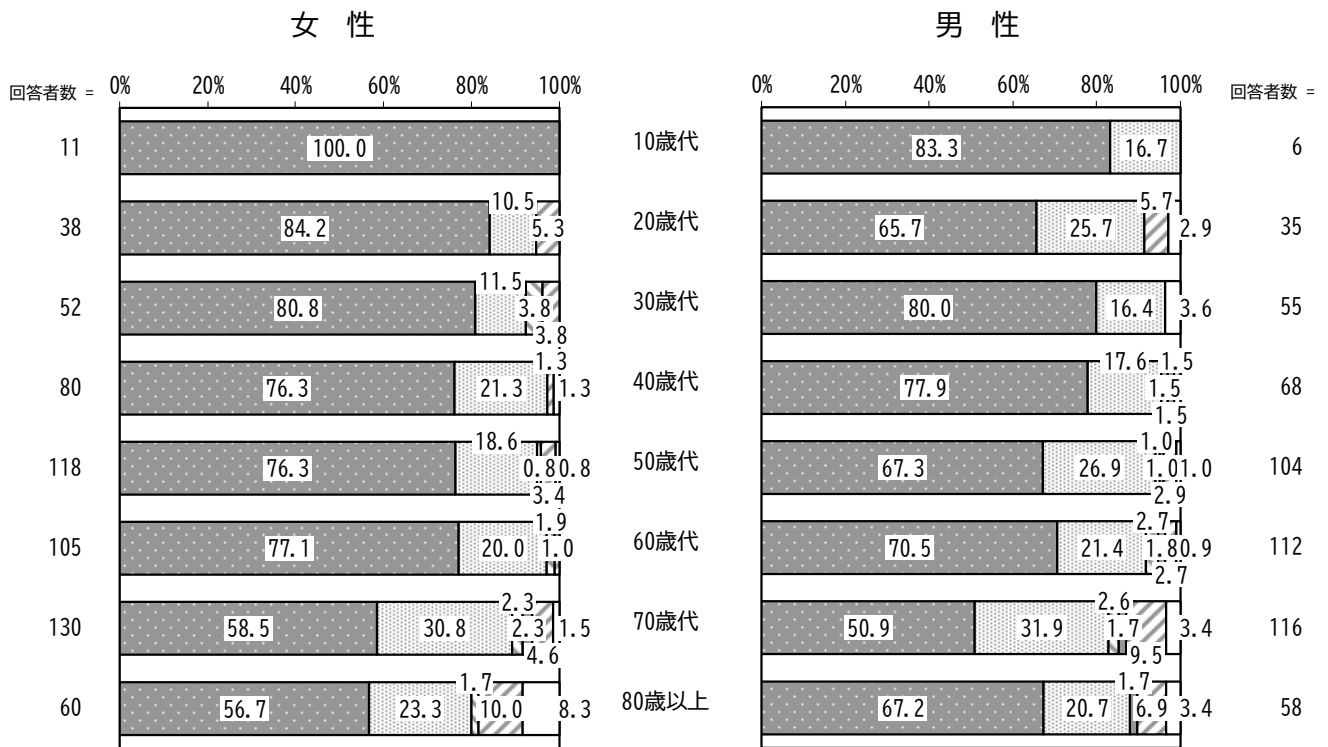
【経年比較】

過去調査と比較すると、平成15年度調査から“そう思う”の割合が増加しています。



【性・年代別】

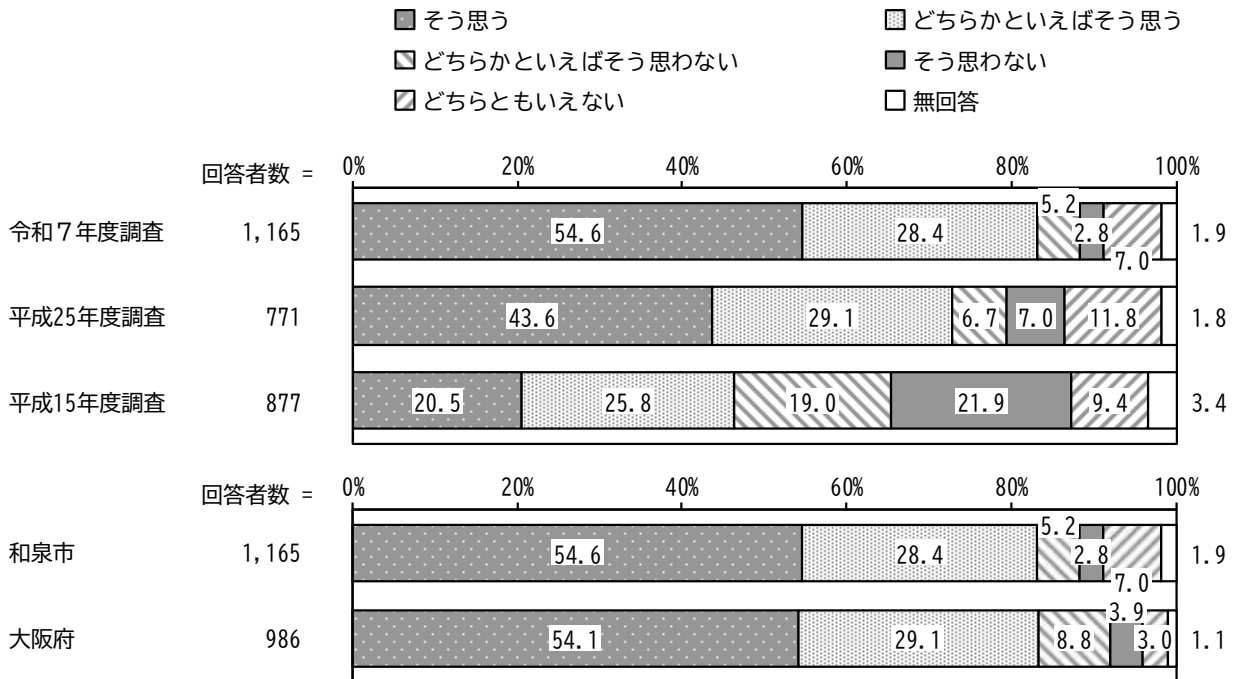
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、男性では70歳代から30歳代まで年代が下がるほど“そう思う”の割合が高い傾向にあります。



⑥結婚してもうまくいかなるときは、結婚を継続しなくてもよい

【経年・府比較】

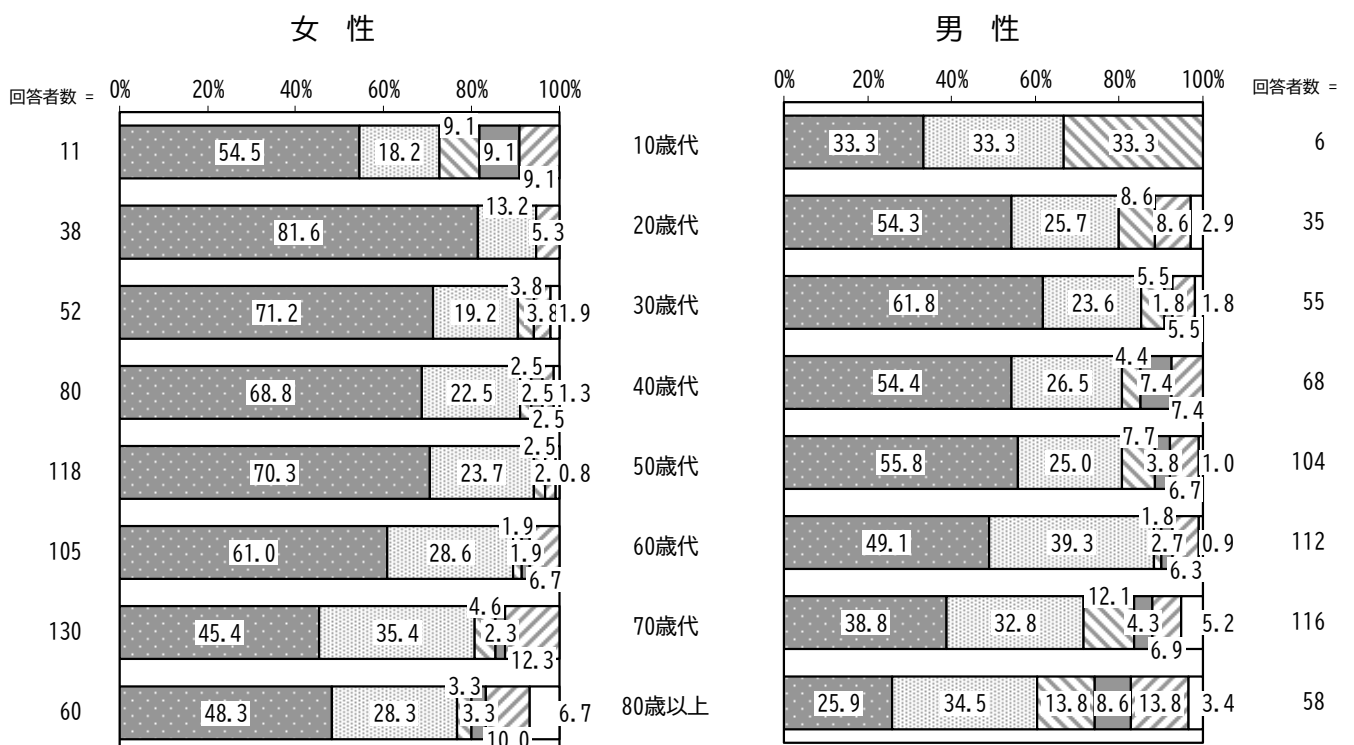
過去調査と比較すると、平成15年度調査から“そう思う”の割合が増加しています。
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。



※大阪府では、「どちらともいえない」が「わからない」となっていました。

【性・年代別】

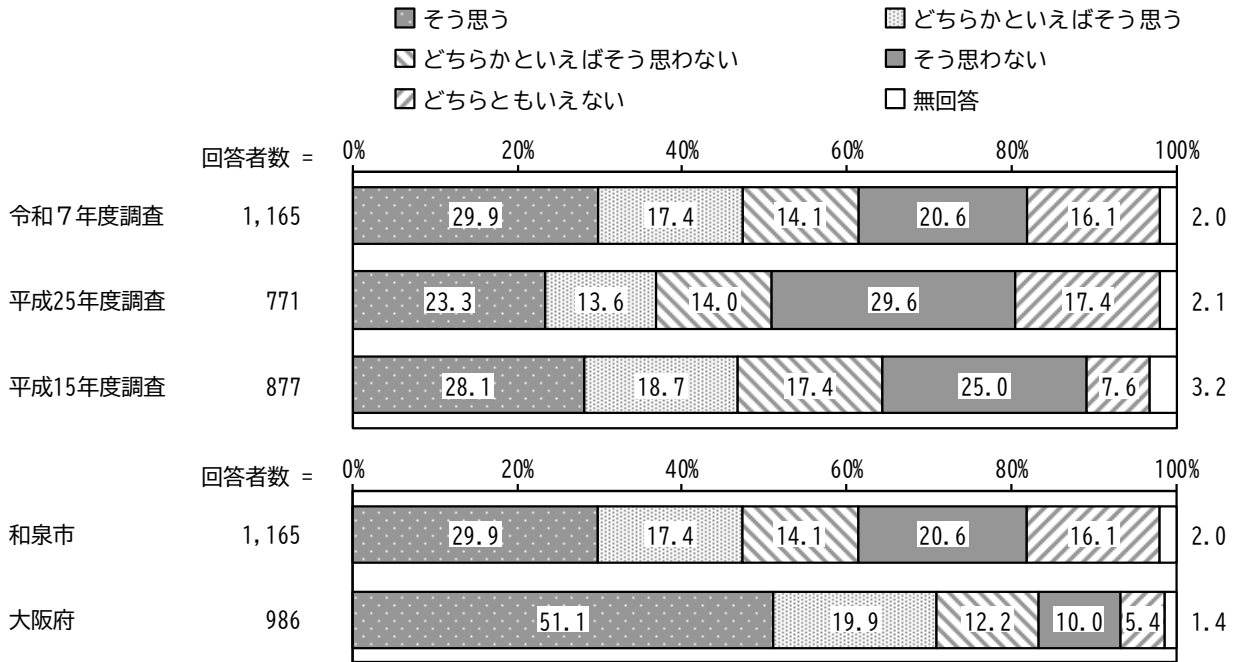
性・年代別にみると、女性では20歳代から70歳代まで年代が上がるほど「どちらかといえばそう思う」の割合が高く、「そう思う」の割合が低い傾向にあり、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「そう思う」の割合が高い傾向にあります。また、女性20歳代、女性50歳代で“そう思う”の割合が高くなっています。



⑦夫婦は別の姓を名乗ってもよい

【経年・府比較】

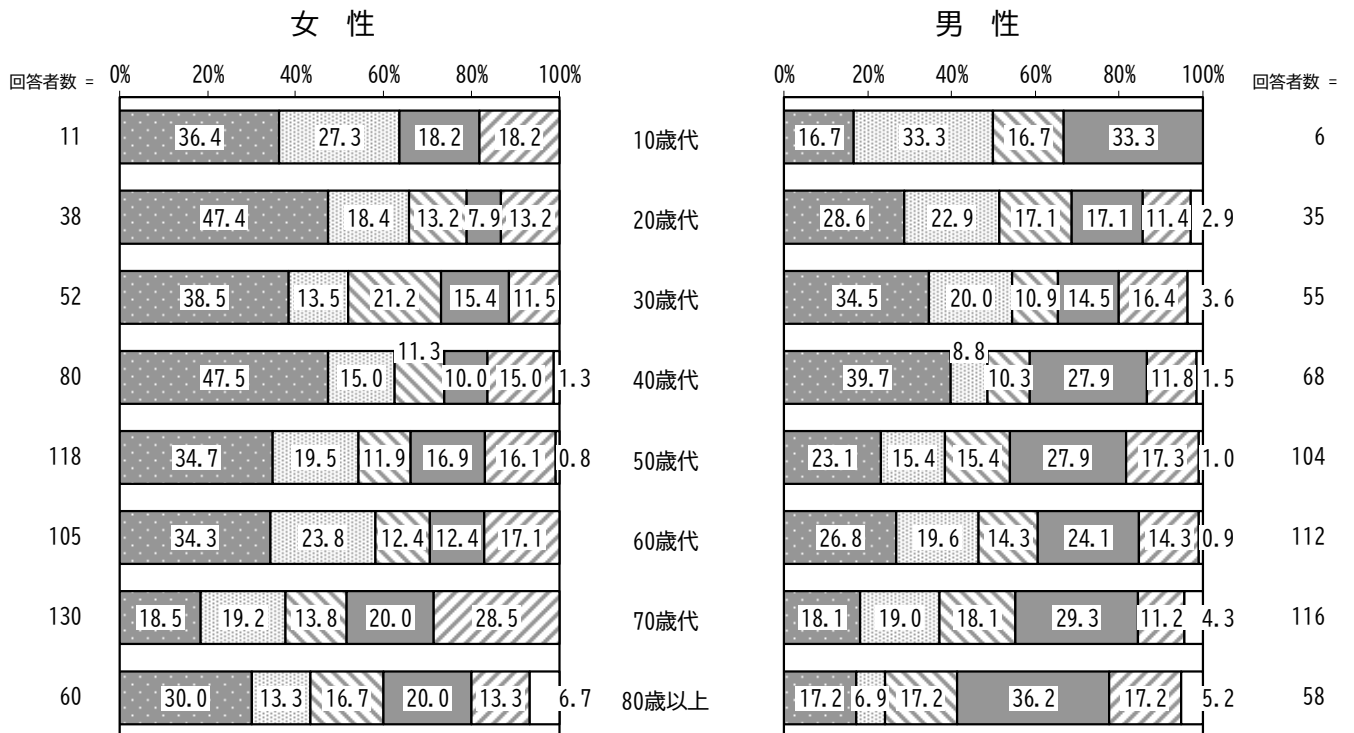
過去調査と比較すると、平成 25 年度調査から “そう思う” の割合が増加しています。



※大阪府では、「どちらともいえない」が「わからない」となっていました。

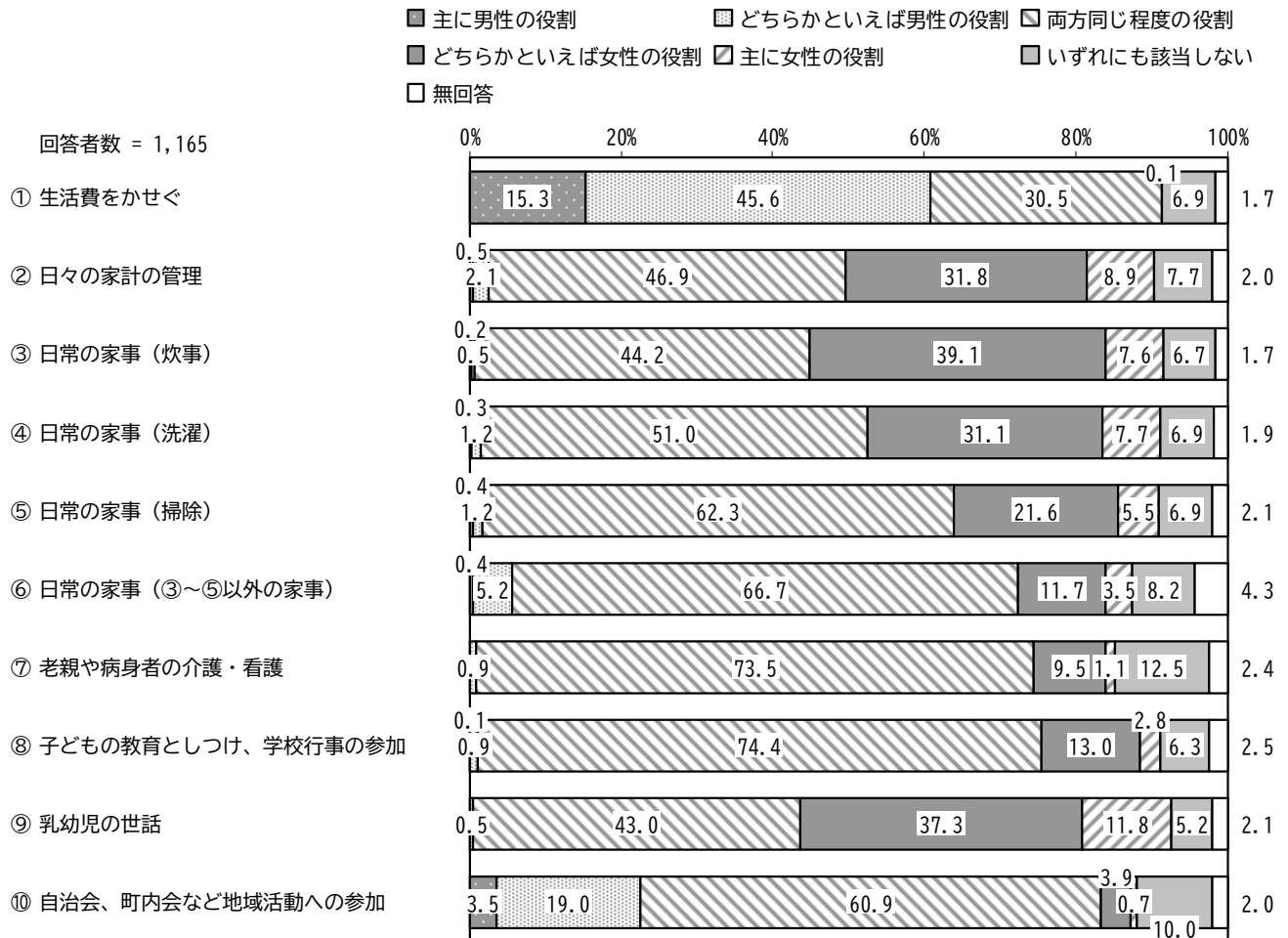
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 10 歳代、女性 20 歳代で “そう思う”、男性 80 歳以上で “そう思わない” の割合が高くなっています。



問 15 次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(①～⑩のそれぞれについて1つに○)

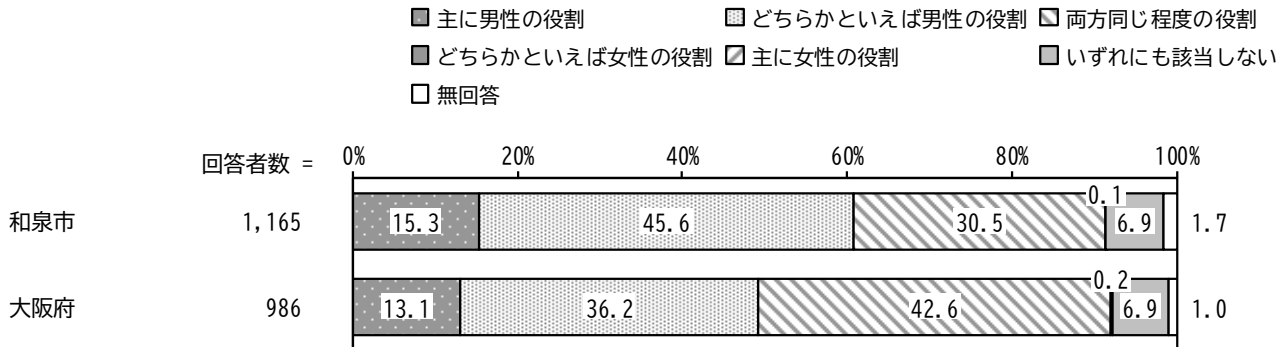
『①生活費をかせぐ』で「主に男性の役割」「どちらかといえば男性の役割」が、『⑧子どもの教育としつけ、学校行事の参加』で「両方同じ程度の役割」が、『③日常の家事（炊事）』で「どちらかといえば女性の役割」が、『⑨乳幼児の世話』で「主に女性の役割」が、『⑦老親や病身者の介護・看護』で「いずれにも該当しない」が高くなっています。



①生活費をかせぐ

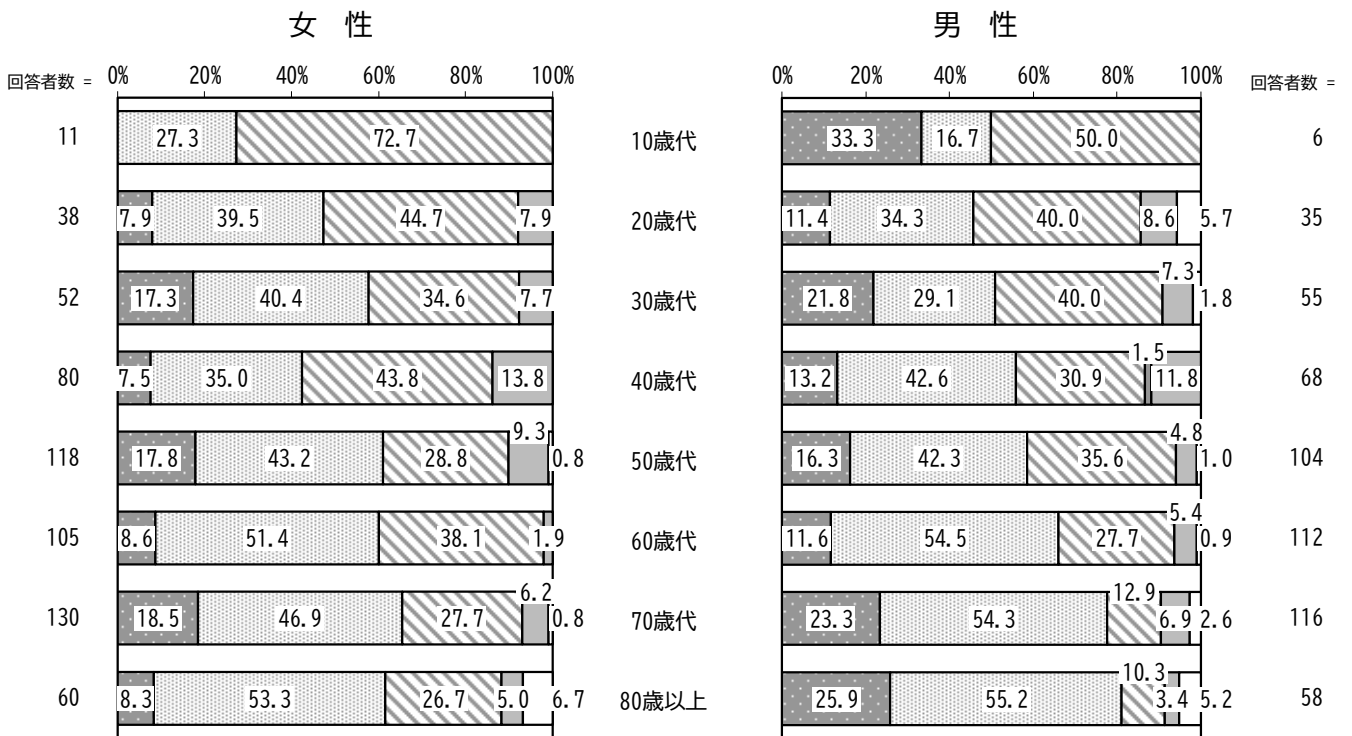
【府比較】

大阪府と比較すると、「男性の役割」の割合が高くなっています。一方、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

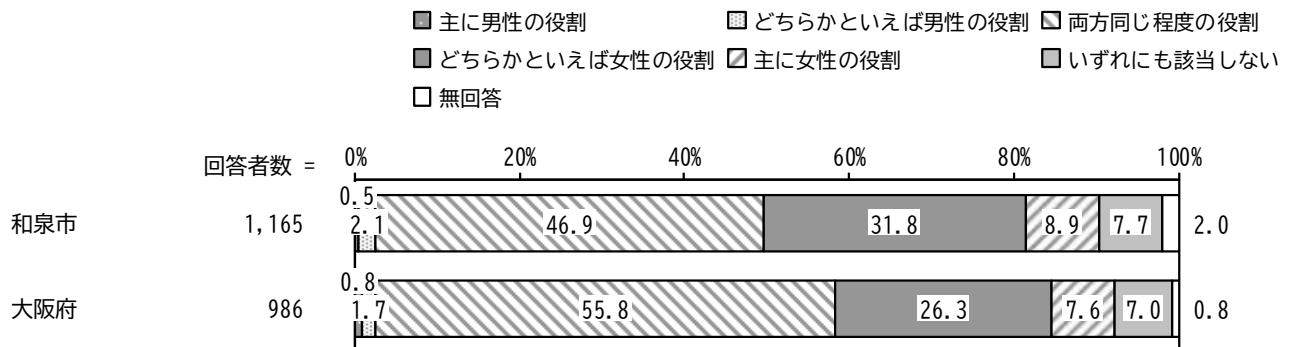
性・年代別にみると、男性では20歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「男性の役割」の割合が高くなっています。



②日々の家計の管理

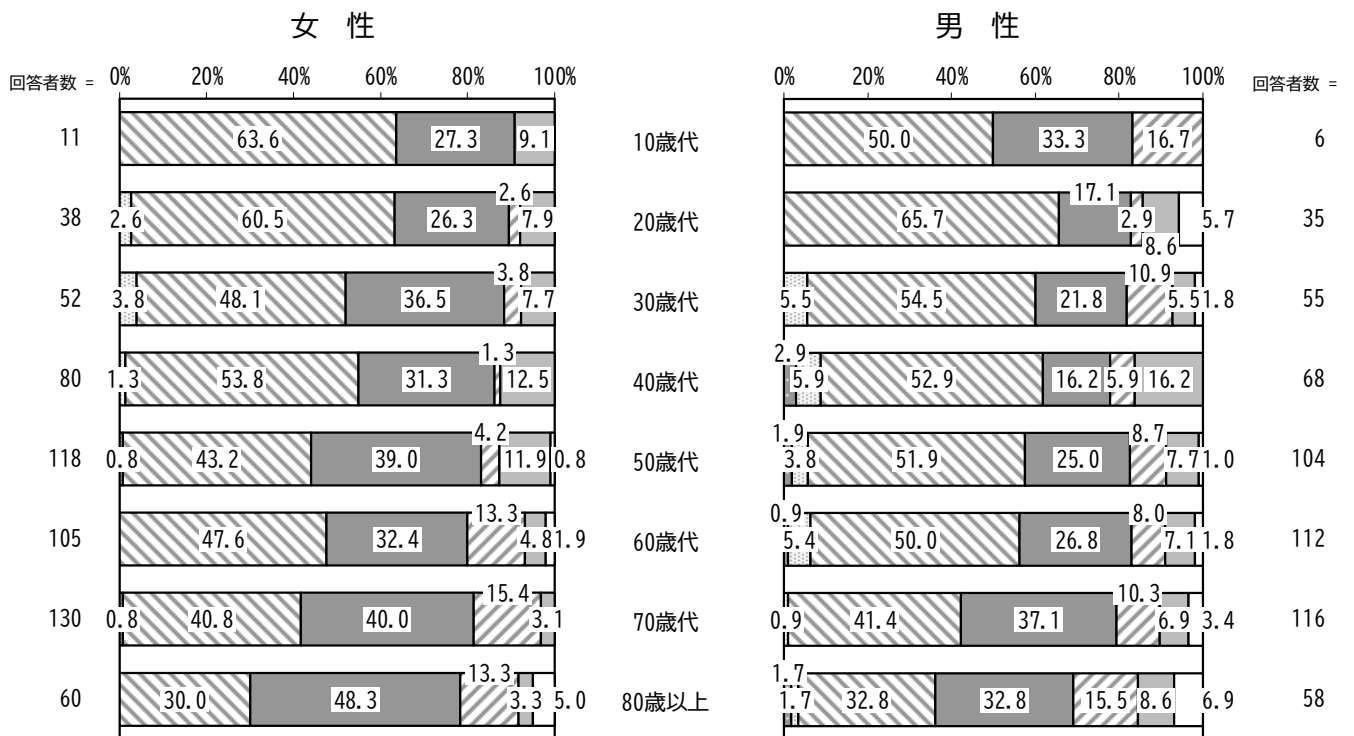
【府比較】

大阪府と比較すると、「女性の役割」の割合が高くなっています。一方、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

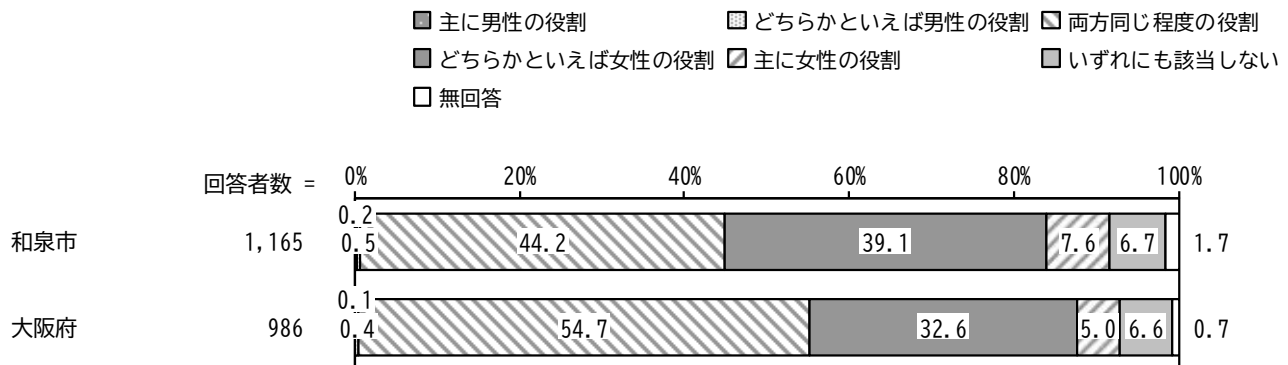
性・年代別にみると、女性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「女性の役割」の割合が高く、男性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「両方同じ程度の役割」の割合が高くなっています。また、女性80歳以上で「どちらかといえば女性の役割」の割合が高くなっています。



③日常の家事（炊事）

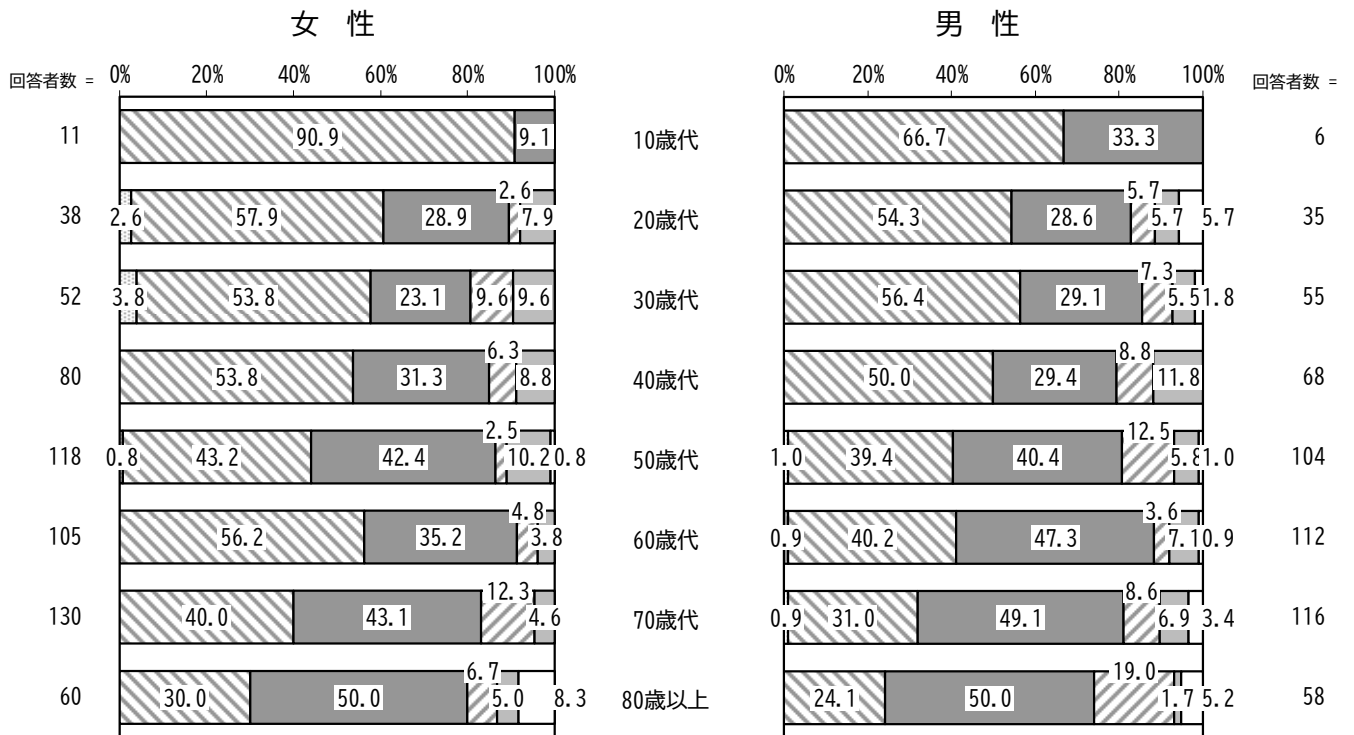
【府比較】

大阪府と比較すると、「女性の役割」の割合が高くなっています。一方、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

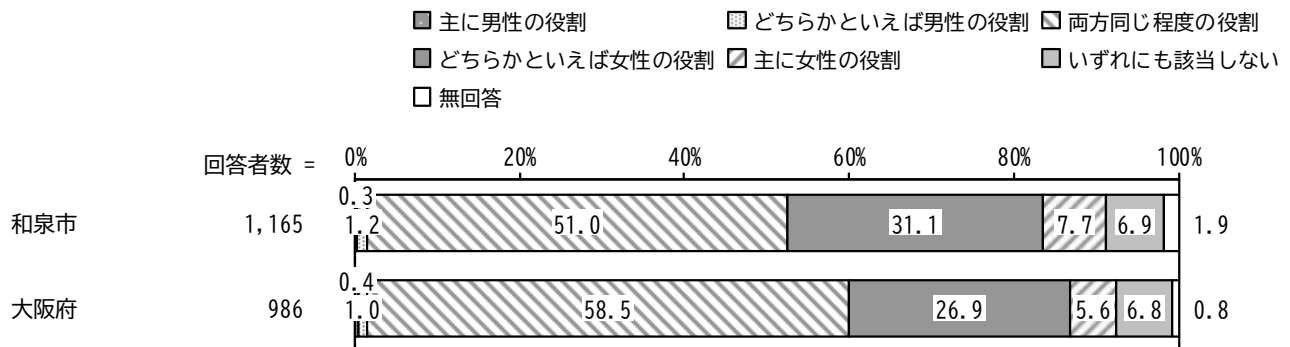
性・年代別にみると、女性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「女性の役割」の割合が高く、「両方同じ程度の役割」の割合が低い傾向にあり、男性では年代が上がるほど「女性の役割」の割合が高い傾向にあります。また、女性80歳以上、男性70歳代、男性80歳以上で「どちらかといえば女性の役割」の割合が高くなっています。



④日常の家事（洗濯）

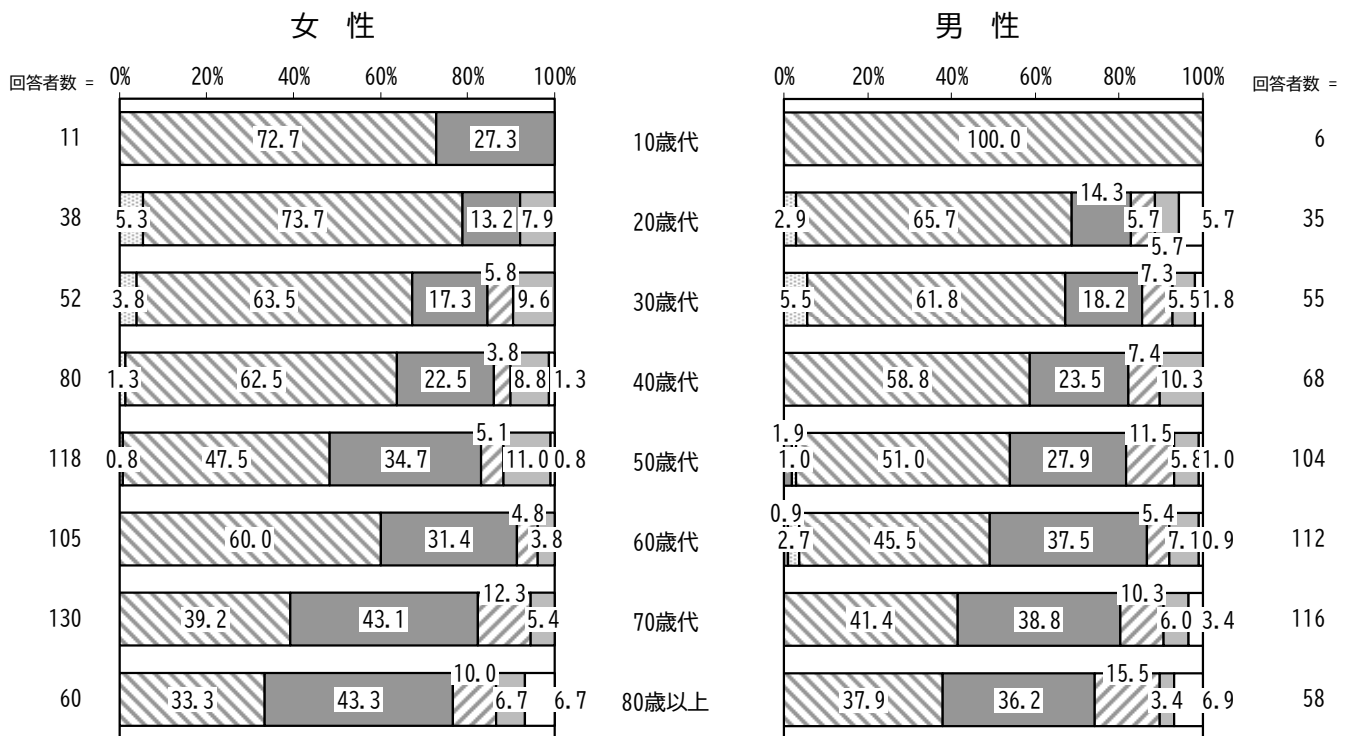
【府比較】

大阪府と比較すると、“女性の役割”の割合が高くなっています。一方、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

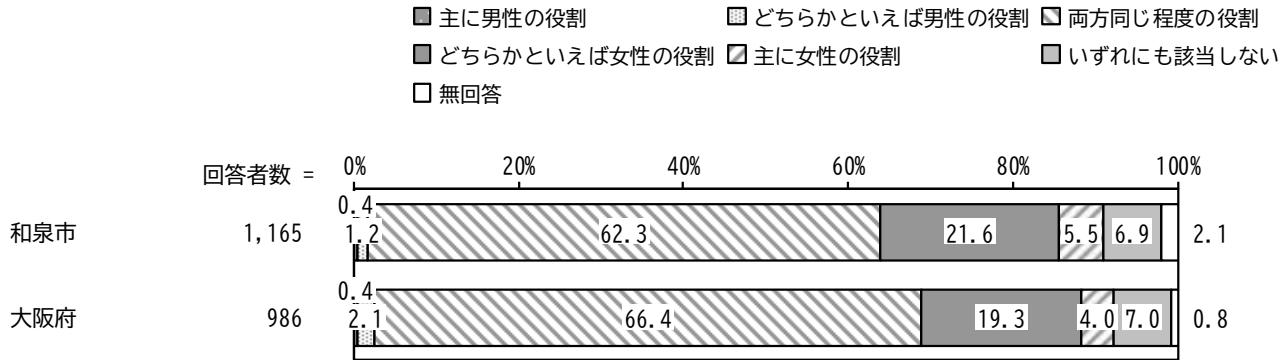
性・年代別にみると、男性では年代が上がるほど“女性の役割”の割合が高く、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。また、女性70歳代、女性80歳以上で「どちらかといえば女性の役割」の割合が高くなっています。



⑤ 日常の家事（掃除）

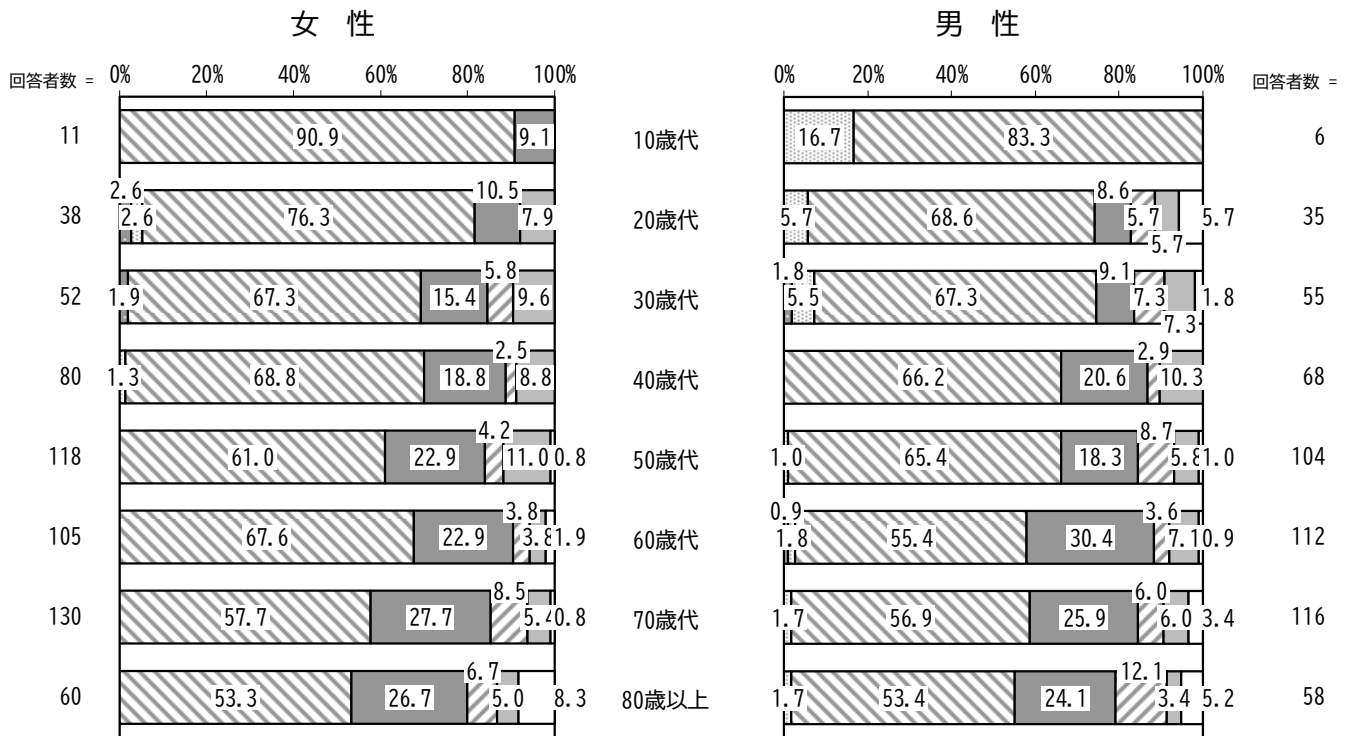
【府比較】

大阪府と比較すると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

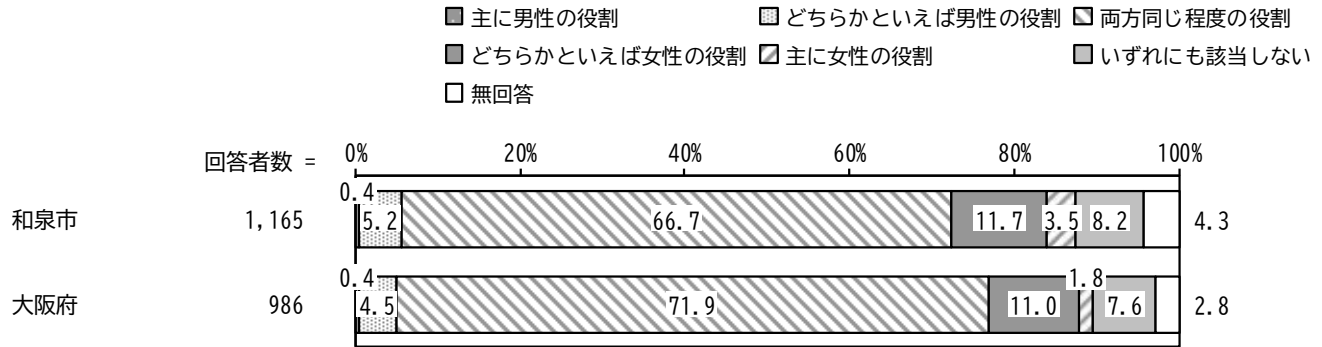
性・年代別にみると、女性では10歳代から70歳代まで年代が上がるほど“女性の役割”の割合が高い傾向にあり、男性では年代が上がるほど“女性の役割”の割合が高い傾向にあり、「両方同じ程度の役割」の割合が低い傾向にあります。また、女性20歳代、男性20歳代、男性30歳代で「どちらかといえば女性の役割」の割合が低くなっています。



⑥日常の家事（③～⑤以外の家事）

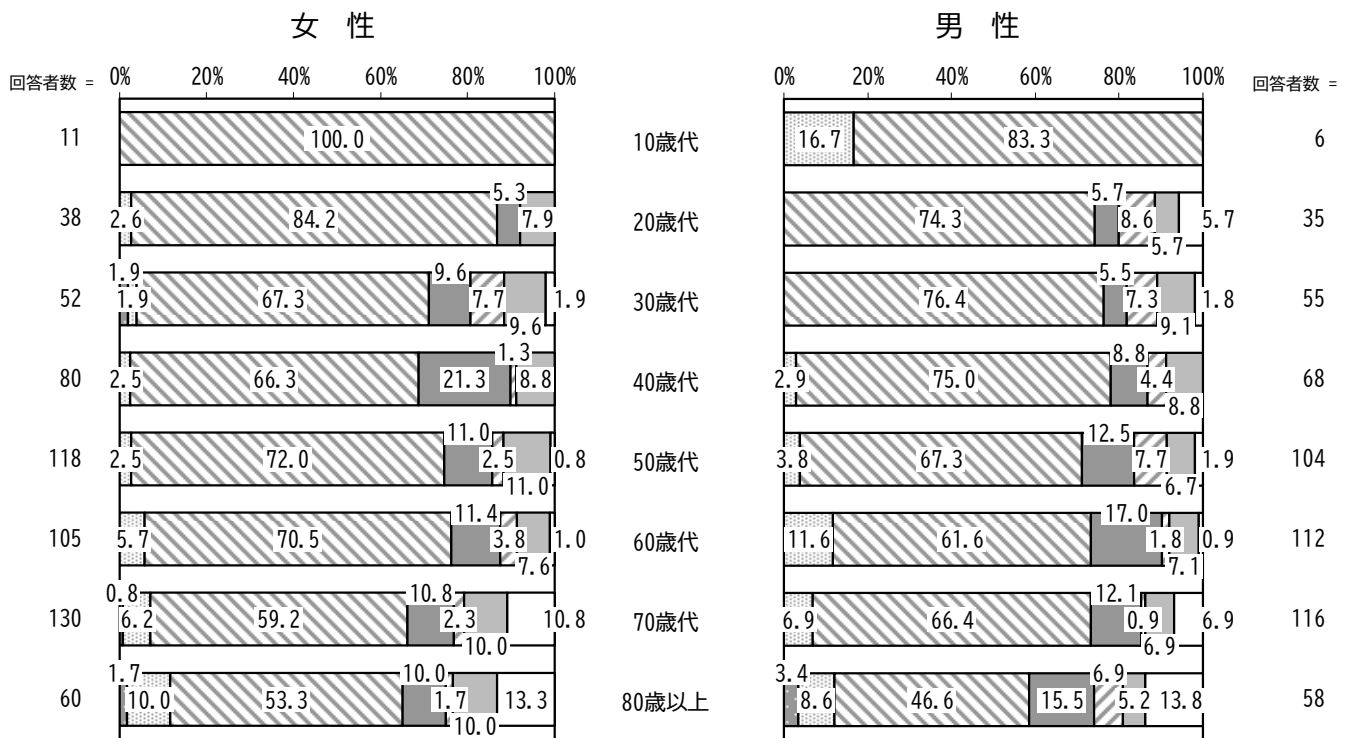
【府比較】

大阪府と比較すると、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

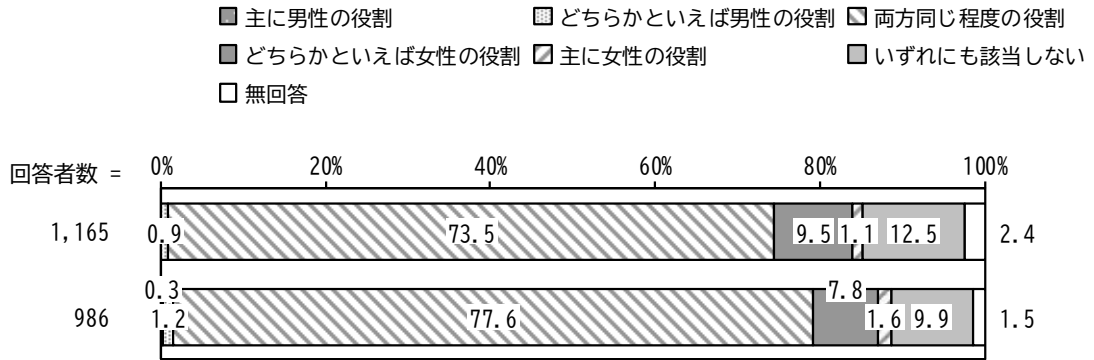
性・年代別にみると、女性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど、男性では20歳代から60歳代まで年代が上がるほど“男性の役割”の割合が高い傾向にあります。



⑦老親や病身者の介護・看護

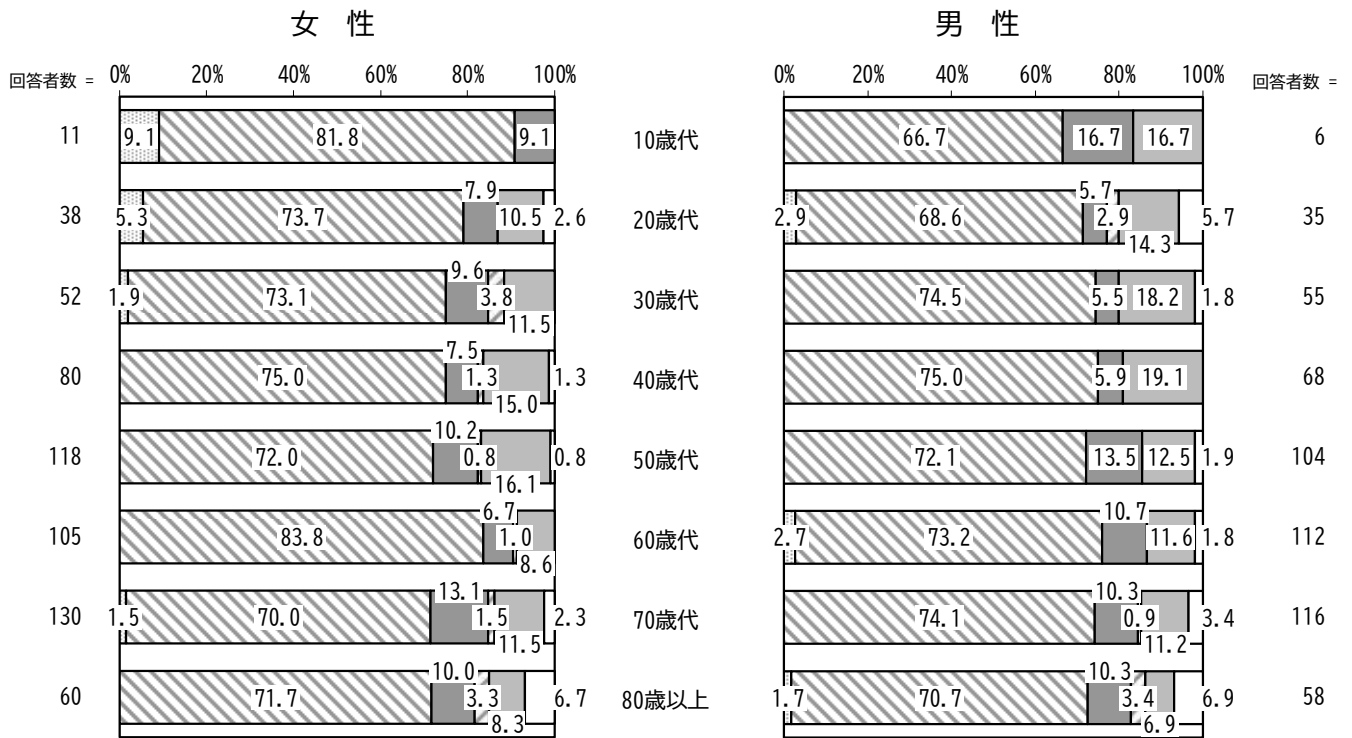
【府比較】

大阪府と比較すると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

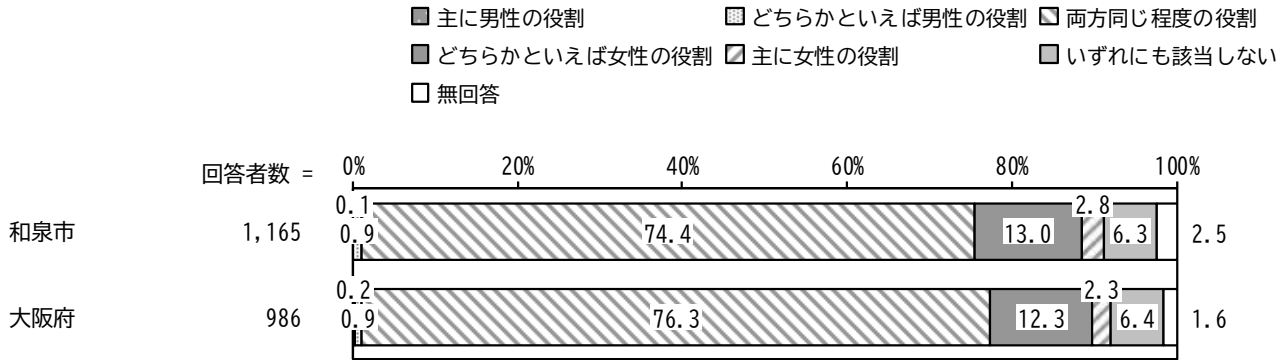
性・年代別にみると、女性10歳代で「男性の役割」、女性10歳代、女性60歳代で「両方同じ程度の役割」の割合が高くなっています。



⑧子どもの教育としつけ、学校行事の参加

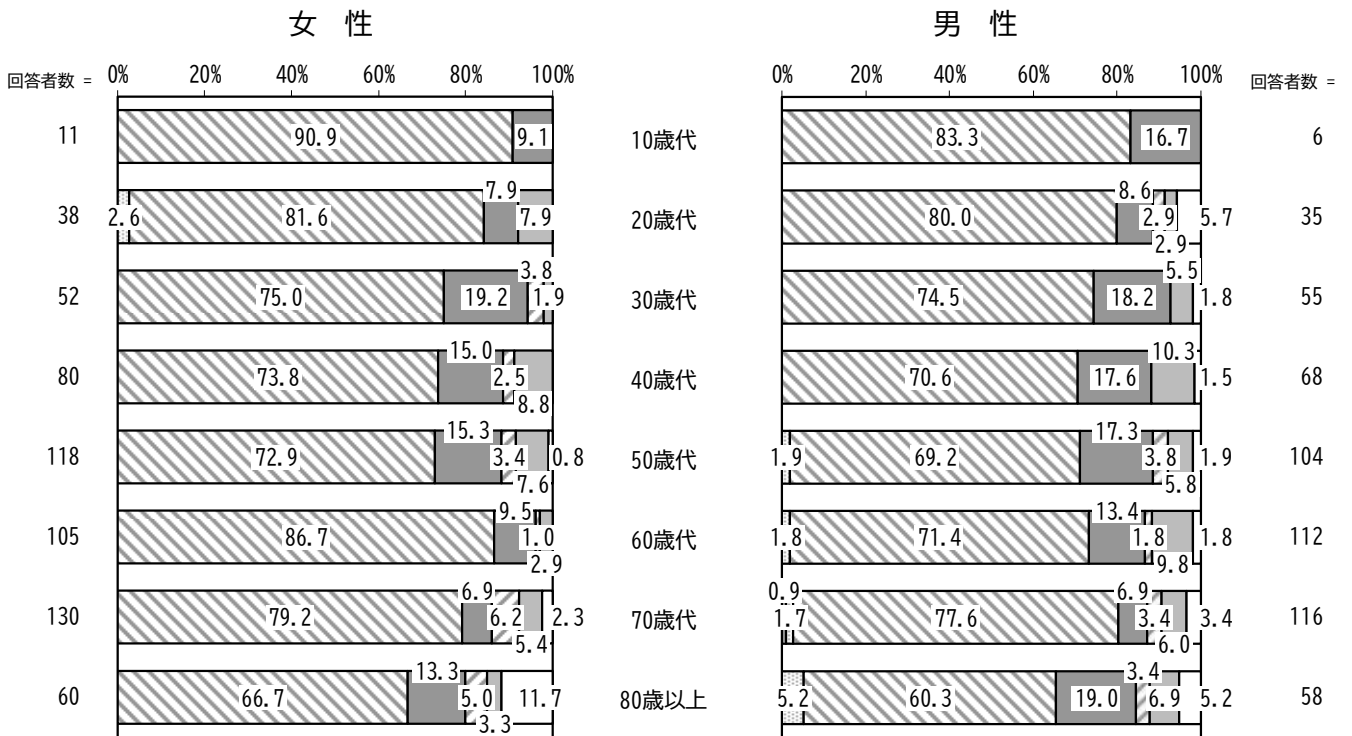
【府比較】

大阪府と比較すると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

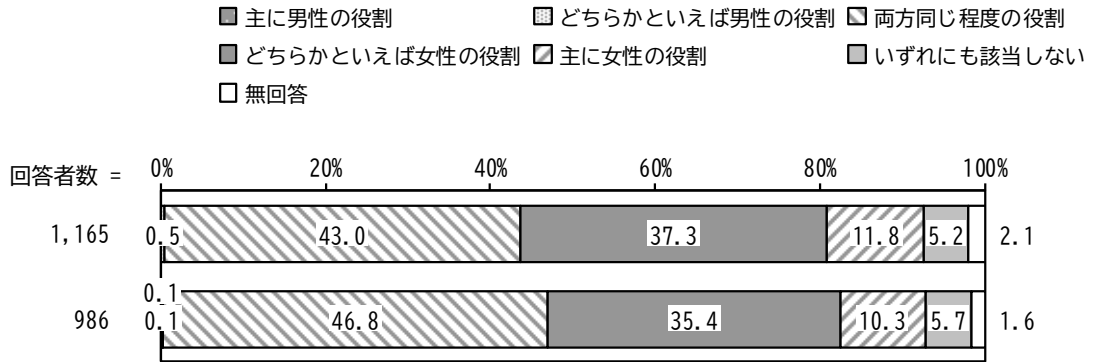
性・年代別にみると、男女ともに50歳代から10歳代まで年代が下がるほど「両方同じ程度の役割」の割合が高くなっています。



⑨乳幼児の世話

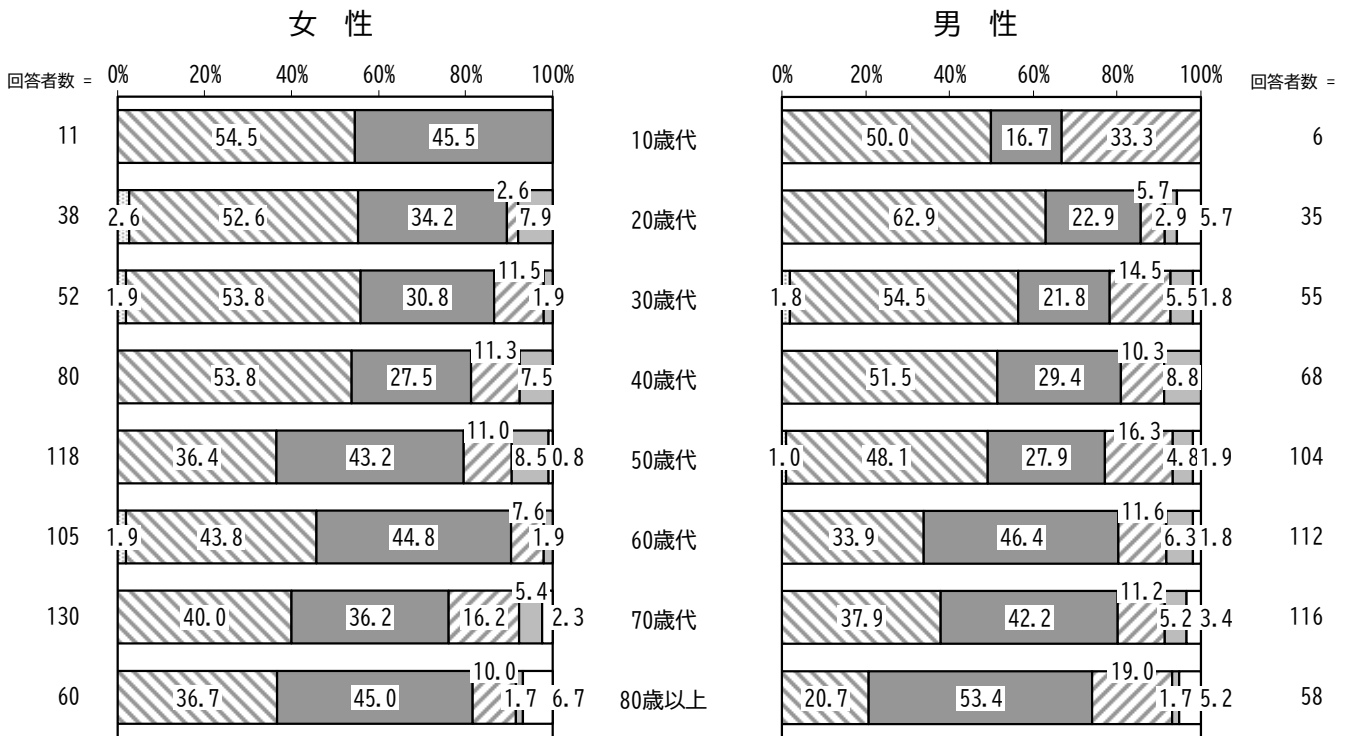
【府比較】

大阪府と比較すると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

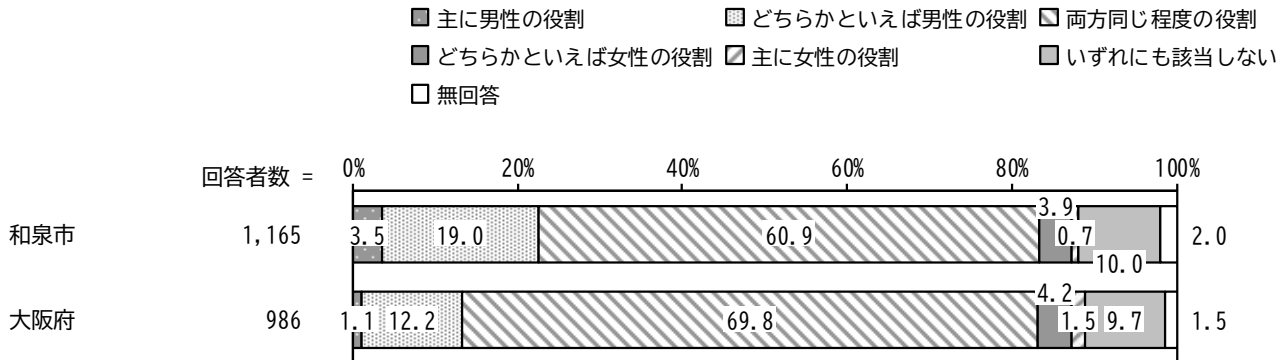
性・年代別にみると、男性では20歳代から60歳代まで年代が上がるほど“女性の役割”の割合が高く、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。



⑩自治会、町内会など地域活動への参加

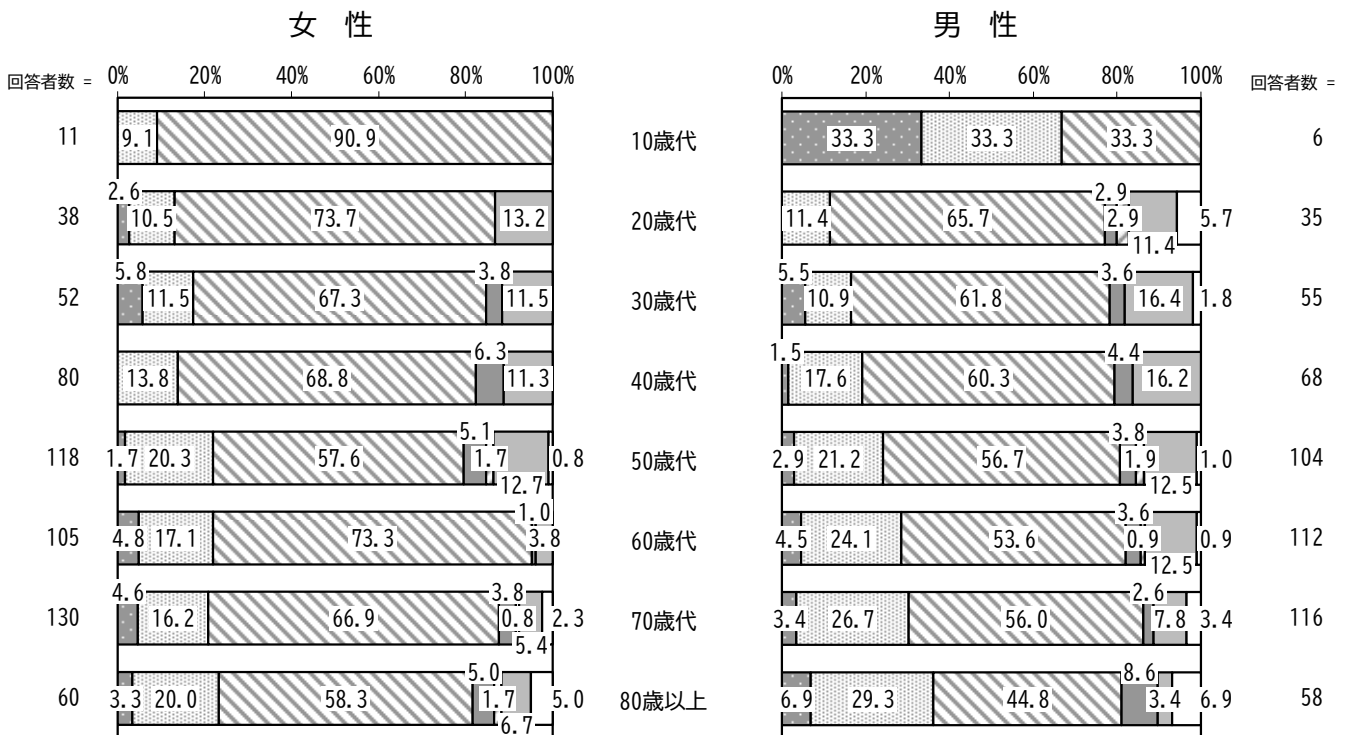
【府比較】

大阪府と比較すると、「男性の役割」の割合が高くなっています。一方、「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では50歳代から10歳代まで年代が下がるほど「両方同じ程度の役割」の割合が高い傾向にあり、男性では20歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「男性の役割」の割合が高く、「両方同じ程度の役割」の割合が低い傾向にあります。また、男性80歳以上で「どちらかといえば男性の役割」の割合が高くなっています。



問 16 1日のうちあなたが仕事（在宅就労を含む）や家事、育児、介護に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。
（それぞれについて1つに○）

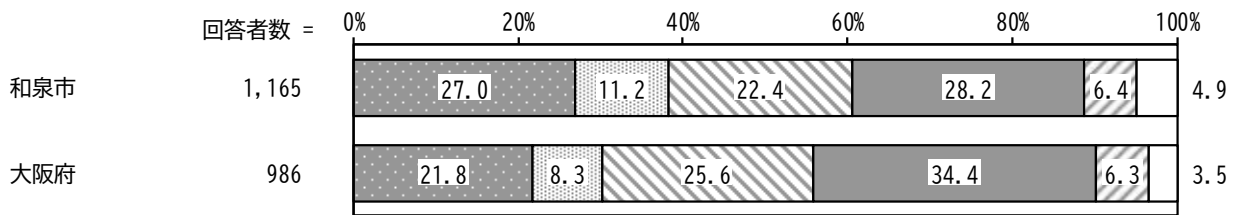
（1）仕事（通勤時間を含む）

①平日（○は1つ）

「8時間～12時間未満」の割合が28.2%と最も高く、次いで「なし」の割合が27.0%、「4時間～8時間未満」の割合が22.4%となっています。

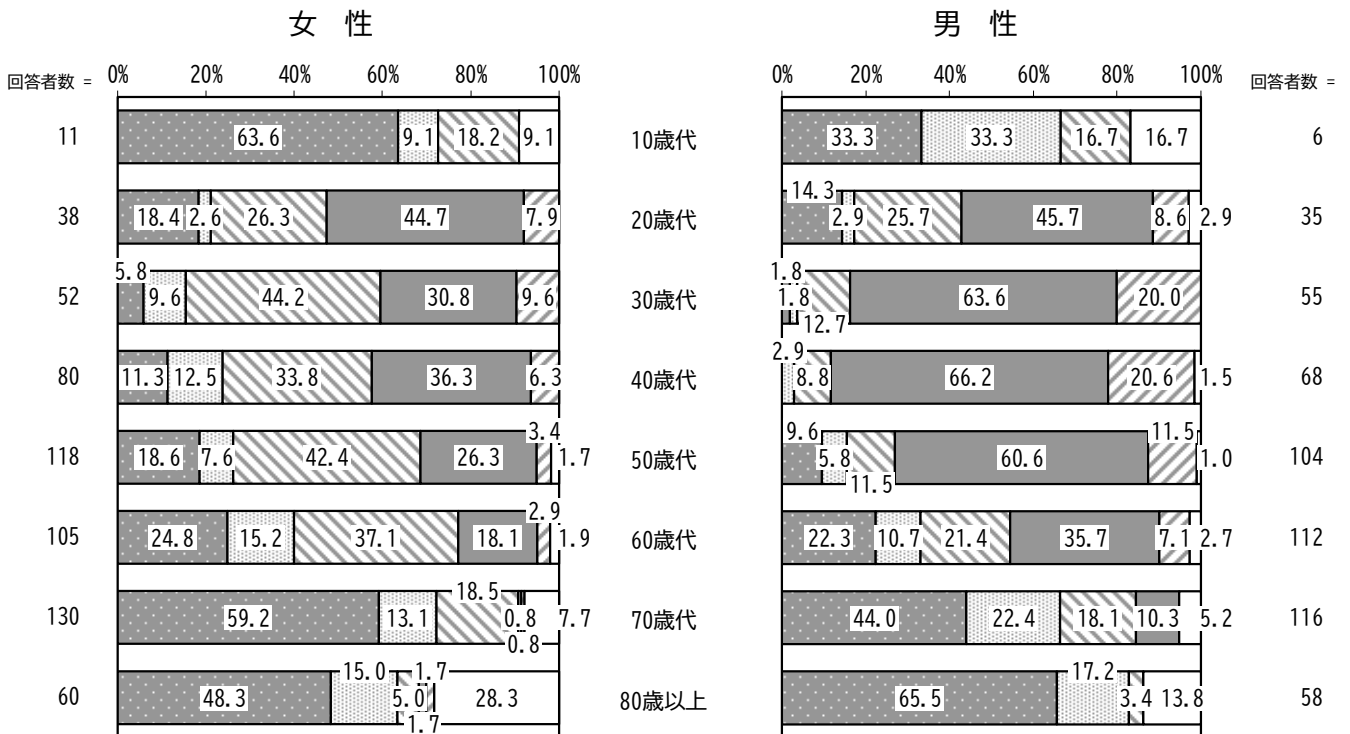
大阪府と比較すると、「なし」の割合が高くなっています。一方、「8時間～12時間未満」の割合が低くなっています。

■ なし □ 4時間未満 ▨ 4時間～8時間未満 ■ 8時間～12時間未満 ▩ 12時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「なし」の割合が高く、男性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「8時間～12時間未満」「12時間以上」の割合が高い傾向にあり、「なし」の割合が低くなっています。また、男性70歳代で「4時間未満」、女性30歳代、女性50歳代で「4時間～8時間未満」の割合が高くなっています。

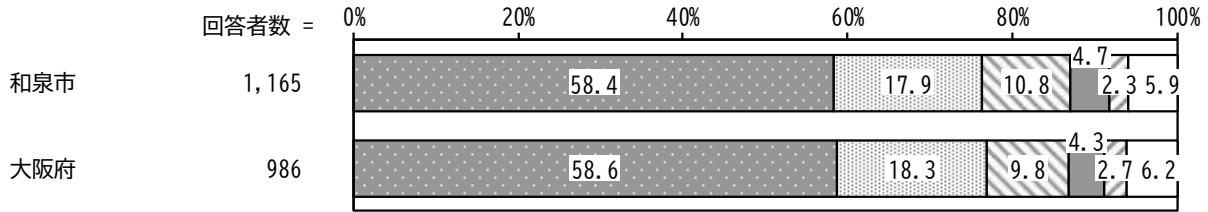


②休日（〇は1つ）

「なし」の割合が58.4%と最も高く、次いで「4時間未満」の割合が17.9%、「4時間～8時間未満」の割合が10.8%となっています。

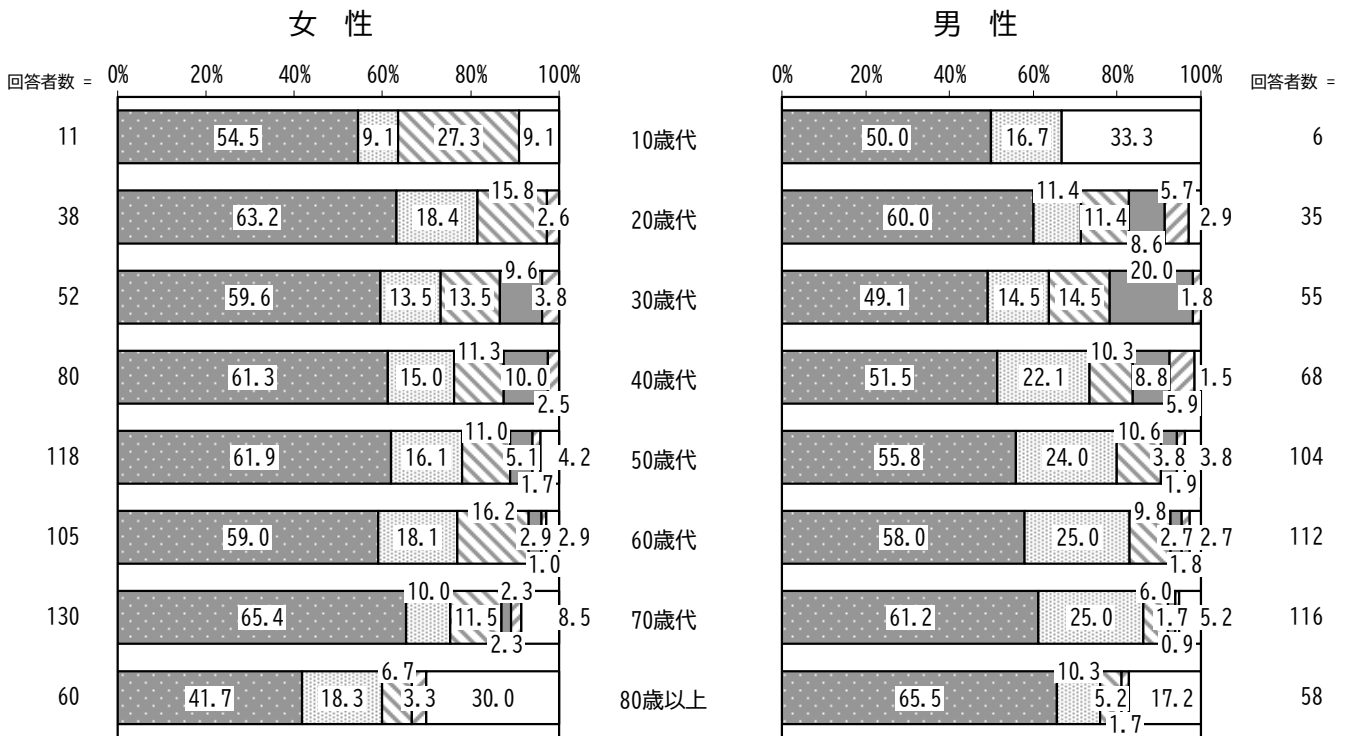
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ なし □ 4時間未満 ▨ 4時間～8時間未満 ■ 8時間～12時間未満 ▩ 12時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「8時間～12時間未満」の割合が高く、男性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「なし」の割合が高く、「8時間～12時間未満」の割合が低くなっています。



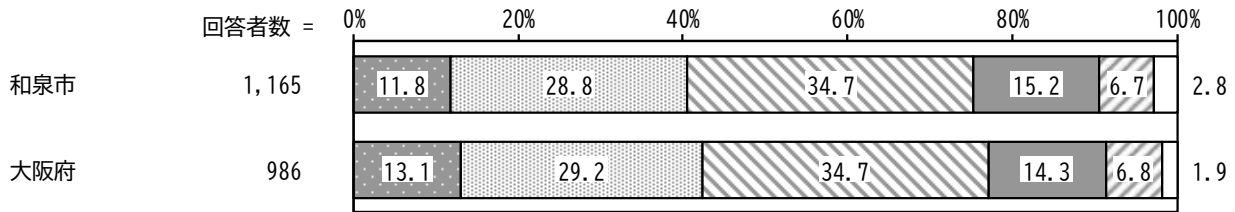
(2) 家事

①平日 (〇は1つ)

「1時間～3時間未満」の割合が34.7%と最も高く、次いで「1時間未満」の割合が28.8%、「3時間～5時間未満」の割合が15.2%となっています。

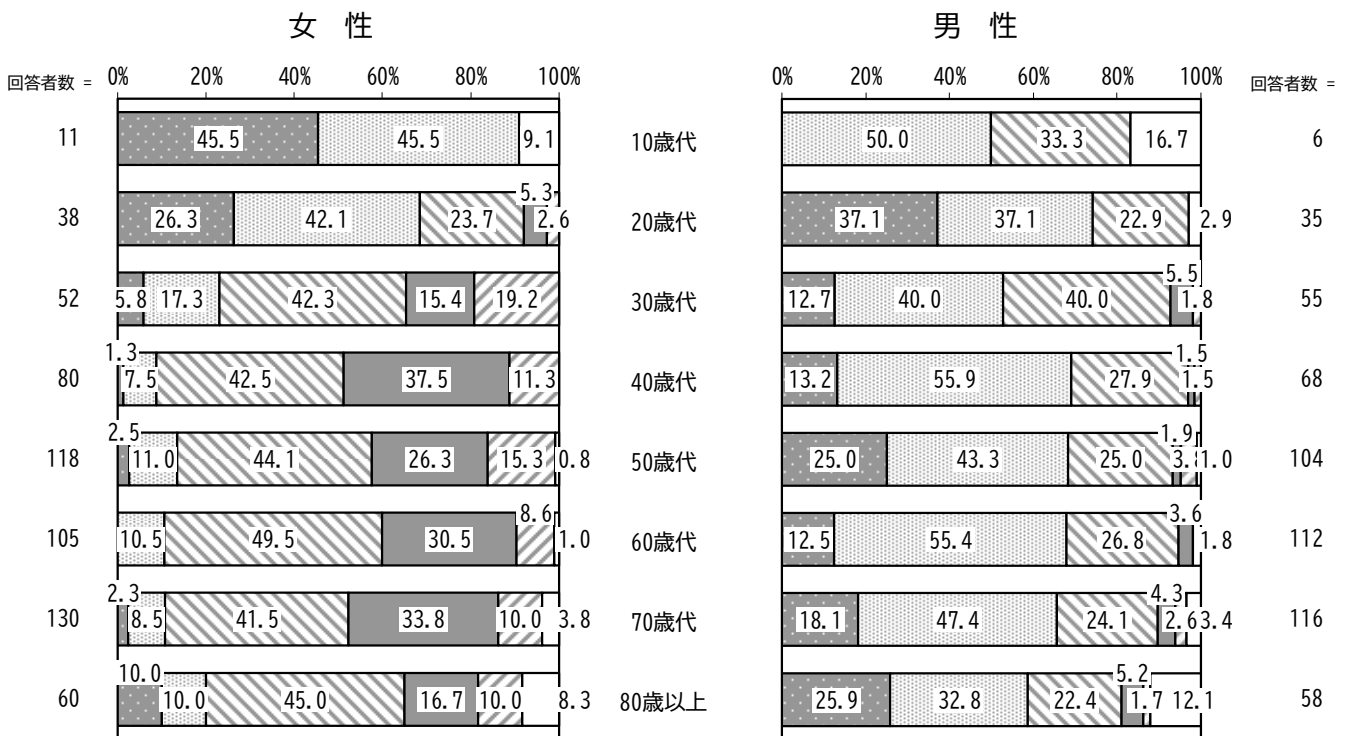
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ なし □ 1時間未満 ▨ 1時間～3時間未満 ■ 3時間～5時間未満 ▩ 5時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

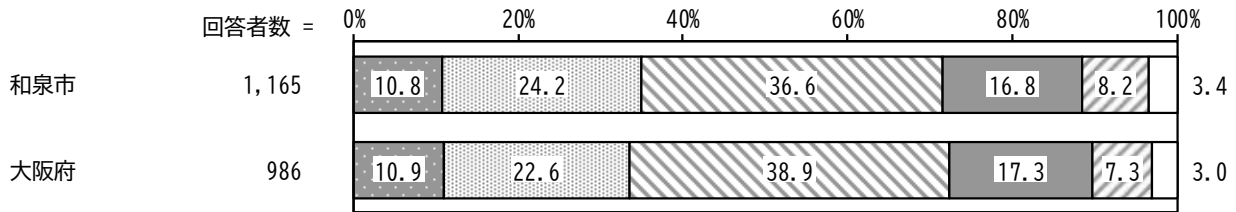
性・年代別にみると、女性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「1時間～3時間未満」の割合が高く、「なし」の割合が低い傾向にあり、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「1時間～3時間未満」の割合が高い傾向にあります。また、男性40歳代、男性60歳代で「1時間未満」、女性40歳代で「3時間～5時間未満」の割合が高くなっています。



②休日（〇は1つ）

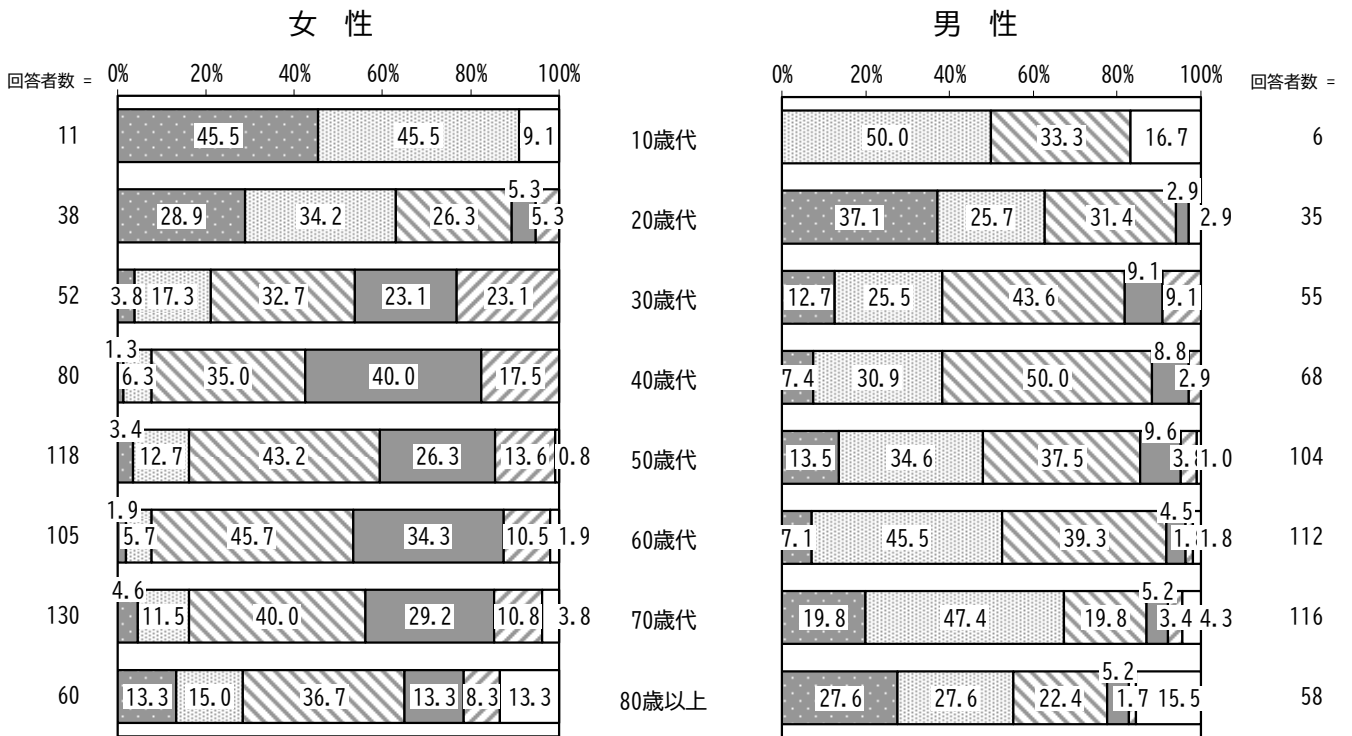
「1時間～3時間未満」の割合が36.6%と最も高く、次いで「1時間未満」の割合が24.2%、「3時間～5時間未満」の割合が16.8%となっています。

■ なし □ 1時間未満 ▨ 1時間～3時間未満 ■ 3時間～5時間未満 ▩ 5時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「5時間以上」の割合が高い傾向にあり、男性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「1時間未満」の割合が高くなっています。また、男性40歳代で「1時間～3時間未満」、女性40歳代で「3時間～5時間未満」の割合が高くなっています。

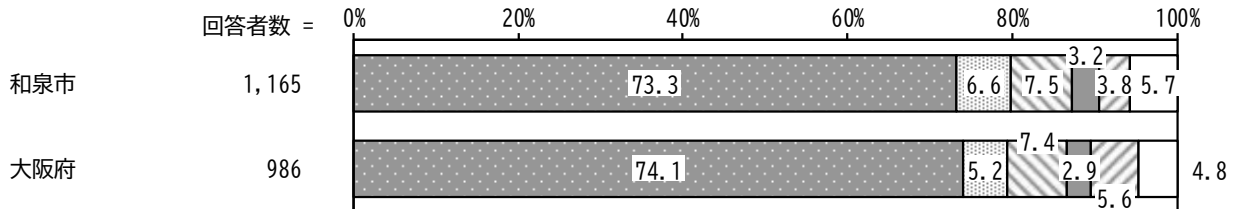


(3) 育児

①平日 (〇は1つ)

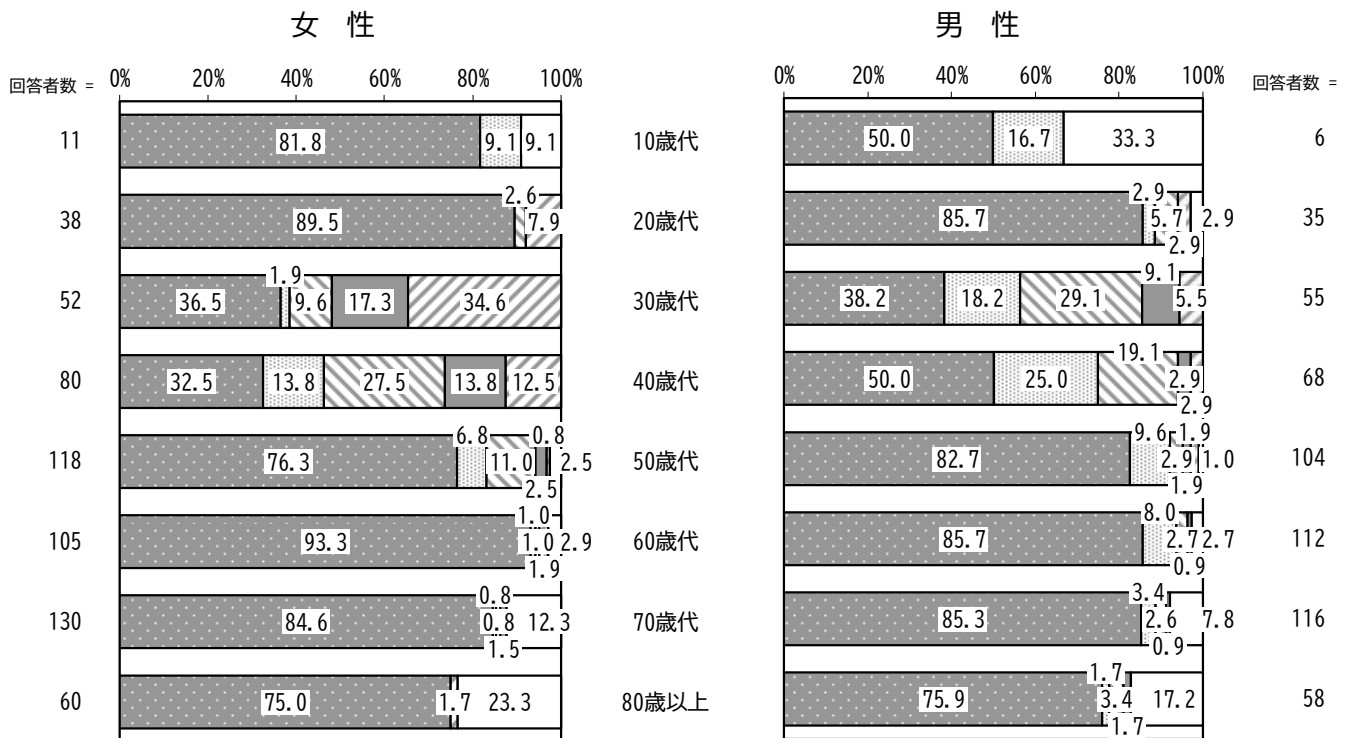
「なし」の割合が73.3%と最も高くなっています。
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ なし □ 1時間未満 ▨ 1時間～3時間未満 ■ 3時間～5時間未満 ▩ 5時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

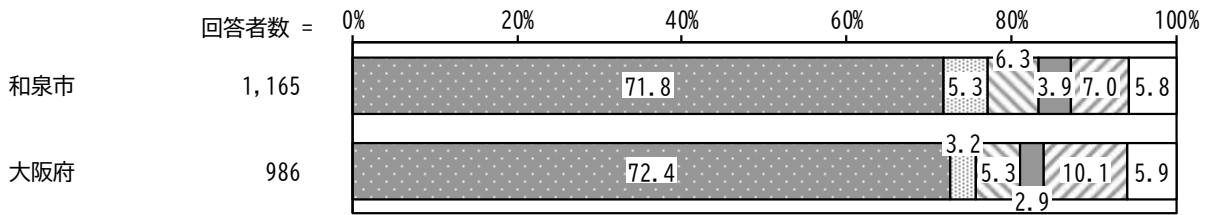
性・年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、女性では「1時間未満」「1時間～3時間未満」の割合が高く、男性では「1時間未満」の割合が高くなっています。また、女性60歳代で「なし」の割合が高くなっています。



②休日（〇は1つ）

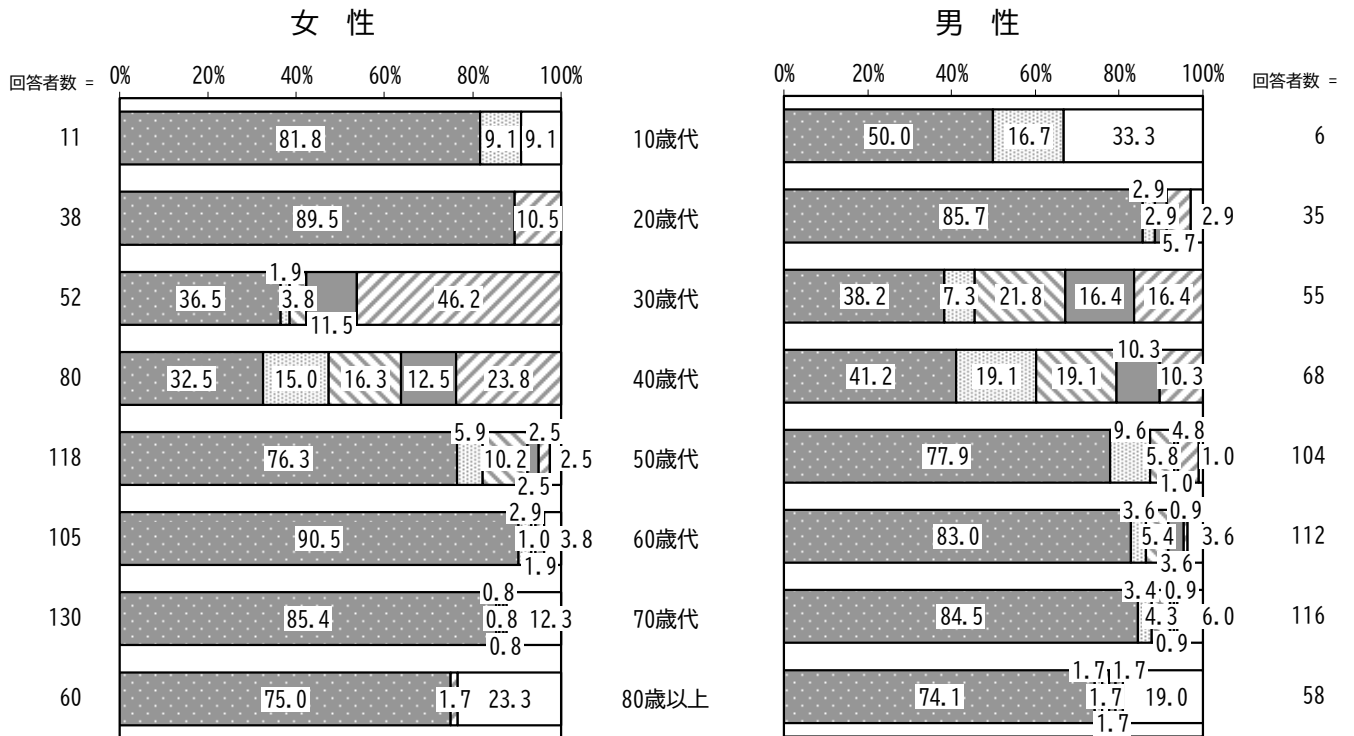
「なし」の割合が71.8%と最も高くなっています。
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ なし □ 1時間未満 ▨ 1時間～3時間未満 ■ 3時間～5時間未満 ▩ 5時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「1時間未満」「1時間～3時間未満」の割合が高い傾向にあり、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「1時間～3時間未満」の割合が高くなっています。また、女性20歳代、女性60歳代で「なし」の割合が高くなっています。

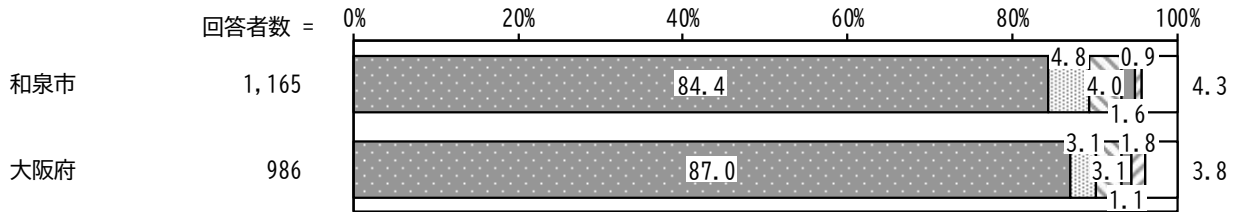


(4) 介護

①平日 (〇は1つ)

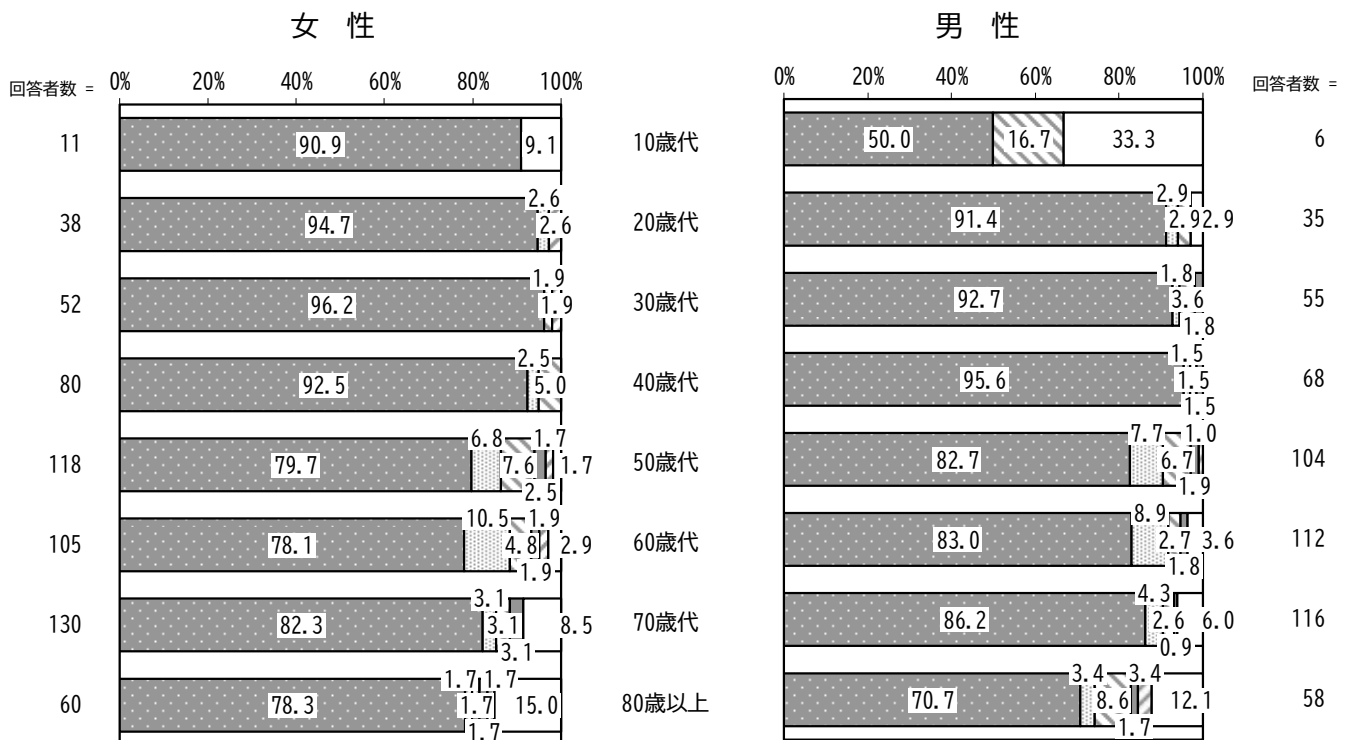
「なし」の割合が84.4%と最も高くなっています。
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ なし □ 1時間未満 ▨ 1時間～3時間未満 ■ 3時間～5時間未満 ▩ 5時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

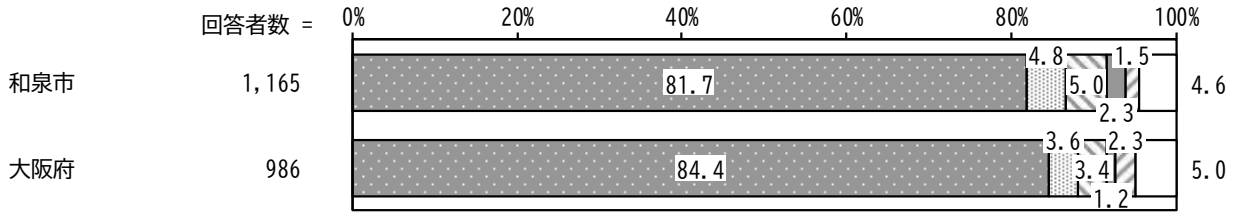
性・年代別にみると、女性20歳代、女性30歳代、男性40歳代で「なし」、女性60歳代で「1時間未満」の割合が高くなっています。



②休日（〇は1つ）

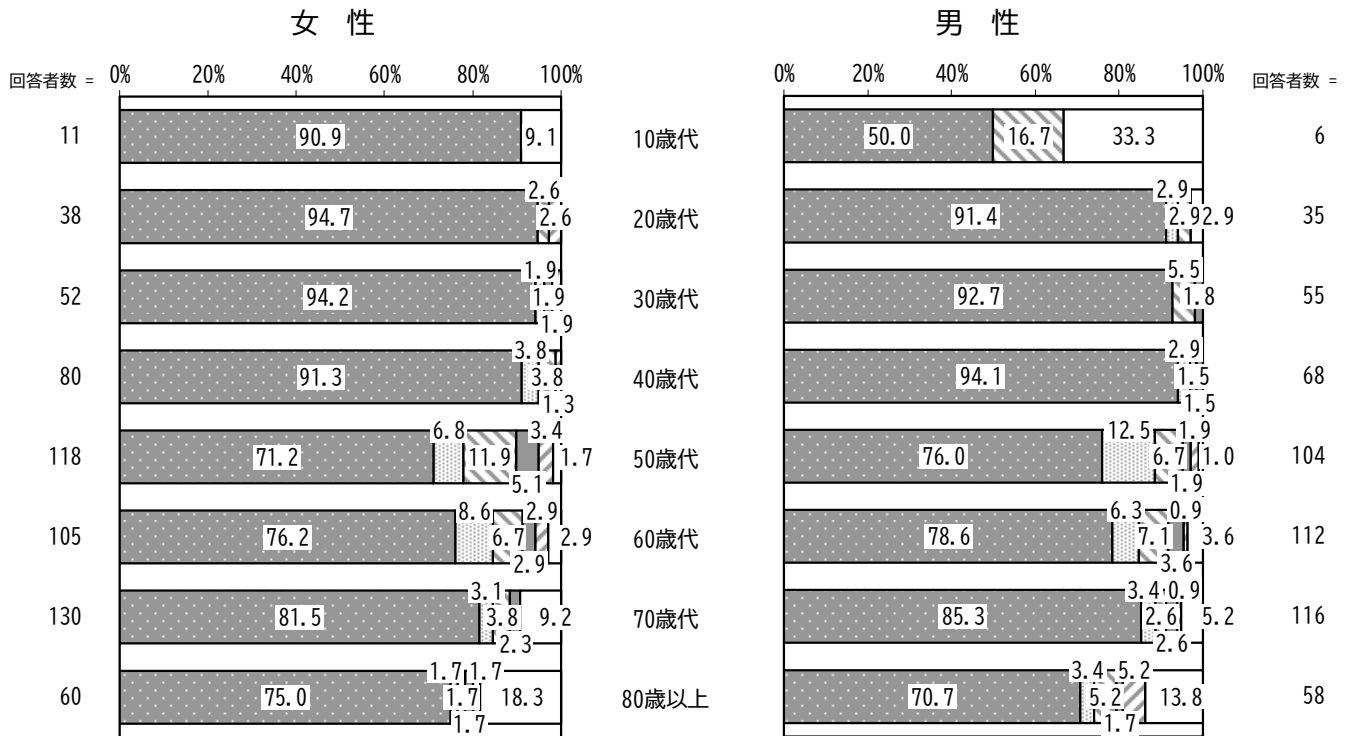
「なし」の割合が81.7%と最も高くなっています。
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ なし □ 1時間未満 ▨ 1時間～3時間未満 ■ 3時間～5時間未満 ▩ 5時間以上 □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「1時間～3時間未満」の割合が高い傾向にあります。また、男性30歳代、男性40歳代で「なし」の割合が高くなっています。



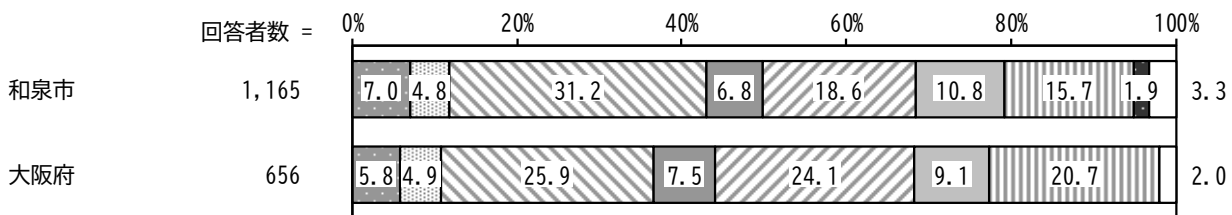
問 17 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

(1) 希望として (○は1つ)

「個人の生活」を優先したいの割合が31.2%と最も高く、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が18.6%、「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたいの割合が15.7%となっています。

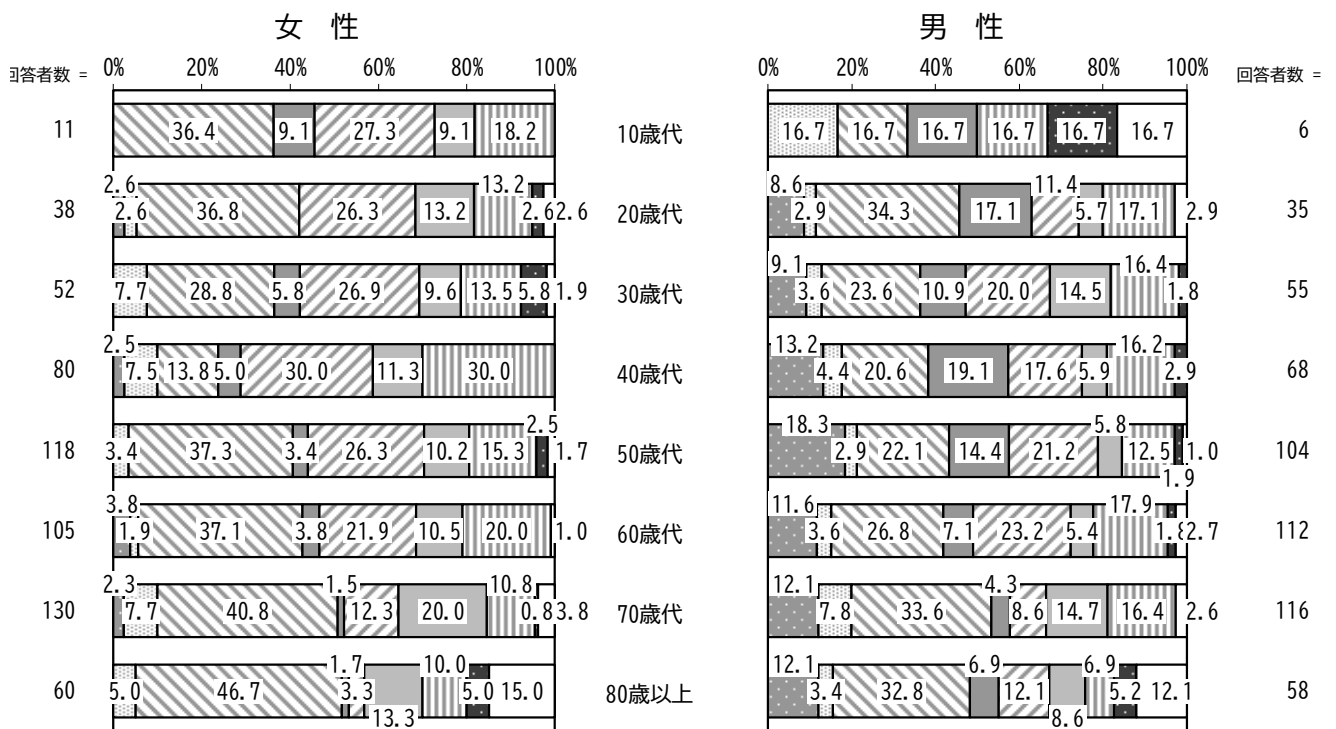
大阪府と比較すると、「個人の生活」を優先したいの割合が高くなっています。一方、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が低くなっています。

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭や地域活動」を優先したい
- 「個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい
- その他



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、男性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が高い傾向にあります。また、女性80歳以上で「個人の生活」を優先したい、女性40歳代で「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたいの割合が高くなっています。

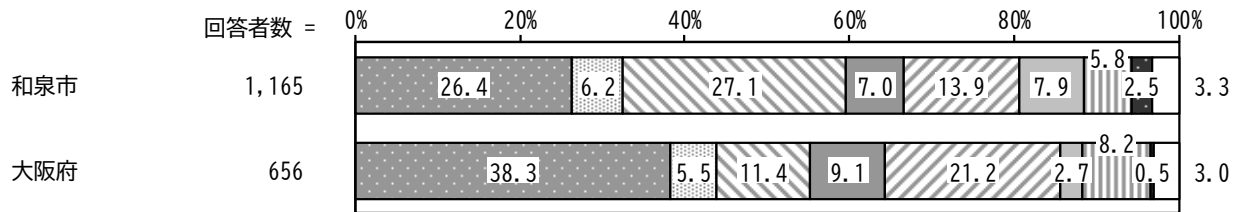


(2) 現実（現状）として（〇は1つ）

「個人の生活」を優先している」の割合が27.1%と最も高く、次いで「仕事」を優先している」の割合が26.4%、「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」の割合が13.9%となっています。

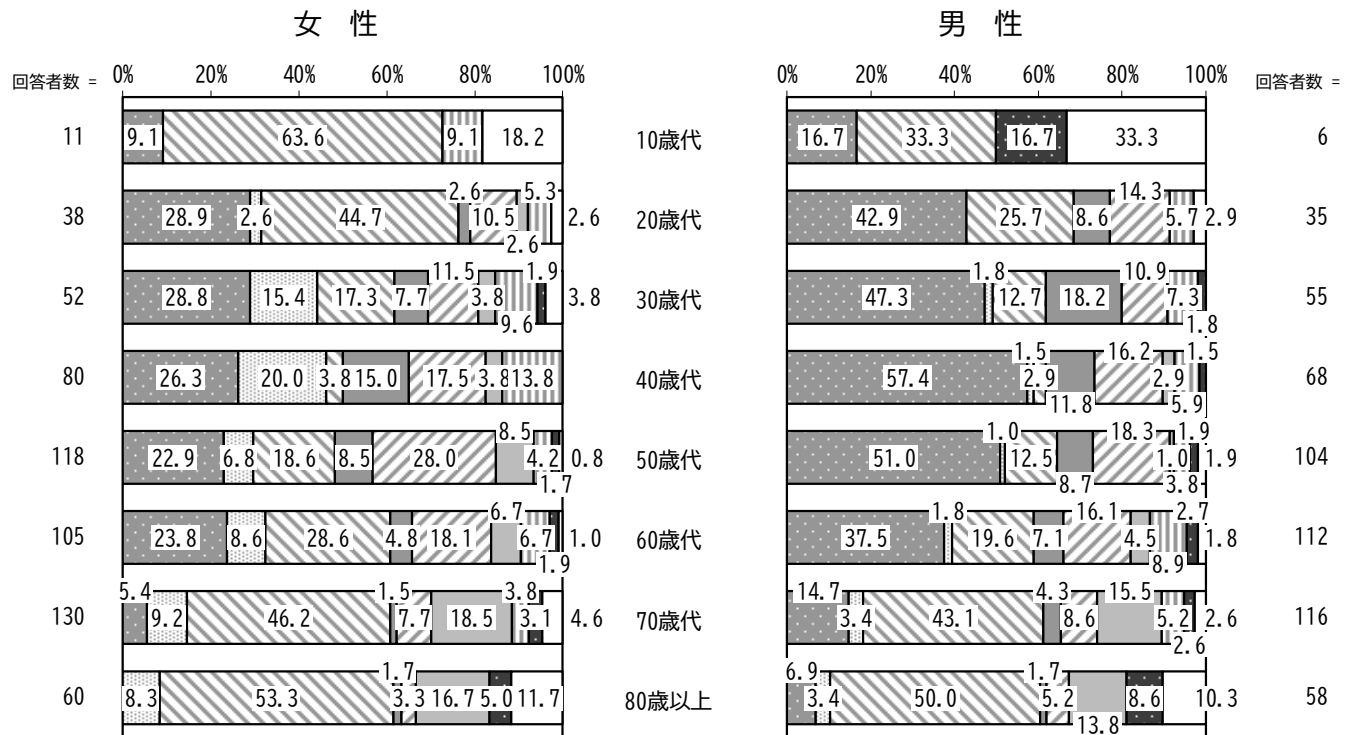
大阪府と比較すると、「個人の生活」を優先している」「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。一方、「仕事」を優先している」「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」の割合が低くなっています。

- 「仕事」を優先している
- 「個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしている
- 無回答
- 「家庭や地域活動」を優先している
- 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している
- 「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先している
- その他



【性・年代別】

性・年代別にみると、80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど、女性では「仕事」を優先している」の割合が高い傾向にあり、男性では「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している」の割合が高くなっています。また、女性50歳代で「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。

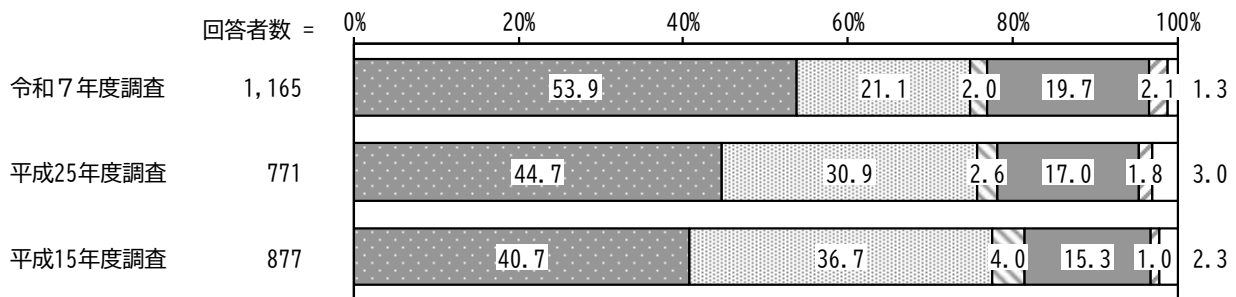


問 18 あなたに介護が必要になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(○は1つ)

「介護保険を利用して、病院や老人ホームなどの施設で介護してほしい」の割合が53.9%、「介護保険を利用して、ホームヘルパーのサービスを受けながら、家族や身内の人に介護してほしい」の割合が21.1%、「介護保険を利用せず、家族や身内の人に介護してほしい」の割合が2.0%となっています。

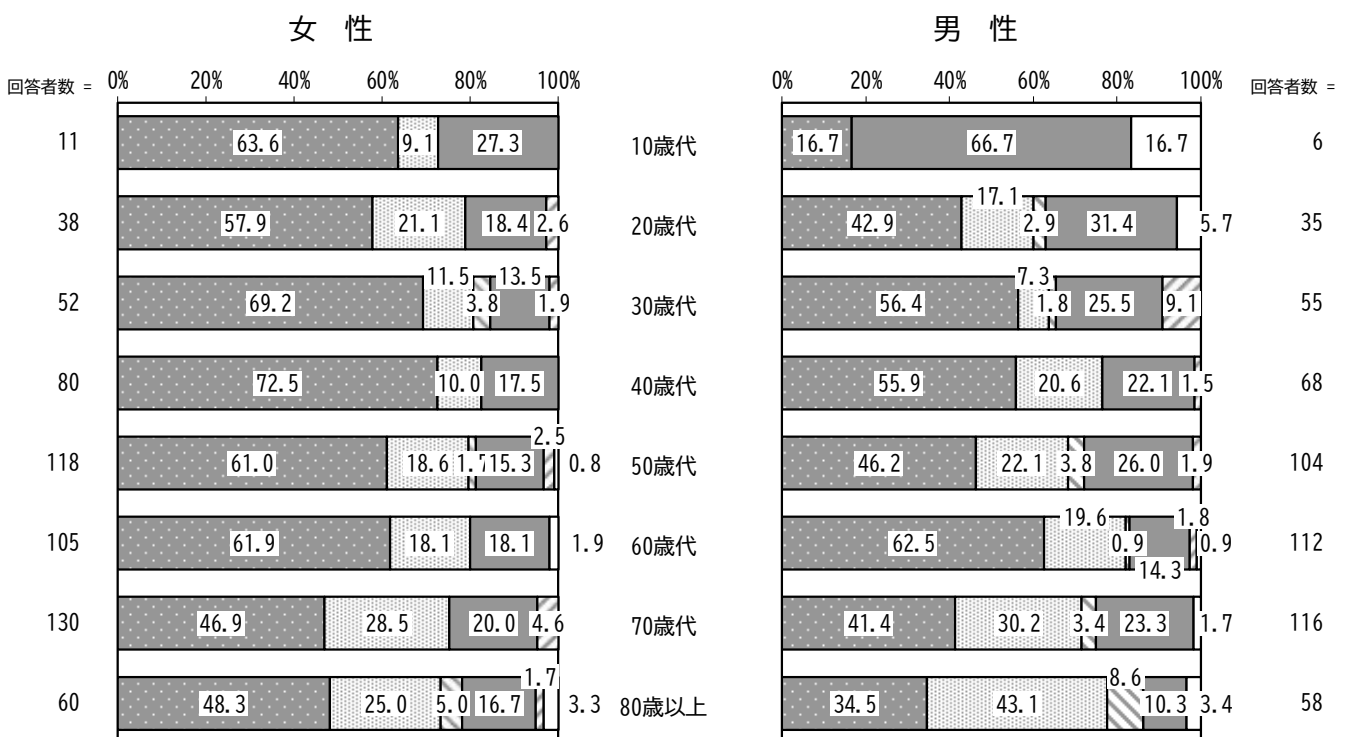
過去調査と比較すると、平成15年度調査から「介護保険を利用して、病院や老人ホームなどの施設で介護してほしい」の割合が増加しています。一方、「介護保険を利用して、ホームヘルパーのサービスを受けながら、家族や身内の人に介護してほしい」の割合が減少しています。

- 介護保険を利用して、病院や老人ホームなどの施設で介護してほしい
- ▨ 介護保険を利用して、ホームヘルパーのサービスを受けながら、家族や身内の人に介護してほしい
- ▩ 介護保険を利用せず、家族や身内の人に介護してほしい
- わからない
- ▨ その他
- 無回答



【性・年代別】

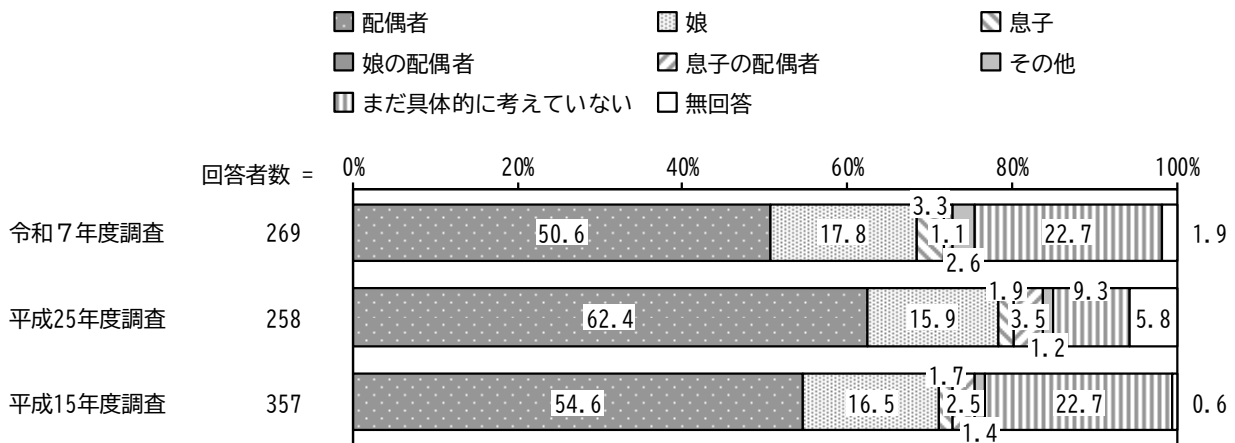
性・年代別にみると、男性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「介護保険を利用して、ホームヘルパーのサービスを受けながら、家族や身内の人に介護してほしい」の割合が高い傾向にあります。また、女性40歳代で「介護保険を利用して、病院や老人ホームなどの施設で介護してほしい」の割合が高くなっています。



問 18-1 問 18 で「介護保険を利用して、ホームヘルパーのサービスを受けながら、家族や身内の人に介護してほしい」「介護保険を利用せず、家族や身内の人に介護してほしい」と回答された方にお聞きします。
 その場合、あなたは主に家族の誰に介護してほしいと思いますか。(○は1つ)

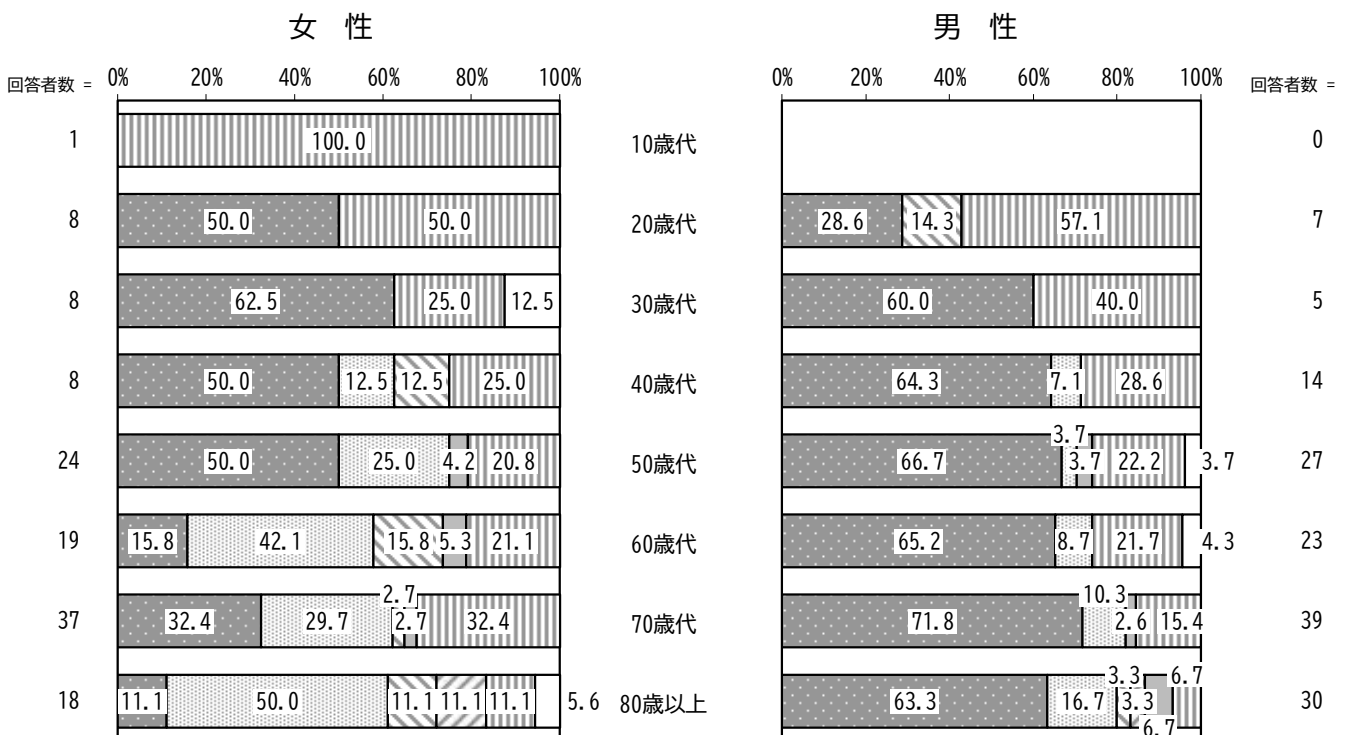
「配偶者」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「まだ具体的に考えていない」の割合が 22.7%、「娘」の割合が 17.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成 25 年度調査から「まだ具体的に考えていない」の割合が増加しています。一方、「配偶者」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では 20 歳代から 60 歳代まで年代が上がるほど「娘」の割合が高い傾向にあり、男性では 80 歳以上から 20 歳代まで年代が下がるほど「まだ具体的に考えていない」の割合が高くなっています。また、男性 70 歳代で「配偶者」の割合が高くなっています。



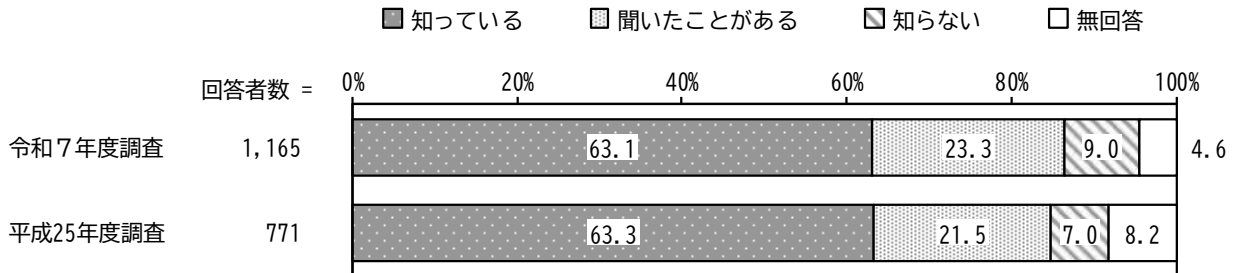
問 19 あなたは次の制度の内容についてご存知ですか。また実際に取得したことがありますか。(①、②について、A、Bそれぞれ○は1つ)

A 内容を知っているか

①育児休業制度

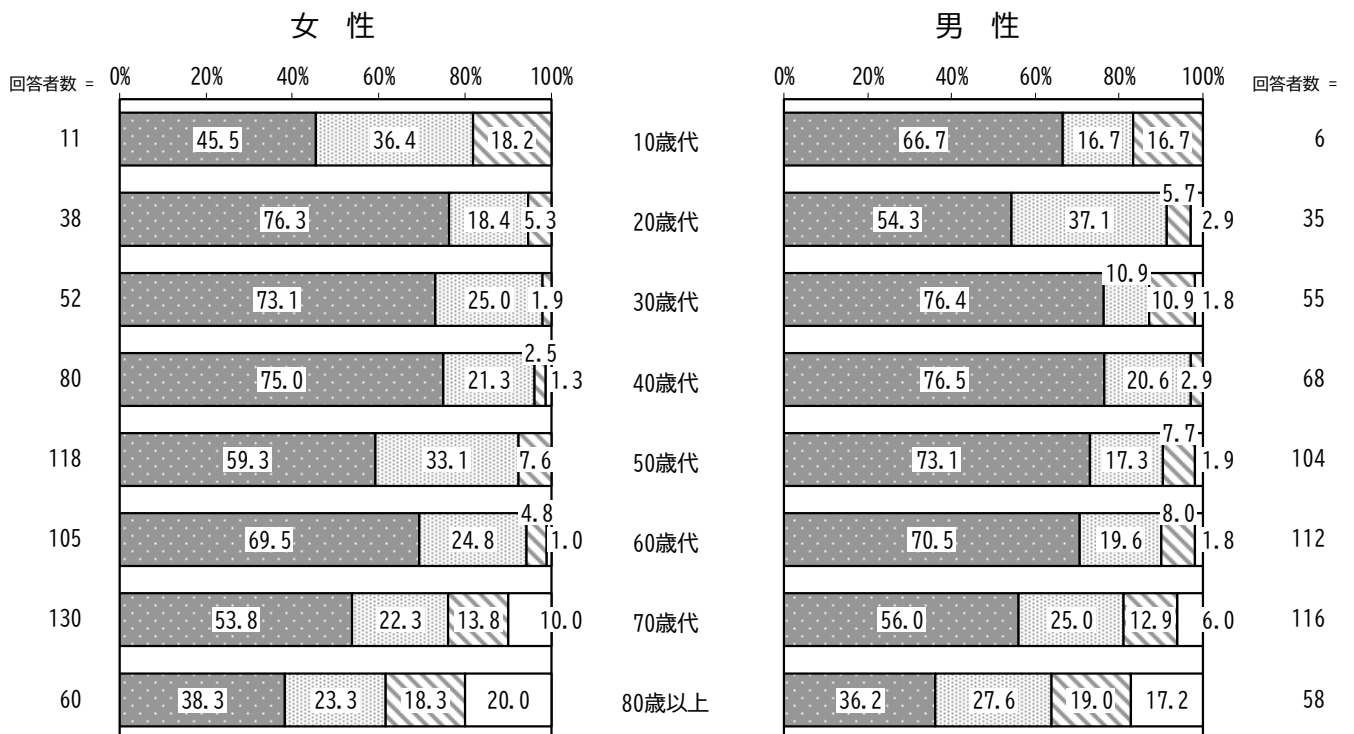
「知っている」の割合が63.1%、「聞いたことがある」の割合が23.3%、「知らない」の割合が9.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年代別】

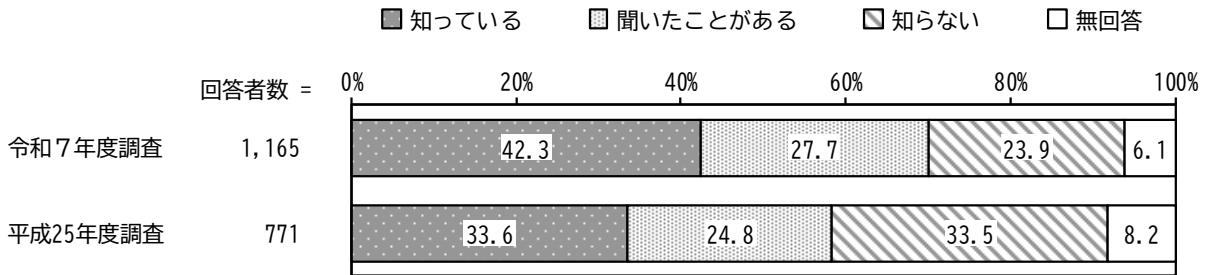
性・年代別にみると、女性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「知らない」の割合が高い傾向にあり、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「知らない」の割合が高く、「知っている」の割合が低くなっています。また、男性20歳代で「聞いたことがある」の割合が高くなっています。



②介護休業制度

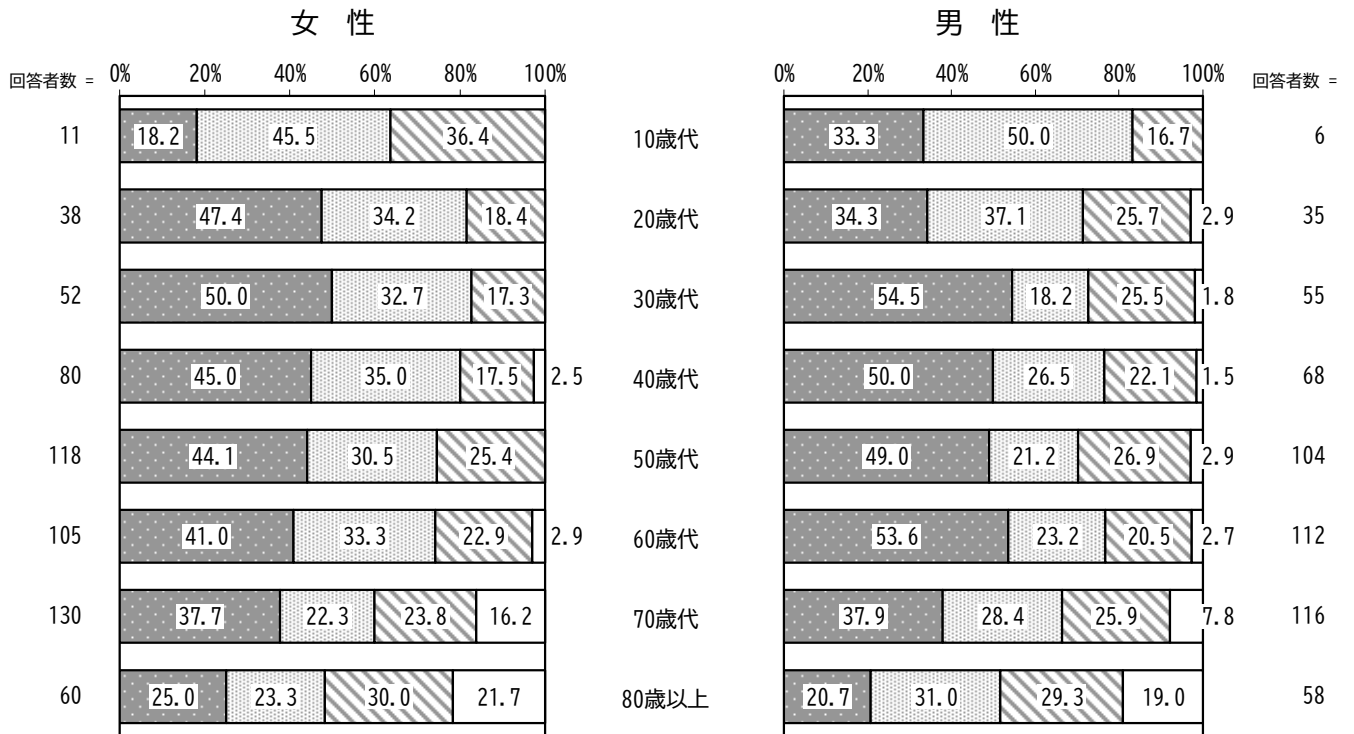
「知っている」の割合が42.3%、「聞いたことがある」の割合が27.7%、「知らない」の割合が23.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「知っている」の割合が高くなっています。

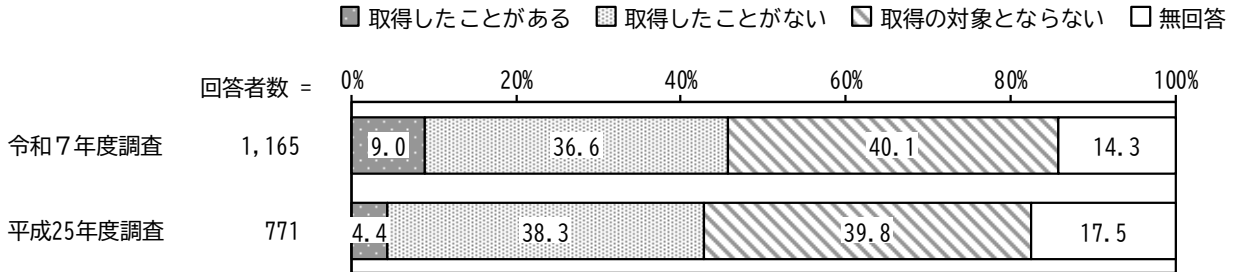


B 取得したことがある

①育児休業制度

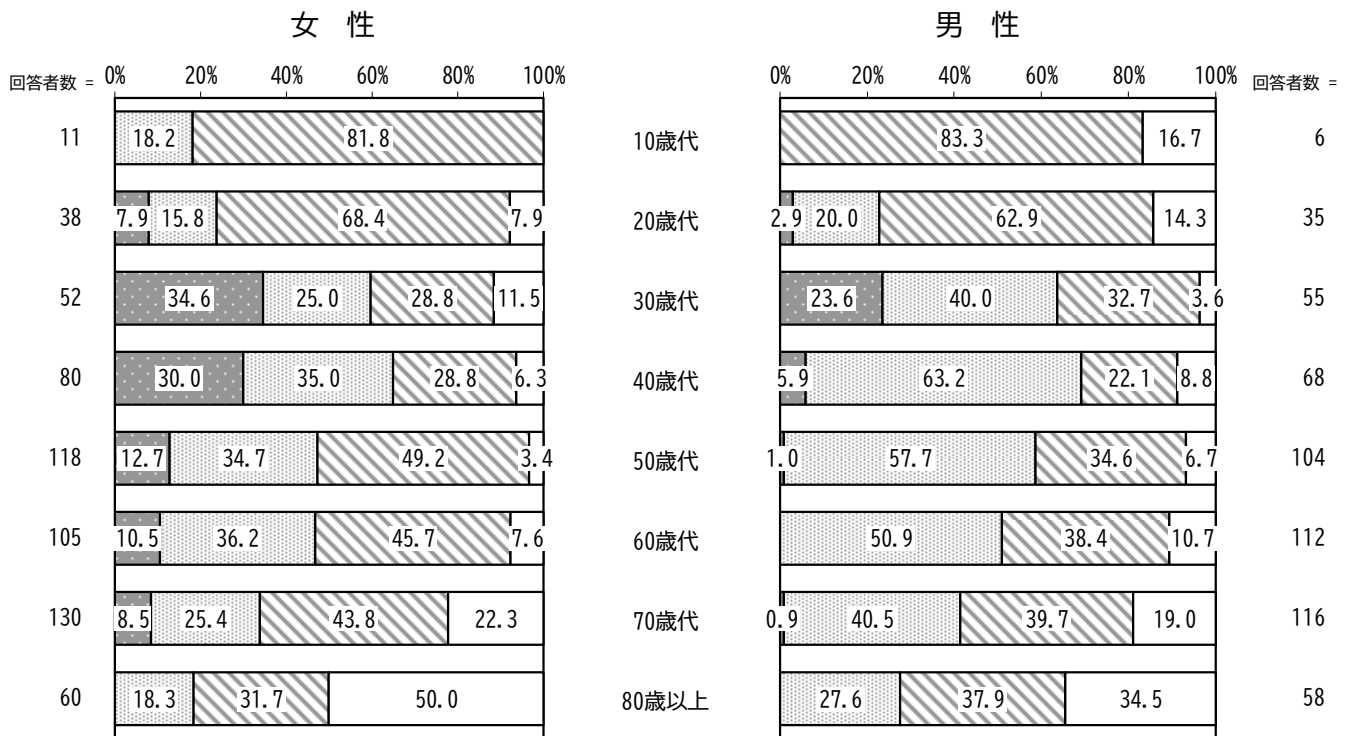
「取得したことがある」の割合が9.0%、「取得したことがない」の割合が36.6%、「取得の対象とならない」の割合が40.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年代別】

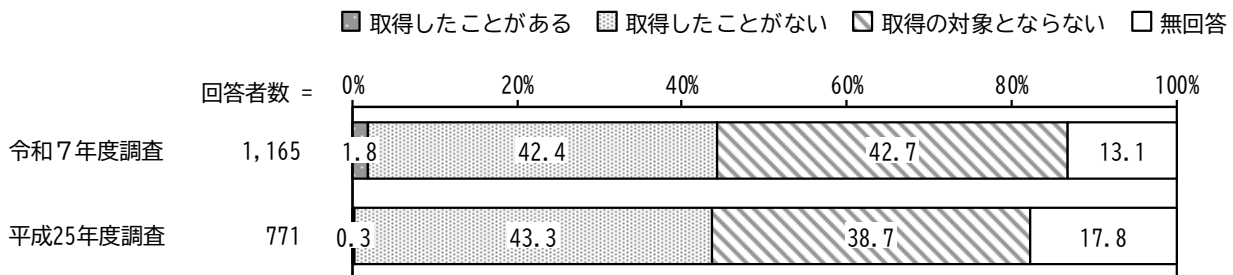
性・年代別にみると、女性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「取得したことがある」の割合が高く、男性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「取得したことがない」の割合が高くなっています。



②介護休業制度

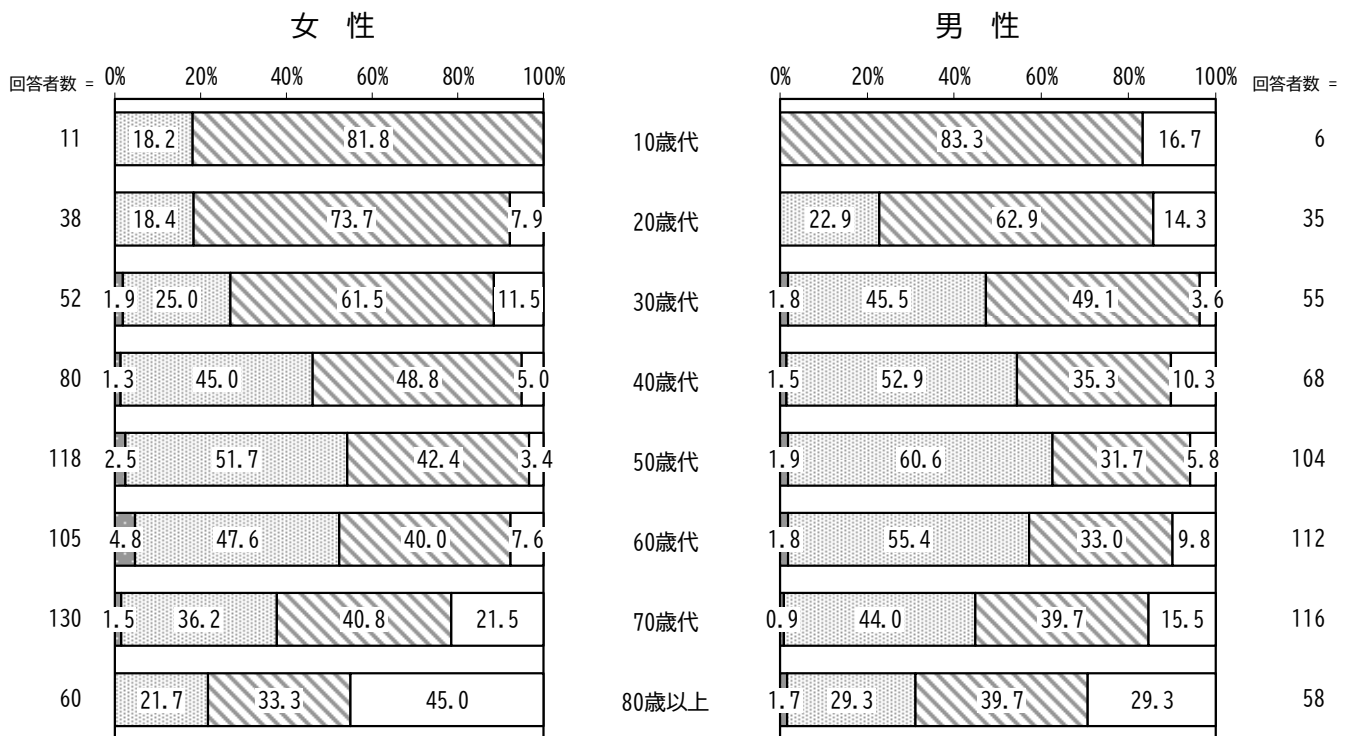
「取得したことがある」の割合が1.8%、「取得したことがない」の割合が42.4%、「取得の対象とならない」の割合が42.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年代別】

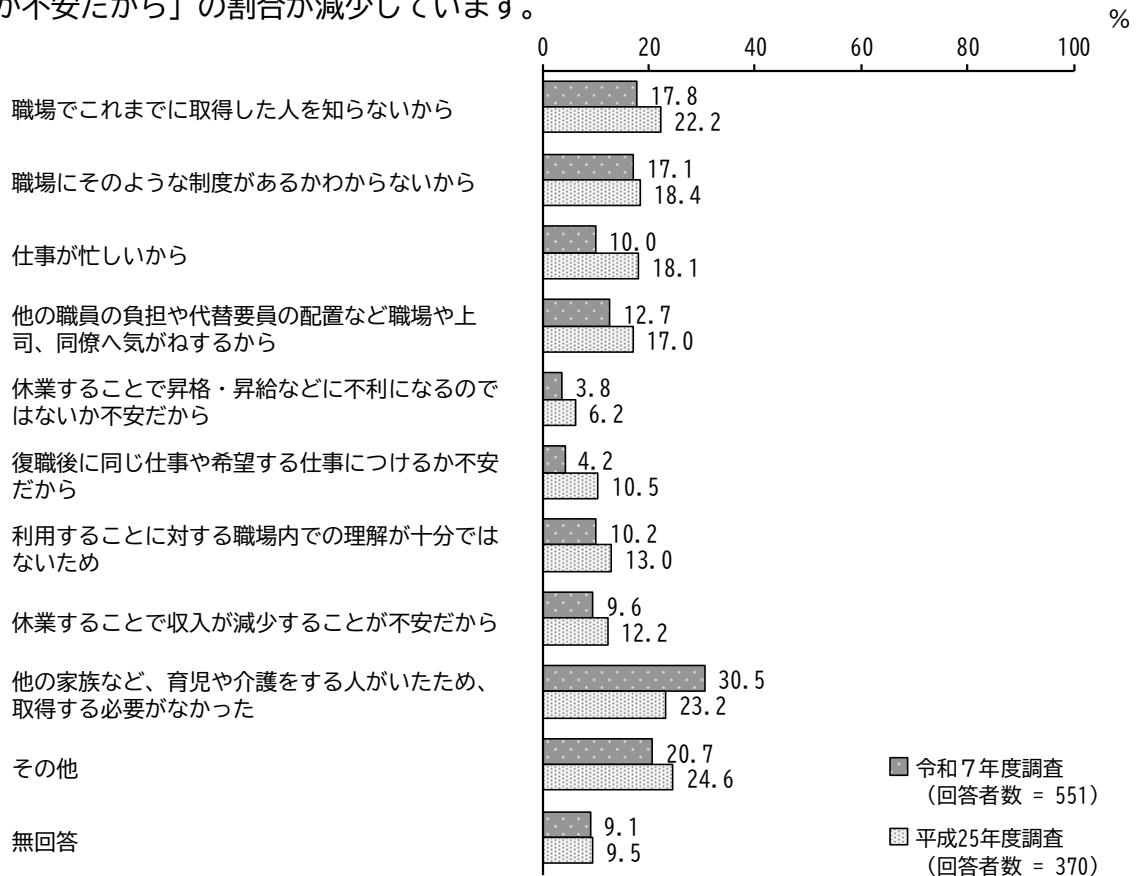
性・年代別にみると、女性では年代が下がるほど「取得の対象とならない」の割合が高い傾向にあり、男性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「取得したことがない」の割合が高く、「取得の対象とならない」の割合が低くなっています。



問 19-1 問 19 の B で「取得したことがない」と回答された方にお聞きします。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「他の家族など、育児や介護をする人がいたため、取得する必要がなかった」の割合が 30.5%と最も高く、次いで「職場でこれまでに取得した人を知らないから」の割合が 17.8%、「職場にそのような制度があるかわからないから」の割合が 17.1%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「他の家族など、育児や介護をする人がいたため、取得する必要がなかった」の割合が増加しています。一方、「仕事が忙しいから」「復職後に同じ仕事や希望する仕事につけるか不安だから」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では70歳代から20歳代まで年代が下がるほど「他の家族など、育児や介護をする人がいたため、取得する必要がなかった」の割合が高く、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「休業することで収入が減少することが不安だから」の割合が高くなっています。また、男性50歳代で「仕事が忙しいから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	職場でこれまでに取得した人を知らないから	職場にそのような制度があるかわからないから	仕事が忙しいから	他の職員配置など職場や上司、同僚へ気がねするから	他の職員の負担や代替要員の配置など職場や上司、同僚へ気がねするから	休業することによる昇格・昇給などに不利になるのではないかな不安だから	復職後に同じ仕事や希望する仕事につけるか不安だから	場内での理解が十分ではないため	利用することに対する職場内での理解が十分ではないため	休業することで収入が減少することが不安だから	休業することによる収入が減少することが不安だから	他の家族など、育児や介護をする人がいたため、取得する必要がなかった	その他	無回答
全 体	551	17.8	17.1	10.0	12.7	3.8	4.2	10.2	9.6	30.5	20.7	9.1			
女性 10歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0			
20歳代	8	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	25.0	12.5	62.5	12.5	12.5			
30歳代	20	15.0	15.0	5.0	20.0	10.0	5.0	20.0	15.0	50.0	20.0	10.0			
40歳代	42	16.7	14.3	0.0	4.8	2.4	0.0	2.4	4.8	31.0	16.7	21.4			
50歳代	65	21.5	23.1	10.8	12.3	1.5	3.1	4.6	9.2	24.6	23.1	7.7			
60歳代	52	17.3	23.1	7.7	15.4	0.0	5.8	9.6	9.6	21.2	21.2	9.6			
70歳代	50	18.0	16.0	2.0	8.0	2.0	2.0	8.0	4.0	16.0	38.0	18.0			
80歳以上	14	14.3	21.4	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	14.3	21.4	42.9	7.1			
男性 10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
20歳代	9	33.3	44.4	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	44.4	0.0	0.0			
30歳代	30	23.3	6.7	3.3	20.0	6.7	6.7	16.7	20.0	23.3	16.7	3.3			
40歳代	47	14.9	14.9	14.9	17.0	14.9	6.4	19.1	14.9	42.6	8.5	8.5			
50歳代	72	19.4	15.3	25.0	20.8	4.2	2.8	9.7	12.5	27.8	11.1	8.3			
60歳代	65	20.0	10.8	15.4	12.3	3.1	6.2	12.3	7.7	35.4	27.7	1.5			
70歳代	53	11.3	20.8	3.8	9.4	0.0	0.0	7.5	7.5	43.4	17.0	5.7			
80歳以上	19	10.5	15.8	15.8	5.3	5.3	5.3	10.5	0.0	21.1	21.1	15.8			

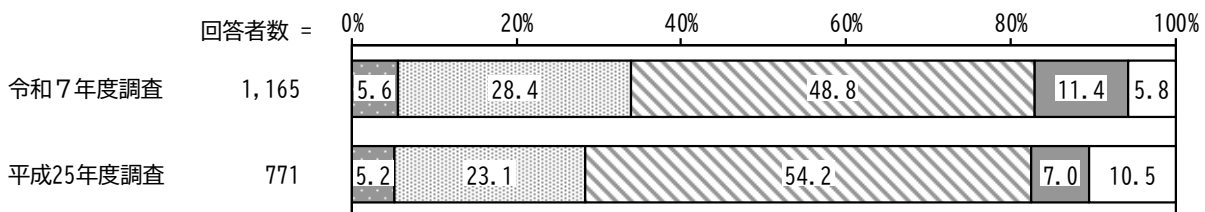
問 20 「職場での仕事」と「生活（趣味や家庭での時間など）」の調和を図る“ワーク・ライフ・バランス”という考え方があります。日々の暮らしの中での時間の使い方について、あなたの「希望」と「現実」をお答えください。
 (①、②のそれぞれについて1つに○)

①希望

「どちらかという仕事を優先」の割合が5.6%、「どちらかという生活（趣味や家庭での時間など）を優先」の割合が28.4%、「仕事と生活をバランスよく」の割合が48.8%となっています。

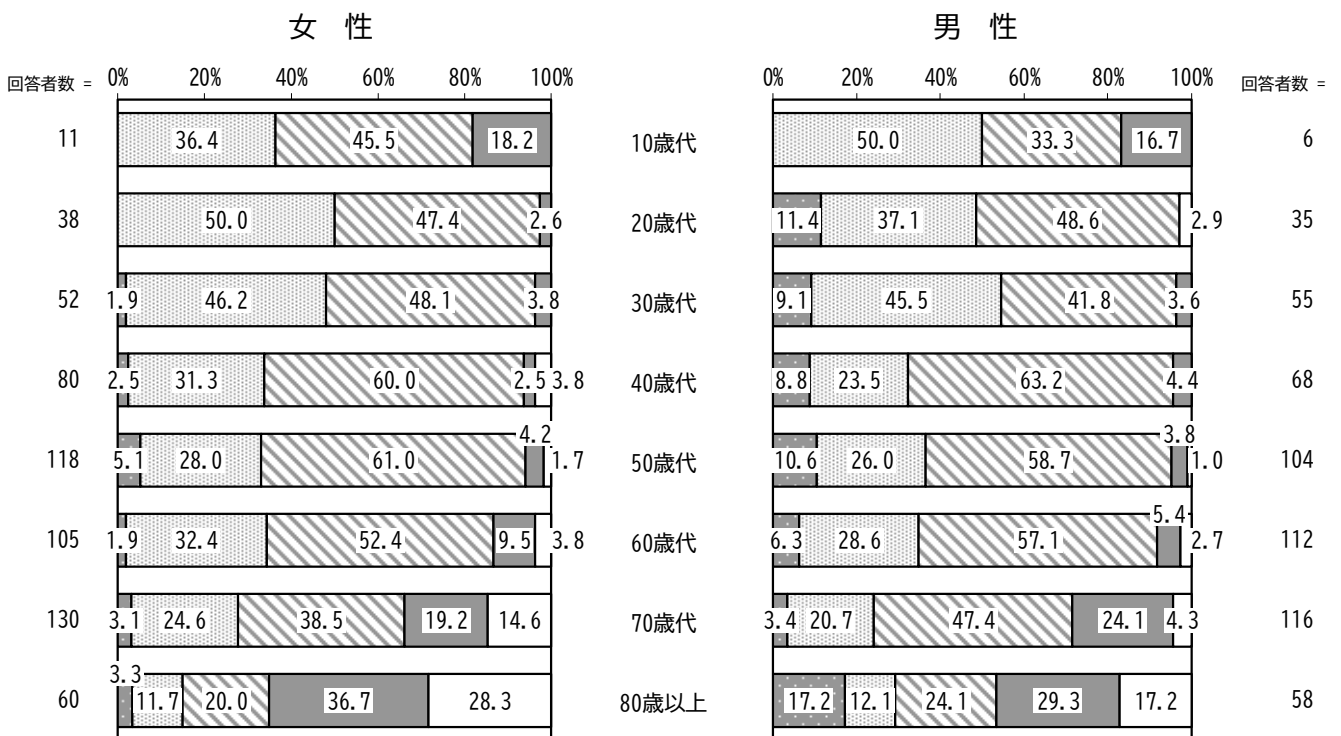
平成25年度調査と比較すると、「どちらかという生活（趣味や家庭での時間など）を優先」の割合が増加しています。一方、「仕事と生活をバランスよく」の割合が減少しています。

- どちらかという仕事を優先
- どちらかという生活（趣味や家庭での時間など）を優先
- 仕事と生活をバランスよく
- わからない
- 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど、男性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「仕事と生活をバランスよく」の割合が高くなっています。また、女性20歳代で「どちらかという生活（趣味や家庭での時間など）を優先」の割合が高くなっています。

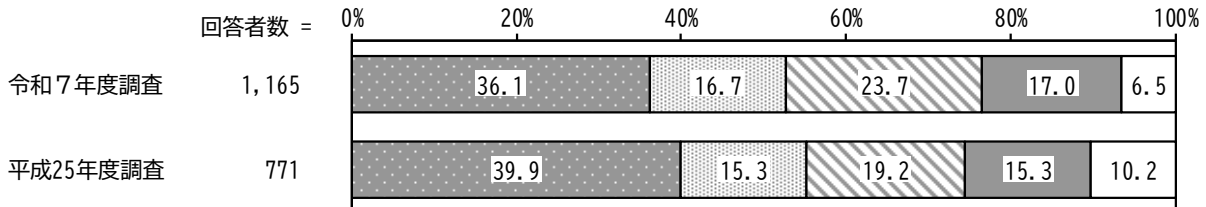


②現実

「どちらかという仕事を優先」の割合が36.1%、「どちらかという生活（趣味や家庭での時間など）を優先」の割合が16.7%、「仕事と生活をバランスよく」の割合が23.7%となっています。

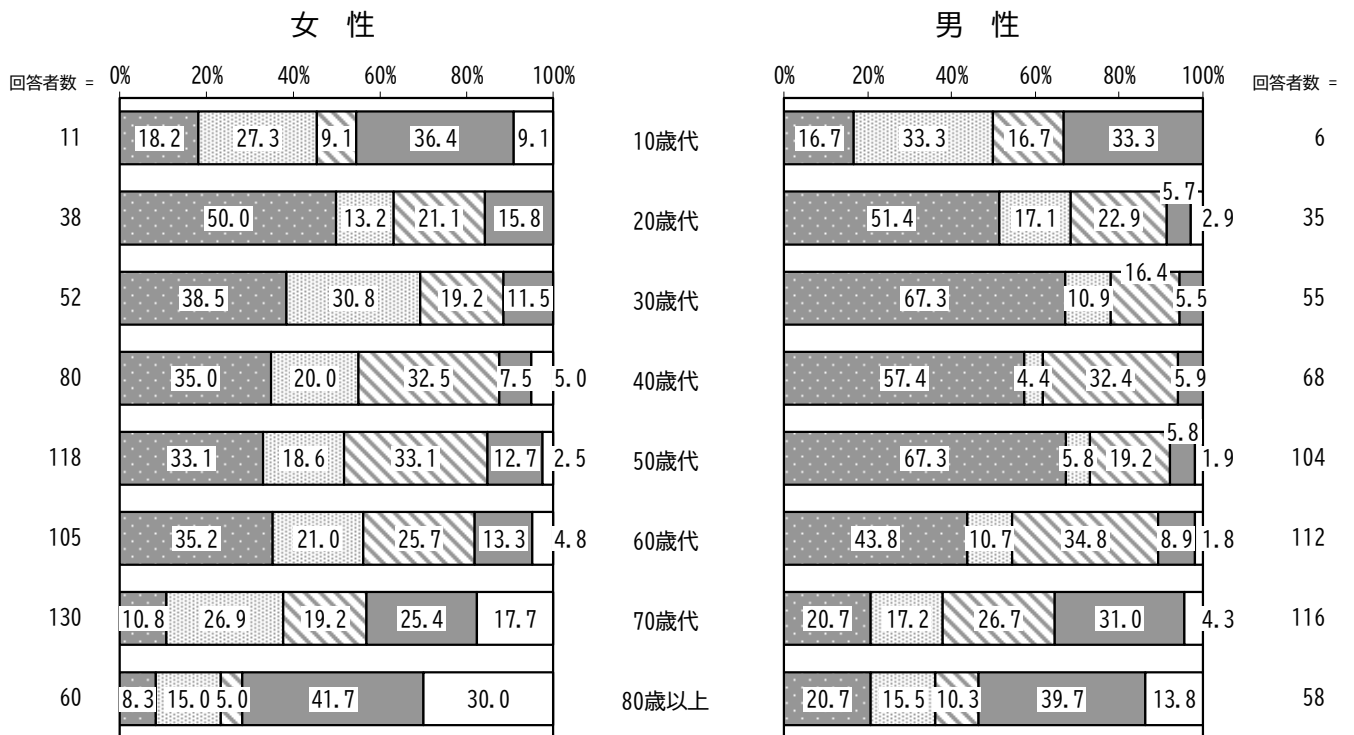
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

- どちらかという仕事を優先
- ▨ どちらかという生活（趣味や家庭での時間など）を優先
- ▩ 仕事と生活をバランスよく
- わからない
- 無回答



【性・年代別】

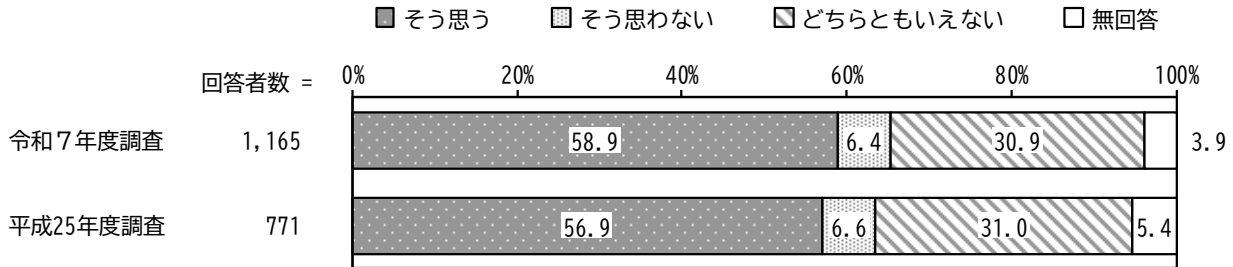
性・年代別にみると、女性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「どちらかという仕事を優先」の割合が高い傾向にあります。また、男性60歳代で「仕事と生活をバランスよく」の割合が高くなっています。



問 21 「男性はもっと家庭生活（家事や子育て、介護など）や地域活動に参加する必要がある」という考え方がありますが、あなたはごどう思いますか。（○は1つ）

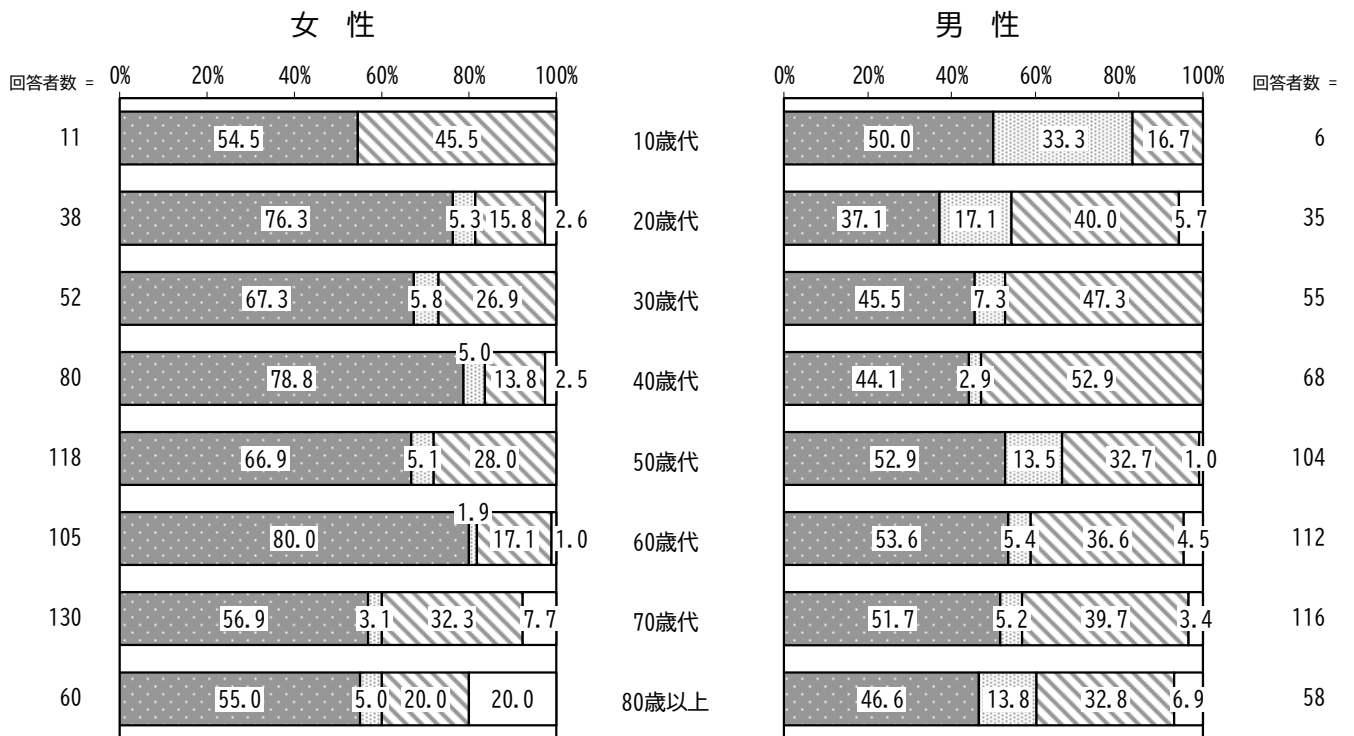
「そう思う」の割合が 58.9%、「そう思わない」の割合が 6.4%、「どちらともいえない」の割合が 30.9%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年代別】

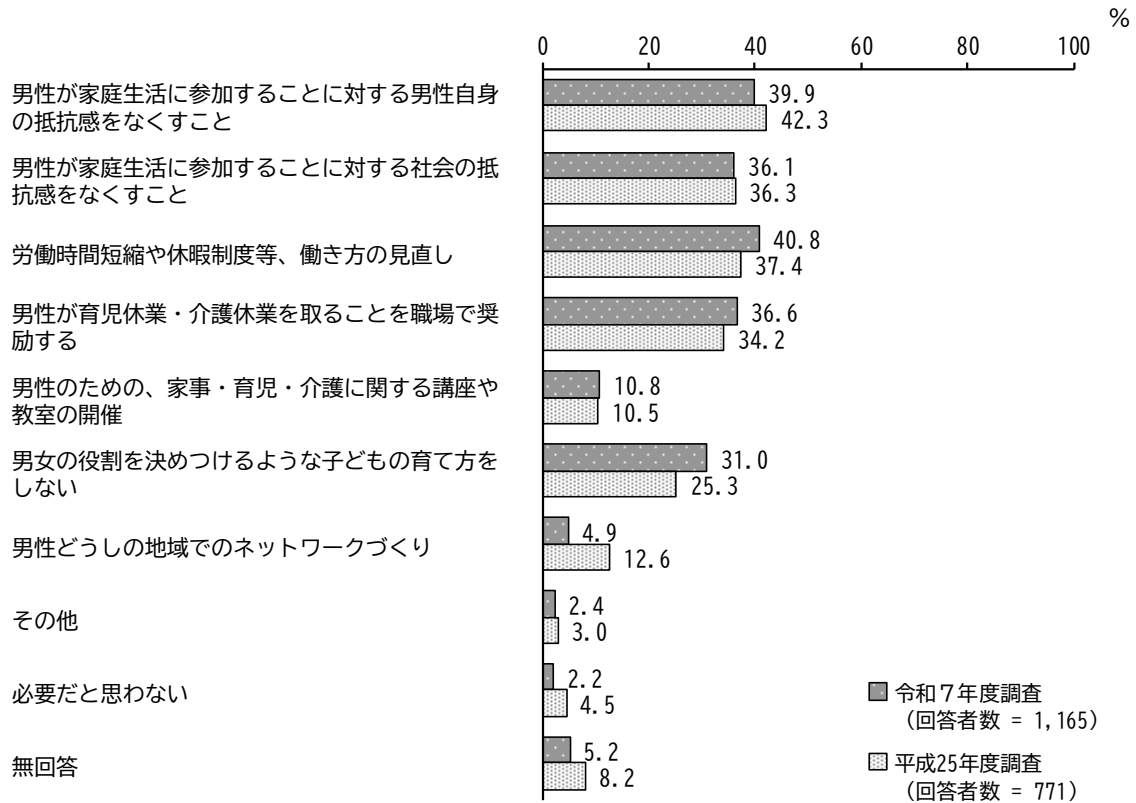
性・年代別にみると、男性では 20 歳代から 60 歳代まで年代が上がるほど「そう思う」の割合が高い傾向にあります。



問 22 男性の家庭生活（家事や子育て、介護など）への参加を進めるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。（○は3つまで）

「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」の割合が40.8%と最も高く、次いで「男性が家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が39.9%、「男性が育児休業・介護休業を取ることを職場で奨励する」の割合が36.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「男女の役割を決めつけるような子どもの育て方をしない」の割合が増加しています。一方、「男性どうしの地域でのネットワークづくり」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「男性どうしの地域でのネットワークづくり」の割合が高く、男性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し」の割合が高い傾向にあります。また、女性60歳代で「男性が家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、女性30歳代、女性40歳代、女性60歳代で「男性が家庭生活に参加することに対する社会の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性が家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家庭生活に参加することに対する社会の抵抗感をなくすこと	労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し	男性が育児休業・介護休業を取ることを職場で奨励する	男性が育児休業・介護休業に関する講座や教室の開催	男性のための、家事・育児・介護に関する講座や教室の開催	男女の役割を決めつけるような子どもの育て方をしない	男性どうしの地域でのネットワークづくり	その他	必要だと思わない	無回答
全体	1,165	39.9	36.1	40.8	36.6	10.8	31.0	4.9	2.4	2.2	5.2	
女性 10歳代	11	36.4	45.5	63.6	54.5	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
20歳代	38	47.4	42.1	55.3	42.1	10.5	23.7	5.3	0.0	2.6	0.0	
30歳代	52	30.8	48.1	38.5	36.5	11.5	36.5	11.5	3.8	0.0	7.7	
40歳代	80	35.0	47.5	53.8	32.5	6.3	35.0	1.3	1.3	2.5	1.3	
50歳代	118	40.7	44.9	38.1	32.2	4.2	39.0	2.5	4.2	1.7	0.8	
60歳代	105	58.1	47.6	38.1	49.5	10.5	33.3	4.8	2.9	0.0	1.0	
70歳代	130	48.5	30.0	26.2	33.1	14.6	39.2	6.2	0.0	1.5	11.5	
80歳以上	60	33.3	25.0	26.7	35.0	11.7	30.0	10.0	1.7	1.7	25.0	
男性 10歳代	6	33.3	83.3	33.3	50.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
20歳代	35	22.9	34.3	62.9	34.3	8.6	34.3	0.0	5.7	2.9	5.7	
30歳代	55	29.1	41.8	54.5	27.3	5.5	29.1	3.6	5.5	1.8	1.8	
40歳代	68	33.8	30.9	55.9	36.8	7.4	30.9	4.4	1.5	0.0	0.0	
50歳代	104	32.7	31.7	50.0	39.4	10.6	29.8	6.7	1.0	1.0	3.8	
60歳代	112	43.8	26.8	44.6	34.8	11.6	21.4	4.5	3.6	2.7	1.8	
70歳代	116	39.7	35.3	29.3	41.4	17.2	31.0	3.4	3.4	5.2	4.3	
80歳以上	58	41.4	22.4	27.6	29.3	15.5	12.1	8.6	0.0	8.6	8.6	

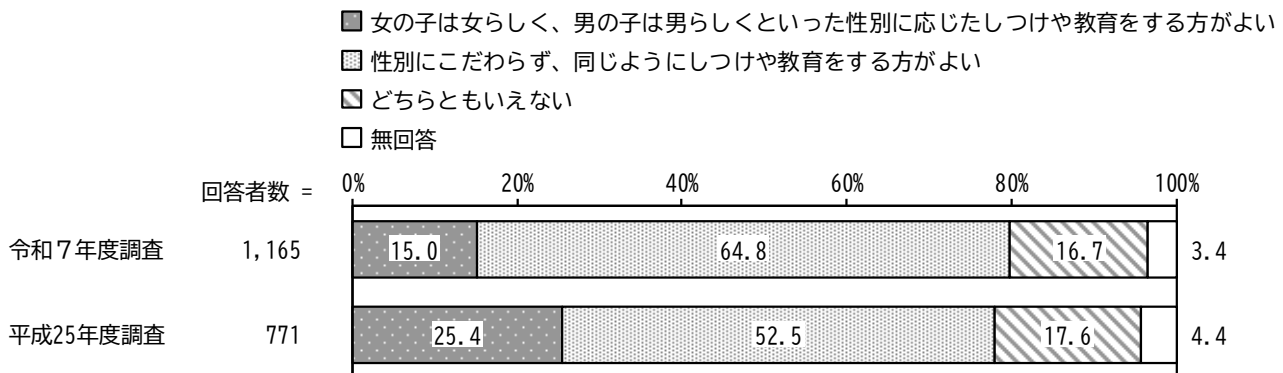
4 教育について

全員の方が問 23～問 27 をお答えください。

問 23 あなたは、女の子と男の子のしつけや教育についてどう思いますか。(○は1つ)

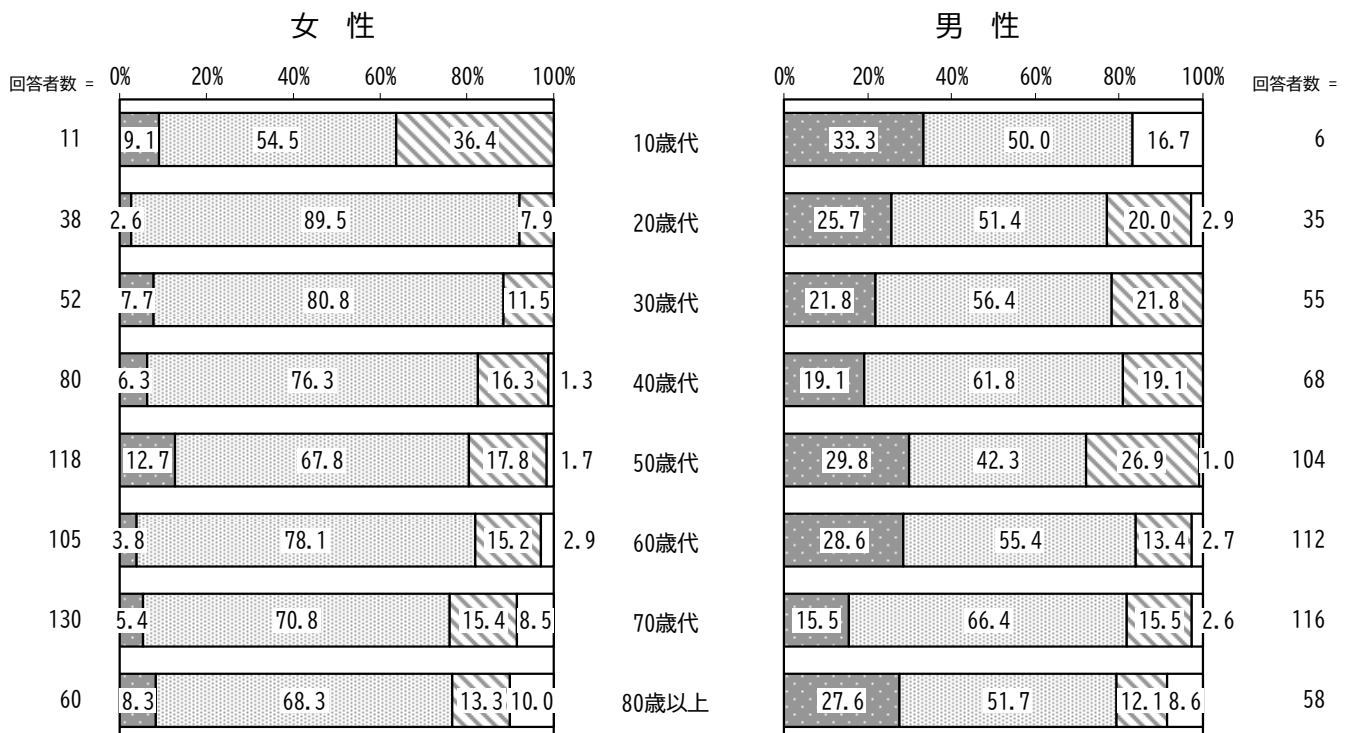
「女の子は女らしく、男の子は男らしくといった性別に応じたしつけや教育をする方がよい」の割合が 15.0%、「性別にこだわらず、同じようにしつけや教育をする方がよい」の割合が 64.8%、「どちらともいえない」の割合が 16.7%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「性別にこだわらず、同じようにしつけや教育をする方がよい」の割合が増加しています。一方、「女の子は女らしく、男の子は男らしくといった性別に応じたしつけや教育をする方がよい」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性 50 歳代、男性 60 歳代、男性 80 歳以上で「女の子は女らしく、男の子は男らしくといった性別に応じたしつけや教育をする方がよい」、女性 20 歳代で「性別にこだわらず、同じようにしつけや教育をする方がよい」、女性 10 歳代で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



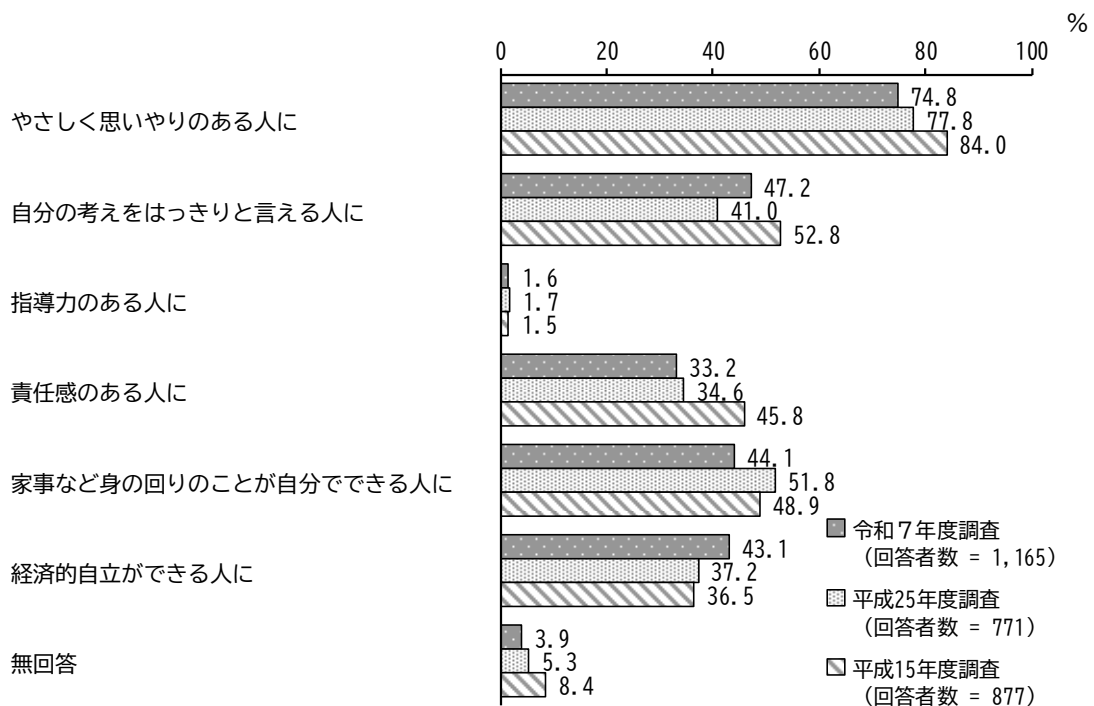
問 24 あなたは、女の子、男の子は、それぞれどのように育つのがふさわしいと思いますか。(①、②のそれぞれについて3つに○)

①女の子

「やさしく思いやりのある人に」の割合が74.8%と最も高く、次いで「自分の考えをはっきりと言える人に」の割合が47.2%、「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が44.1%となっています。

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「経済的自立ができる人に」の割合が増加しています。一方、「やさしく思いやりのある人に」「責任感のある人に」の割合が減少しています。

また、平成25年度調査から「自分の考えをはっきりと言える人に」の割合が増加しています。一方、「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、女性では「やさしく思いやりのある人に」の割合が高く、男性では「経済的自立ができる人に」の割合が高い傾向にあります。また、女性20歳代で「自分の考えをはっきりと言える人に」、女性50歳代、男性20歳代で「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が高くなっています。

単位：%

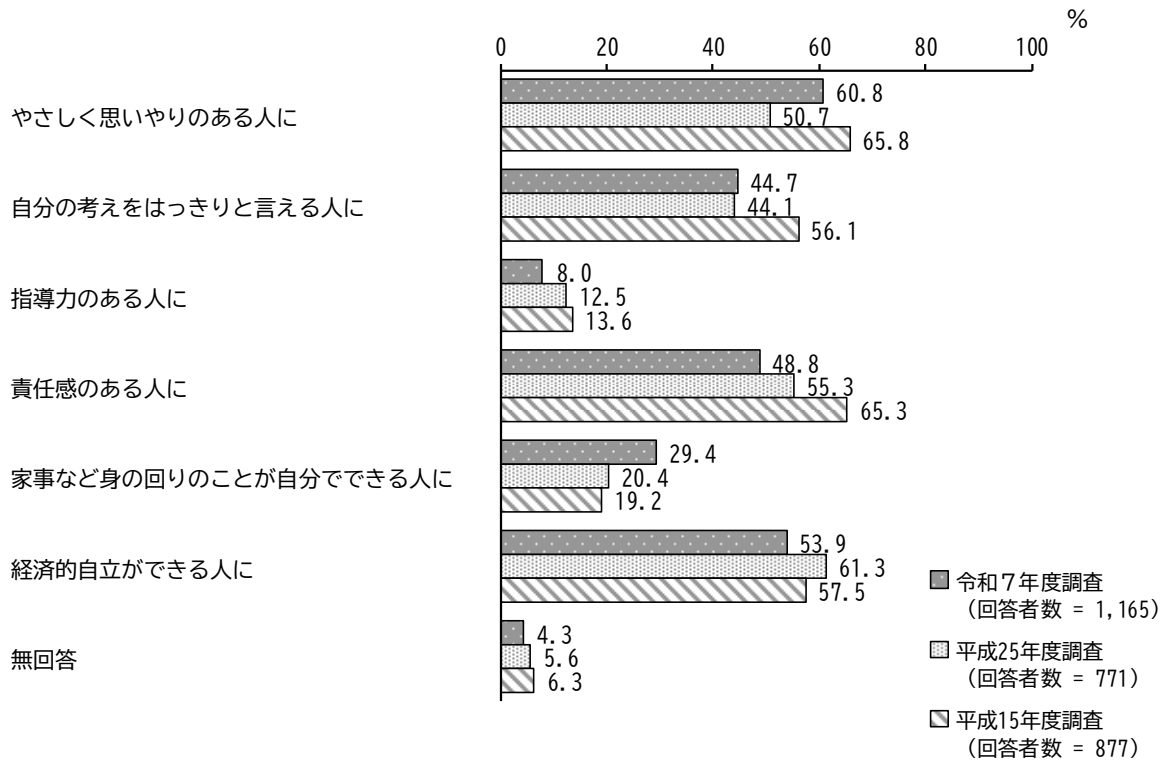
区分	回答者数 (件)	やさしく思いやり のある人に	自分の考えをはっ きりと言える人に	指導力のある人に	責任感のある人に	家事など身の回 りのことが自分で できる人に	経済的自立がで きる人に	無 回 答
全 体	1,165	74.8	47.2	1.6	33.2	44.1	43.1	3.9
女性 10歳代	11	54.5	45.5	9.1	54.5	18.2	63.6	0.0
20歳代	38	73.7	65.8	0.0	39.5	44.7	55.3	2.6
30歳代	52	73.1	51.9	1.9	32.7	48.1	50.0	3.8
40歳代	80	82.5	51.3	0.0	28.8	52.5	55.0	1.3
50歳代	118	78.0	39.0	0.8	32.2	54.2	56.8	0.8
60歳代	105	71.4	49.5	1.0	31.4	47.6	51.4	4.8
70歳代	130	66.9	51.5	0.8	33.1	49.2	42.3	4.6
80歳以上	60	60.0	41.7	0.0	30.0	40.0	43.3	15.0
男性 10歳代	6	83.3	33.3	0.0	0.0	83.3	33.3	0.0
20歳代	35	77.1	42.9	8.6	34.3	57.1	20.0	8.6
30歳代	55	89.1	56.4	3.6	30.9	41.8	36.4	0.0
40歳代	68	80.9	45.6	0.0	44.1	39.7	50.0	2.9
50歳代	104	78.8	37.5	1.9	35.6	47.1	37.5	1.9
60歳代	112	76.8	47.3	5.4	31.3	42.0	33.9	1.8
70歳代	116	72.4	52.6	0.0	37.1	30.2	36.2	3.4
80歳以上	58	77.6	39.7	1.7	31.0	29.3	24.1	5.2

②男子

「やさしく思いやりのある人に」の割合が60.8%と最も高く、次いで「経済的自立ができる人に」の割合が53.9%、「責任感のある人に」の割合が48.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が増加しています。一方、「指導力のある人に」「責任感のある人に」の割合が減少しています。

また、平成25年度調査から「やさしく思いやりのある人に」の割合が増加しています。一方、「経済的自立ができる人に」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が高く、男性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「責任感のある人に」「家事など身の回りのことが自分でできる人に」の割合が高い傾向にあります。また、女性20歳代で「やさしく思いやりのある人に」、男性70歳代で「自分の考えをはっきりと言える人に」、女性50歳代で「経済的自立ができる人に」の割合が高くなっています。

単位：％

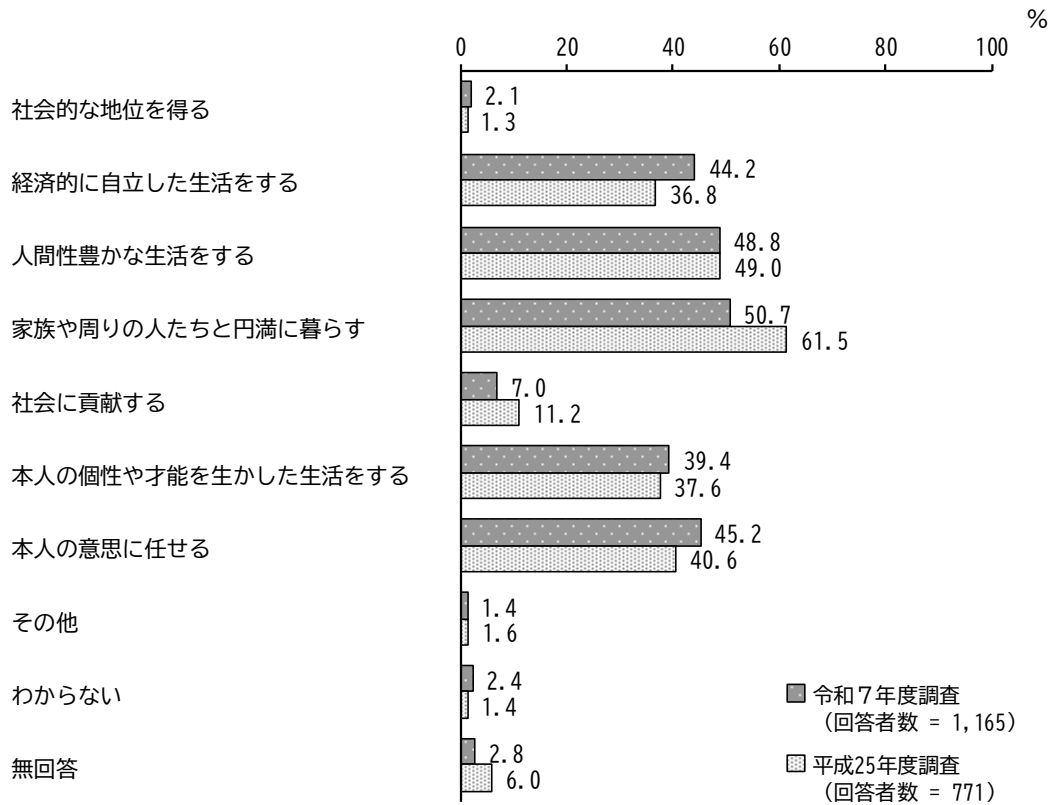
区分	回答者数 (件)	やさしく思いやり のある人に	自分の考えをはっ きりと言える人に	指導力のある人に	責任感のある人に	家事など身の回 りのことが自分で できる人に	経済的自立がで きる人に	無回答
全 体	1,165	60.8	44.7	8.0	48.8	29.4	53.9	4.3
女性 10歳代	11	54.5	27.3	27.3	63.6	36.4	36.4	0.0
20歳代	38	84.2	47.4	2.6	47.4	50.0	50.0	2.6
30歳代	52	71.2	42.3	3.8	44.2	46.2	51.9	3.8
40歳代	80	78.8	45.0	1.3	37.5	45.0	62.5	1.3
50歳代	118	66.9	36.4	1.7	45.8	41.5	71.2	0.8
60歳代	105	65.7	44.8	4.8	43.8	32.4	63.8	3.8
70歳代	130	47.7	41.5	8.5	53.1	31.5	59.2	6.2
80歳以上	60	41.7	43.3	6.7	41.7	21.7	53.3	18.3
男性 10歳代	6	66.7	33.3	50.0	33.3	33.3	50.0	0.0
20歳代	35	71.4	40.0	5.7	48.6	28.6	45.7	8.6
30歳代	55	74.5	49.1	5.5	49.1	29.1	52.7	0.0
40歳代	68	60.3	48.5	5.9	58.8	33.8	48.5	4.4
50歳代	104	61.5	44.2	12.5	58.7	21.2	46.2	1.9
60歳代	112	60.7	49.1	14.3	51.8	20.5	45.5	1.8
70歳代	116	50.0	56.9	9.5	51.7	14.7	47.4	3.4
80歳以上	58	43.1	37.9	20.7	50.0	10.3	44.8	6.9

問 25 あなたは、女の子、男の子は、それぞれどのような生き方をするのが良いと思いますか。(①、②のそれぞれについて3つに○)

①女の子

「家族や周りの人たちと円満に暮らす」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「人間性豊かな生活をする」の割合が 48.8%、「本人の意思に任せる」の割合が 45.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「経済的に自立した生活をする」の割合が増加しています。一方、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、男性では70歳代から20歳代まで年代が下がるほど「本人の意思に任せる」の割合が高い傾向にあります。また、女性60歳代で「経済的に自立した生活をする」、男性40歳代で「人間性豊かな生活をする」、女性30歳代で「家族や周りの人たちと円満に暮らす」の割合が高くなっています。

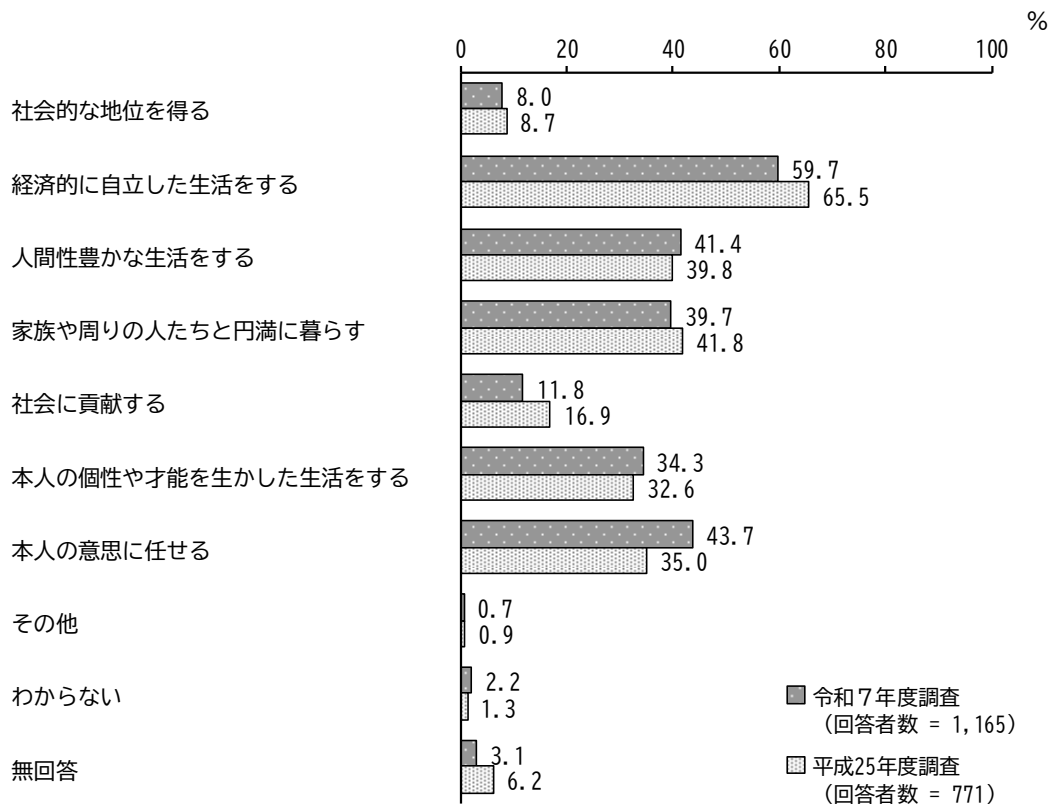
単位：％

区分	回答者数(件)	社会的な地位を得る	経済的に自立した生活をする	人間性豊かな生活をする	家族や周りの人たちと円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思に任せる	その他	わからない	無回答
全体	1,165	2.1	44.2	48.8	50.7	7.0	39.4	45.2	1.4	2.4	2.8
女性 10歳代	11	18.2	36.4	45.5	27.3	0.0	27.3	63.6	0.0	9.1	0.0
20歳代	38	5.3	39.5	39.5	47.4	2.6	34.2	60.5	0.0	5.3	0.0
30歳代	52	3.8	48.1	48.1	69.2	7.7	25.0	53.8	0.0	1.9	1.9
40歳代	80	1.3	56.3	41.3	51.3	3.8	40.0	60.0	1.3	0.0	0.0
50歳代	118	2.5	50.0	50.0	43.2	5.1	35.6	52.5	0.8	3.4	2.5
60歳代	105	1.0	62.9	46.7	52.4	6.7	38.1	46.7	1.9	1.0	3.8
70歳代	130	0.0	50.0	50.0	55.4	10.8	46.9	33.1	0.8	0.8	3.8
80歳以上	60	0.0	46.7	53.3	55.0	6.7	40.0	26.7	1.7	1.7	10.0
男性 10歳代	6	0.0	16.7	50.0	66.7	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0
20歳代	35	5.7	14.3	51.4	48.6	14.3	34.3	60.0	2.9	5.7	5.7
30歳代	55	3.6	34.5	45.5	56.4	1.8	45.5	52.7	1.8	3.6	0.0
40歳代	68	2.9	48.5	60.3	39.7	8.8	44.1	50.0	0.0	0.0	1.5
50歳代	104	2.9	32.7	48.1	52.9	10.6	38.5	48.1	2.9	2.9	0.0
60歳代	112	2.7	46.4	48.2	49.1	4.5	35.7	48.2	3.6	2.7	0.9
70歳代	116	0.9	35.3	50.9	50.0	4.3	48.3	29.3	0.0	4.3	3.4
80歳以上	58	0.0	34.5	50.0	53.4	12.1	37.9	32.8	1.7	1.7	5.2

②男の子

「経済的に自立した生活をする」の割合が59.7%と最も高く、次いで「本人の意思に任せる」の割合が43.7%、「人間性豊かな生活をする」の割合が41.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「本人の意思に任せる」の割合が増加しています。一方、「経済的に自立した生活をする」「社会に貢献する」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「家族や周りの人たちと円満に暮らす」の割合が高い傾向にあり、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「家族や周りの人たちと円満に暮らす」の割合が高い傾向にあり、「人間性豊かな生活をする」の割合が低くなっています。また、女性60歳代、女性70歳代で「経済的に自立した生活をする」、女性20歳代で「本人の意思に任せる」の割合が高くなっています。

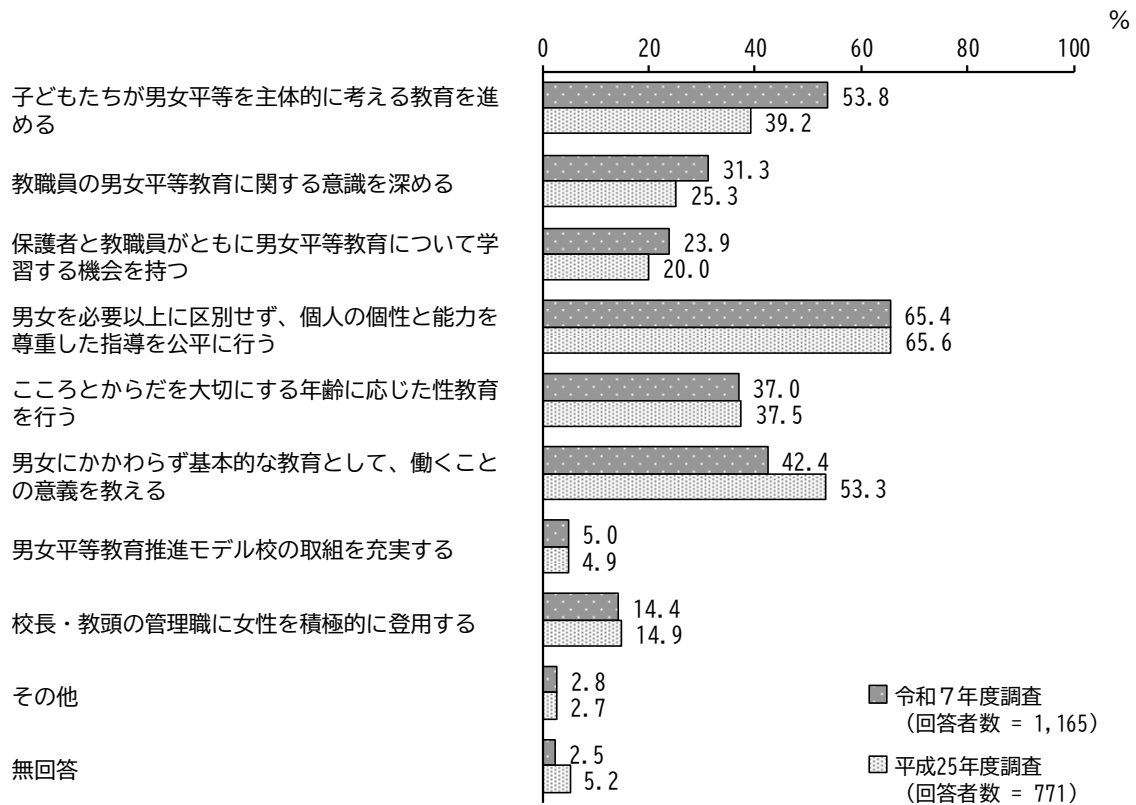
単位：％

区分	回答者数(件)	社会的な地位を得る	経済的に自立した生活をする	人間性豊かな生活をする	家族や周りの人たちと円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思に任せる	その他	わからない	無回答
全体	1,165	8.0	59.7	41.4	39.7	11.8	34.3	43.7	0.7	2.2	3.1
女性 10歳代	11	18.2	54.5	36.4	18.2	0.0	27.3	63.6	0.0	9.1	0.0
20歳代	38	7.9	39.5	31.6	47.4	2.6	31.6	63.2	0.0	5.3	0.0
30歳代	52	11.5	57.7	34.6	63.5	9.6	21.2	53.8	0.0	1.9	3.8
40歳代	80	3.8	63.8	32.5	53.8	5.0	36.3	57.5	1.3	0.0	0.0
50歳代	118	4.2	62.7	44.9	39.8	9.3	29.7	51.7	0.8	3.4	1.7
60歳代	105	5.7	74.3	43.8	41.9	8.6	35.2	46.7	1.0	1.0	1.9
70歳代	130	3.8	71.5	46.2	38.5	16.9	39.2	30.0	0.0	0.8	4.6
80歳以上	60	1.7	70.0	43.3	28.3	20.0	33.3	31.7	0.0	1.7	8.3
男性 10歳代	6	50.0	50.0	33.3	50.0	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
20歳代	35	14.3	34.3	42.9	40.0	20.0	28.6	54.3	0.0	2.9	5.7
30歳代	55	10.9	56.4	34.5	45.5	9.1	30.9	52.7	1.8	3.6	1.8
40歳代	68	13.2	57.4	52.9	27.9	11.8	38.2	45.6	0.0	0.0	4.4
50歳代	104	11.5	53.8	44.2	32.7	16.3	35.6	41.3	1.0	2.9	1.0
60歳代	112	7.1	56.3	42.0	39.3	11.6	34.8	47.3	2.7	2.7	0.9
70歳代	116	10.3	60.3	38.8	37.1	8.6	43.1	28.4	0.0	3.4	2.6
80歳以上	58	12.1	51.7	32.8	43.1	17.2	31.0	32.8	0.0	1.7	6.9

問 26 あなたは、学校の中で男女平等を進めるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「男女を必要以上に区別せず、個人の個性と能力を尊重した指導を公平に行う」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「子どもたちが男女平等を主体的に考える教育を進める」の割合が 53.8%、「男女にかかわらず基本的な教育として、働くことの意義を教える」の割合が 42.4%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「子どもたちが男女平等を主体的に考える教育を進める」「教職員の男女平等教育に関する意識を深める」の割合が増加しています。一方、「男女にかかわらず基本的な教育として、働くことの意義を教える」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「男女にかかわらず基本的な教育として、働くことの意義を教える」の割合が高く、男性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「子どもたちが男女平等を主体的に考える教育を進める」の割合が高くなっています。また、女性20歳代で「教職員の男女平等教育に関する意識を深める」「保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会を持つ」、女性30歳代で「こころとからだを大切に年齢に応じた性教育を行う」の割合が高くなっています。

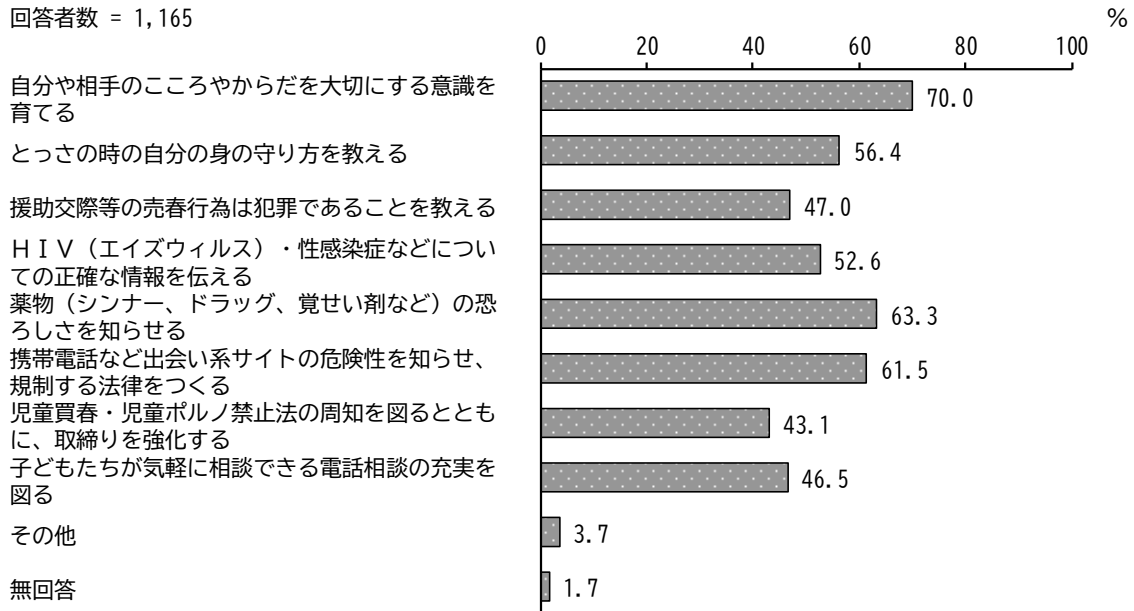
単位：%

区分	回答者数(件)	子どもたちが男女平等を主体的に考える教育を進める	教職員の男女平等教育に関する意識を深める	保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会を持つ	重んじた指導を公平に行う	男女を必要以上に区別せず、個人の個性と能力を尊重した指導を公平に行う	こころとからだを大切に年齢に応じた性教育を行う	男女にかかわらず基本的な教育として、働くことの意義を教える	男女平等教育推進モデル校の取組を充実する	校長・教頭の管理職に女性を積極的に登用する	その他	無回答
全体	1,165	53.8	31.3	23.9	65.4	37.0	42.4	5.0	14.4	2.8	2.5	
女性												
10歳代	11	72.7	18.2	27.3	45.5	36.4	9.1	0.0	36.4	0.0	0.0	
20歳代	38	50.0	50.0	34.2	63.2	47.4	28.9	7.9	18.4	0.0	2.6	
30歳代	52	55.8	44.2	26.9	71.2	59.6	40.4	13.5	21.2	5.8	0.0	
40歳代	80	57.5	17.5	15.0	67.5	38.8	43.8	0.0	8.8	2.5	0.0	
50歳代	118	49.2	27.1	14.4	69.5	33.9	47.5	3.4	11.0	3.4	0.8	
60歳代	105	58.1	43.8	25.7	75.2	41.9	54.3	4.8	14.3	1.0	0.0	
70歳代	130	57.7	30.0	18.5	73.1	45.4	46.9	2.3	13.8	1.5	5.4	
80歳以上	60	56.7	21.7	25.0	71.7	35.0	41.7	8.3	15.0	6.7	10.0	
男性												
10歳代	6	100.0	16.7	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
20歳代	35	45.7	34.3	22.9	45.7	31.4	40.0	0.0	8.6	5.7	2.9	
30歳代	55	40.0	34.5	27.3	61.8	36.4	38.2	3.6	12.7	3.6	3.6	
40歳代	68	45.6	22.1	14.7	55.9	29.4	33.8	1.5	14.7	0.0	1.5	
50歳代	104	47.1	32.7	25.0	58.7	26.9	36.5	2.9	11.5	4.8	1.0	
60歳代	112	54.5	33.0	32.1	65.2	33.9	40.2	8.0	13.4	4.5	0.9	
70歳代	116	56.0	31.9	28.4	67.2	31.9	47.4	6.0	18.1	0.9	0.9	
80歳以上	58	69.0	32.8	31.0	60.3	39.7	43.1	12.1	24.1	1.7	5.2	

問 27 少女や少年が性犯罪や事件に巻き込まれるケースを見聞きすることがあります。それらの防止について、あなたはどのようなことが必要だと思えますか。
(〇はいくつでも)

「自分や相手のところやからだを大切にすることを意識を育てる」の割合が 70.0%と最も高く、次いで「薬物（シンナー、ドラッグ、覚せい剤など）の恐ろしさを知らせる」の割合が 63.3%、「携帯電話など出会い系サイトの危険性を知らせ、規制する法律をつくる」の割合が 61.5%となっています。

回答者数 = 1,165



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「薬物（シンナー、ドラッグ、覚せい剤など）の恐ろしさを知らせる」の割合が高い傾向にあり、男性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「子どもたちが気軽に相談できる電話相談の充実を図る」の割合が高い傾向にあります。また、女性30歳代で「とっさの時の自分の身の守り方を教える」「携帯電話など出会い系サイトの危険性を知らせ、規制する法律をつくる」「児童買春・児童ポルノ禁止法の周知を図るとともに、取締りを強化する」、女性50歳代で「援助交際等の売春行為は犯罪であることを教える」、女性30歳代、女性60歳代で「HIV（エイズウィルス）・性感染症などについての正確な情報を伝える」の割合が高くなっています。

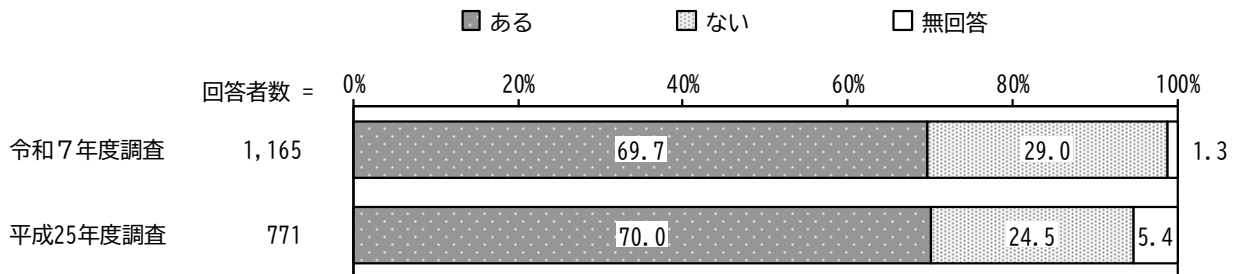
単位：％

区分	回答者数（件）	子どもたちが気軽に相談できる電話相談の充実を図る	とっさの時の自分の身の守り方を教える	援助交際等の売春行為は犯罪であることを教える	HIV（エイズウィルス）・性感染症などについての正確な情報を伝える	薬物（シンナー、ドラッグ、覚せい剤など）の恐ろしさを知らせる	携帯電話など出会い系サイトの危険性を知らせ、規制する法律をつくる	児童買春・児童ポルノ禁止法の周知を図るとともに、取締りを強化する	子どもたちが気軽に相談できる電話相談の充実を図る	その他	無回答
全体	1,165	70.0	56.4	47.0	52.6	63.3	61.5	43.1	46.5	3.7	1.7
女性 10歳代	11	45.5	72.7	45.5	45.5	27.3	36.4	27.3	18.2	0.0	0.0
20歳代	38	71.1	65.8	47.4	55.3	63.2	71.1	55.3	55.3	5.3	2.6
30歳代	52	76.9	80.8	55.8	63.5	63.5	75.0	67.3	46.2	3.8	0.0
40歳代	80	73.8	58.8	43.8	50.0	67.5	66.3	46.3	38.8	6.3	0.0
50歳代	118	74.6	65.3	59.3	56.8	70.3	69.5	55.1	52.5	5.9	0.0
60歳代	105	78.1	62.9	52.4	62.9	76.2	67.6	46.7	55.2	1.0	0.0
70歳代	130	76.2	56.2	53.8	60.8	73.8	63.1	38.5	46.9	1.5	3.1
80歳以上	60	75.0	48.3	50.0	55.0	61.7	55.0	40.0	65.0	5.0	8.3
男性 10歳代	6	50.0	16.7	50.0	83.3	50.0	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0
20歳代	35	62.9	45.7	37.1	48.6	51.4	40.0	28.6	34.3	0.0	2.9
30歳代	55	67.3	65.5	40.0	52.7	56.4	60.0	38.2	29.1	5.5	0.0
40歳代	68	69.1	52.9	48.5	47.1	54.4	60.3	51.5	44.1	2.9	0.0
50歳代	104	64.4	47.1	40.4	43.3	58.7	52.9	39.4	44.2	4.8	1.0
60歳代	112	65.2	54.5	42.0	46.4	56.3	60.7	39.3	45.5	4.5	0.9
70歳代	116	68.1	47.4	36.2	44.0	62.1	58.6	31.9	47.4	2.6	1.7
80歳以上	58	62.1	48.3	46.6	53.4	62.1	67.2	41.4	44.8	1.7	3.4

5 労働について

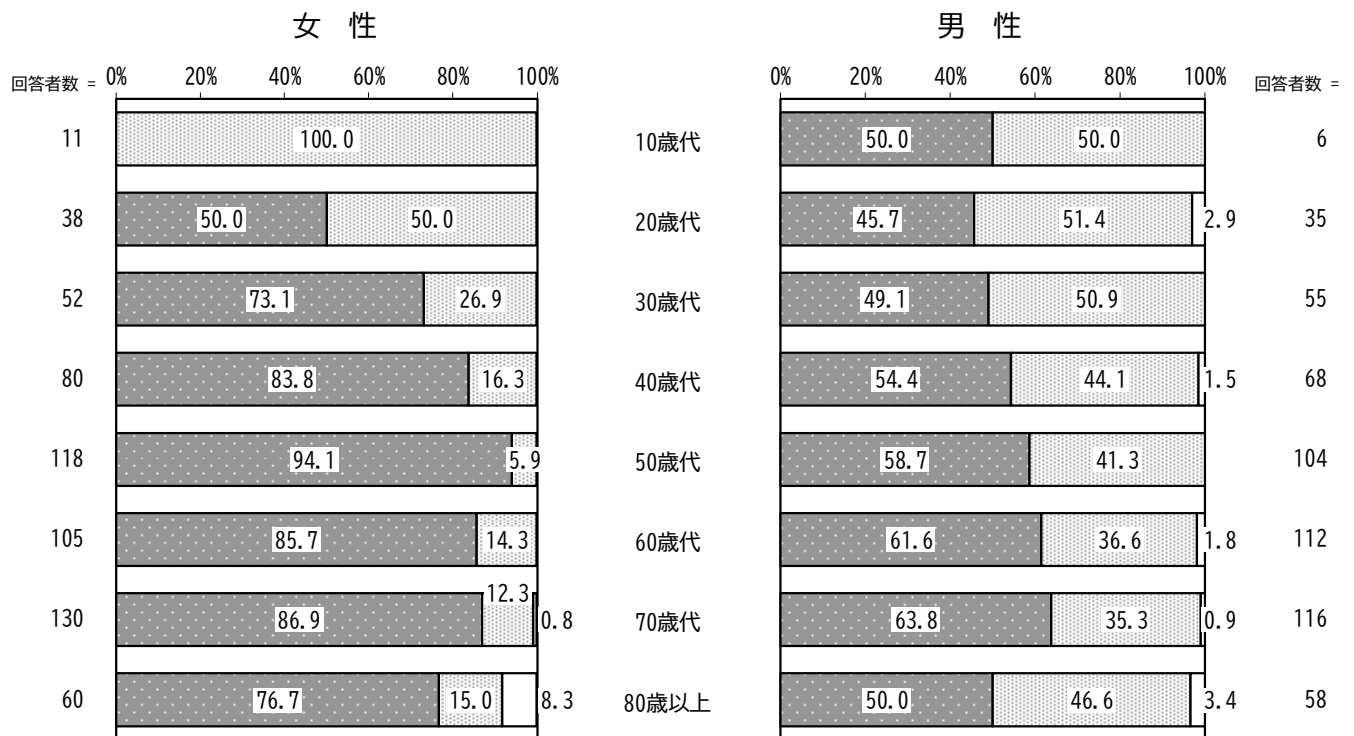
問 28 あなたはこれまで仕事をやめた経験がありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が69.7%、「ない」の割合が29.0%となっています。
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年代別】

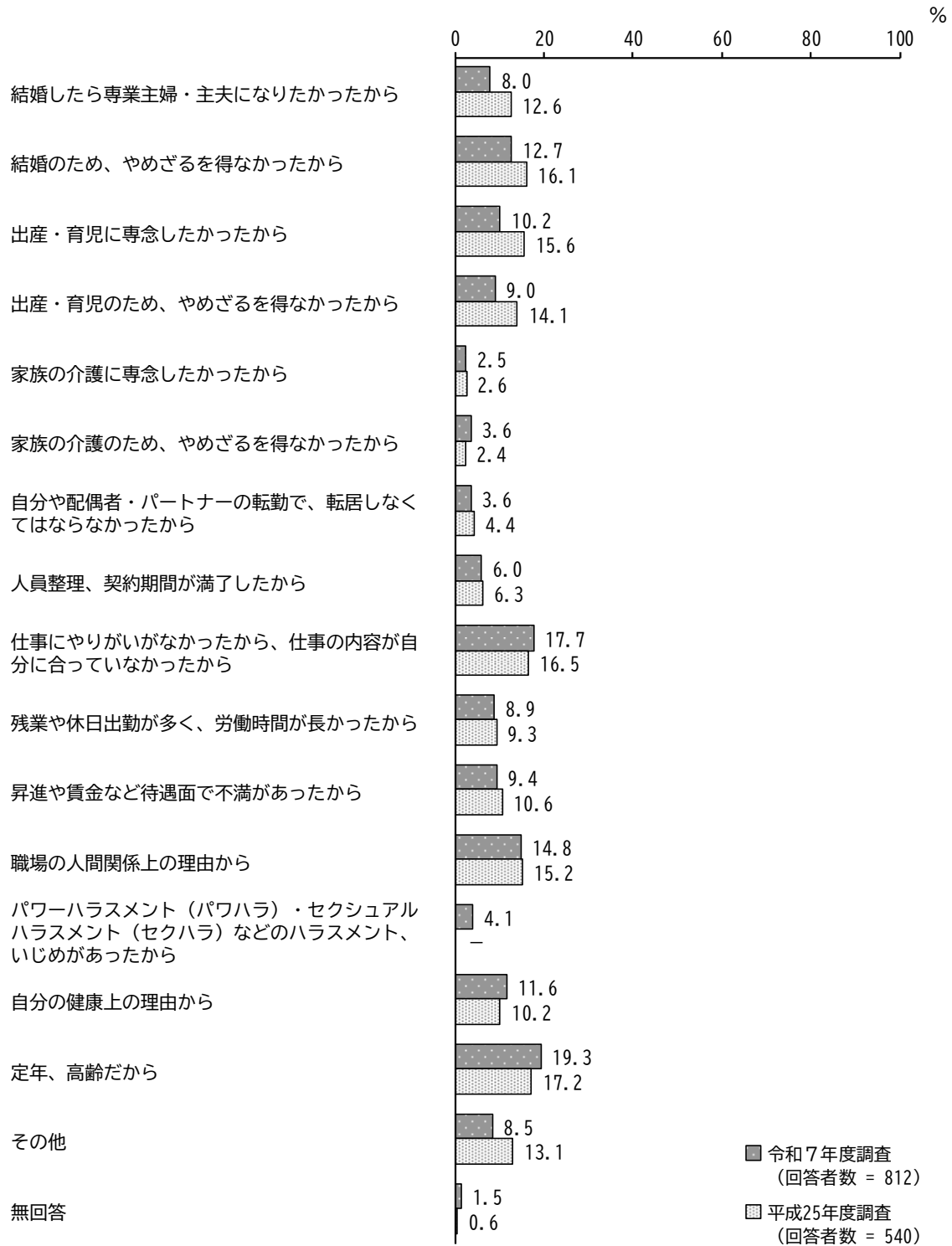
性・年代別にみると、女性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど、男性では20歳代から70歳代まで年代が上がるほど「ある」の割合が高くなっています。



問 28－1 問 28 で「ある」と回答された方にお聞きします。
 あなたが直近で仕事をやめたときの理由は何ですか（〇は3つまで）

「定年、高齢だから」の割合が 19.3%と最も高く、次いで「仕事にやりがいなかったから、仕事の内容が自分に合っていなかったから」の割合が 17.7%、「職場の人間関係上の理由から」の割合が 14.8%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「出産・育児に専念したかったから」「出産・育児のため、やめざるを得なかったから」の割合が減少しています。



※平成 25 年度調査では、「パワーハラスメント（パワハラ）・セクシュアルハラスメント（セクハラ）などのハラスメント、いじめがあったから」がありませんでした。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「結婚のため、やめざるを得なかったから」の割合が高い傾向にあり、男性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「仕事にやりがいなかったから、仕事の内容が自分に合っていなかったから」の割合が高い傾向にあります。また、女性50歳代、女性60歳代で「出産・育児に専念したかったから」、男性40歳代で「職場の人間関係上の理由から」、男性70歳代で「定年、高齢だから」の割合が高くなっています。

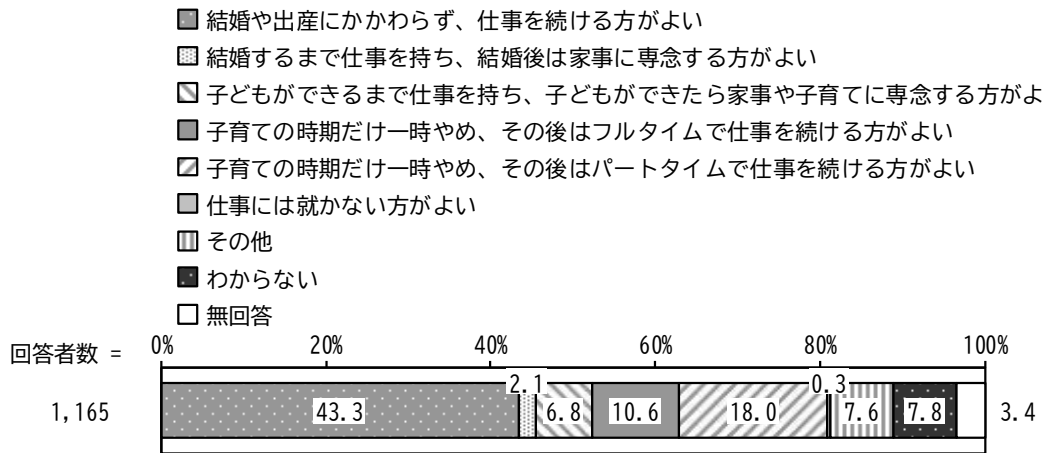
単位：％

区分	回答者数(件)	結婚したら専業主婦・主夫になりたかったから	結婚のため、やめざるを得なかったから	出産・育児に専念したかったから	出産・育児のため、やめざるを得なかったから	家族の介護に専念したかったから	家族の介護のため、やめざるを得なかったから	自分や配偶者・パートナーの転勤で、転居しなくてはならなかったから	人員整理、契約期間が満了したから
全体	812	8.0	12.7	10.2	9.0	2.5	3.6	3.6	6.0
女性									
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	19	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	21.1
30歳代	38	10.5	13.2	15.8	23.7	0.0	0.0	7.9	2.6
40歳代	67	10.4	11.9	13.4	14.9	4.5	3.0	4.5	9.0
50歳代	111	13.5	14.4	23.4	19.8	2.7	5.4	7.2	7.2
60歳代	90	15.6	20.0	21.1	10.0	2.2	11.1	4.4	6.7
70歳代	113	15.9	31.9	14.2	9.7	6.2	2.7	3.5	1.8
80歳以上	46	8.7	32.6	15.2	17.4	4.3	6.5	4.3	2.2
男性									
10歳代	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
20歳代	16	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3
30歳代	27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	7.4
40歳代	37	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4
50歳代	61	1.6	1.6	0.0	1.6	1.6	1.6	4.9	4.9
60歳代	69	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	1.4	11.6
70歳代	74	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	4.1
80歳以上	29	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0

区分	仕事にやりがいなかったから、仕事の内容が自分に合っていなかったから	残業や休日出勤が多く、労働時間が長かったから	昇進や賃金など待遇面で不満があったから	職場の人間関係上の理由から	パワーハラスメント(パワハラ・セクシュアルハラスメント(セクハラ)などのハラスメント)、いじめがあったから	自分の健康上の理由から	定年、高齢だから	その他	無回答
全体	17.7	8.9	9.4	14.8	4.1	11.6	19.3	8.5	1.5
女性									
10歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	21.1	5.3	15.8	31.6	21.1	21.1	0.0	15.8	5.3
30歳代	15.8	18.4	7.9	21.1	5.3	10.5	0.0	13.2	0.0
40歳代	16.4	11.9	6.0	10.4	4.5	10.4	0.0	10.4	0.0
50歳代	16.2	9.0	4.5	14.4	3.6	8.1	0.0	9.0	0.9
60歳代	10.0	1.1	2.2	11.1	2.2	14.4	8.9	5.6	1.1
70歳代	1.8	0.9	0.0	4.4	4.4	14.2	30.1	6.2	1.8
80歳以上	2.2	0.0	2.2	4.3	0.0	6.5	32.6	8.7	0.0
男性									
10歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
20歳代	56.3	18.8	12.5	25.0	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0
30歳代	48.1	25.9	25.9	22.2	3.7	14.8	0.0	3.7	0.0
40歳代	35.1	29.7	51.4	29.7	10.8	13.5	0.0	5.4	0.0
50歳代	27.9	21.3	23.0	23.0	3.3	9.8	3.3	14.8	4.9
60歳代	29.0	10.1	15.9	18.8	5.8	10.1	36.2	5.8	1.4
70歳代	25.7	2.7	4.1	16.2	2.7	10.8	67.6	6.8	0.0
80歳以上	6.9	0.0	3.4	10.3	0.0	13.8	62.1	17.2	0.0

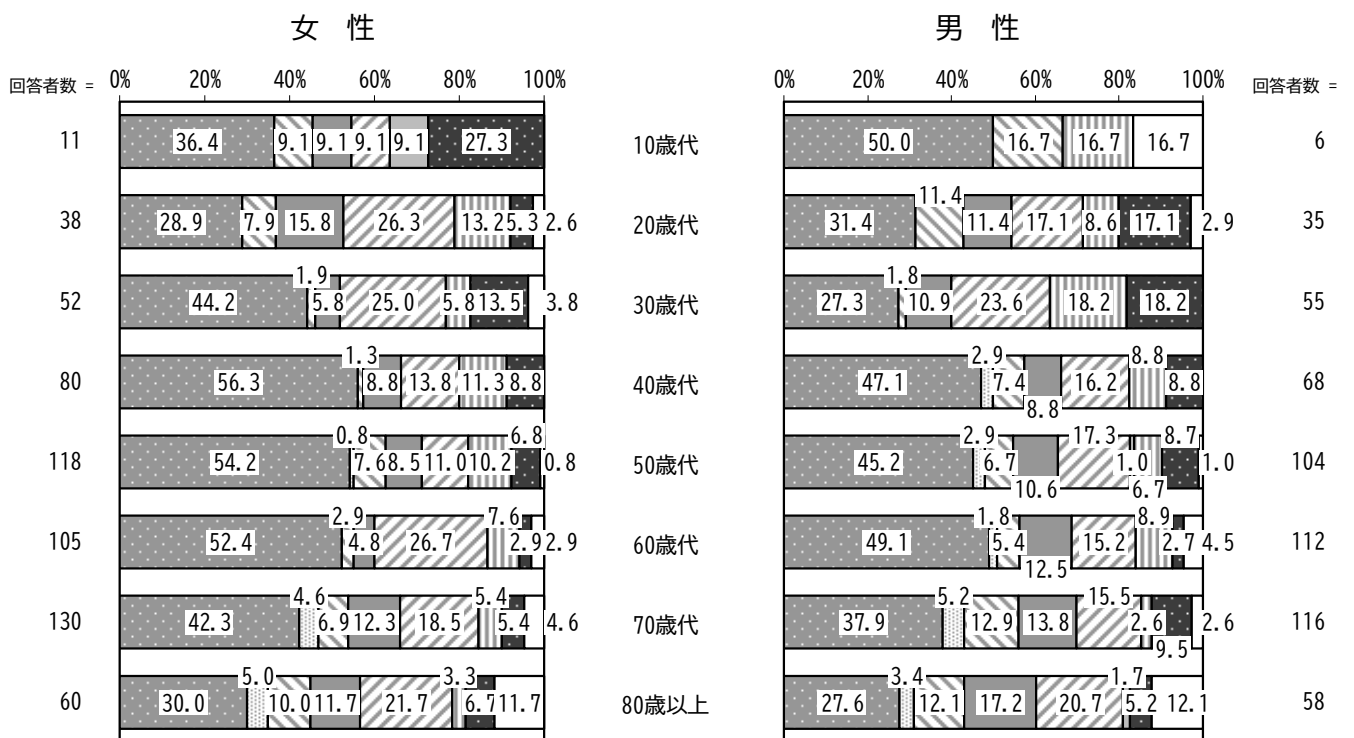
問 29 一般的に女性が仕事をするについて、あなたはごどう思いますか。(○は1つ)

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」の割合が43.3%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」の割合が18.0%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」の割合が10.6%となっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」の割合が高く、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

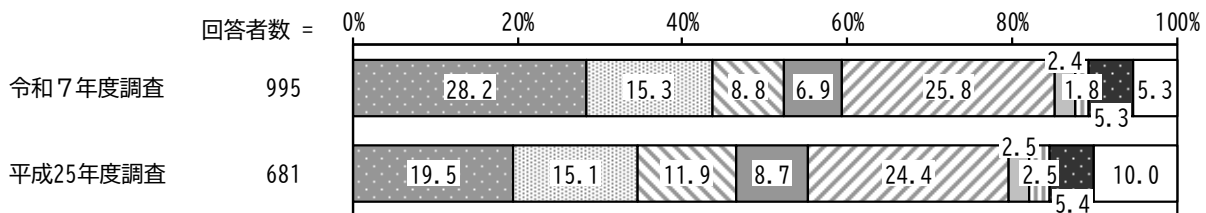


問 30 問 30 は、女性は全員の方、男性は配偶者・パートナーのいる方にお答えください。
女性が仕事をすることについて、現時点で実際にはどれにあてはまりますか。女性は
ご自身について、男性は配偶者・パートナーについてお答えください。(○は1つ)

「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が28.2%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が25.8%、「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している(専念していた/専念するつもり)」の割合が15.3%となっています。

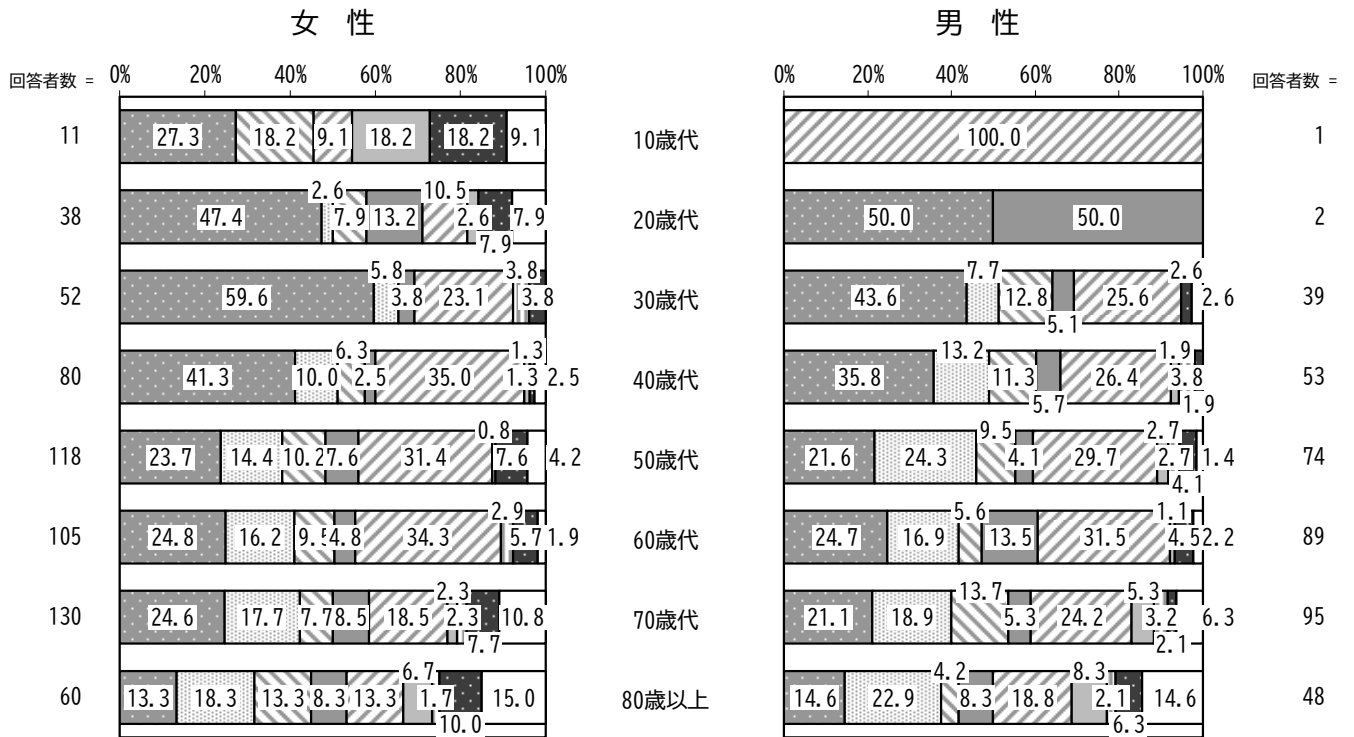
平成25年度調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が増加しています。

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)
- 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している(専念していた/専念するつもり)
- 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念している(専念していた/専念するつもり)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)
- 仕事に就いたことはない(就くつもりはない)
- 仕事に就きたいが、働く場所が見つからない
- その他
- 無回答



【性・年代別】

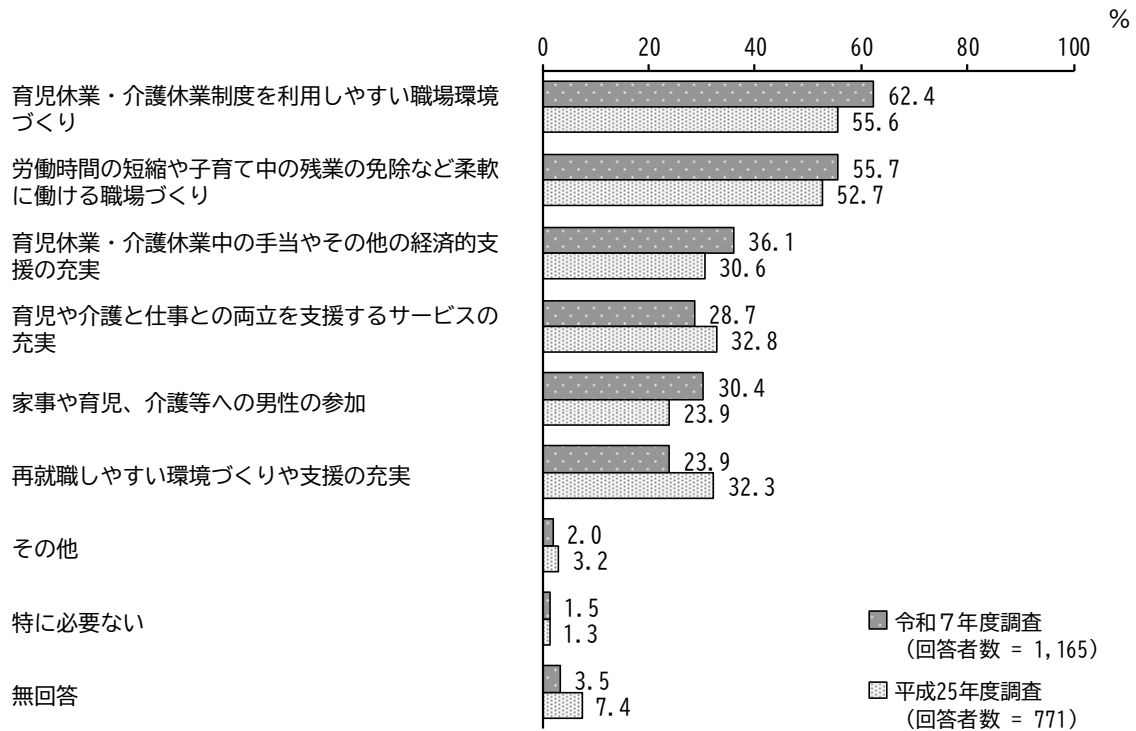
性・年代別にみると、女性では年代が上がるほど「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している（専念していた／専念するつもり）」の割合が高く、男性では20歳代から60歳代まで年代が上がるほど「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」の割合が高い傾向にあります。また、女性30歳代で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」の割合が高くなっています。



問 31 女性が結婚や出産、子育てをしながら仕事を続けるために、あなたはどのようなことが特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」の割合が62.4%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や子育て中の残業の免除など柔軟に働ける職場づくり」の割合が55.7%、「育児休業・介護休業中の手当やその他の経済的支援の充実」の割合が36.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」「育児休業・介護休業中の手当やその他の経済的支援の充実」「家事や育児、介護等への男性の参加」の割合が増加しています。一方、「再就職しやすい環境づくりや支援の充実」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男女ともに80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「労働時間の短縮や子育て中の残業の免除など柔軟に働ける職場づくり」の割合が高い傾向にあります。また、男性30歳代で「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」「育児休業・介護休業中の手当やその他の経済的支援の充実」、女性20歳代、女性60歳代で「家事や育児、介護等への男性の参加」の割合が高くなっています。

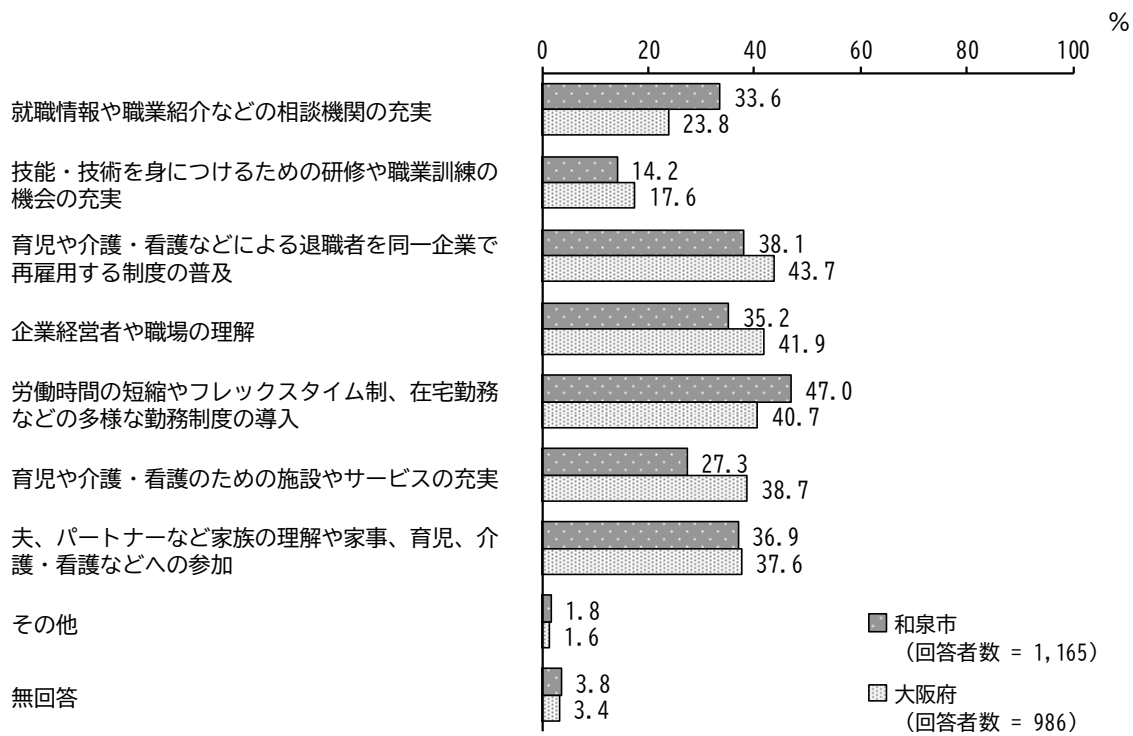
単位：％

区分	回答者数(件)	育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり	労働時間の短縮や子育て中の残業の免除など柔軟に働ける職場づくり	育児休業・介護休業中の手当やその他の経済的支援の充実	育児や介護と仕事との両立を支援するサービスの充実	家事や育児、介護等への男性の参加	再就職しやすい環境づくりや支援の充実	その他	特に必要ない	無回答
全体	1,165	62.4	55.7	36.1	28.7	30.4	23.9	2.0	1.5	3.5
女性 10歳代	11	63.6	54.5	27.3	18.2	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0
20歳代	38	65.8	68.4	42.1	26.3	44.7	28.9	2.6	0.0	0.0
30歳代	52	53.8	73.1	48.1	21.2	28.8	21.2	3.8	0.0	3.8
40歳代	80	62.5	70.0	27.5	25.0	40.0	27.5	2.5	2.5	0.0
50歳代	118	57.6	61.9	36.4	28.8	32.2	26.3	5.1	0.0	1.7
60歳代	105	69.5	63.8	36.2	25.7	44.8	23.8	1.0	0.0	1.0
70歳代	130	64.6	56.9	30.0	32.3	23.1	26.9	0.0	1.5	4.6
80歳以上	60	58.3	45.0	28.3	35.0	41.7	28.3	0.0	3.3	5.0
男性 10歳代	6	50.0	66.7	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
20歳代	35	57.1	45.7	37.1	17.1	20.0	25.7	2.9	2.9	8.6
30歳代	55	72.7	60.0	52.7	23.6	12.7	18.2	5.5	1.8	1.8
40歳代	68	58.8	52.9	35.3	23.5	17.6	29.4	1.5	1.5	4.4
50歳代	104	65.4	54.8	42.3	25.0	31.7	26.0	1.0	2.9	1.0
60歳代	112	63.4	49.1	46.4	33.9	26.8	17.9	0.9	0.9	2.7
70歳代	116	62.1	46.6	28.4	37.9	29.3	25.0	1.7	1.7	2.6
80歳以上	58	62.1	37.9	27.6	31.0	27.6	15.5	0.0	5.2	12.1

問 32 出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」の割合が47.0%と最も高く、次いで「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」の割合が38.1%、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」の割合が36.9%となっています。

大阪府と比較すると、「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」の割合が高くなっています。一方、「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」「企業経営者や職場の理解」「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」の割合が高い傾向にあり、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「企業経営者や職場の理解」の割合が高くなっています。また、男性80歳以上で「技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実」、女性30歳代、女性40歳代で「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	就職情報や職業紹介などの相談機会の充実	技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入	育児や介護・看護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加	その他	無回答
全体	1,165	33.6	14.2	38.1	35.2	47.0	27.3	36.9	1.8	3.8
女性 10歳代	11	36.4	0.0	63.6	36.4	45.5	18.2	18.2	0.0	0.0
20歳代	38	36.8	7.9	44.7	36.8	55.3	26.3	52.6	0.0	2.6
30歳代	52	21.2	17.3	25.0	30.8	63.5	23.1	50.0	5.8	0.0
40歳代	80	28.8	15.0	25.0	31.3	63.8	33.8	48.8	1.3	0.0
50歳代	118	28.8	11.0	31.4	31.4	60.2	29.7	50.8	2.5	0.0
60歳代	105	40.0	13.3	37.1	31.4	49.5	37.1	44.8	0.0	1.0
70歳代	130	36.9	14.6	36.2	36.9	38.5	29.2	38.5	0.8	3.8
80歳以上	60	30.0	16.7	26.7	43.3	36.7	25.0	31.7	3.3	10.0
男性 10歳代	6	16.7	0.0	50.0	66.7	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7
20歳代	35	20.0	5.7	40.0	42.9	45.7	25.7	22.9	5.7	5.7
30歳代	55	29.1	16.4	43.6	50.9	43.6	29.1	23.6	0.0	3.6
40歳代	68	39.7	13.2	33.8	39.7	44.1	17.6	29.4	1.5	4.4
50歳代	104	43.3	21.2	47.1	39.4	43.3	20.2	31.7	1.0	1.0
60歳代	112	33.9	9.8	45.5	33.9	49.1	23.2	33.9	0.9	4.5
70歳代	116	38.8	14.7	49.1	31.0	42.2	33.6	28.4	0.9	3.4
80歳以上	58	24.1	25.9	34.5	25.9	31.0	19.0	25.9	6.9	15.5

【就労形態別】

就労形態別にみると、自営業（商工・サービス・農林漁業等）で「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」「技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実」、自営業（商工・サービス・農林漁業等）、学生で「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」、学生で「企業経営者や職場の理解」、正社員・正職員などの常勤（フルタイム）、パートタイム・アルバイト・派遣などで「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」、専業主婦・主夫で「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」、家族従業者で「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	就職情報や職業紹介などの 相談機関の充実	技能・技術を身につけるた めの研修や職業訓練の機会 の充実	育児や介護・看護などに よる退職者を同一企業で再 雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮やフレック スタイム制、在宅勤務など の多様な勤務制度の導入	育児や介護・看護のための 施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の 理解や家事、育児、介護・ 看護などへの参加	その他	無回答
全 体	1,165	33.6	14.2	38.1	35.2	47.0	27.3	36.9	1.8	3.8
正社員・正職員などの常勤(フルタイム)	381	34.1	13.6	43.3	38.8	53.3	25.2	36.5	0.8	0.8
パートタイム・アルバイト・派遣など	236	34.3	11.4	29.2	33.9	55.1	29.7	43.6	2.1	3.4
自営業(商工・サービス・農林漁業等)	52	42.3	21.2	44.2	32.7	38.5	26.9	36.5	1.9	0.0
家族従業者	16	25.0	6.3	31.3	25.0	43.8	12.5	56.3	6.3	0.0
専業主婦・主夫	132	33.3	11.4	33.3	31.8	51.5	36.4	44.7	1.5	0.8
無職	234	34.6	18.4	41.9	35.0	36.8	27.8	30.3	1.7	6.0
学生	34	29.4	5.9	47.1	41.2	41.2	23.5	23.5	2.9	5.9
その他	40	25.0	17.5	42.5	27.5	40.0	22.5	37.5	5.0	7.5

【希望する就労形態別】

希望する就労形態別にみると、自営業（商工・サービス・農林漁業等）、専業主婦・主夫で「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」、自営業（商工・サービス・農林漁業等）で「技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実」、無職で「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」、正社員・正職員などの常勤（フルタイム）、パートタイム・アルバイト・派遣などで「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」、専業主婦・主夫で「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」、家族従業者で「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	就職情報や職業紹介などの 相談機関の充実	技能・技術を身につけるた めの研修や職業訓練の機会 の充実	育児や介護・看護などに よる退職者を同一企業で再 雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮やフレック スタイム制、在宅勤務など の多様な勤務制度の導入	育児や介護・看護のための 施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の 理解や家事、育児、介護・ 看護などへの参加	その他	無回答
全 体	1,165	33.6	14.2	38.1	35.2	47.0	27.3	36.9	1.8	3.8
正社員・正職員などの常勤(フルタイム)	385	34.3	14.3	41.6	39.2	53.2	23.9	35.3	1.6	1.0
パートタイム・アルバイト・派遣など	246	30.5	11.0	32.9	30.1	56.1	33.7	48.8	0.8	1.6
自営業(商工・サービス・農林漁業等)	55	41.8	23.6	36.4	32.7	40.0	18.2	29.1	3.6	1.8
家族従業者	13	38.5	7.7	23.1	23.1	46.2	15.4	61.5	7.7	0.0
専業主婦・主夫	94	39.4	8.5	39.4	34.0	46.8	37.2	42.6	1.1	0.0
無職	163	33.7	17.2	46.0	36.2	41.7	31.3	31.3	1.2	3.7
学生	6	16.7	0.0	66.7	50.0	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0
その他	74	35.1	18.9	39.2	29.7	40.5	27.0	27.0	4.1	6.8

【配偶者・パートナーの就労形態別】

配偶者・パートナーの就労形態別にみると、専業主婦・主夫で「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」、正社員・正職員などの常勤（フルタイム）で「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」、自営業（商工・サービス・農林漁業等）で「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	就職情報や職業紹介などの相談機会の充実	技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入	育児や介護・看護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加	その他	無回答
全体	806	33.1	14.6	37.5	33.7	51.6	30.1	40.6	0.9	1.6
正社員・正職員などの常勤（フルタイム）	257	31.5	14.0	36.2	33.5	56.8	30.0	45.5	0.8	0.0
パートタイム・アルバイト・派遣など	147	36.1	15.0	40.1	34.0	54.4	24.5	42.2	0.0	1.4
自営業（商工・サービス・農林漁業等）	56	25.0	14.3	21.4	26.8	51.8	30.4	57.1	5.4	0.0
家族従業者	7	71.4	14.3	42.9	57.1	42.9	14.3	28.6	0.0	0.0
専業主婦・主夫	111	30.6	11.7	45.0	36.0	51.4	39.6	27.0	0.9	0.9
無職	162	32.1	14.8	41.4	32.7	49.4	31.5	38.9	0.6	1.9
学生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	28	39.3	21.4	21.4	35.7	39.3	25.0	32.1	0.0	7.1

【年間所得別】

年間所得別にみると、200万円未満から800万円以上1,000万円未満まで所得が多いほど「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」の割合が高く、200万円未満から600万円以上800万円未満まで所得が多いほど「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」の割合が高くなっています。

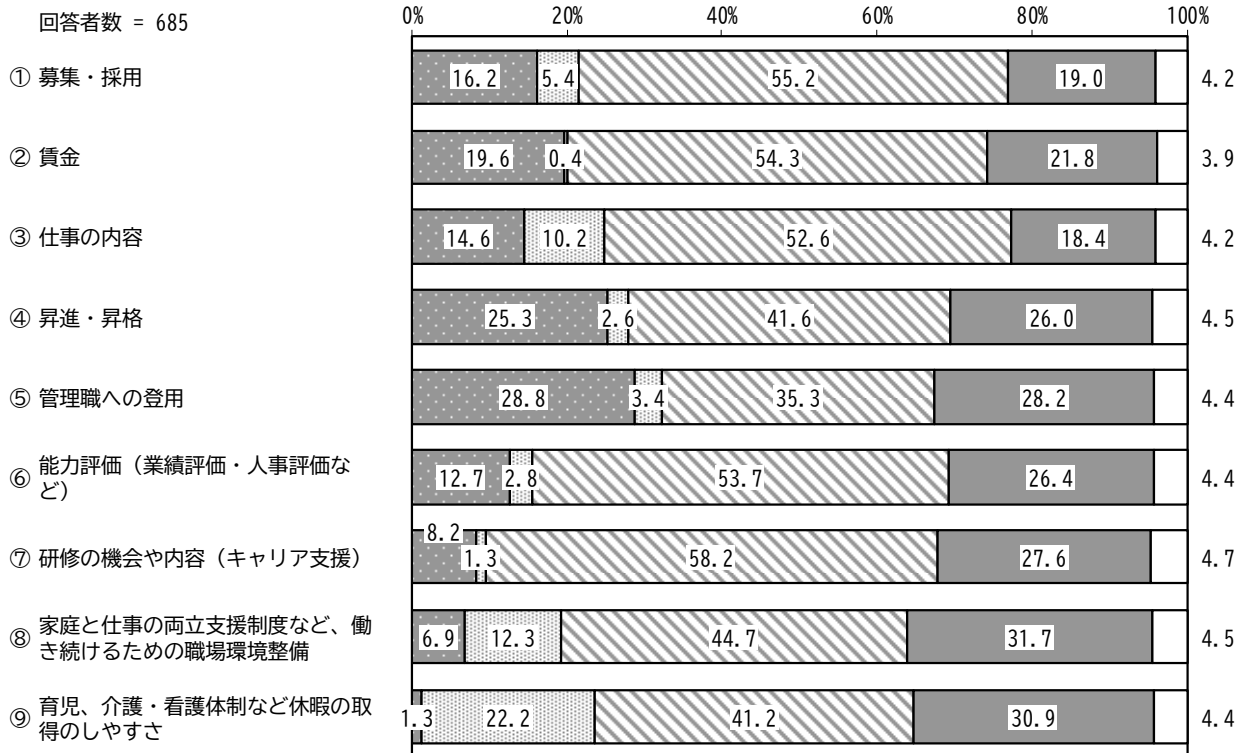
単位：％

区分	回答者数（件）	就職情報や職業紹介などの相談機会の充実	技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入	育児や介護・看護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加	その他	無回答
全体	1,165	33.6	14.2	38.1	35.2	47.0	27.3	36.9	1.8	3.8
200万円未満	490	34.3	13.3	33.9	35.1	43.5	27.8	36.5	2.2	4.9
200万円以上400万円未満	318	34.0	13.8	41.2	34.0	48.1	26.7	40.6	1.9	2.5
400万円以上600万円未満	158	32.9	13.3	43.0	39.9	48.7	31.0	38.6	1.3	1.3
600万円以上800万円未満	89	32.6	22.5	48.3	32.6	59.6	22.5	33.7	0.0	0.0
800万円以上1,000万円未満	28	32.1	10.7	39.3	39.3	67.9	32.1	35.7	0.0	0.0
1,000万円以上	42	33.3	16.7	35.7	38.1	59.5	19.0	35.7	0.0	0.0

問 33 問 33 は、仕事をしている方（非常勤、派遣、パート、アルバイトなども含む）にお聞きします。
 あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか（①～⑨のそれぞれについて1つに○）

『⑤管理職への登用』で「男性の方が優遇されている」が、『⑨育児、介護・看護体制など休暇の取得のしやすさ』で「女性の方が優遇されている」が、『⑦研修の機会や内容（キャリア支援）』で「平等である」が、『⑧家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備』で「わからない」が高くなっています。

■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている ■ 平等である
 ■ わからない □ 無回答

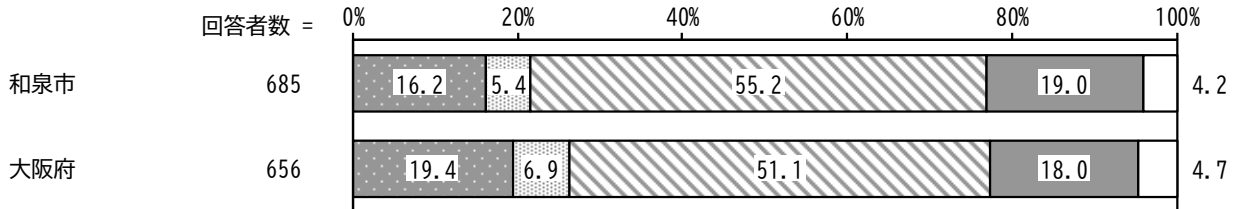


①募集・採用

【府比較】

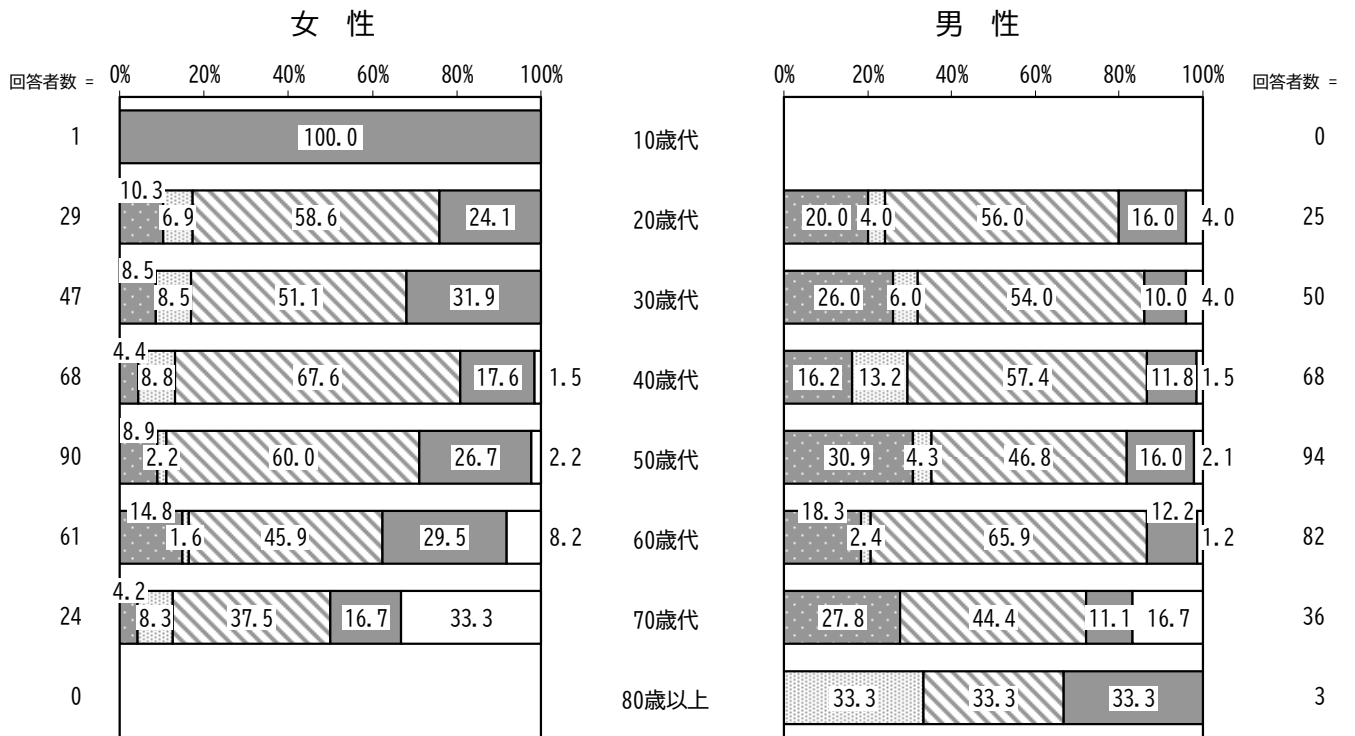
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている ■ 平等である
■ わからない □ 無回答



【性・年代別】

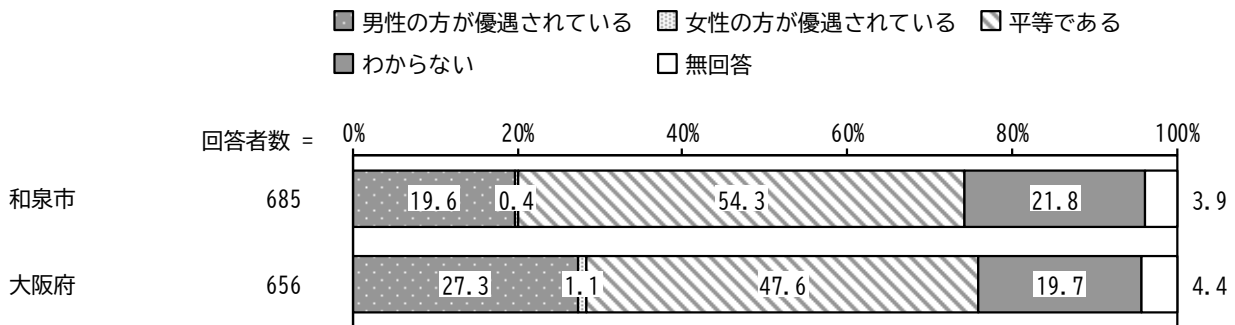
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「平等である」の割合が高く、男性では70歳代から40歳代まで年代が下がるほど「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性50歳代で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



②賃金

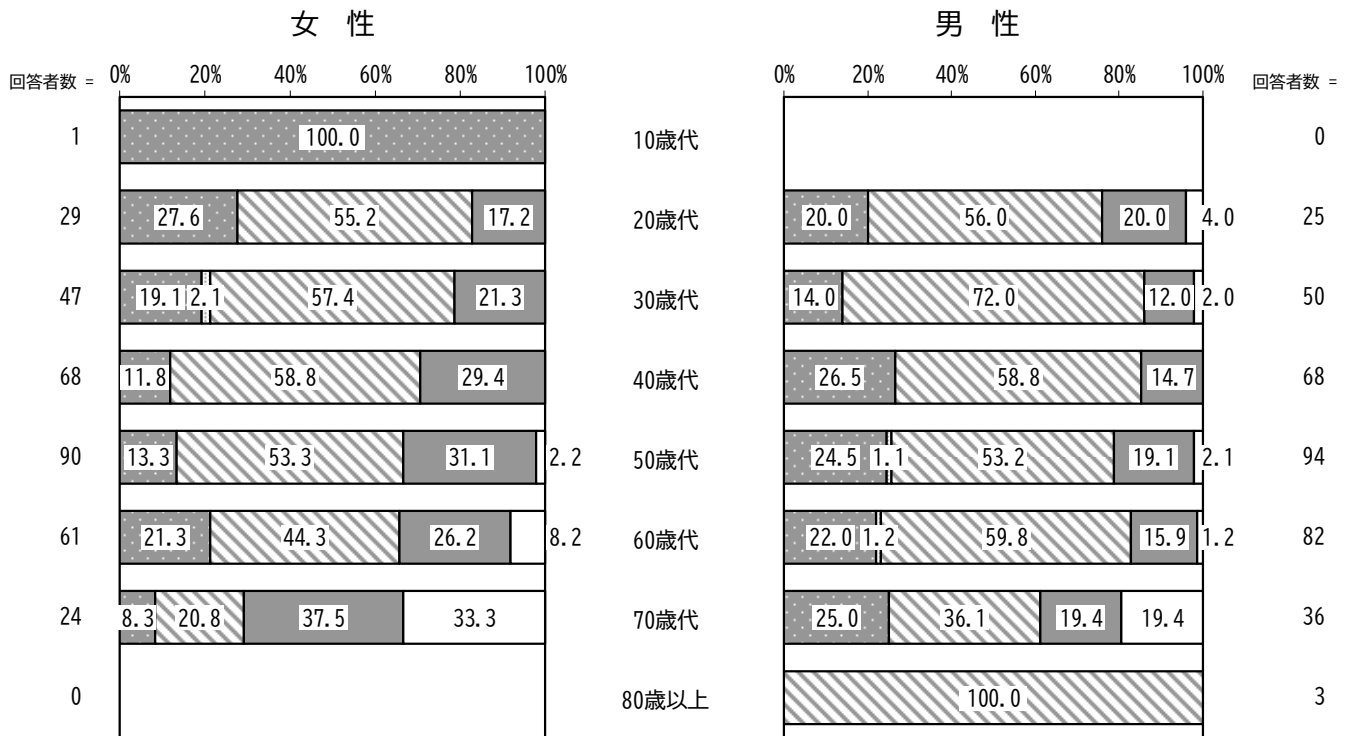
【府比較】

大阪府と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

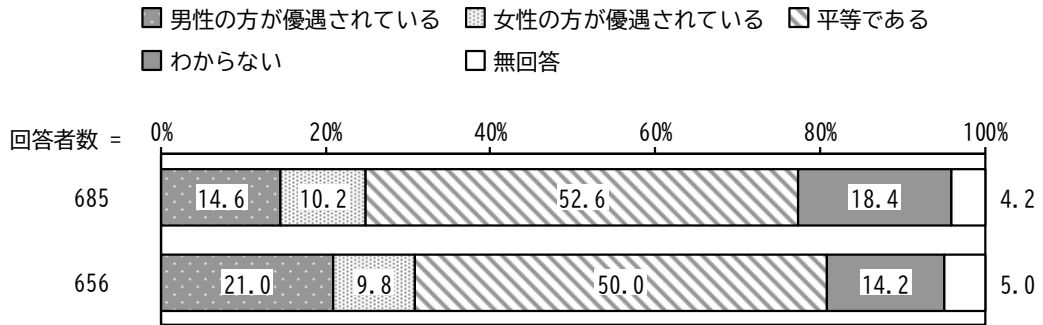
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「平等である」の割合が高くなっています。



③仕事の内容

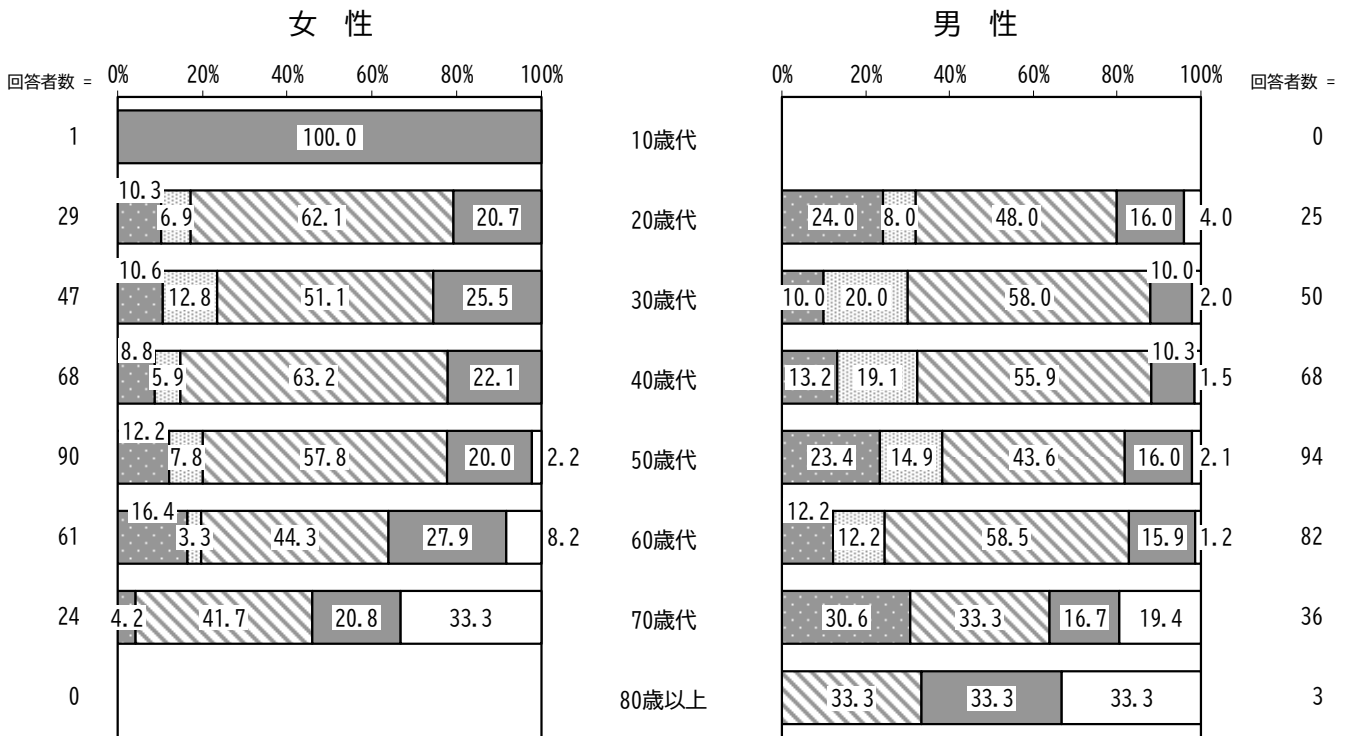
【府比較】

大阪府と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高い傾向にあり、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「女性の方が優遇されている」の割合が高い傾向にあります。また、女性40歳代で「平等である」の割合が高くなっています。

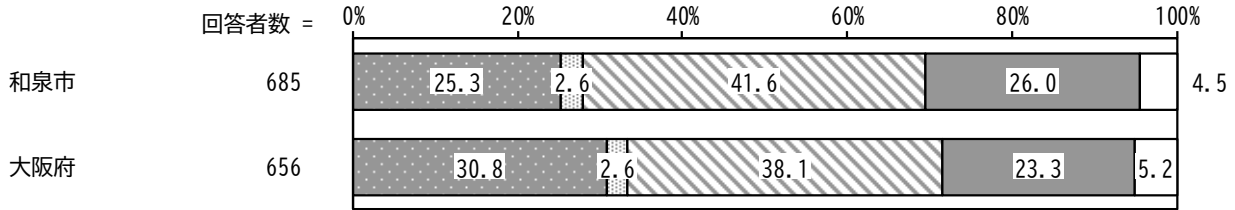


④昇進・昇格

【府比較】

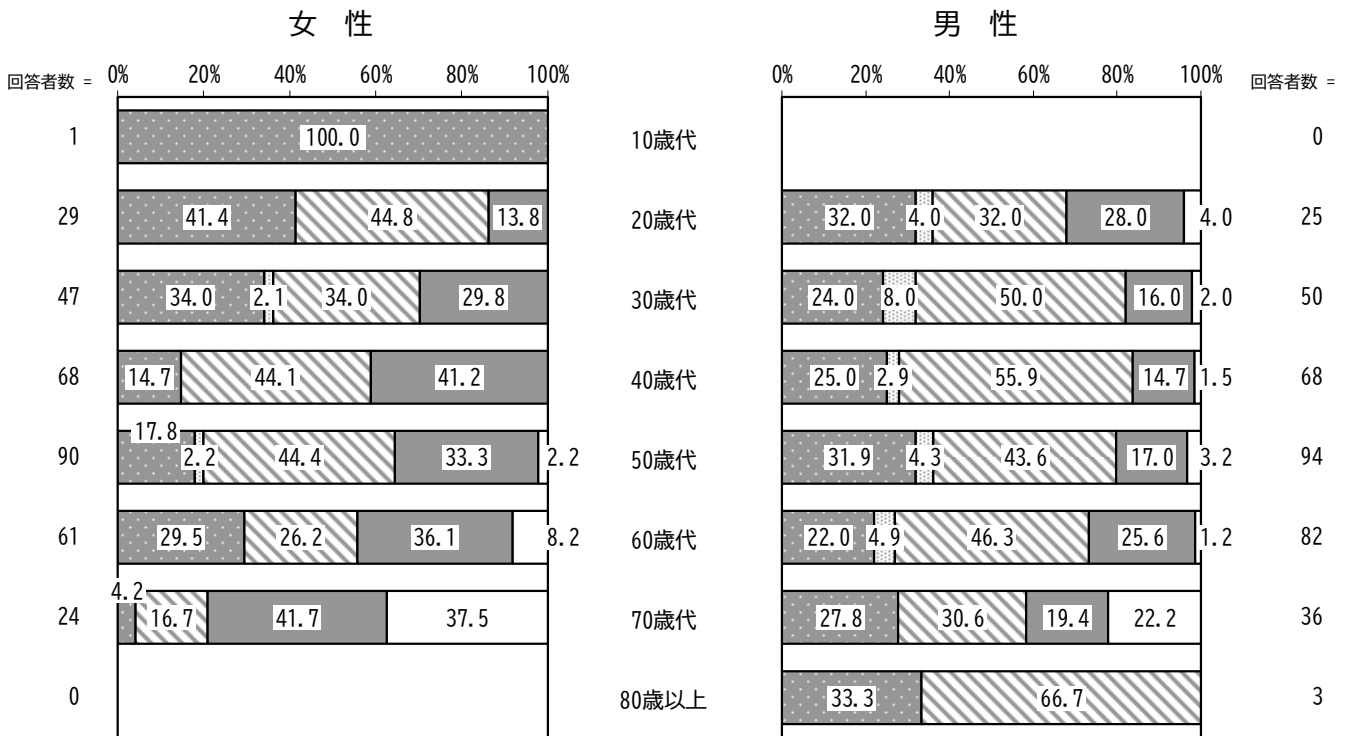
大阪府と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている ■ 平等である
■ わからない □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から50歳代まで年代が下がるほど、男性では10歳代から40歳代まで年代が上がるほど「平等である」の割合が高くなっています。また、女性20歳代で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。

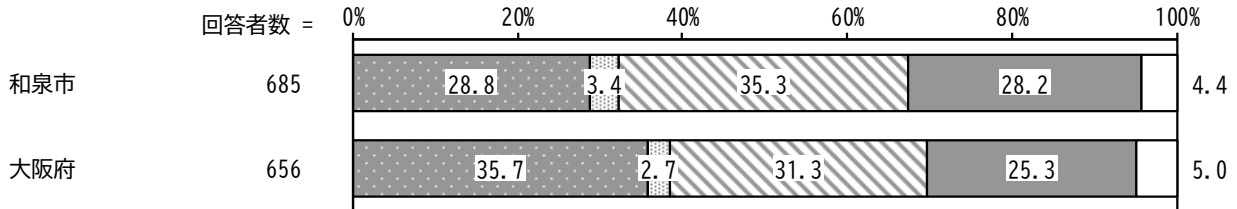


⑤管理職への登用

【府比較】

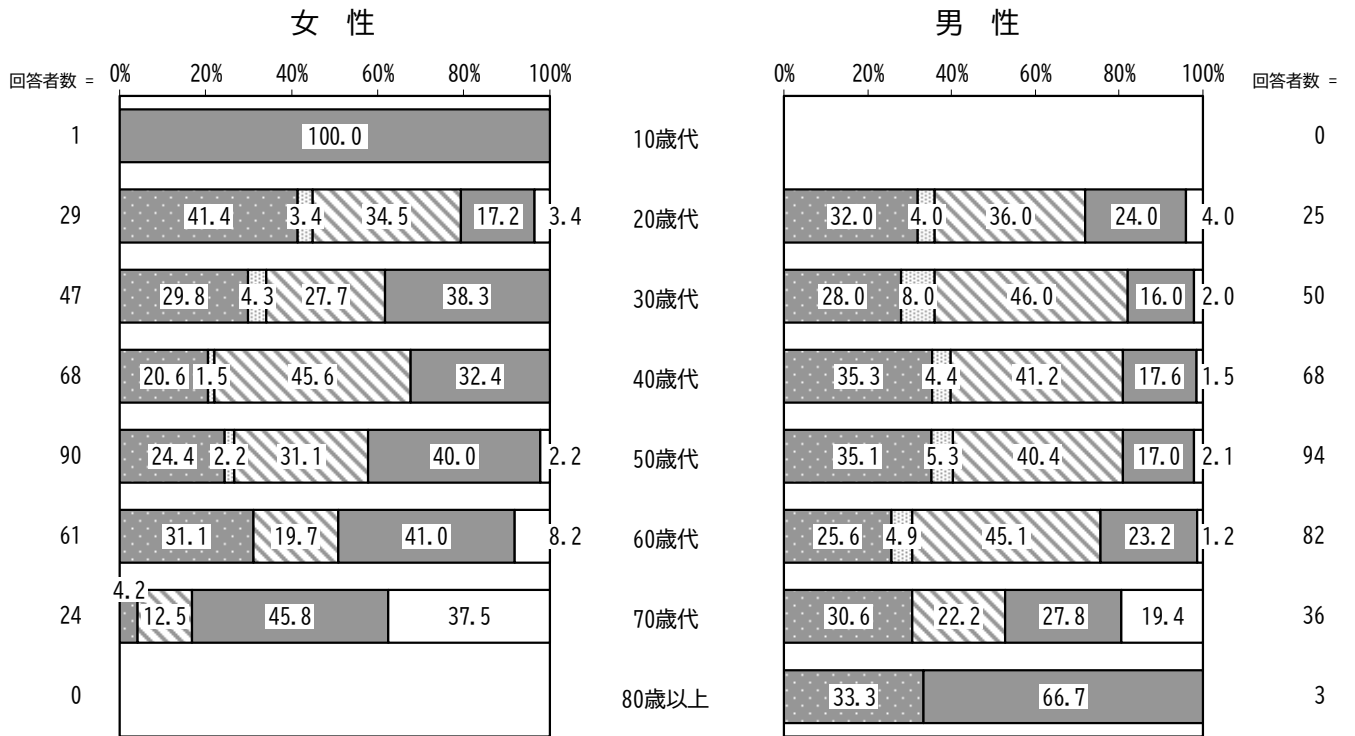
大阪府と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている ■ 平等である
■ わからない □ 無回答



【性・年代別】

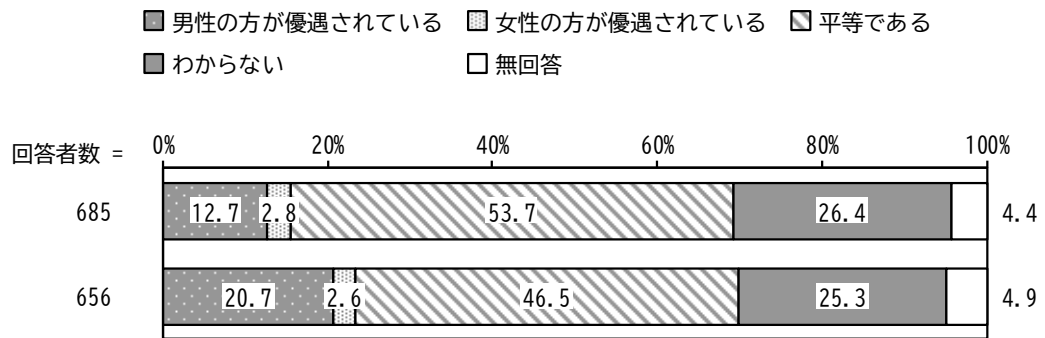
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「平等である」の割合が高くなっています。



⑥能力評価（業績評価・人事評価など）

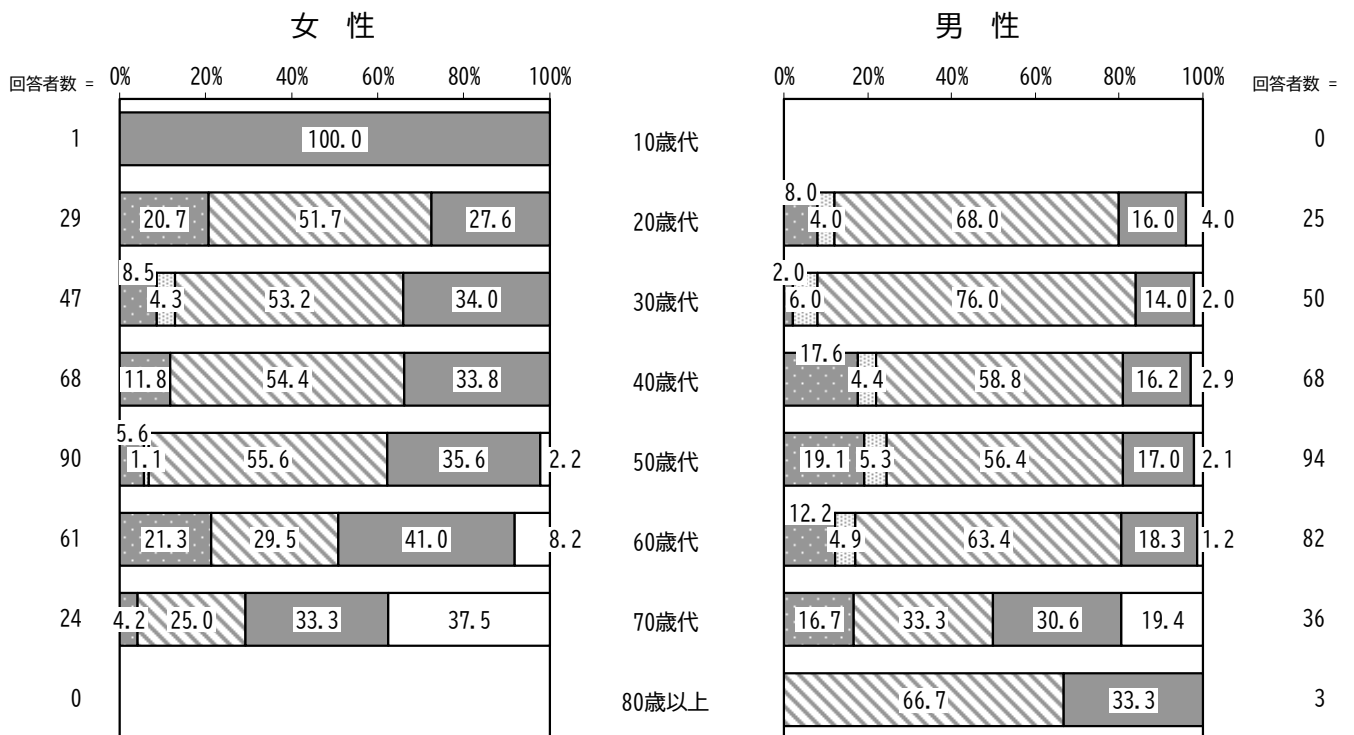
【府比較】

大阪府と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から50歳代まで年代が下がるほど「平等である」の割合が高くなっています。また、男性30歳代で「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

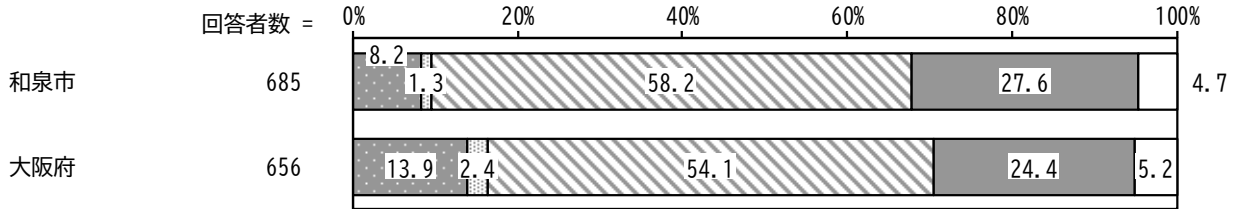


⑦研修の機会や内容（キャリア支援）

【府比較】

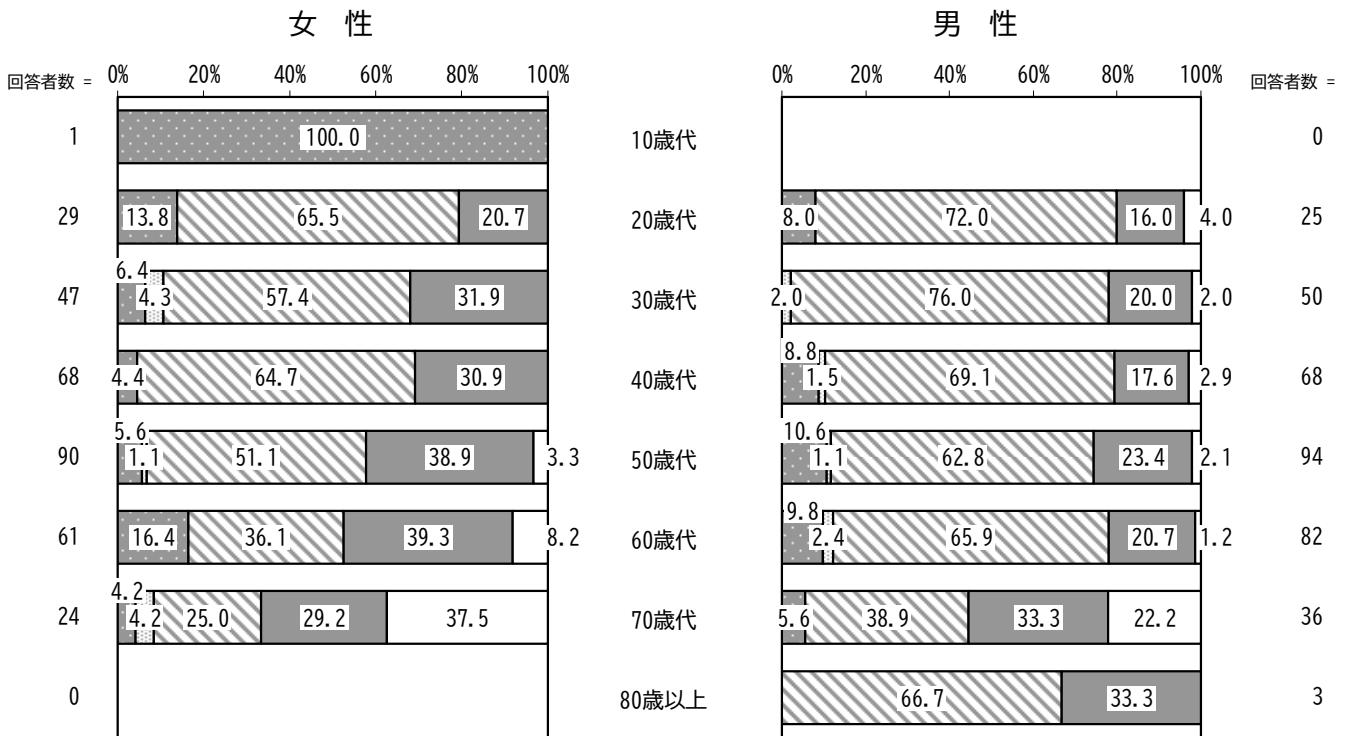
大阪府と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている ■ 平等である
■ わからない □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「平等である」の割合が高く、男性では80歳以上から50歳代まで年代が下がるほど「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。

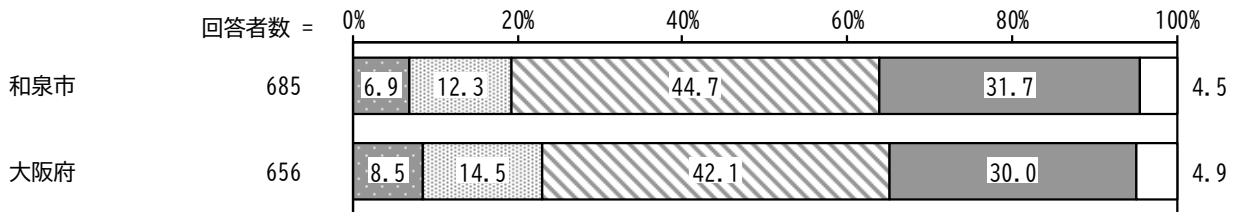


⑧家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備

【府比較】

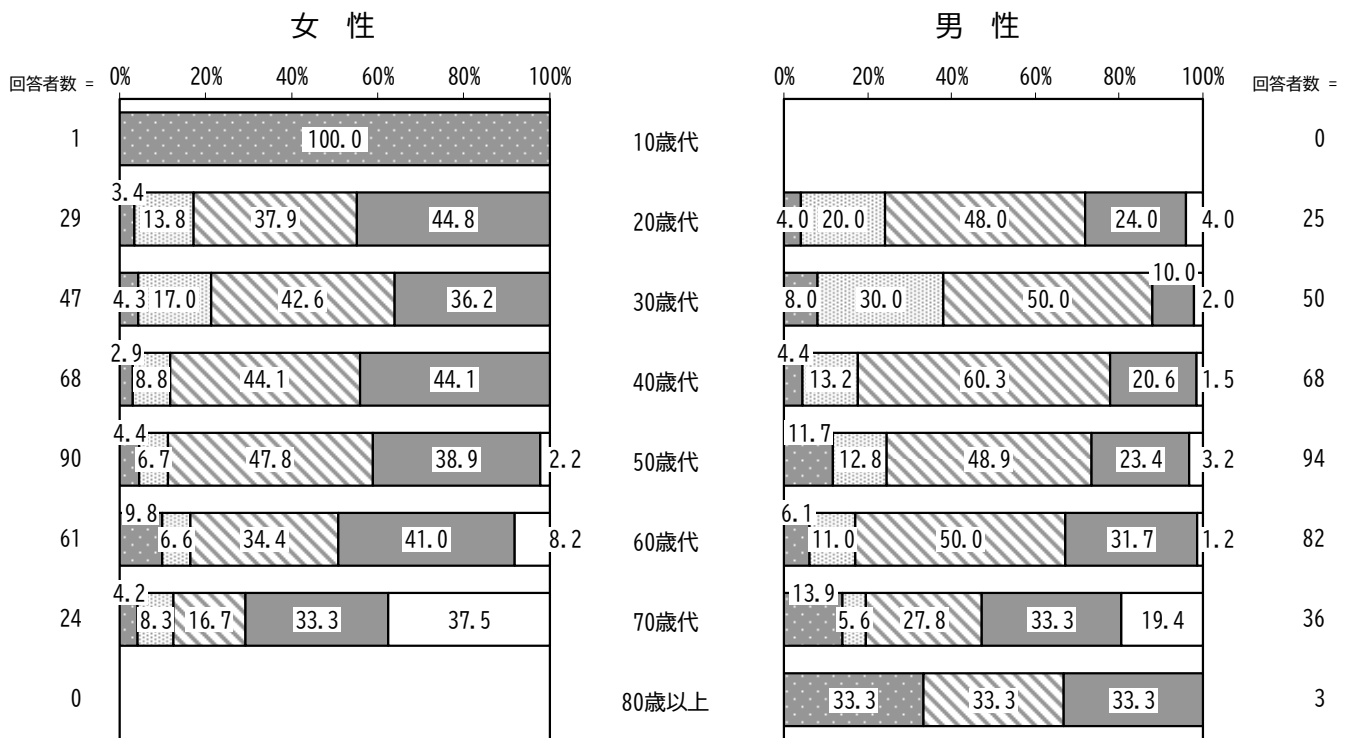
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている ■ 平等である
 ■ わからない □ 無回答



【性・年代別】

性・年代別にみると、男女ともに80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性40歳代で「平等である」の割合が高くなっています。

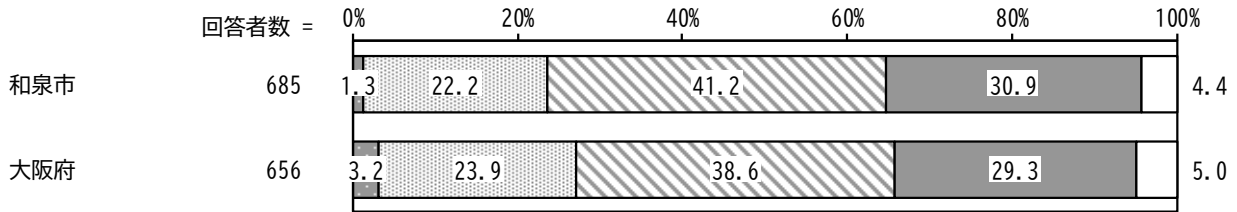


⑨育児、介護・看護体制など休暇の取得のしやすさ

【府比較】

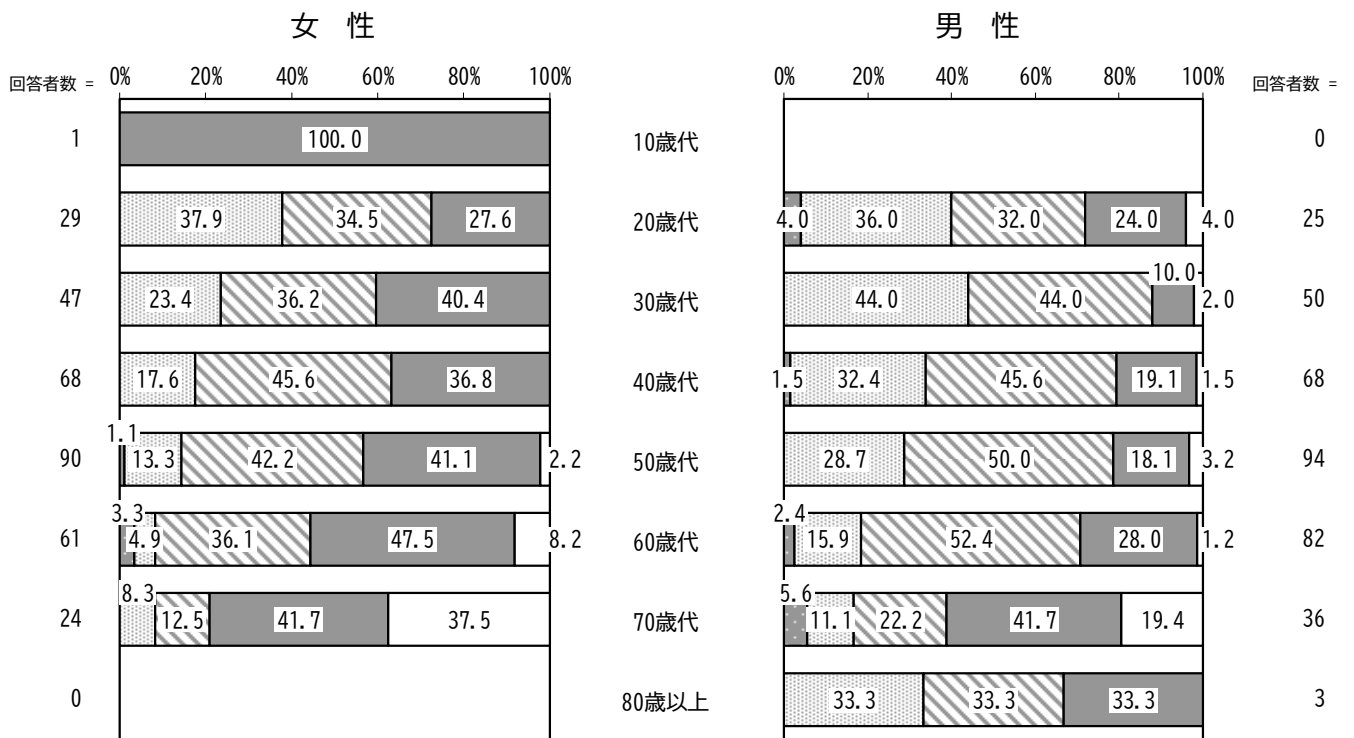
大阪府と比較すると、大きな差はみられません。

■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている ■ 平等である
 ■ わからない □ 無回答



【性・年代別】

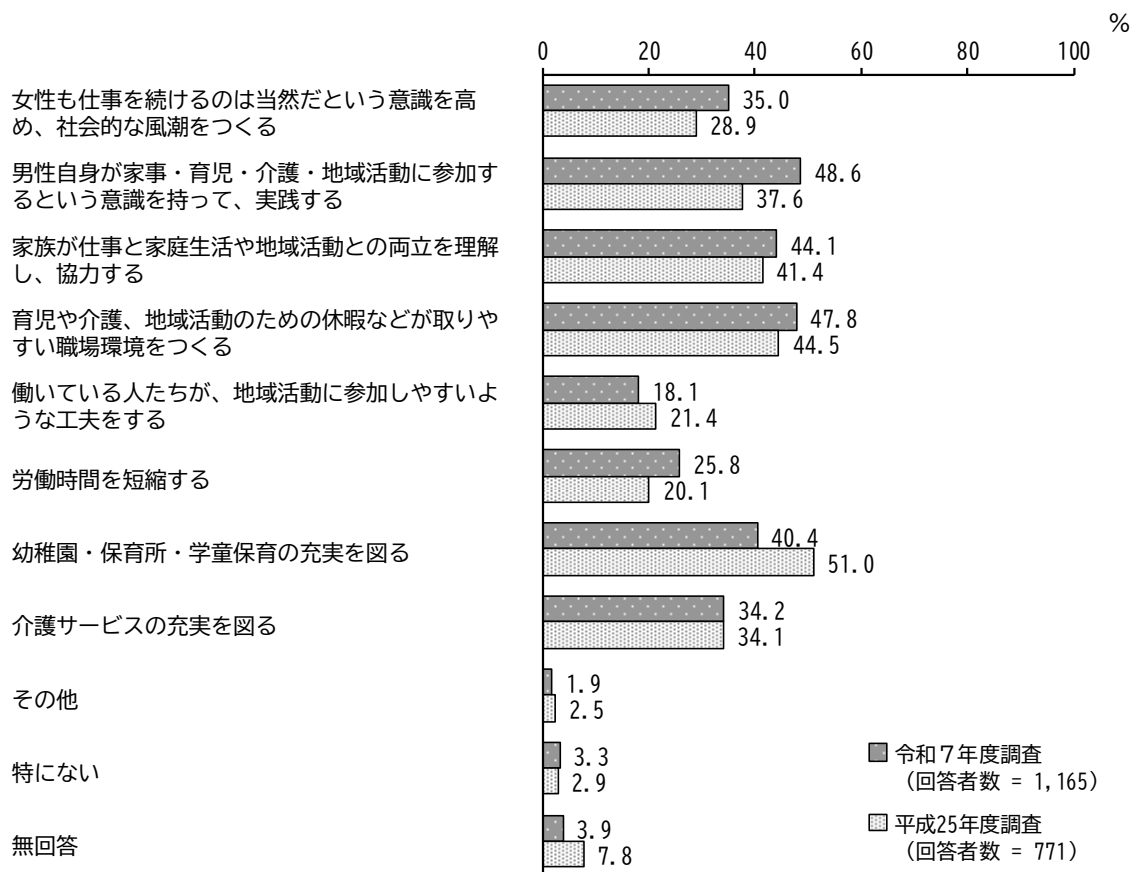
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、男性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「平等である」の割合が高くなっています。また、男性30歳代で「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



問 34 男女がともに、仕事と家庭生活（家事や子育て、介護など）や地域活動を両立させるためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「男性自身が家事・育児・介護・地域活動に参加するという意識を持って、実践する」の割合が48.6%と最も高く、次いで「育児や介護、地域活動のための休暇などが取りやすい職場環境をつくる」の割合が47.8%、「家族が仕事と家庭生活や地域活動との両立を理解し、協力する」の割合が44.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「女性も仕事を続けるのは当然だという意識を高め、社会的な風潮をつくる」「男性自身が家事・育児・介護・地域活動に参加するという意識を持って、実践する」「労働時間を短縮する」の割合が増加しています。一方、「幼稚園・保育所・学童保育の充実を図る」の割合が減少しています。



【性・年代別】

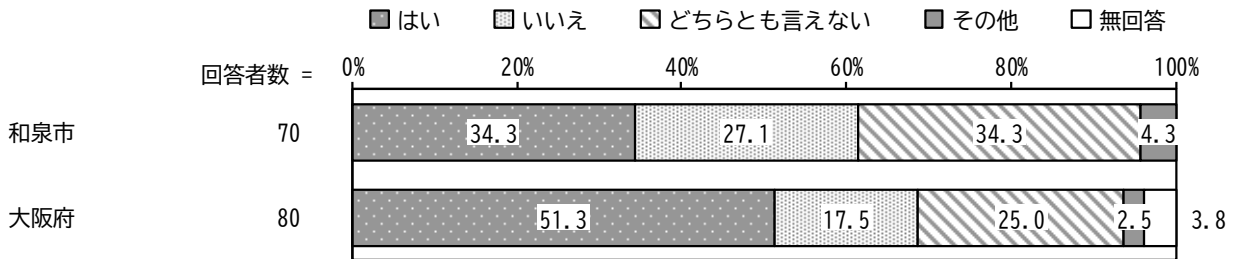
性・年代別にみると、女性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「働いている人たちが、地域活動に参加しやすいような工夫をする」の割合が高く、男性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「女性も仕事を続けるのは当然だ」という意識を高め、社会的な風潮をつくる」の割合が高い傾向にあります。また、女性30歳代で「男性自身が家事・育児・介護・地域活動に参加するという意識を持って、実践する」「労働時間を短縮する」、女性20歳代で「育児や介護、地域活動のための休暇などが取りやすい職場環境をつくる」、女性30歳代、男性30歳代で「幼稚園・保育所・学童保育の充実を図る」、女性60歳代で「介護サービスの充実を図る」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	然だという意識を高め、社会的な風潮をつくる	女性も仕事を続けるのは当然だという意識を高め、社会的な風潮をつくる	う意識を持って、実践する	男性自身が家事・育児・介護・地域活動に参加する	男性自身が家事・育児・介護・地域活動に参加する	労働時間を短縮する	働いている人たちが、地域活動に参加しやすいような工夫をする	労働時間を短縮する	幼稚園・保育所・学童保育の充実を図る	介護サービスの充実を図る	その他	特にな	無回答
全 体	1,165	35.0	48.6	44.1	47.8	18.1	25.8	40.4	34.2	1.9	3.3	3.9		
女性 10歳代	11	54.5	27.3	63.6	54.5	27.3	36.4	36.4	36.4	0.0	0.0	0.0		
20歳代	38	34.2	63.2	47.4	60.5	18.4	31.6	50.0	23.7	2.6	2.6	0.0		
30歳代	52	30.8	73.1	40.4	57.7	17.3	48.1	55.8	25.0	3.8	3.8	1.9		
40歳代	80	43.8	58.8	53.8	48.8	13.8	35.0	40.0	27.5	1.3	2.5	0.0		
50歳代	118	39.8	53.4	44.9	46.6	15.3	22.9	33.9	39.8	2.5	3.4	0.8		
60歳代	105	45.7	56.2	46.7	57.1	18.1	20.0	49.5	45.7	0.0	1.0	0.0		
70歳代	130	35.4	40.8	50.0	53.1	20.0	15.4	43.1	40.0	0.0	3.1	5.4		
80歳以上	60	26.7	55.0	35.0	43.3	25.0	25.0	41.7	41.7	1.7	5.0	8.3		
男性 10歳代	6	16.7	50.0	33.3	50.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7		
20歳代	35	34.3	37.1	34.3	40.0	17.1	28.6	37.1	25.7	5.7	2.9	5.7		
30歳代	55	25.5	38.2	47.3	41.8	20.0	41.8	56.4	29.1	5.5	1.8	1.8		
40歳代	68	32.4	51.5	38.2	33.8	17.6	41.2	38.2	20.6	0.0	0.0	1.5		
50歳代	104	35.6	36.5	40.4	51.9	9.6	34.6	26.9	27.9	2.9	4.8	0.0		
60歳代	112	33.9	50.0	44.6	55.4	26.8	16.1	36.6	30.4	2.7	3.6	3.6		
70歳代	116	36.2	42.2	45.7	40.5	18.1	17.2	44.0	41.4	0.9	5.2	5.2		
80歳以上	58	19.0	41.4	37.9	31.0	15.5	15.5	29.3	34.5	1.7	6.9	20.7		

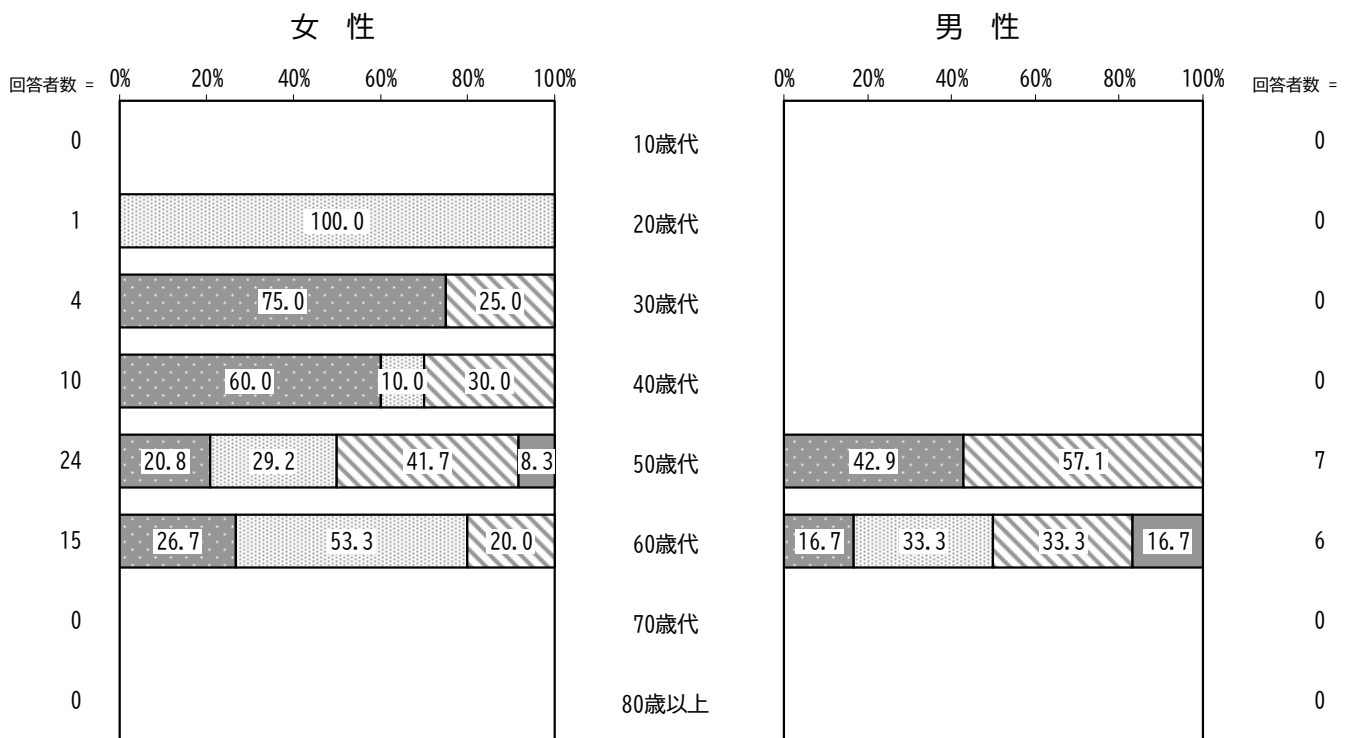
問 35 64 歳以下の方で、現在、専業主婦・専業主夫または、無職の方（学生は除く）にお聞きします。
 あなたは今後働きたいと思いますか（○は1つ）

「はい」、「どちらとも言えない」の割合が34.3%、「いいえ」の割合が27.1%となっています。
 大阪府と比較すると、「はい」の割合が低くなっています。



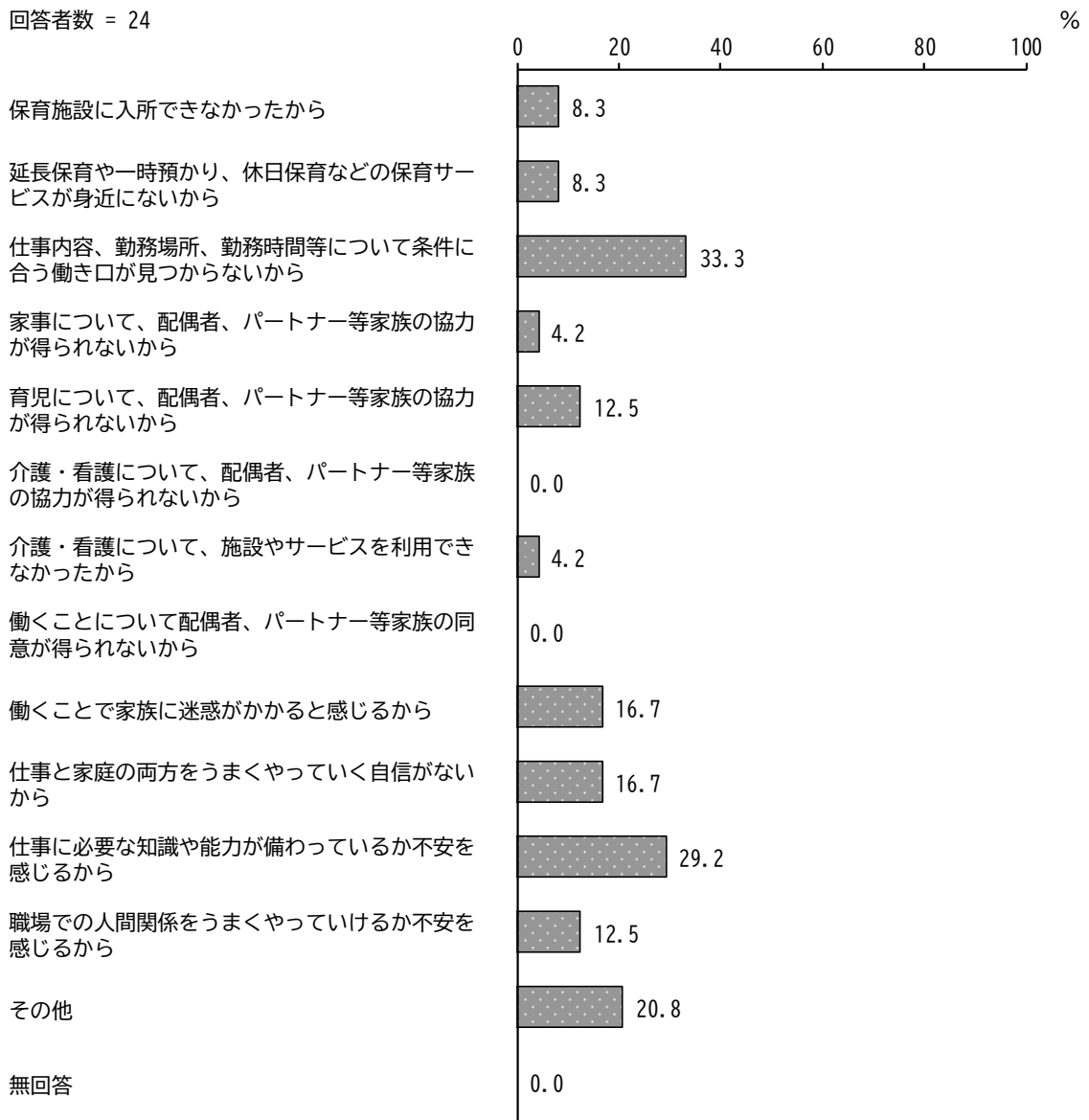
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「どちらとも言えない」の割合が高い傾向にあり、男性では70歳代から50歳代まで年代が下がるほど「はい」「どちらとも言えない」の割合が高くなっています。



問 35-1 問 35 で「はい」と回答された方にお聞きします。
 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか。あてはまるものの番号をすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるから」の割合が 29.2%、「働くことで家族に迷惑がかかると感じるから」、「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから」の割合が 16.7%となっています。



【性・年代別】

有効回答数が少ないため、コメントは差し控えます。

単位：％

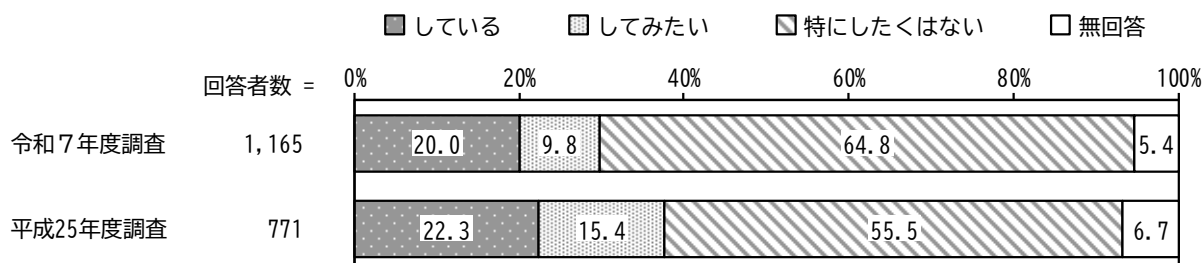
区分	回答者数(件)	保育施設に入所できなかったから	延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないから	仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから	家事について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから	育児について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから	介護・看護について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから	介護・看護について、施設やサービスを利用できなかったから
全体	24	8.3	8.3	33.3	4.2	12.5	0.0	4.2
女性 10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	6	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0
50歳代	5	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
60歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	働くことについて配偶者、パートナー等家族の同意が得られないから	働くことで家族に迷惑がかかると感じるから	仕事と家庭の両方をうまくやっていると自信がないから	仕事に必要な知識や能力が備わっていないか不安を感じるから	職場での人間関係をうまくやっていると不安を感じるから	その他	無回答
全体	0.0	16.7	16.7	29.2	12.5	20.8	0.0
女性 10歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
40歳代	0.0	50.0	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0
50歳代	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0
60歳代	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
70歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 10歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
60歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6 地域活動などへの参画について

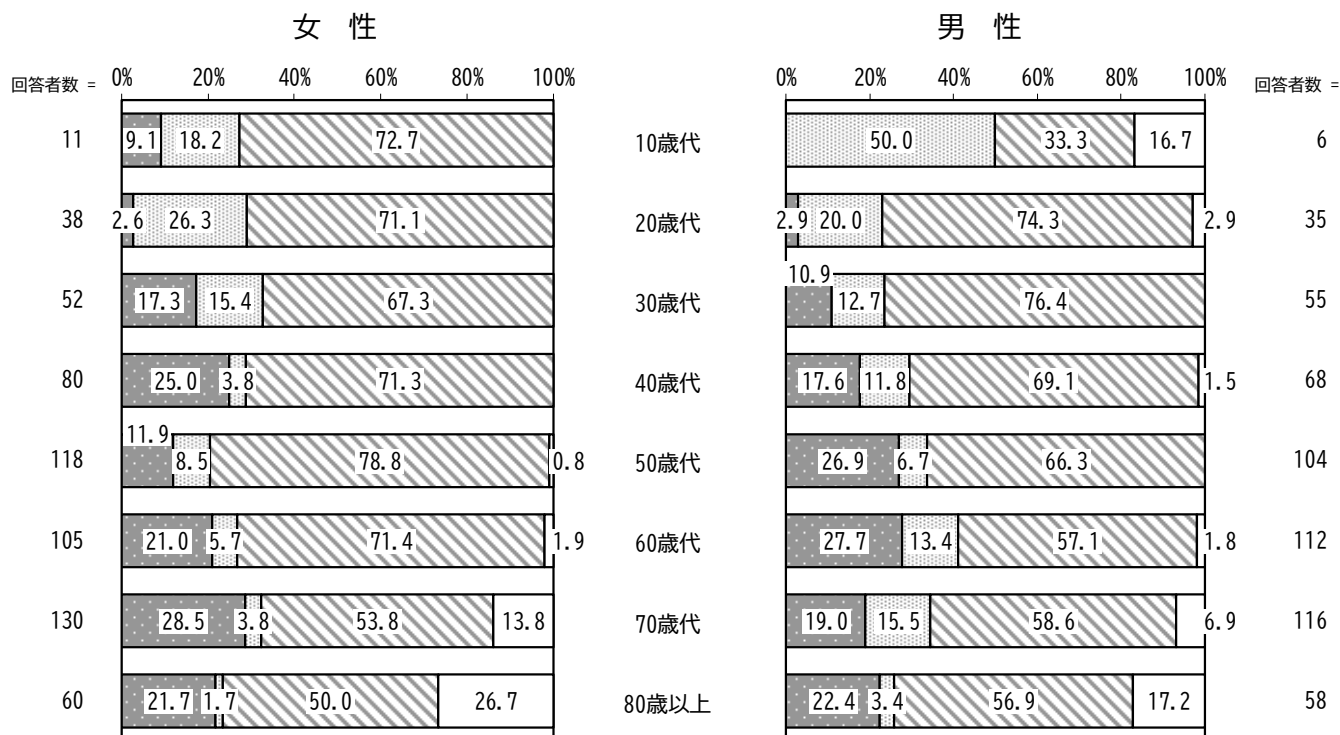
問 36 あなたは現在、地域活動など（自治会、子ども会、PTA活動、ボランティア活動、NPO活動など。趣味などの活動は除きます。）をしていますか。また、今後してみたいと思いますか。（○は1つ）

「している」の割合が20.0%、「してみたい」の割合が9.8%となっています。
平成25年度調査と比較すると、「してみたい」の割合が減少しています。



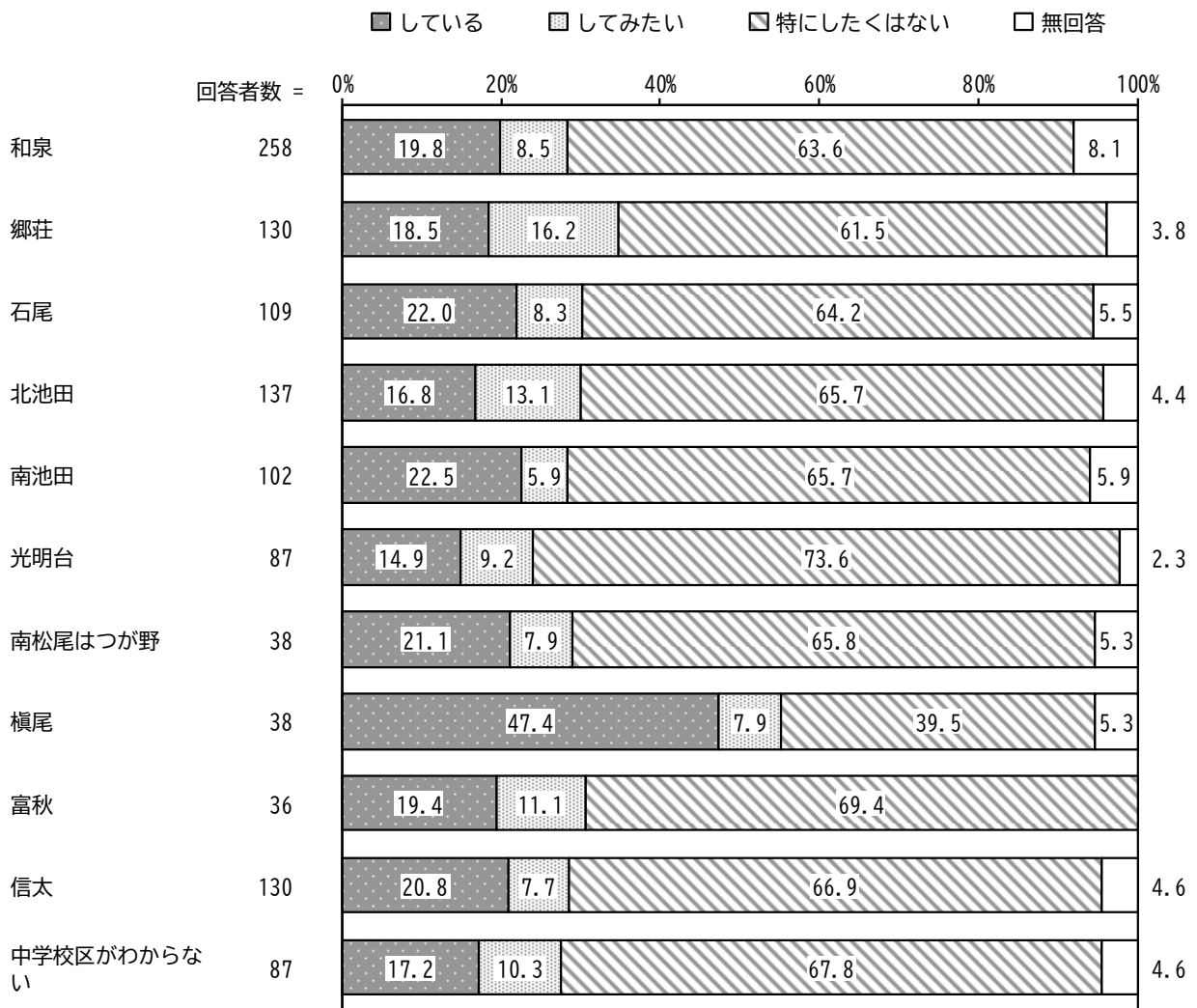
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「している」の割合が高くなっています。



【地区別】

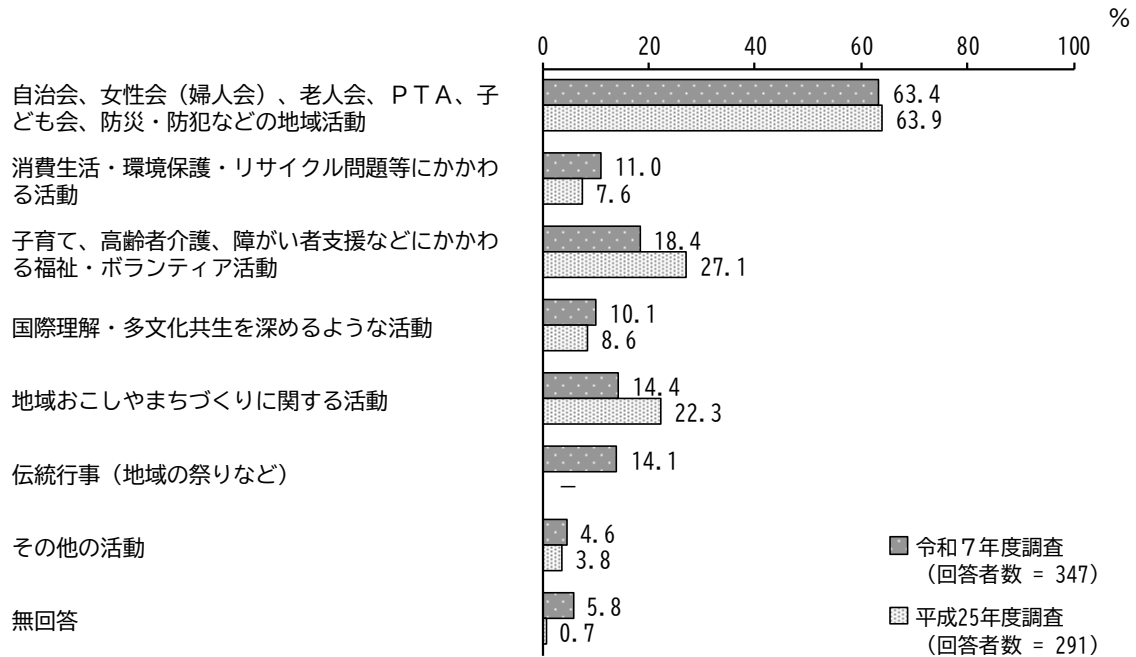
地区別にみると、槇尾で「している」の割合が高くなっています。



問 36-1 問 36 で「している」「してみたい」と回答された方にお聞きます。
それはどのような活動ですか。(〇はいくつでも)

「自治会、女性会（婦人会）、老人会、PTA、子ども会、防災・防犯などの地域活動」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「子育て、高齢者介護、障がい者支援などにかかわる福祉・ボランティア活動」の割合が 18.4%、「地域おこしやまちづくりに関する活動」の割合が 14.4%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「子育て、高齢者介護、障がい者支援などにかかわる福祉・ボランティア活動」「地域おこしやまちづくりに関する活動」の割合が減少しています。



※平成 25 年度調査では、「伝統行事（地域の祭りなど）」がありませんでした。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では50歳代から10歳代まで年代が下がるほど「国際理解・多文化共生を深めるような活動」の割合が高く、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「自治会、女性会（婦人会）、老人会、PTA、子ども会、防災・防犯などの地域活動」の割合が高い傾向にあります。また、男性70歳代で「地域おこしやまちづくりに関する活動」の割合が高くなっています。

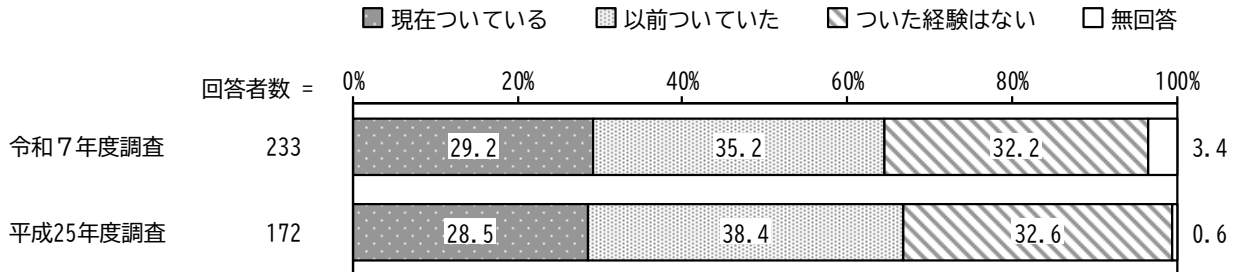
単位：％

区分	回答者数（件）	自治会、女性会（婦人会）、老人会、PTA、子ども会、防災・防犯などの地域活動	消費生活・環境保護・リサイクル問題等にかかわる活動	子育て、高齢者介護、障がい者支援などにかかわる福祉・ボランティア活動	国際理解・多文化共生を深めるような活動	地域おこしやまちづくりに関する活動	伝統行事（地域の祭りなど）	その他の活動	無回答
全体	347	63.4	11.0	18.4	10.1	14.4	14.1	4.6	5.8
女性 10歳代	3	0.0	33.3	33.3	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0
20歳代	11	45.5	27.3	36.4	36.4	9.1	36.4	9.1	0.0
30歳代	17	64.7	23.5	23.5	11.8	0.0	11.8	5.9	0.0
40歳代	23	82.6	0.0	13.0	4.3	0.0	4.3	4.3	0.0
50歳代	24	54.2	12.5	20.8	4.2	12.5	8.3	0.0	8.3
60歳代	28	78.6	3.6	32.1	7.1	7.1	3.6	7.1	0.0
70歳代	42	66.7	0.0	16.7	7.1	2.4	4.8	9.5	4.8
80歳以上	14	42.9	14.3	35.7	7.1	7.1	0.0	14.3	21.4
男性 10歳代	3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
20歳代	8	50.0	25.0	37.5	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
30歳代	13	53.8	30.8	23.1	23.1	30.8	23.1	0.0	15.4
40歳代	20	50.0	10.0	10.0	5.0	25.0	25.0	0.0	15.0
50歳代	35	62.9	2.9	8.6	8.6	8.6	31.4	5.7	5.7
60歳代	46	60.9	13.0	17.4	8.7	19.6	13.0	2.2	4.3
70歳代	40	65.0	17.5	10.0	10.0	30.0	17.5	2.5	7.5
80歳以上	15	93.3	13.3	13.3	6.7	20.0	6.7	0.0	6.7

問 36-2 問 36 で「している」と回答された方にお聞きします。
 その活動で、現在役職についていますか。または、役職についての経験がありますか。(○は1つ)

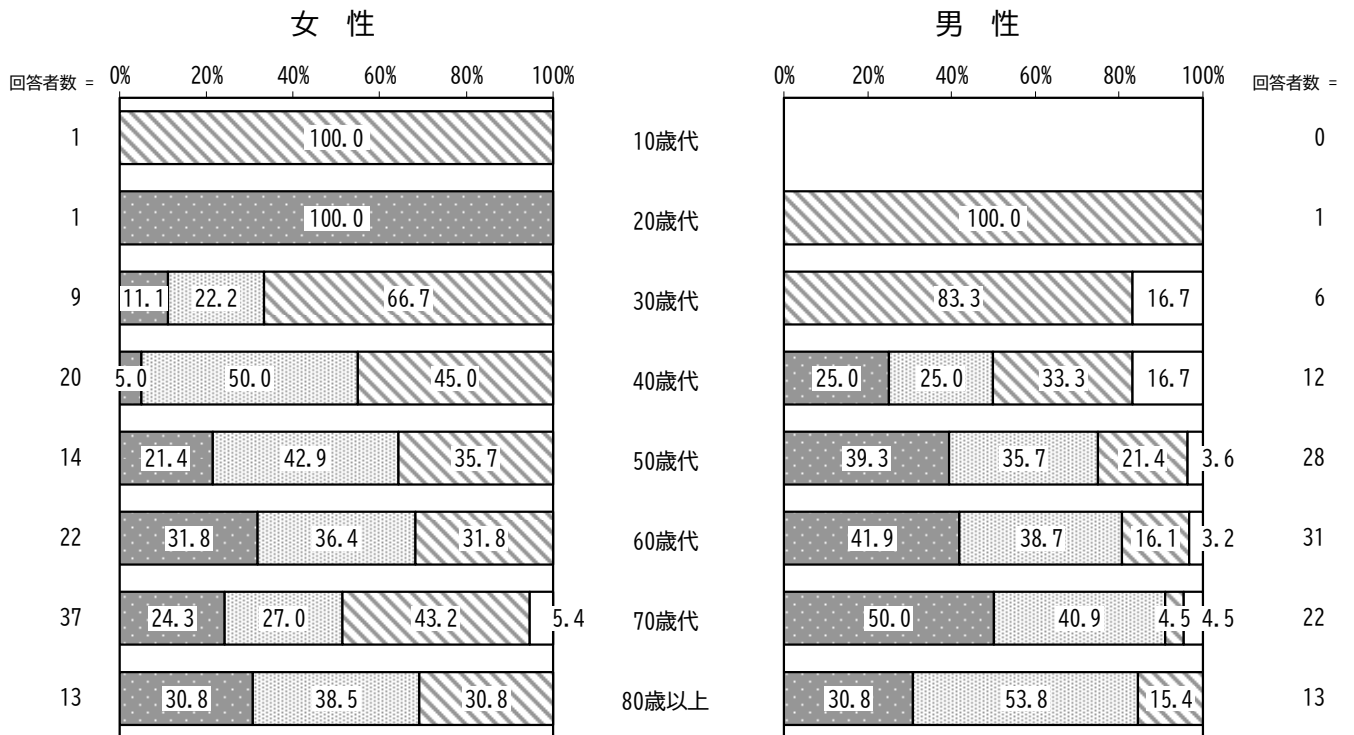
「現在についている」の割合が 29.2%、「以前ついていた」の割合が 35.2%、「ついた経験はない」の割合が 32.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性・年代別】

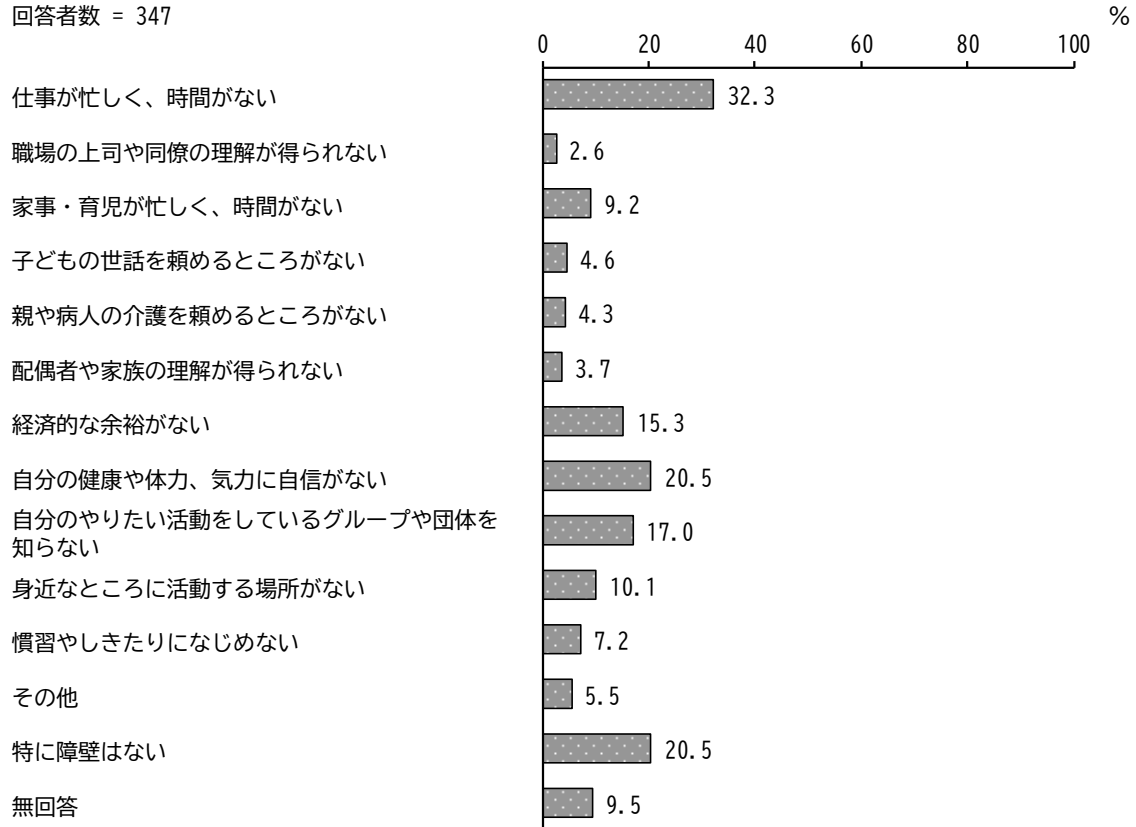
性・年代別にみると、女性では 70 歳代から 40 歳代まで年代が下がるほど、男性では 20 歳代から 80 歳以上まで年代が上がるほど「以前ついていた」の割合が高い傾向にあります。また、男性 70 歳代で「現在についている」、女性 40 歳代、女性 70 歳代で「ついた経験はない」の割合が高くなっています。



問 36-3 問 36 で「している」「してみたい」と回答された方にお聞きします。
 あなたが地域活動をしようとする場合、障壁となっていること、障壁となるであろうと思われることがありますか。(〇はいくつでも)

「仕事が忙しく、時間がない」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「自分の健康や体力、気力に自信がない」の割合が 20.5%、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」の割合が 17.0%となっています。

回答者数 = 347



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「仕事が忙しく、時間がない」の割合が高い傾向にあり、男性では80歳以上から50歳代まで年代が下がるほど「仕事が忙しく、時間がない」「経済的な余裕がない」の割合が高く、「自分の健康や体力、気力に自信がない」の割合が低くなっています。また、男性40歳代で「身近なところに活動する場所がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事が忙しく、 時間がない	職場の上司や同僚 の理解が得られな い	家事・育児が忙し く、時間がない	子どもの世話を頼 めるところがない	親や病人の介護を 頼めるところがな い	配偶者や家族の理 解が得られない	経済的な余裕がな い
全体	347	32.3	2.6	9.2	4.6	4.3	3.7	15.3
女性								
10歳代	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	11	72.7	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
30歳代	17	47.1	5.9	58.8	47.1	5.9	0.0	29.4
40歳代	23	43.5	4.3	30.4	8.7	4.3	0.0	8.7
50歳代	24	20.8	0.0	8.3	0.0	4.2	0.0	16.7
60歳代	28	21.4	0.0	3.6	0.0	3.6	10.7	3.6
70歳代	42	4.8	0.0	4.8	0.0	4.8	2.4	9.5
80歳以上	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性								
10歳代	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	8	62.5	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	37.5
30歳代	13	69.2	23.1	23.1	7.7	7.7	7.7	23.1
40歳代	20	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	20.0
50歳代	35	68.6	2.9	2.9	5.7	5.7	5.7	25.7
60歳代	46	41.3	6.5	8.7	4.3	8.7	6.5	21.7
70歳代	40	10.0	0.0	0.0	0.0	2.5	5.0	10.0
80歳以上	15	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7

区分	自分の健康や体力、 気力に自信がない	自分のやりたい活 動をしているグル ープや団体を知ら ない	身近なところに活 動する場所がない	慣習やしきたりに なじめない	その他	特に障壁はない	無回答
全体	20.5	17.0	10.1	7.2	5.5	20.5	9.5
女性							
10歳代	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
20歳代	0.0	45.5	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0
30歳代	17.6	11.8	5.9	11.8	11.8	5.9	0.0
40歳代	4.3	4.3	4.3	0.0	4.3	13.0	26.1
50歳代	25.0	20.8	4.2	8.3	0.0	29.2	4.2
60歳代	21.4	10.7	7.1	3.6	10.7	28.6	14.3
70歳代	35.7	14.3	4.8	7.1	4.8	26.2	14.3
80歳以上	14.3	0.0	14.3	0.0	35.7	21.4	28.6
男性							
10歳代	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
20歳代	12.5	50.0	12.5	25.0	0.0	12.5	12.5
30歳代	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7
40歳代	25.0	20.0	25.0	15.0	0.0	20.0	0.0
50歳代	14.3	5.7	2.9	5.7	2.9	5.7	5.7
60歳代	19.6	21.7	13.0	10.9	6.5	23.9	2.2
70歳代	22.5	25.0	15.0	5.0	2.5	30.0	7.5
80歳以上	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	46.7	20.0

【地区別】

地区別にみると、槇尾、富秋で「仕事が忙しく、時間がない」、南松尾はつが野で「家事・育児が忙しく、時間がない」「子どもの世話を頼めるところがない」、富秋で「配偶者や家族の理解が得られない」「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」、中学校区がわからないで「経済的な余裕がない」、北池田、光明台で「自分の健康や体力、気力に自信がない」の割合が高くなっています。

単位：％

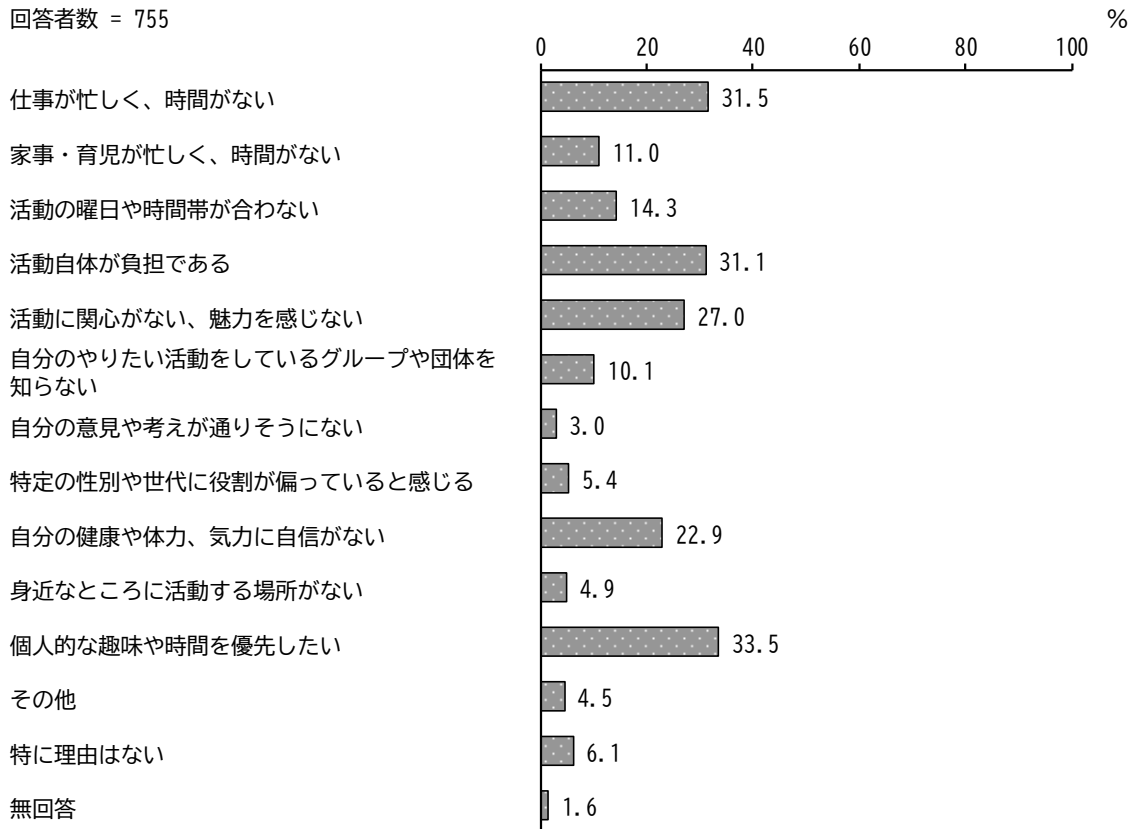
区分	回答者数(件)	仕事が忙しく、時間がない	職場の上司や同僚の理解が得られない	家事・育児が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	配偶者や家族の理解が得られない	経済的な余裕がない
全体	347	32.3	2.6	9.2	4.6	4.3	3.7	15.3
和泉	73	28.8	6.8	13.7	8.2	6.8	5.5	20.5
郷荘	45	31.1	2.2	13.3	4.4	8.9	4.4	17.8
石尾	33	33.3	0.0	9.1	3.0	0.0	3.0	18.2
北池田	41	31.7	0.0	7.3	0.0	0.0	0.0	7.3
南池田	29	31.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	6.9
光明台	21	9.5	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	9.5
南松尾はつが野	11	36.4	9.1	27.3	18.2	0.0	18.2	0.0
槇尾	21	52.4	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0	14.3
富秋	11	54.5	0.0	18.2	9.1	0.0	27.3	18.2
信太	37	32.4	2.7	5.4	2.7	8.1	2.7	10.8
中学校区がわからない	24	37.5	0.0	12.5	8.3	4.2	0.0	29.2

区分	自分の健康や体力、気力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない	慣習やしきたりになじめない	その他	特に障壁はない	無回答
全体	20.5	17.0	10.1	7.2	5.5	20.5	9.5
和泉	19.2	23.3	12.3	11.0	4.1	13.7	12.3
郷荘	22.2	11.1	8.9	6.7	2.2	22.2	6.7
石尾	24.2	12.1	15.2	0.0	12.1	27.3	3.0
北池田	31.7	24.4	12.2	4.9	0.0	17.1	9.8
南池田	13.8	13.8	10.3	3.4	3.4	37.9	6.9
光明台	33.3	14.3	9.5	4.8	0.0	19.0	19.0
南松尾はつが野	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	27.3
槇尾	4.8	4.8	0.0	9.5	4.8	23.8	9.5
富秋	18.2	27.3	9.1	9.1	9.1	18.2	0.0
信太	8.1	18.9	16.2	10.8	10.8	24.3	8.1
中学校区がわからない	29.2	20.8	0.0	4.2	12.5	8.3	8.3

問 36-4 問 36 で「特にしたくはない」と回答された方にお聞きします。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「個人的な趣味や時間を優先したい」の割合が 33.5%と最も高く、次いで「仕事が忙しく、時間がない」の割合が 31.5%、「活動自体が負担である」の割合が 31.1%となっています。

回答者数 = 755



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では年代が下がるほど「個人的な趣味や時間を優先したい」の割合が高い傾向にあり、男性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「活動に関心がない、魅力を感じない」の割合が高い傾向にあります。また、男性40歳代で「仕事が忙しく、時間がない」、女性30歳代で「家事・育児が忙しく、時間がない」「活動自体が負担である」、女性30歳代、男性30歳代で「活動の曜日や時間帯が合わない」、女性20歳代で「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」、女性80歳以上で「自分の健康や体力、気力に自信がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	活動の曜日や時間帯が合わない	活動自体が負担である	活動に関心がない、魅力を感じない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	自分の意見や考えが通りそうにない
全体	755	31.5	11.0	14.3	31.1	27.0	10.1	3.0
女性 10歳代	8	0.0	0.0	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0
20歳代	27	33.3	14.8	7.4	37.0	33.3	22.2	7.4
30歳代	35	54.3	45.7	28.6	51.4	37.1	11.4	5.7
40歳代	57	50.9	40.4	21.1	40.4	24.6	3.5	1.8
50歳代	93	30.1	10.8	14.0	37.6	29.0	10.8	2.2
60歳代	75	26.7	4.0	13.3	37.3	32.0	14.7	1.3
70歳代	70	7.1	0.0	5.7	15.7	12.9	5.7	1.4
80歳以上	30	0.0	0.0	3.3	16.7	3.3	0.0	0.0
男性 10歳代	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	26	46.2	11.5	19.2	30.8	42.3	19.2	3.8
30歳代	42	54.8	28.6	31.0	38.1	35.7	7.1	2.4
40歳代	47	63.8	17.0	21.3	34.0	34.0	6.4	0.0
50歳代	69	53.6	4.3	15.9	37.7	36.2	8.7	7.2
60歳代	64	21.9	0.0	12.5	25.0	28.1	7.8	3.1
70歳代	68	13.2	0.0	8.8	19.1	22.1	16.2	4.4
80歳以上	33	3.0	0.0	0.0	15.2	12.1	3.0	3.0

区分	特定の性別や世代に役割が偏っていると感ずる	自分の健康や体力、気力に自信がない	身近なところに活動する場所がない	個人的な趣味や時間を優先したい	その他	特に理由はない	無回答
全体	5.4	22.9	4.9	33.5	4.5	6.1	1.6
女性 10歳代	0.0	25.0	0.0	62.5	0.0	12.5	0.0
20歳代	7.4	11.1	3.7	55.6	11.1	7.4	0.0
30歳代	8.6	14.3	0.0	40.0	2.9	2.9	0.0
40歳代	7.0	7.0	1.8	36.8	1.8	5.3	0.0
50歳代	4.3	14.0	6.5	38.7	3.2	2.2	1.1
60歳代	5.3	25.3	4.0	32.0	4.0	4.0	1.3
70歳代	4.3	55.7	7.1	27.1	5.7	11.4	1.4
80歳以上	0.0	63.3	13.3	10.0	16.7	13.3	3.3
男性 10歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
20歳代	11.5	7.7	3.8	46.2	7.7	3.8	3.8
30歳代	4.8	4.8	9.5	28.6	2.4	4.8	2.4
40歳代	4.3	6.4	6.4	25.5	0.0	6.4	0.0
50歳代	8.7	13.0	1.4	36.2	2.9	1.4	1.4
60歳代	4.7	23.4	1.6	37.5	7.8	4.7	3.1
70歳代	7.4	30.9	7.4	30.9	4.4	7.4	1.5
80歳以上	0.0	42.4	6.1	21.2	3.0	15.2	6.1

【地区別】

地区別にみると、南松尾はつが野で「仕事が忙しく、時間がない」「家事・育児が忙しく、時間がない」、榎尾で「身近なところに活動する場所がない」、富秋で「個人的な趣味や時間を優先したい」の割合が高くなっています。

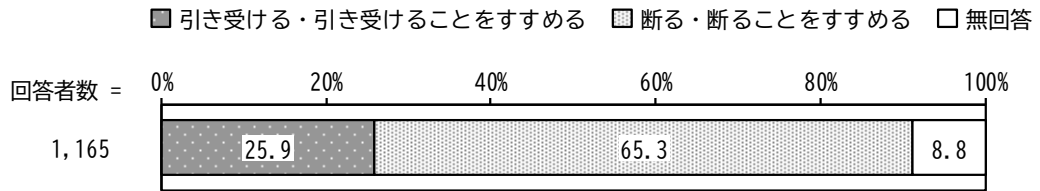
単位：％

区分	回答者数(件)	仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	活動の曜日や時間帯が合わない	活動自体が負担である	活動に関心がない、魅力を感じない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	自分の意見や考えが通りそうにない
全体	755	31.5	11.0	14.3	31.1	27.0	10.1	3.0
和泉	164	39.6	13.4	14.6	26.8	23.2	12.8	3.0
郷荘	80	31.3	10.0	15.0	30.0	32.5	17.5	2.5
石尾	70	32.9	8.6	7.1	32.9	25.7	4.3	4.3
北池田	90	26.7	13.3	13.3	27.8	27.8	11.1	2.2
南池田	67	31.3	14.9	13.4	31.3	20.9	6.0	3.0
光明台	64	25.0	7.8	14.1	39.1	25.0	6.3	3.1
南松尾はつが野	25	52.0	40.0	20.0	32.0	28.0	0.0	0.0
榎尾	15	20.0	0.0	6.7	33.3	33.3	0.0	6.7
富秋	25	28.0	4.0	12.0	40.0	36.0	8.0	4.0
信太	87	26.4	5.7	14.9	27.6	29.9	11.5	4.6
中学校区がわからない	59	27.1	6.8	22.0	40.7	30.5	10.2	0.0

区分	特定の性別や世代に役割が偏っていると感じる	自分の健康や体力、気力に自信がない	身近なところに活動する場所がない	個人的な趣味や時間を優先したい	その他	特に理由はない	無回答
全体	5.4	22.9	4.9	33.5	4.5	6.1	1.6
和泉	3.7	17.7	4.9	29.9	3.7	6.7	2.4
郷荘	3.8	28.8	7.5	38.8	5.0	2.5	0.0
石尾	4.3	27.1	2.9	34.3	7.1	5.7	4.3
北池田	6.7	21.1	8.9	31.1	7.8	8.9	0.0
南池田	9.0	20.9	1.5	29.9	1.5	9.0	1.5
光明台	4.7	25.0	6.3	29.7	4.7	6.3	0.0
南松尾はつが野	12.0	4.0	0.0	40.0	0.0	4.0	0.0
榎尾	6.7	26.7	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0
富秋	4.0	16.0	0.0	48.0	4.0	4.0	0.0
信太	5.7	29.9	3.4	24.1	5.7	4.6	2.3
中学校区がわからない	5.1	28.8	3.4	47.5	3.4	5.1	3.4

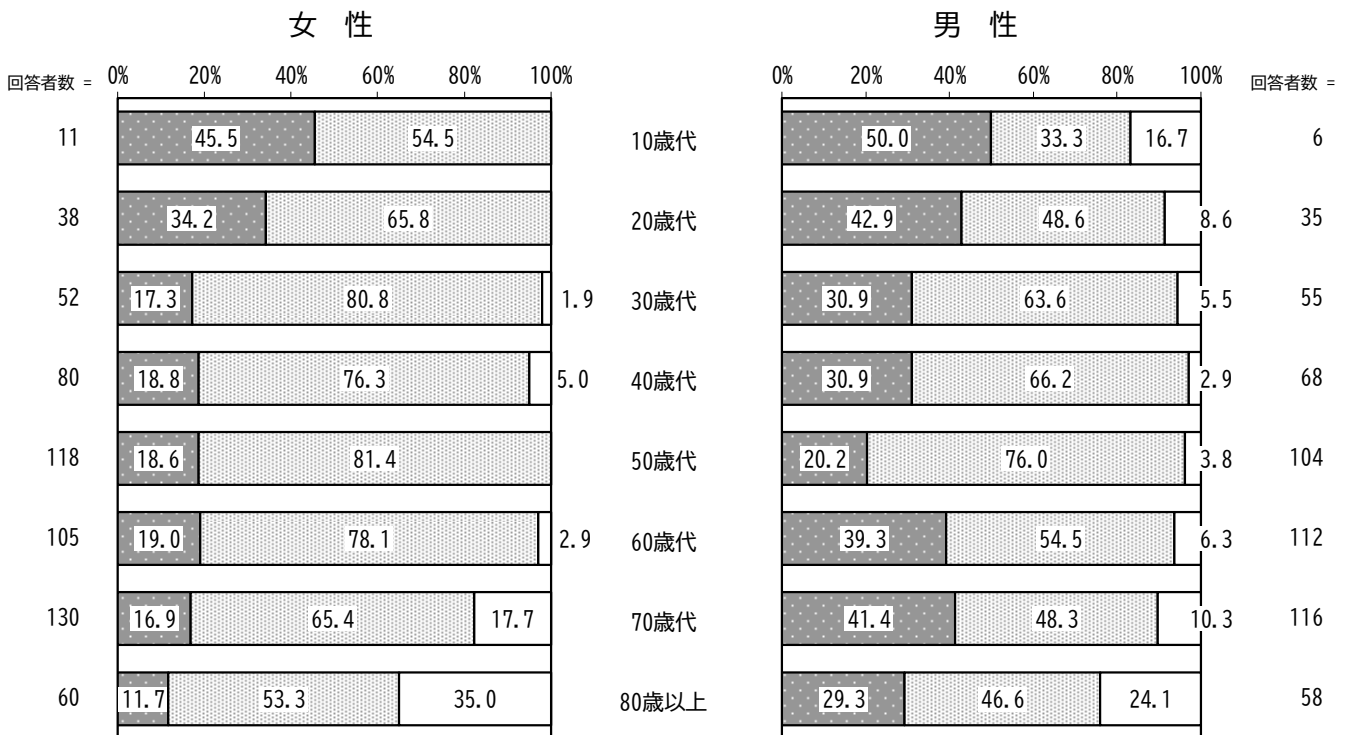
問 37 自治会長やPTA会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどうしますか。(○は1つ)

「引き受ける・引き受けることをすすめる」の割合が25.9%、「断る・断ることをすすめる」の割合が65.3%となっています。



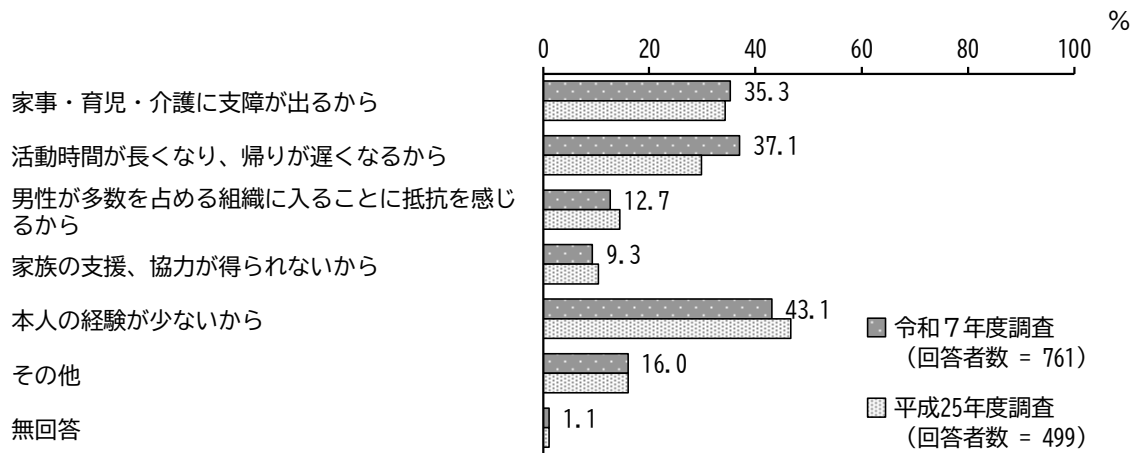
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「断る・断ることをすすめる」の割合が高くなっています。



問 37-1 問 37で「断る・断ることをすすめる」と回答された方にお聞きします。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「本人の経験が少ないから」の割合が43.1%と最も高く、次いで「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」の割合が37.1%、「家事・育児・介護に支障が出るから」の割合が35.3%となっています。
平成25年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「家事・育児・介護に支障が出るから」「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」の割合が高い傾向にあり、男性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」の割合が高くなっています。また、男性80歳以上で「本人の経験が少ないから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	家事・育児・介護に支障が出るから	活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから	男性が多数を占める組織に入ることに抵抗を感じるから	家族の支援、協力が得られないから	本人の経験が少ないから	その他	無回答
全体	761	35.3	37.1	12.7	9.3	43.1	16.0	1.1
女性 10歳代	6	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	16.7	0.0
20歳代	25	32.0	40.0	16.0	8.0	52.0	8.0	4.0
30歳代	42	61.9	54.8	21.4	4.8	35.7	16.7	0.0
40歳代	61	52.5	45.9	1.6	8.2	49.2	13.1	0.0
50歳代	96	40.6	46.9	16.7	7.3	44.8	13.5	0.0
60歳代	82	24.4	28.0	8.5	13.4	53.7	12.2	2.4
70歳代	85	17.6	27.1	11.8	9.4	47.1	24.7	2.4
80歳以上	32	12.5	9.4	9.4	18.8	40.6	34.4	3.1
男性 10歳代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
20歳代	17	35.3	52.9	17.6	11.8	23.5	17.6	0.0
30歳代	35	65.7	48.6	17.1	5.7	20.0	17.1	0.0
40歳代	45	51.1	46.7	11.1	8.9	15.6	17.8	0.0
50歳代	79	38.0	38.0	15.2	12.7	43.0	11.4	1.3
60歳代	61	32.8	37.7	11.5	6.6	34.4	18.0	1.6
70歳代	56	17.9	35.7	10.7	10.7	55.4	8.9	0.0
80歳以上	27	22.2	14.8	14.8	7.4	63.0	18.5	0.0

【地区別】

地区別にみると、南松尾はつが野で「家事・育児・介護に支障が出るから」、槇尾で「活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから」「男性が多数を占める組織に入ることには抵抗を感じるから」、富秋で「本人の経験が少ないから」の割合が高くなっています。

単位：％

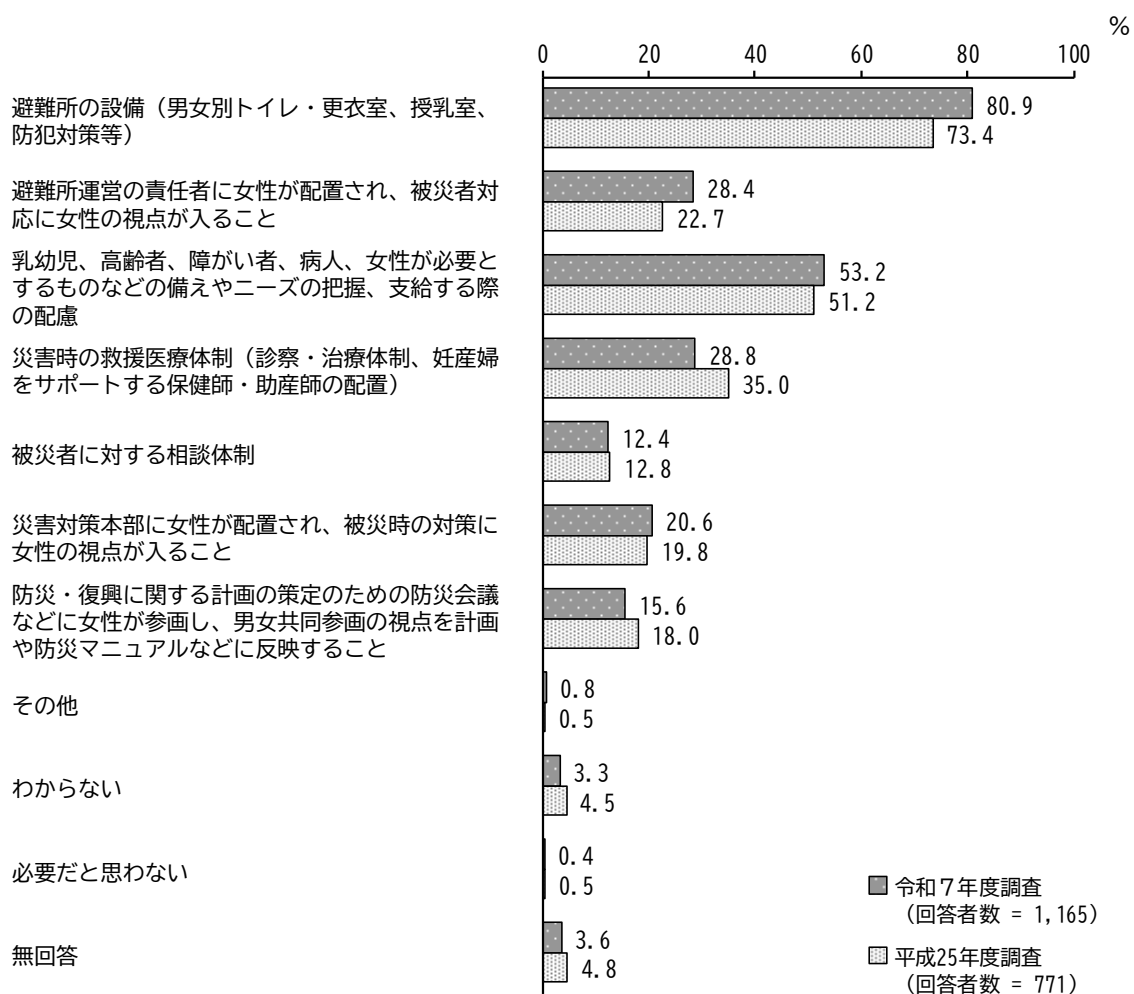
区分	回答者数 (件)	家事・育児・介護に支障が出るから	活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから	男性が多数を占める組織に入ることには抵抗を感じるから	家族の支援、協力が得られないから	本人の経験が少ないから	その他	無回答
全 体	761	35.3	37.1	12.7	9.3	43.1	16.0	1.1
和泉	173	41.0	39.3	10.4	11.6	38.7	14.5	1.7
郷荘	90	42.2	42.2	10.0	10.0	42.2	13.3	1.1
石尾	70	31.4	34.3	5.7	8.6	47.1	17.1	0.0
北池田	93	31.2	41.9	9.7	10.8	41.9	20.4	0.0
南池田	62	38.7	38.7	14.5	1.6	38.7	17.7	1.6
光明台	57	29.8	38.6	15.8	12.3	49.1	15.8	0.0
南松尾はつが野	20	75.0	35.0	10.0	5.0	25.0	10.0	0.0
槇尾	19	42.1	52.6	36.8	10.5	31.6	10.5	0.0
富秋	26	42.3	38.5	19.2	3.8	53.8	7.7	3.8
信太	90	21.1	25.6	13.3	10.0	52.2	14.4	1.1
中学校区がわからない	53	28.3	26.4	20.8	9.4	43.4	26.4	1.9

7 防災について

問 38 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要が特にあると思うことは何ですか。(〇は3つまで)

「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）」の割合が80.9%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が53.2%、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の割合が28.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）」「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」の割合が増加しています。一方、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「被災者に対する相談体制」の割合が高い傾向にあります。また、女性20歳代で「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）」「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」、女性40歳代で「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等)	避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救援医療体制(診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)	被災者に対する相談体制
全体	1,165	80.9	28.4	53.2	28.8	12.4
女性						
10歳代	11	81.8	36.4	63.6	9.1	0.0
20歳代	38	92.1	42.1	50.0	23.7	2.6
30歳代	52	76.9	38.5	53.8	30.8	9.6
40歳代	80	82.5	31.3	63.8	17.5	2.5
50歳代	118	81.4	39.0	50.8	28.8	12.7
60歳代	105	82.9	33.3	57.1	31.4	14.3
70歳代	130	74.6	25.4	57.7	30.0	18.5
80歳以上	60	78.3	28.3	46.7	30.0	13.3
男性						
10歳代	6	50.0	0.0	66.7	16.7	16.7
20歳代	35	85.7	20.0	51.4	22.9	5.7
30歳代	55	85.5	25.5	49.1	47.3	5.5
40歳代	68	91.2	38.2	51.5	16.2	11.8
50歳代	104	85.6	28.8	50.0	38.5	15.4
60歳代	112	79.5	27.7	55.4	24.1	12.5
70歳代	116	75.9	17.2	50.9	37.1	15.5
80歳以上	58	81.0	10.3	46.6	22.4	19.0

区分	災害対策本部に女性が配置され、被災時の対策に女性の視点が入ること	防災・復興に関する計画の策定のための防災会議などに女性が参画し、男女共同参画の視点を計画や防災マニュアルなどに反映すること	その他	わからない	必要だと思わない	無回答
全体	20.6	15.6	0.8	3.3	0.4	3.6
女性						
10歳代	27.3	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0
20歳代	10.5	15.8	2.6	2.6	0.0	0.0
30歳代	21.2	13.5	1.9	5.8	0.0	1.9
40歳代	21.3	8.8	1.3	6.3	0.0	0.0
50歳代	28.8	6.8	0.8	3.4	0.0	1.7
60歳代	21.0	8.6	1.0	1.0	1.0	6.7
70歳代	24.6	19.2	0.0	1.5	0.0	3.8
80歳以上	21.7	20.0	1.7	6.7	0.0	6.7
男性						
10歳代	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
20歳代	20.0	11.4	0.0	5.7	2.9	2.9
30歳代	14.5	12.7	0.0	3.6	1.8	0.0
40歳代	29.4	7.4	0.0	2.9	0.0	1.5
50歳代	16.3	13.5	1.0	2.9	0.0	1.0
60歳代	19.6	25.0	0.0	2.7	0.0	2.7
70歳代	17.2	27.6	0.0	2.6	0.9	5.2
80歳以上	10.3	22.4	0.0	3.4	1.7	10.3

【地区別】

地区別にみると、榎尾で「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）」、郷荘で「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」、富秋、信太で「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、支給する際の配慮」「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」、富秋で「災害対策本部に女性が配置され、被災時の対策に女性の視点が入ること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、授乳室、防犯対策等）	避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）	被災者に対する相談体制
全体	1,165	80.9	28.4	53.2	28.8	12.4
和泉	258	79.5	29.1	51.2	29.1	11.6
郷荘	130	82.3	33.8	50.8	27.7	16.9
石尾	109	80.7	32.1	52.3	29.4	15.6
北池田	137	81.8	26.3	53.3	26.3	13.1
南池田	102	80.4	29.4	53.9	20.6	8.8
光明台	87	78.2	32.2	51.7	32.2	12.6
南松尾はつが野	38	81.6	31.6	50.0	28.9	15.8
榎尾	38	92.1	18.4	55.3	34.2	13.2
富秋	36	86.1	19.4	58.3	36.1	2.8
信太	130	83.1	23.1	58.5	37.7	11.5
中学校区がわからない	87	78.2	27.6	56.3	23.0	9.2

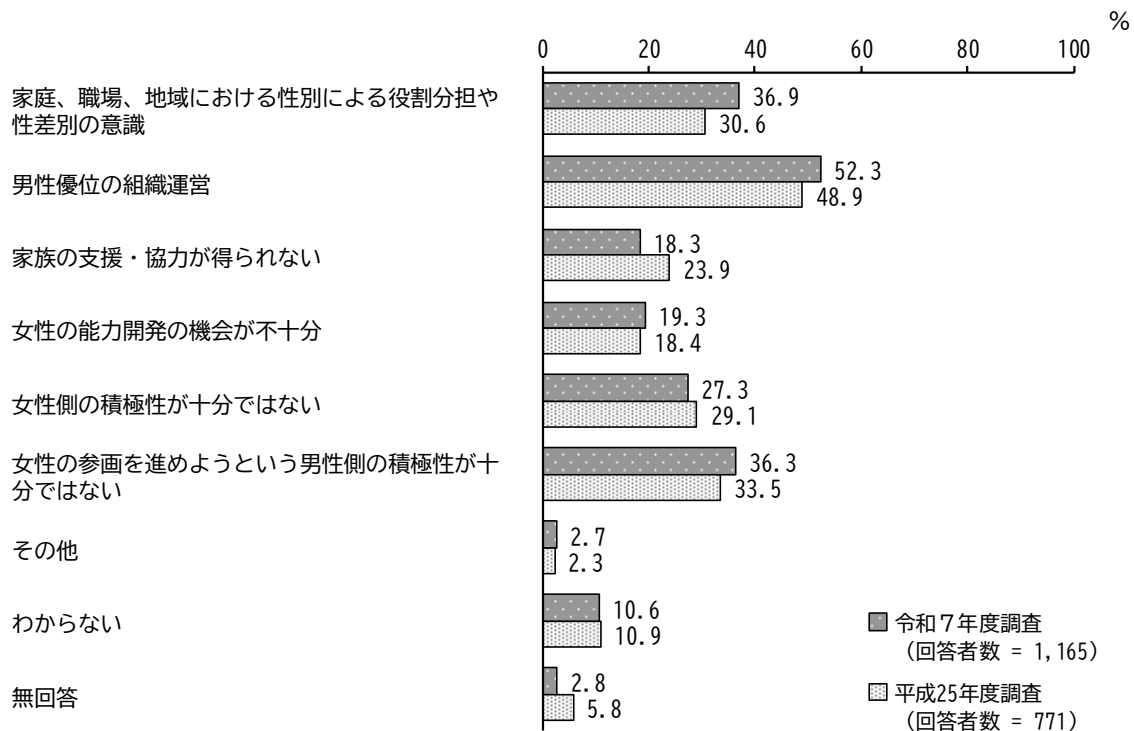
区分	災害対策本部に女性が配置され、被災時の対策に女性の視点が入ること	防災・復興に関する計画の策定のための防災会議などに女性が参画し、男女共同参画の視点を計画や防災マニュアルなどに反映すること	その他	わからない	必要だと思わない	無回答
全体	20.6	15.6	0.8	3.3	0.4	3.6
和泉	16.3	15.9	1.6	2.3	1.2	5.4
郷荘	23.8	14.6	0.8	1.5	0.0	3.1
石尾	19.3	11.0	0.0	3.7	0.9	1.8
北池田	25.5	16.8	1.5	4.4	0.0	4.4
南池田	17.6	17.6	0.0	3.9	0.0	4.9
光明台	14.9	18.4	0.0	1.1	1.1	2.3
南松尾はつが野	26.3	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0
榎尾	13.2	13.2	0.0	5.3	0.0	2.6
富秋	38.9	11.1	0.0	8.3	0.0	0.0
信太	20.0	19.2	0.0	3.1	0.0	0.8
中学校区がわからない	26.4	19.5	1.1	4.6	0.0	4.6

8 政策・方針決定の場への参画について

問 39 あなたは政治・行政・職場や地域において、政策方針決定の場への女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

「男性優位の組織運営」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が 36.9%、「女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない」の割合が 36.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」の割合が増加しています。一方、「家族の支援・協力が得られない」の割合が減少しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「女性の能力開発の機会が不十分」の割合が高く、男性では20歳代から70歳代まで年代が上がるほど「女性の参画を進めよう」という男性側の積極性が十分ではない」の割合が高くなっています。また、女性20歳代で「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」、女性30歳代で「男性優位の組織運営」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識	男性優位の組織運営	家族の支援・協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性側の積極性が十分ではない	女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない	その他	わからない	無回答
全体	1,165	36.9	52.3	18.3	19.3	27.3	36.3	2.7	10.6	2.8
女性 10歳代	11	54.5	54.5	18.2	9.1	18.2	18.2	0.0	18.2	0.0
20歳代	38	57.9	60.5	13.2	13.2	21.1	26.3	2.6	10.5	0.0
30歳代	52	53.8	65.4	21.2	17.3	15.4	32.7	5.8	15.4	0.0
40歳代	80	43.8	56.3	17.5	15.0	20.0	35.0	2.5	10.0	0.0
50歳代	118	33.1	47.5	23.7	16.1	28.8	28.0	4.2	15.3	0.0
60歳代	105	42.9	61.0	24.8	16.2	30.5	45.7	0.0	6.7	2.9
70歳代	130	31.5	53.8	19.2	28.5	35.4	38.5	0.0	8.5	3.8
80歳以上	60	38.3	43.3	13.3	40.0	31.7	33.3	5.0	13.3	10.0
男性 10歳代	6	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
20歳代	35	40.0	45.7	8.6	17.1	14.3	20.0	8.6	14.3	2.9
30歳代	55	25.5	45.5	18.2	21.8	27.3	27.3	5.5	12.7	0.0
40歳代	68	44.1	58.8	19.1	16.2	25.0	35.3	0.0	8.8	1.5
50歳代	104	28.8	48.1	17.3	19.2	26.9	35.6	2.9	10.6	0.0
60歳代	112	37.5	51.8	15.2	8.0	32.1	42.0	4.5	6.3	1.8
70歳代	116	31.0	56.0	17.2	20.7	25.9	44.8	1.7	10.3	3.4
80歳以上	58	34.5	32.8	15.5	20.7	31.0	41.4	0.0	13.8	12.1

【地区別】

地区別にみると、光明台、南松尾はつが野で「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」、郷荘、中学校区がわからないで「男性優位の組織運営」、北池田で「女性の能力開発の機会が不十分」、南池田、槇尾で「女性側の積極性が十分ではない」、槇尾、富秋で「女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない」の割合が高くなっています。

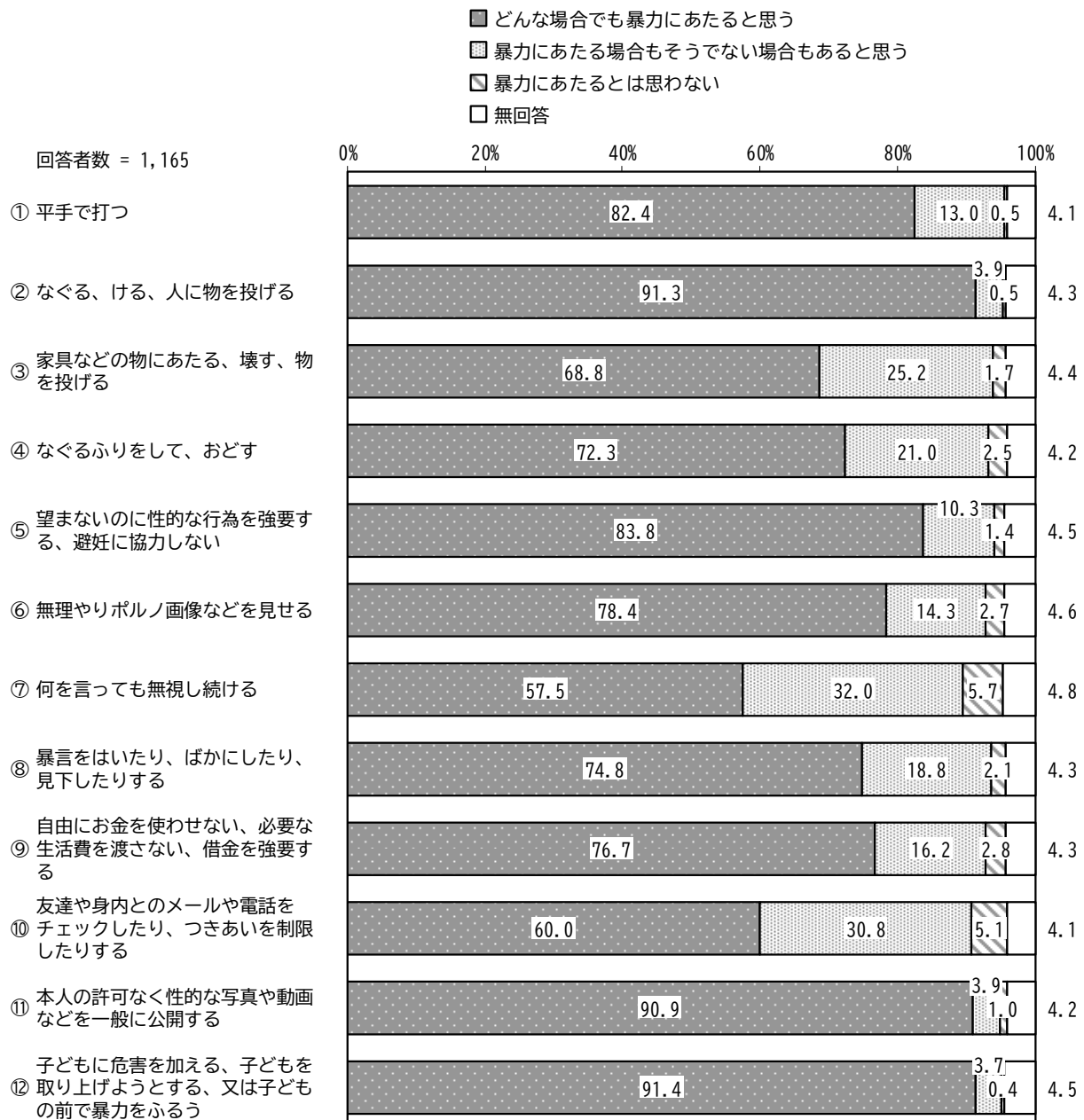
単位：％

区分	回答者数 (件)	家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識	男性優位の組織運営	家族の支援・協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性側の積極性が十分ではない	女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない	その他	わからない	無回答
全 体	1,165	36.9	52.3	18.3	19.3	27.3	36.3	2.7	10.6	2.8
和泉	258	36.0	49.6	21.3	17.4	22.5	32.9	2.3	11.2	4.7
郷荘	130	39.2	57.7	14.6	23.8	23.8	38.5	3.8	6.2	3.1
石尾	109	33.9	56.0	18.3	12.8	25.7	33.0	0.0	11.0	0.9
北池田	137	40.9	56.2	19.0	26.3	28.5	38.0	2.9	5.8	1.5
南池田	102	31.4	45.1	18.6	18.6	37.3	30.4	1.0	13.7	2.9
光明台	87	42.5	48.3	20.7	20.7	25.3	40.2	1.1	9.2	1.1
南松尾はつが野	38	44.7	47.4	15.8	15.8	26.3	39.5	0.0	18.4	2.6
槇尾	38	28.9	47.4	18.4	13.2	36.8	42.1	2.6	7.9	2.6
富秋	36	41.7	50.0	13.9	11.1	27.8	41.7	2.8	13.9	0.0
信太	130	33.8	54.6	20.0	21.5	30.8	40.0	6.2	11.5	1.5
中学校区がわからない	87	39.1	57.5	12.6	20.7	28.7	36.8	3.4	12.6	3.4

9 配偶者などへの暴力について

問 40 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。
(①～⑫のそれぞれについて1つに○)

『⑫子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう』で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が、『⑦何を言っても無視し続ける』で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」が高くなっています。

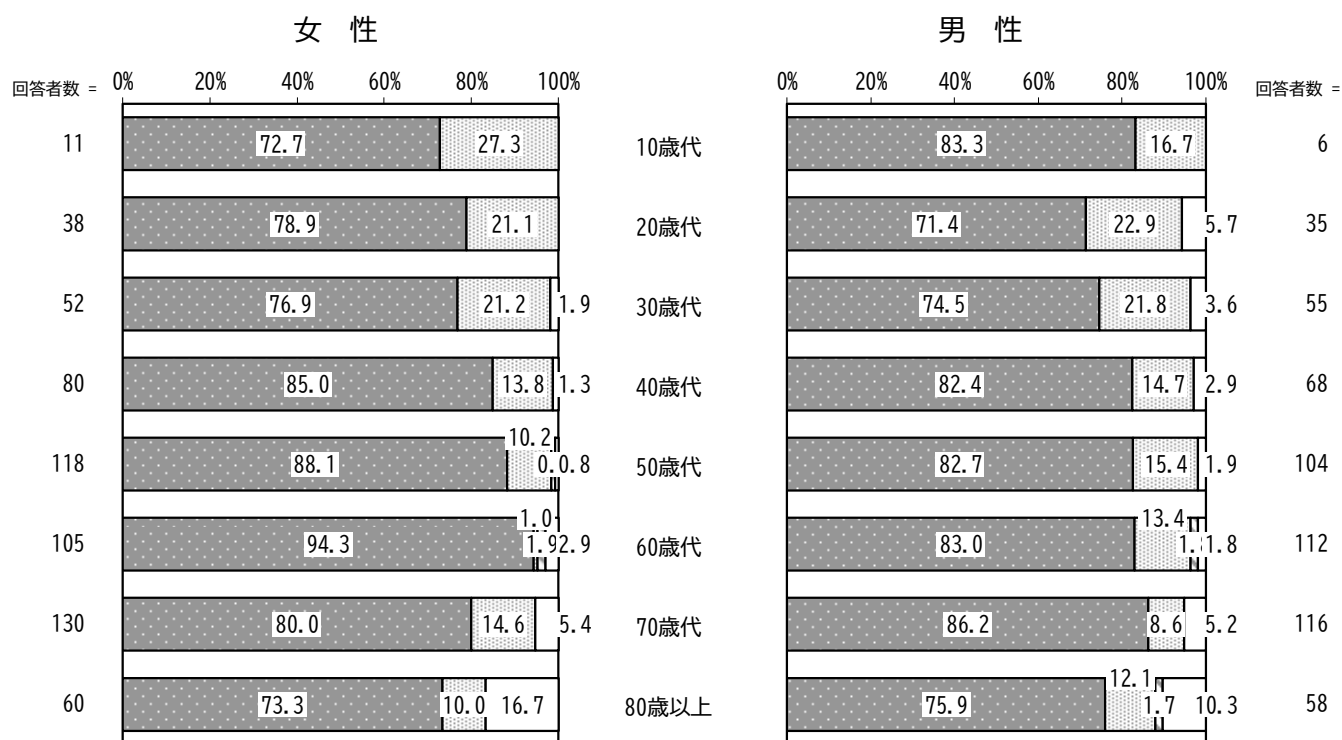


①平手で打つ

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では10歳代から60歳代まで年代が上がるほど、男性では20歳代から70歳代まで年代が上がるほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向にあり、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が低い傾向にあります。

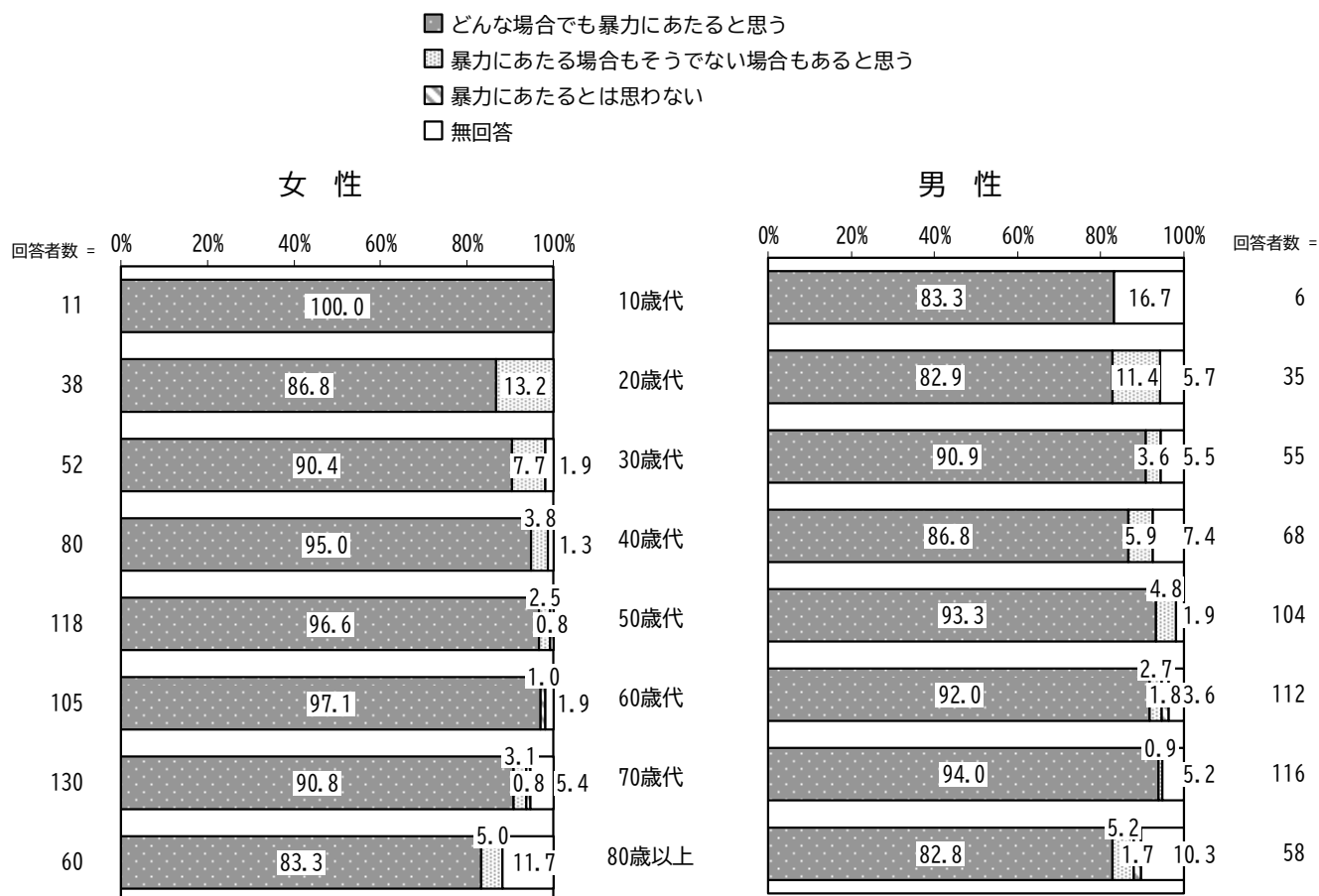
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



②なぐる、ける、人に物を投げる

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代から60歳代まで年代が上がるほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が低くなっています。

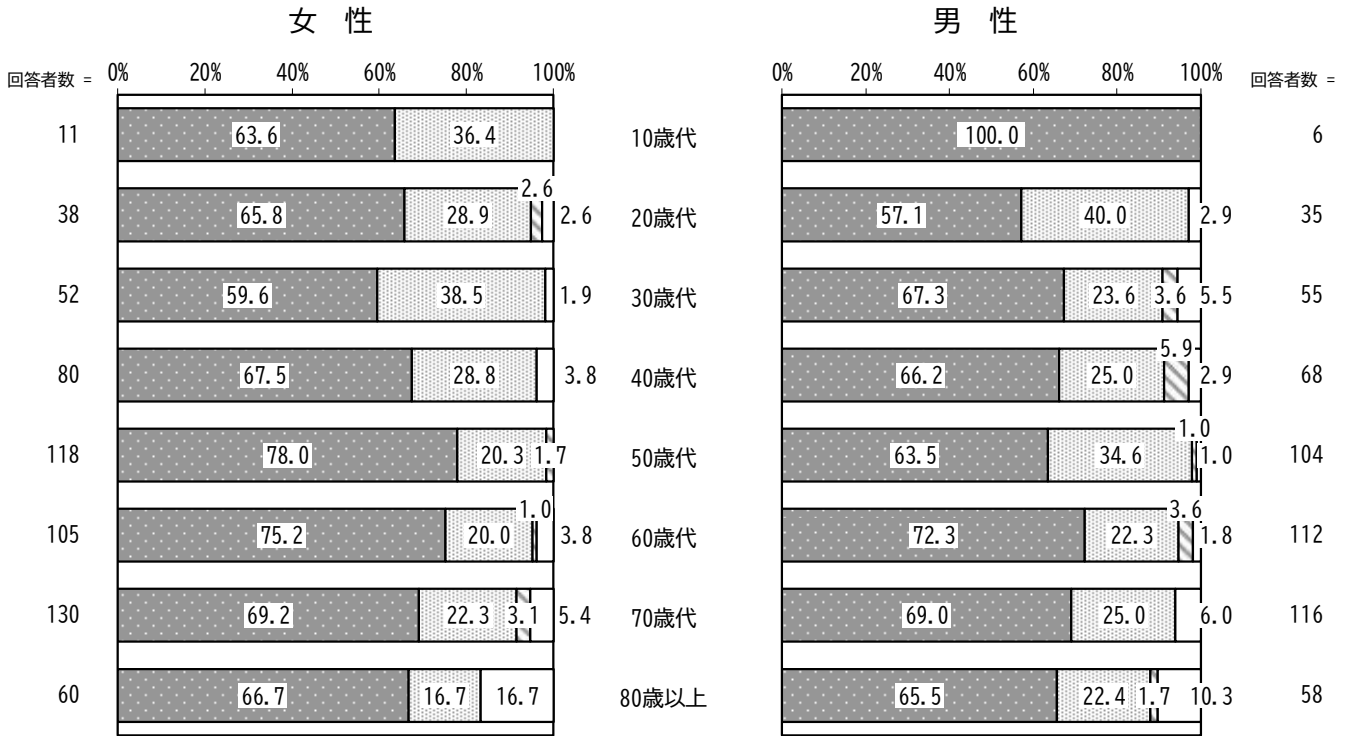


③家具などの物にあたる、壊す、物を投げる

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高い傾向にあります。また、男性20歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答

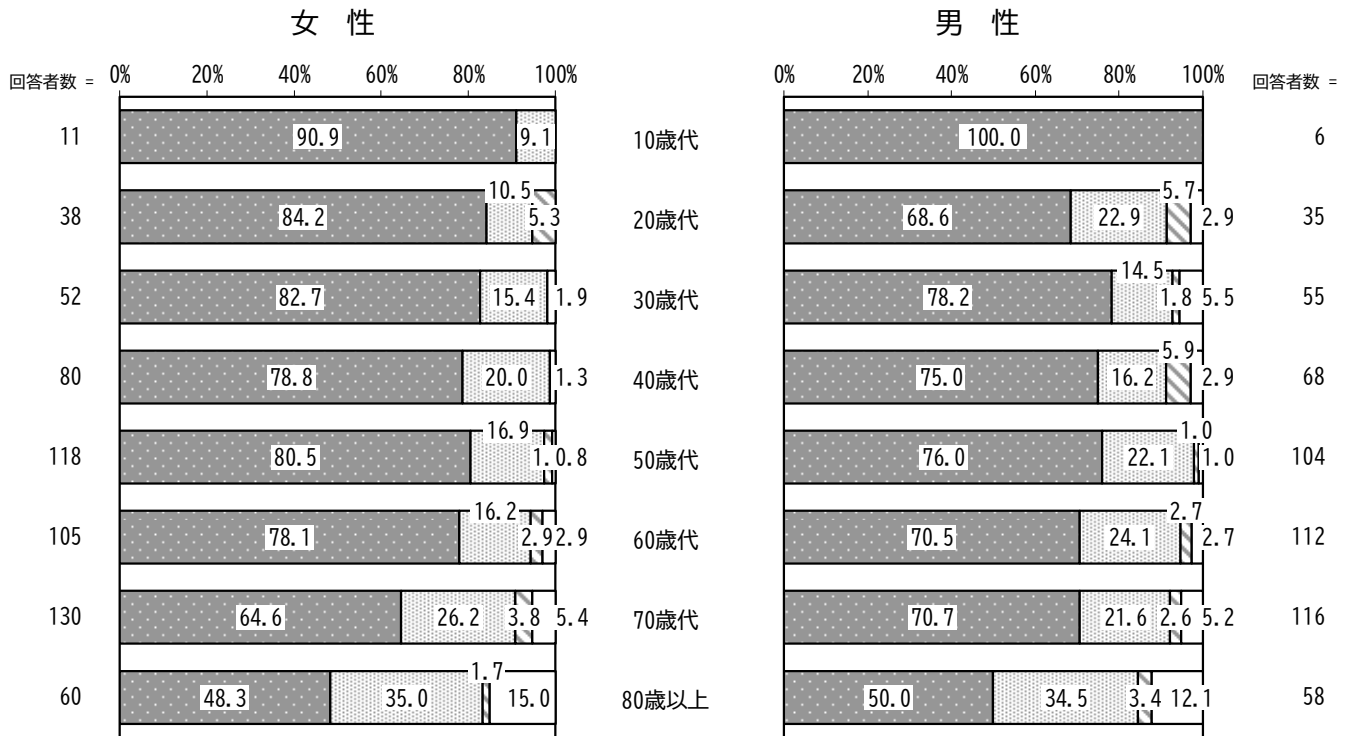


④なぐるふりをして、おどす

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では年代が下がるほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向にあり、男性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高い傾向にあります。

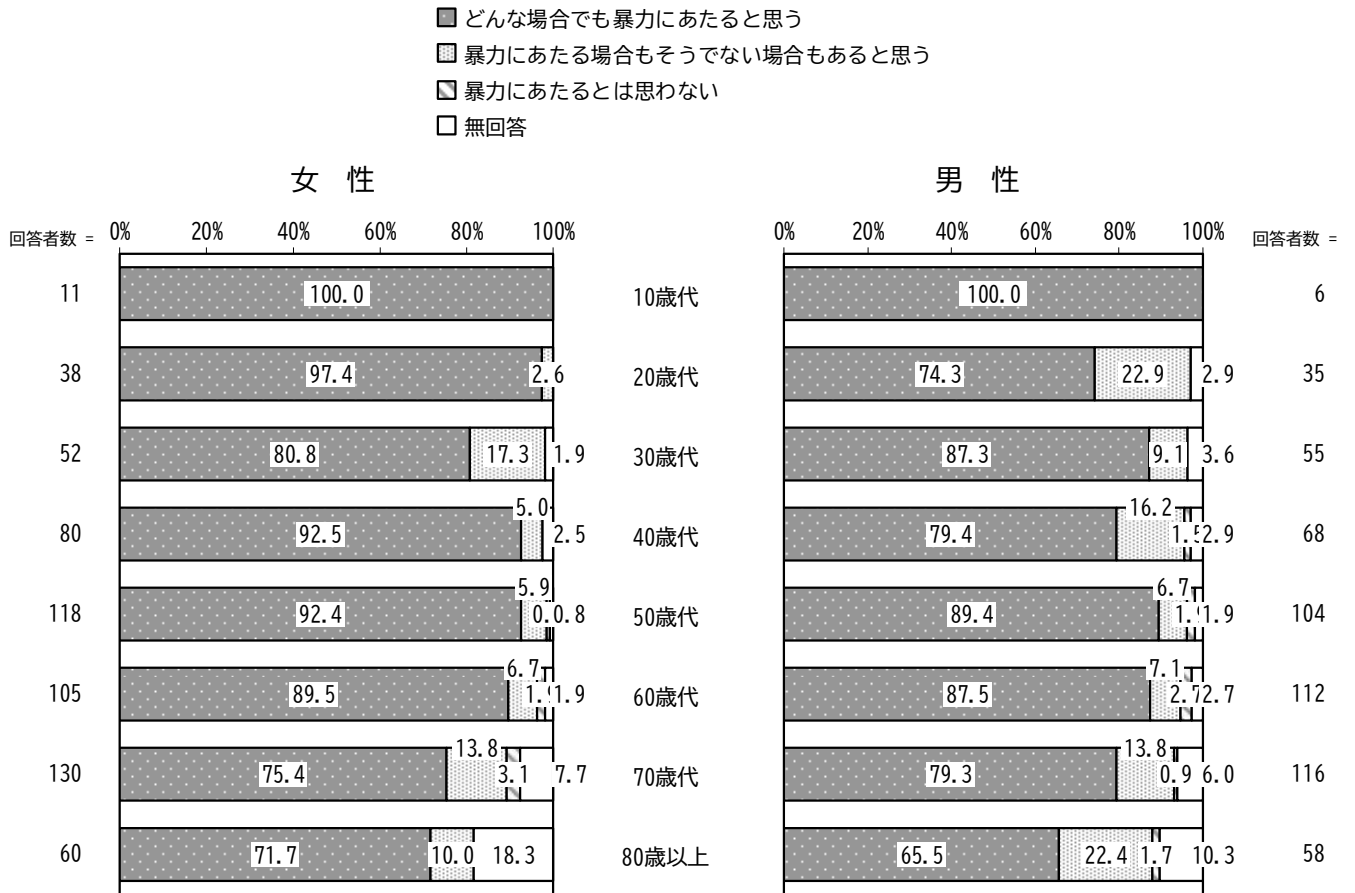
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



⑤望まないのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない

【性・年代別】

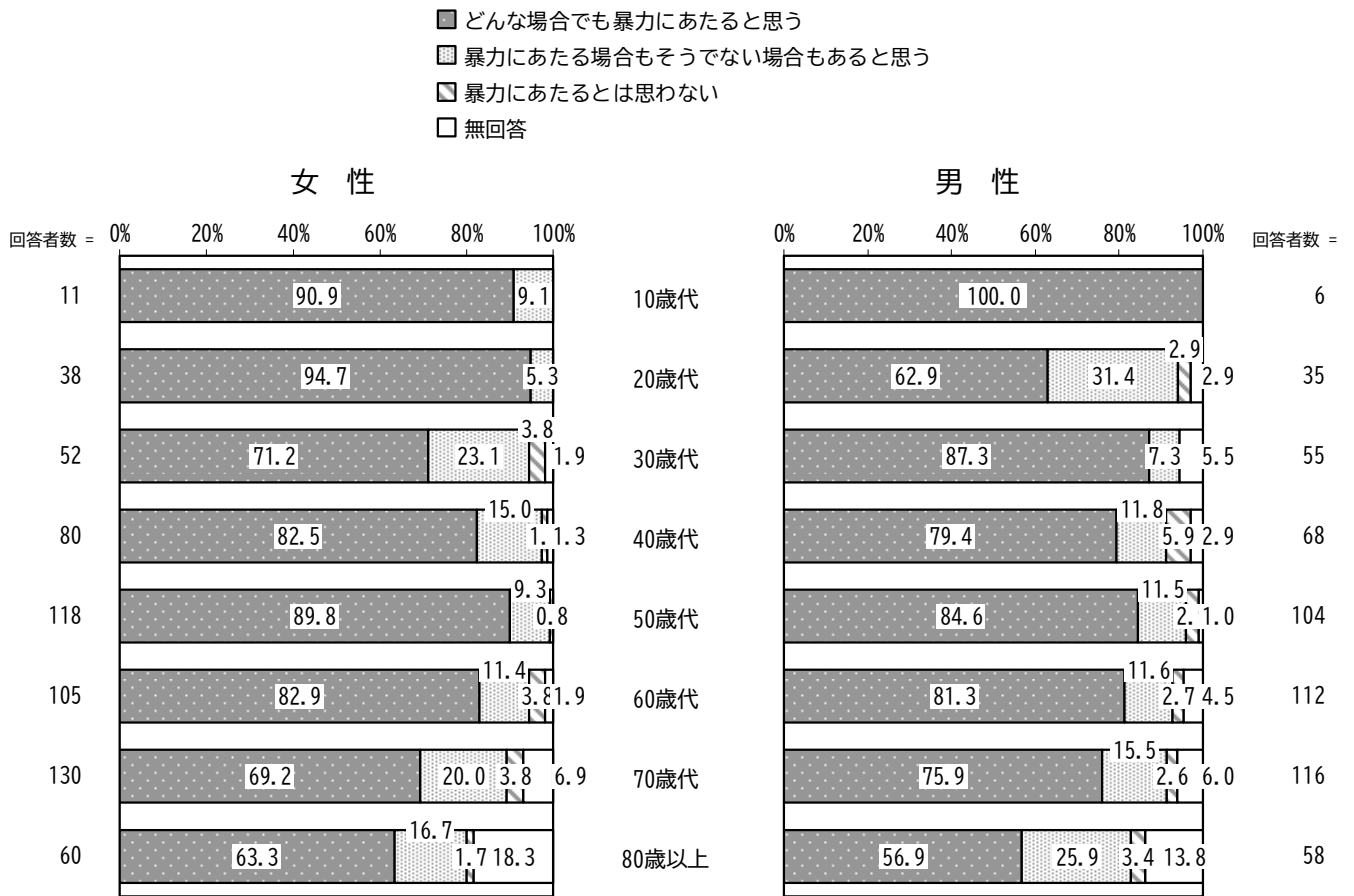
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。また、男性20歳代、男性80歳以上で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。



⑥無理やりポルノ画像などを見せる

【性・年代別】

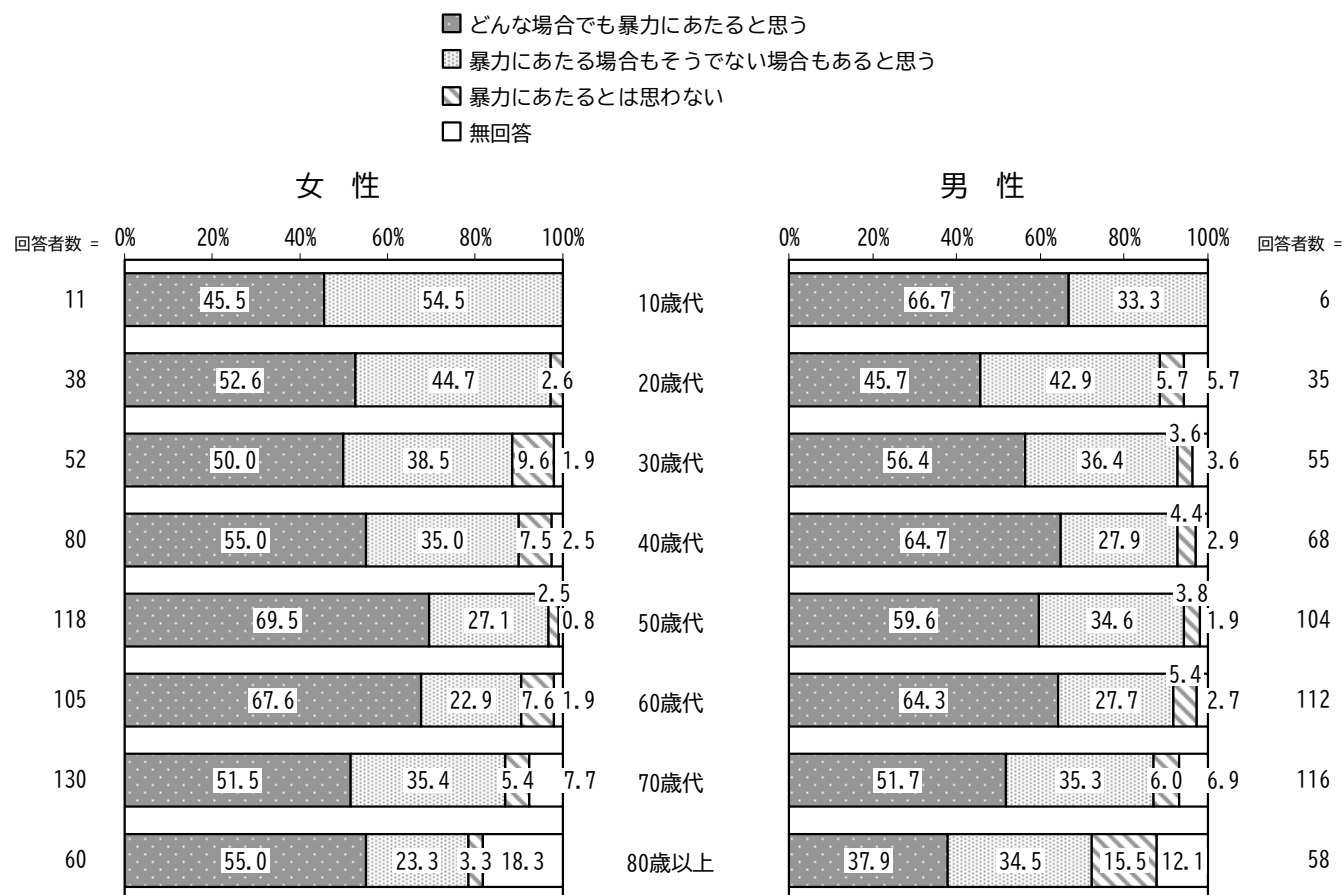
性・年代別にみると、女性20歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」、男性20歳代で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。



⑦何を言っても無視し続ける

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では60歳代から10歳代まで年代が下がるほど「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

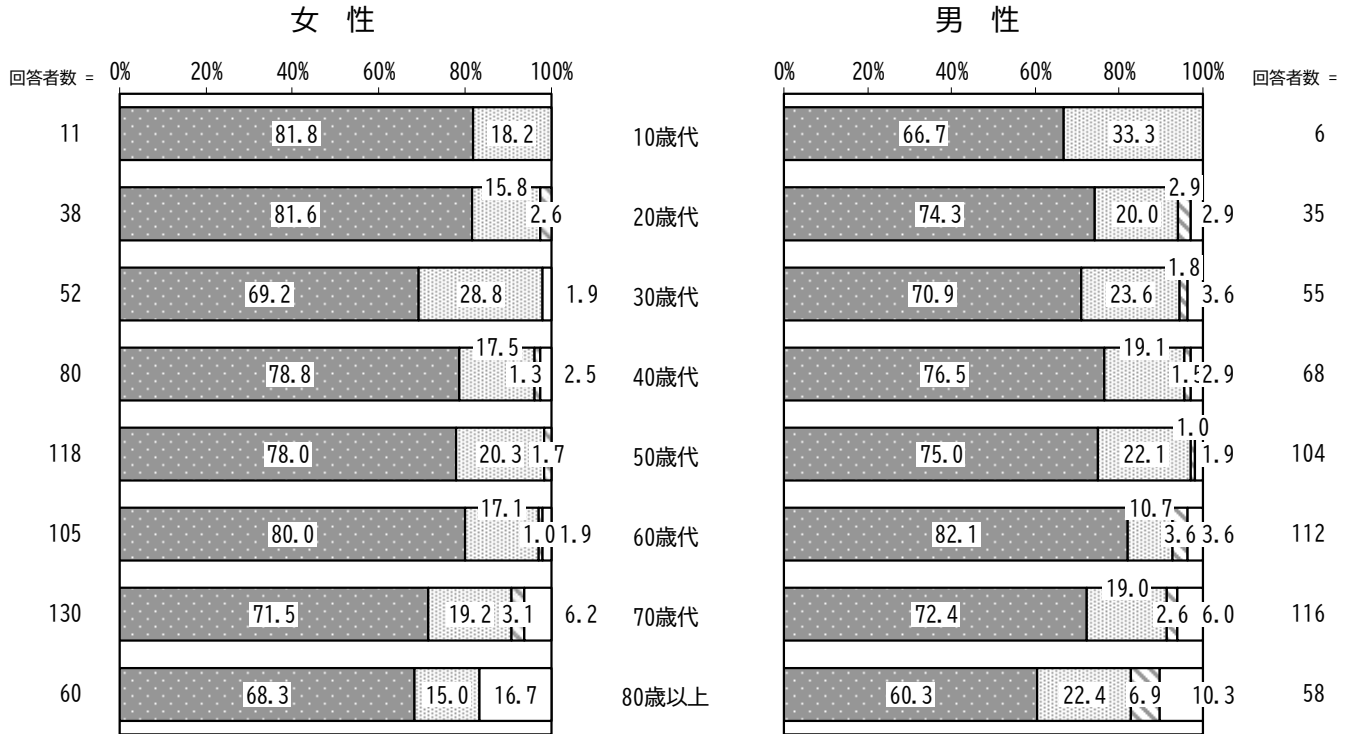


⑧暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性30歳代で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高く、男性80歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっています。

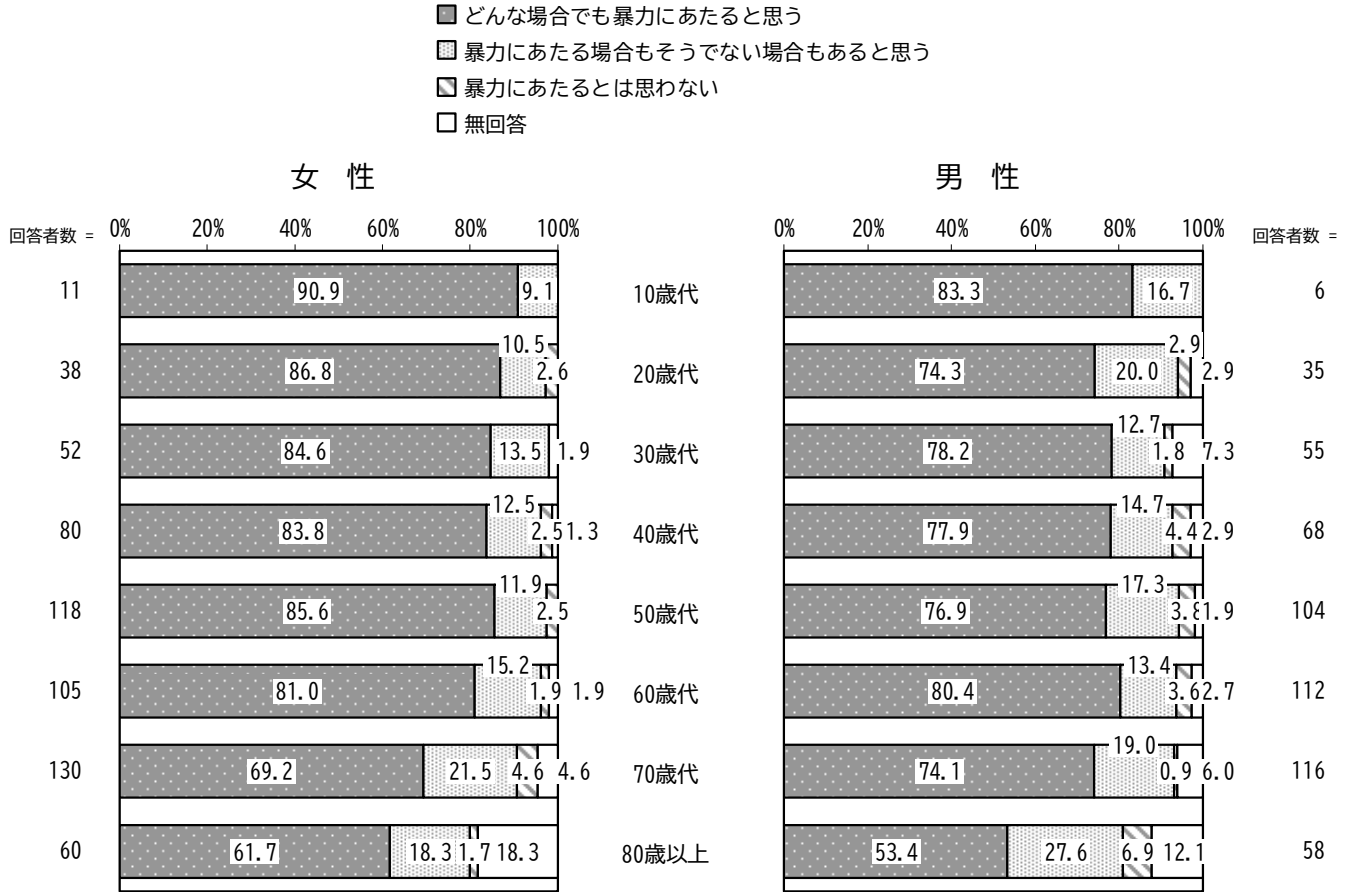
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



⑨自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では年代が下がるほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向にあります。また、男性80歳以上で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

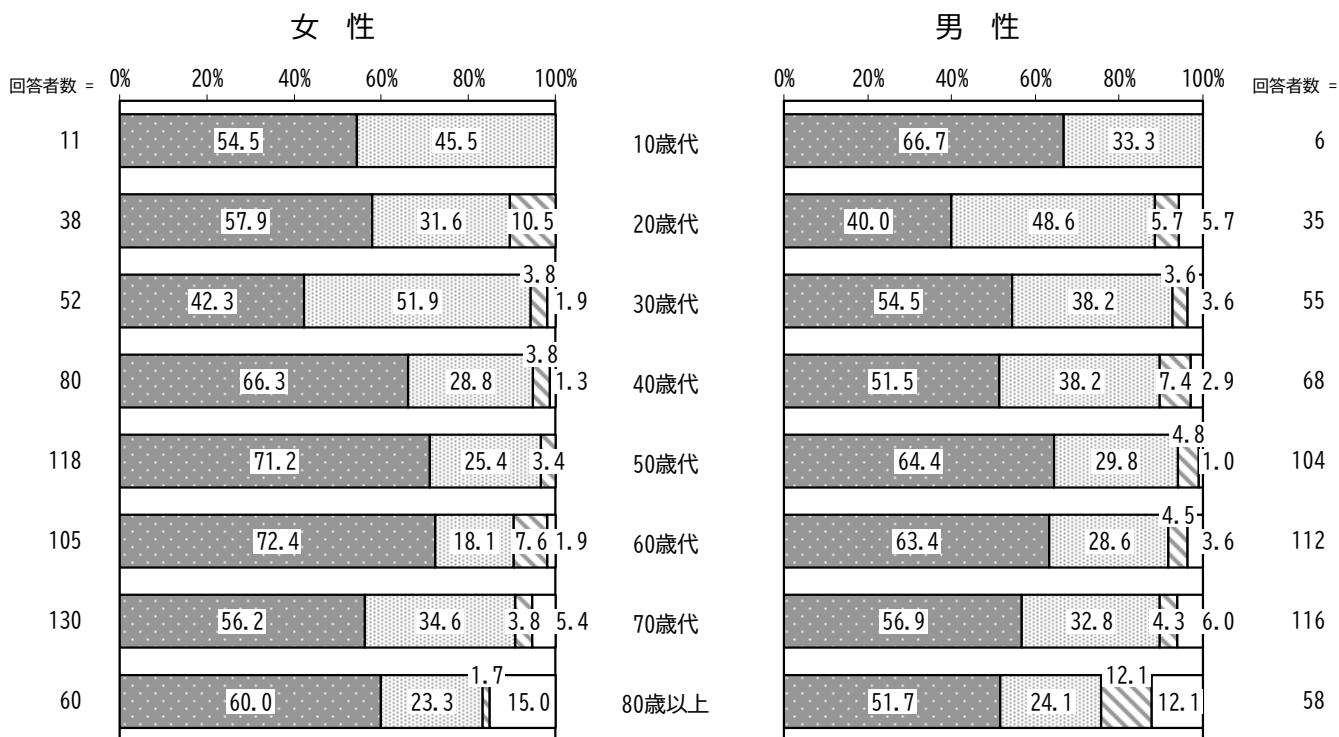


⑩友達や身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では60歳代から20歳代まで年代が下がるほど「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高い傾向にあります。また、女性50歳代、女性60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答

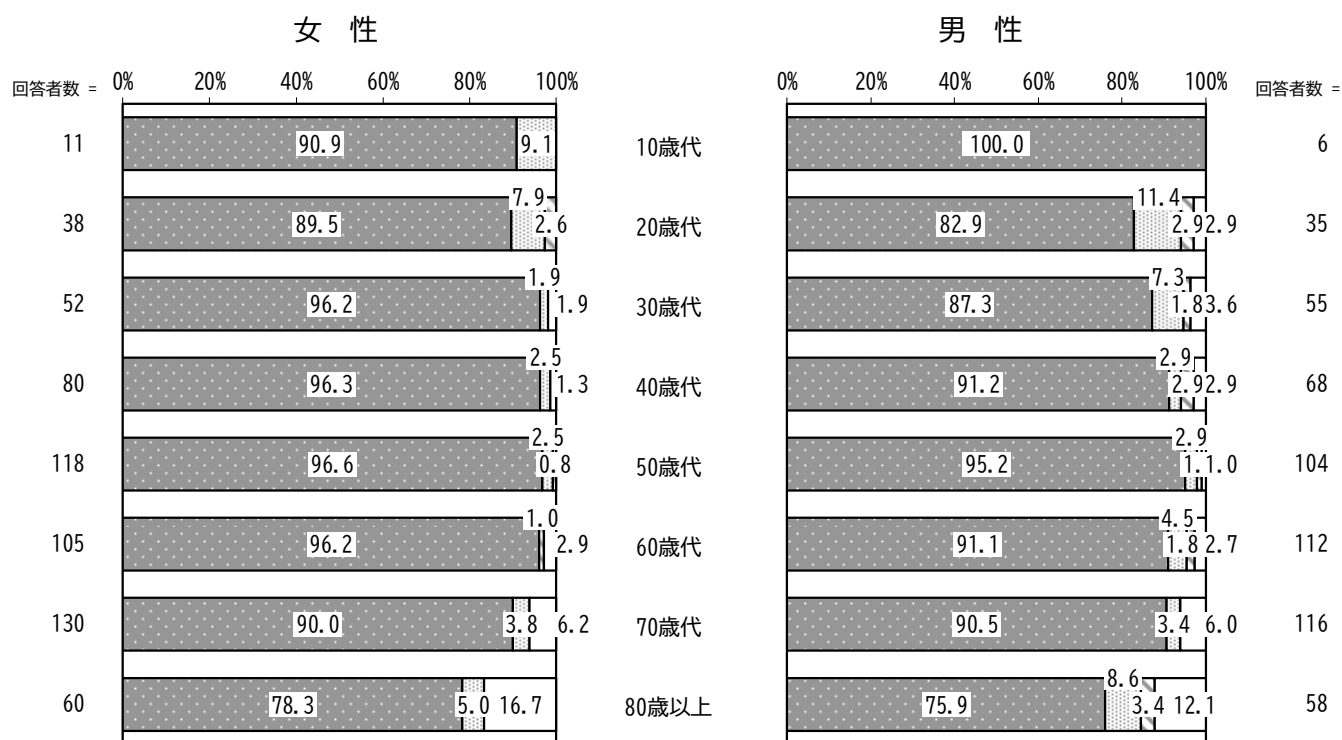


①本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性 30 歳代、女性 40 歳代、女性 50 歳代、女性 60 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」、女性 10 歳代、男性 20 歳代で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答

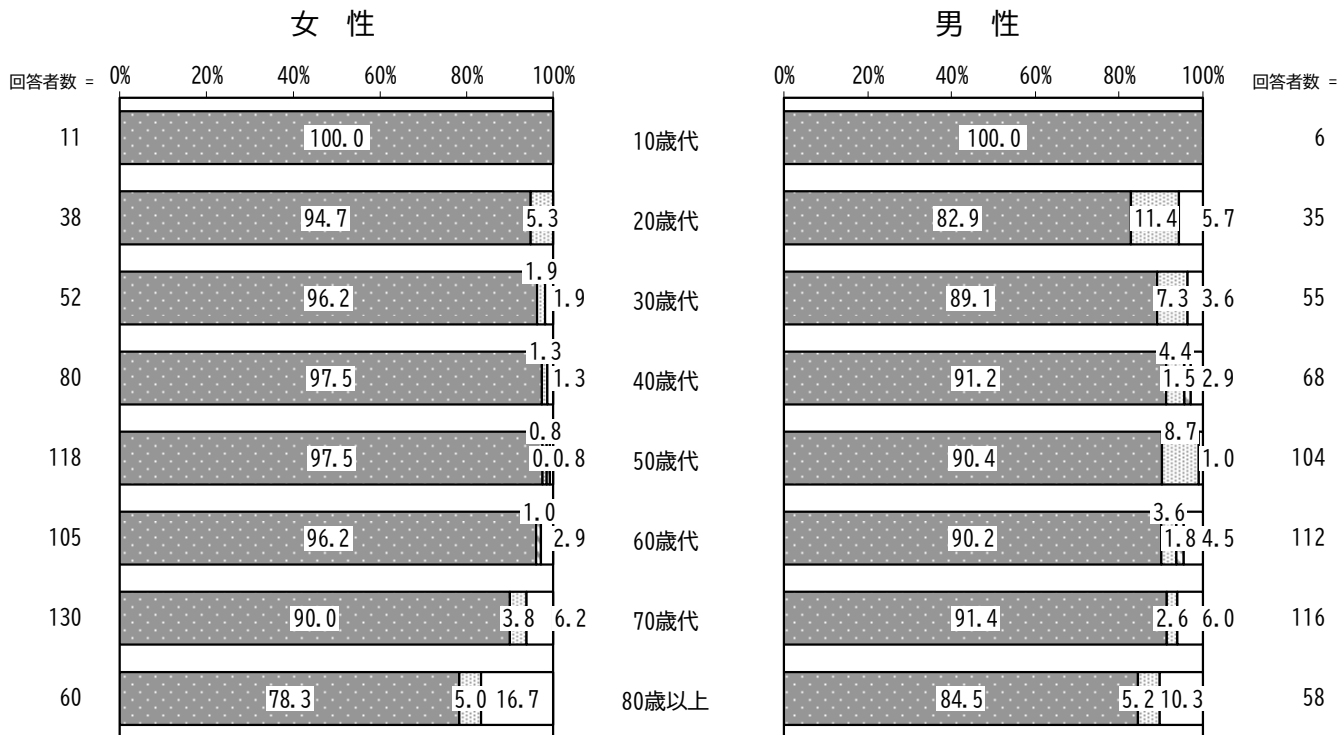


⑫子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう

【性・年代別】

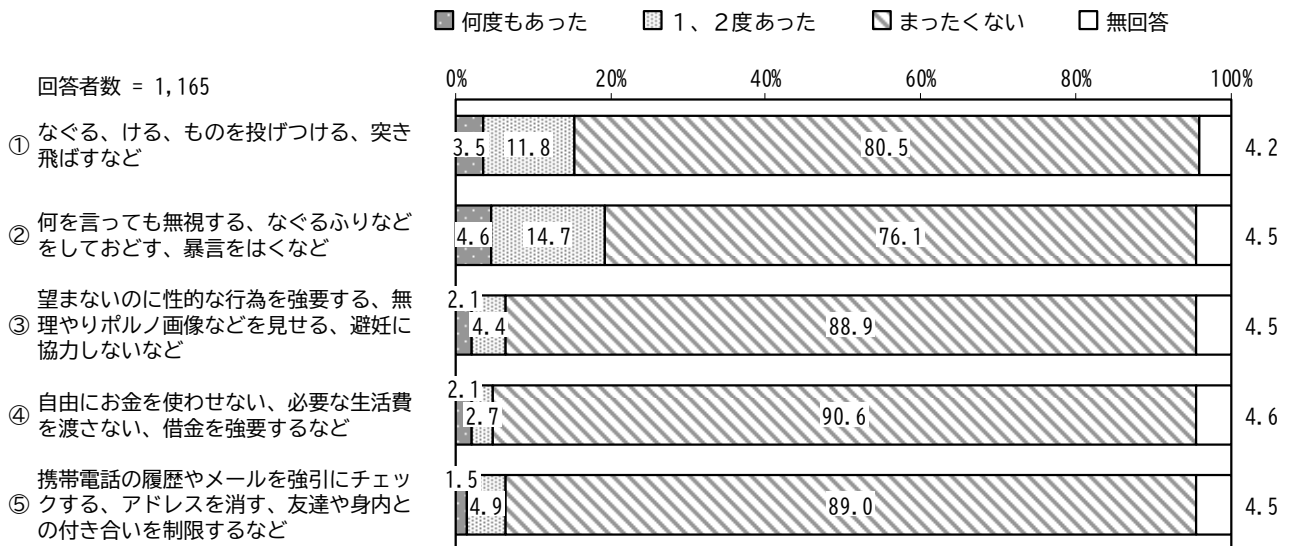
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向にあります。

- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



問 41 あなたは配偶者や親密な関係にある恋人から以下のような暴力を受けたことがありますか。(①～⑤のそれぞれについて1つに○)

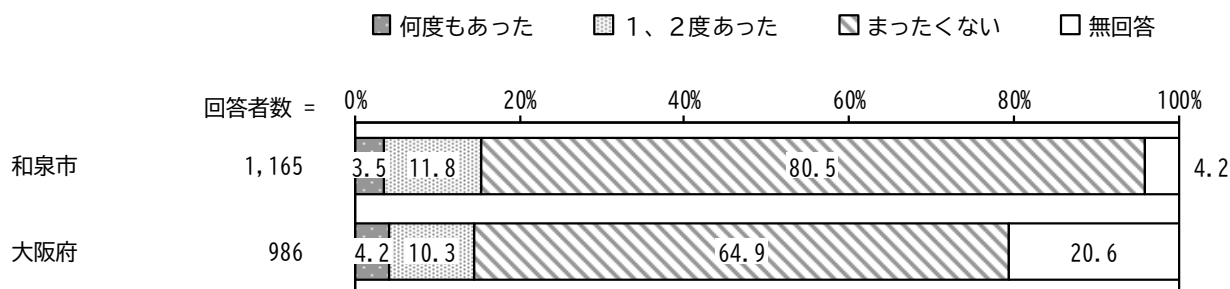
『②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど』で「何度もあった」「1、2度あった」が、『④自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど』で「まったくない」が高くなっています。



①なぐる、ける、ものを投げつける、突き飛ばすなど

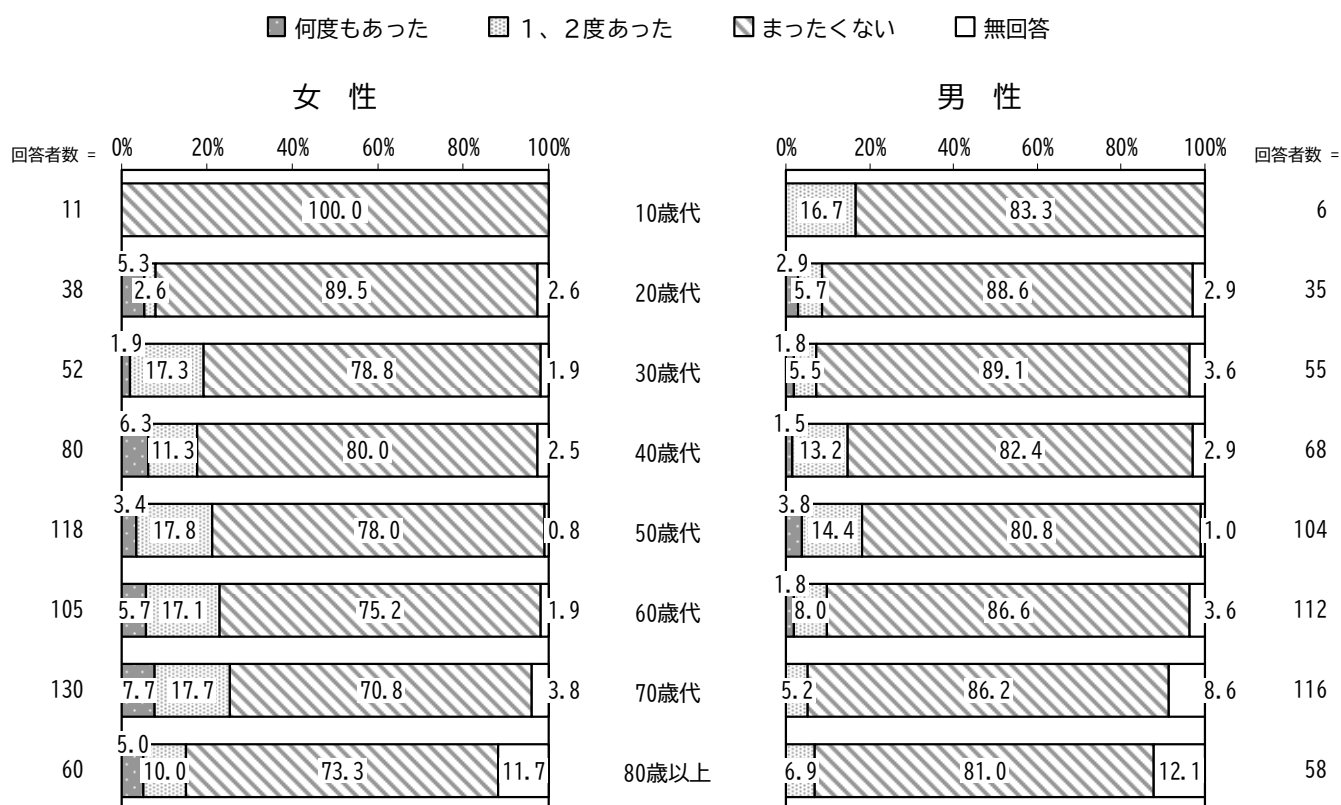
【府比較】

大阪府と比較すると、「まったくない」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

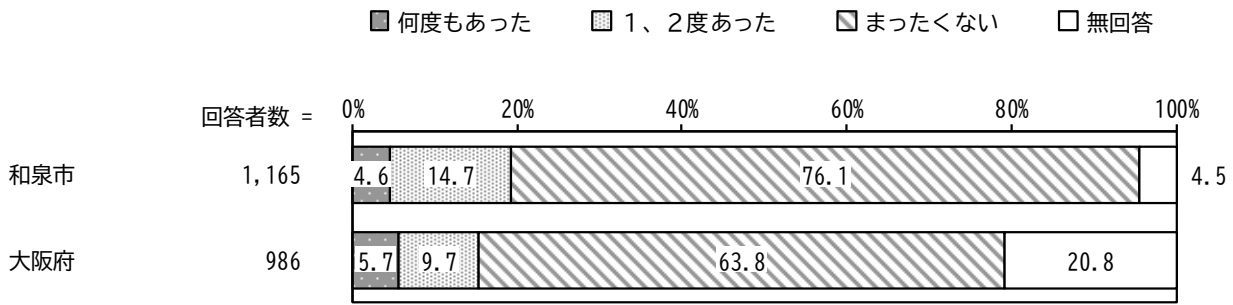
性・年代別にみると、女性では70歳代から10歳代まで年代が下がるほど「まったくない」の割合が高い傾向にあります。



②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど

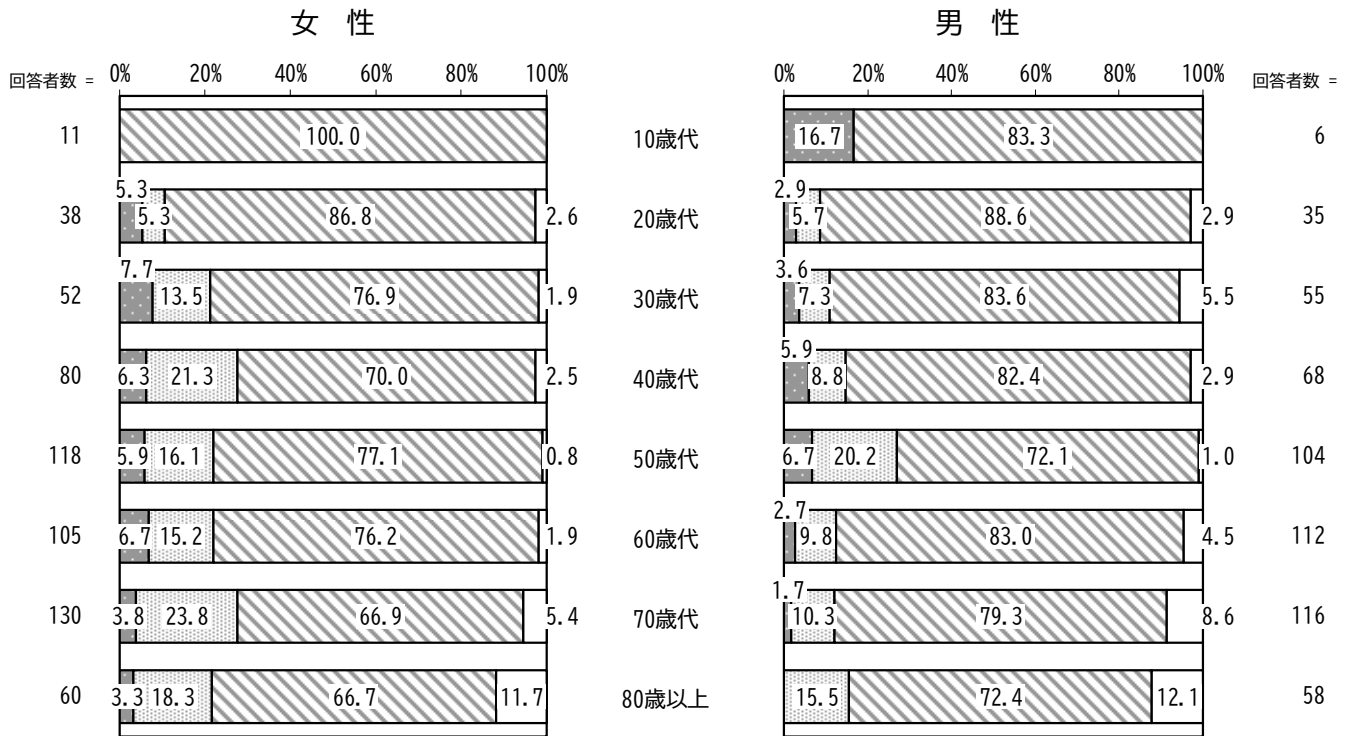
【府比較】

大阪府と比較すると、「まったくない」の割合が高くなっています。



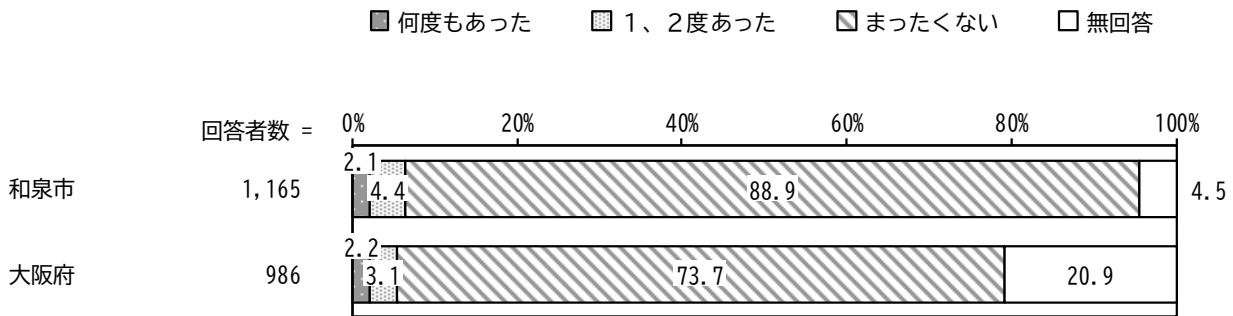
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「1、2度あった」の割合が高くなっています。



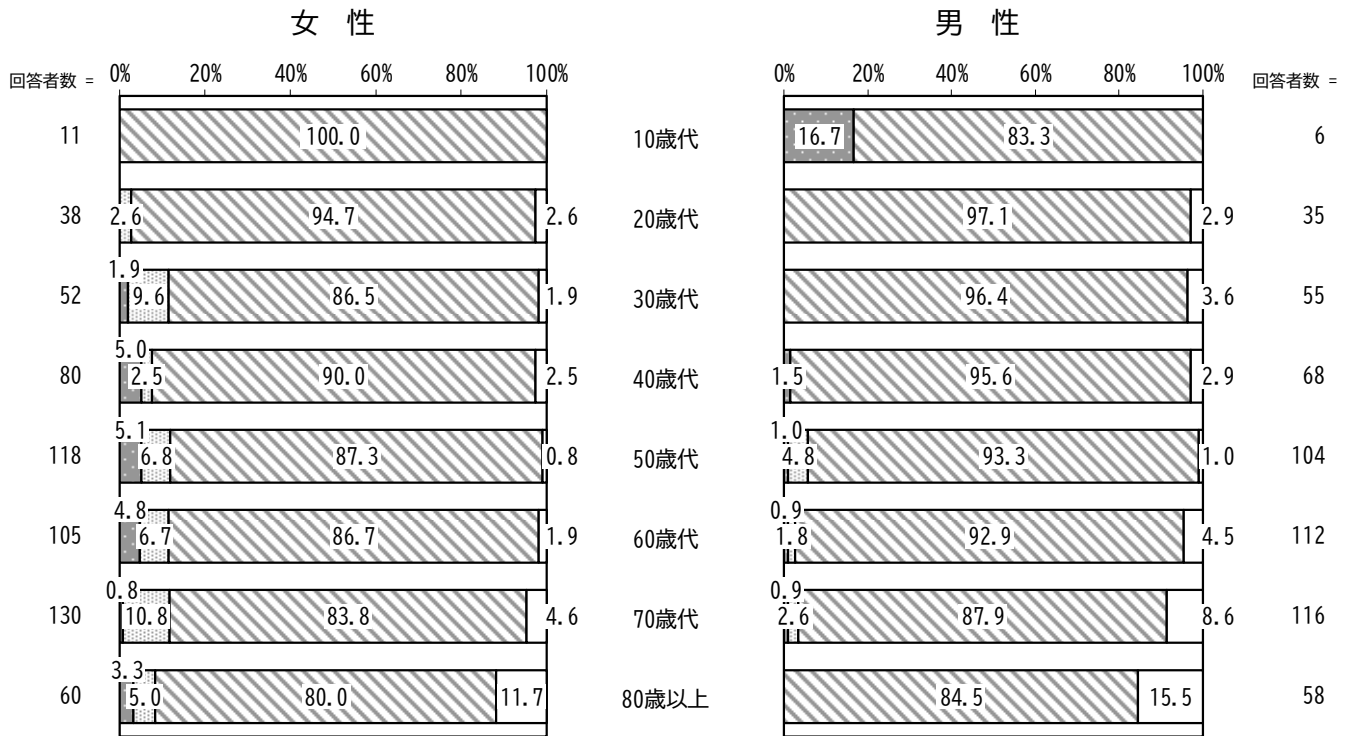
③望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、避妊に協力しないなど
【府比較】

大阪府と比較すると、「まったくない」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

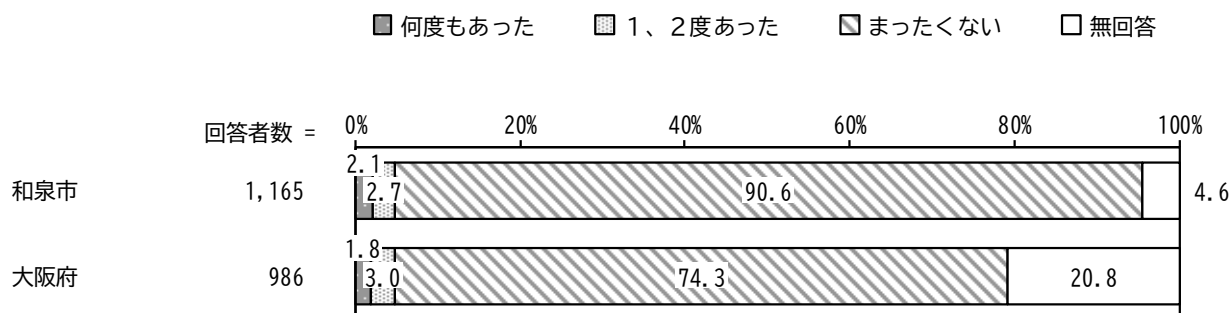
性・年代別にみると、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど、男性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「まったくない」の割合が高くなっています。



④自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど

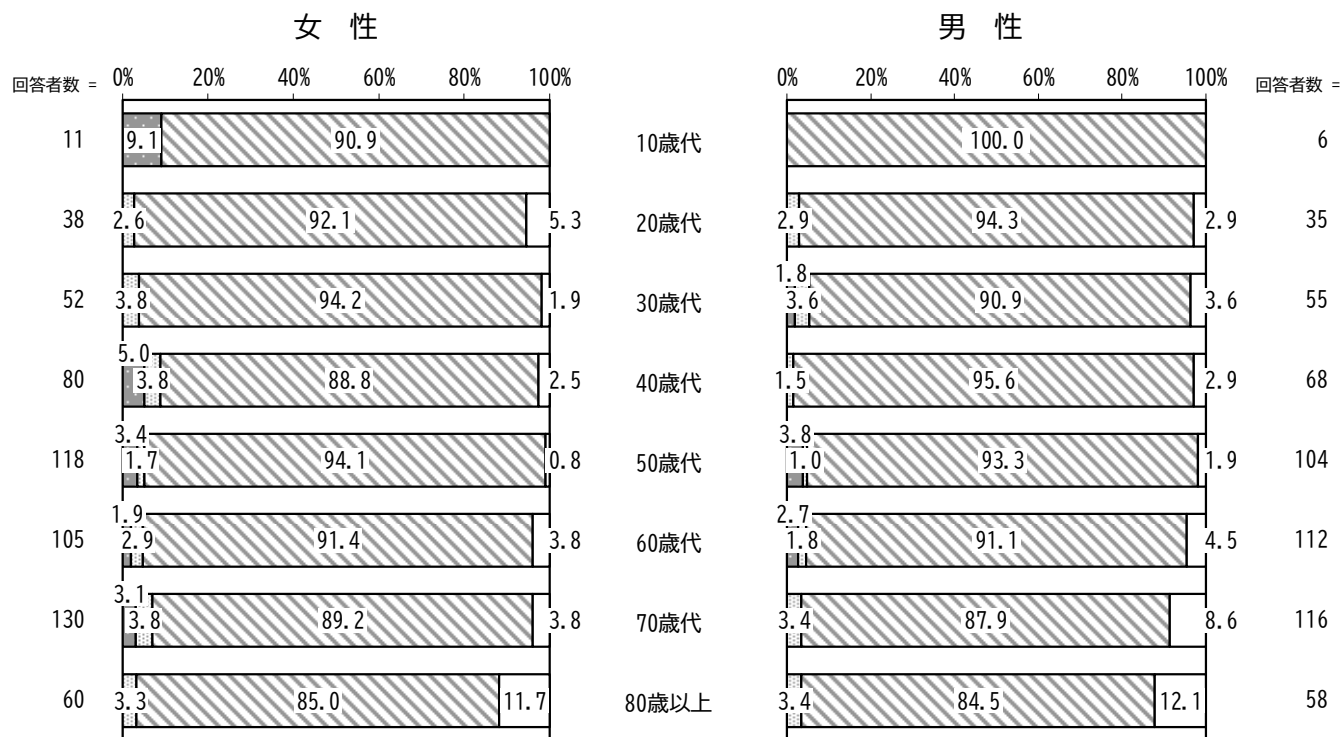
【府比較】

大阪府と比較すると、「まったくない」の割合が高くなっています。



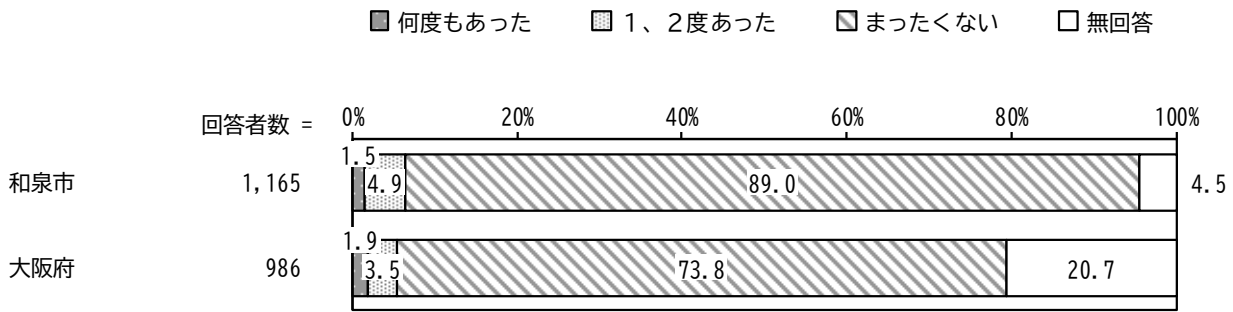
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「まったくない」の割合が高くなっています。



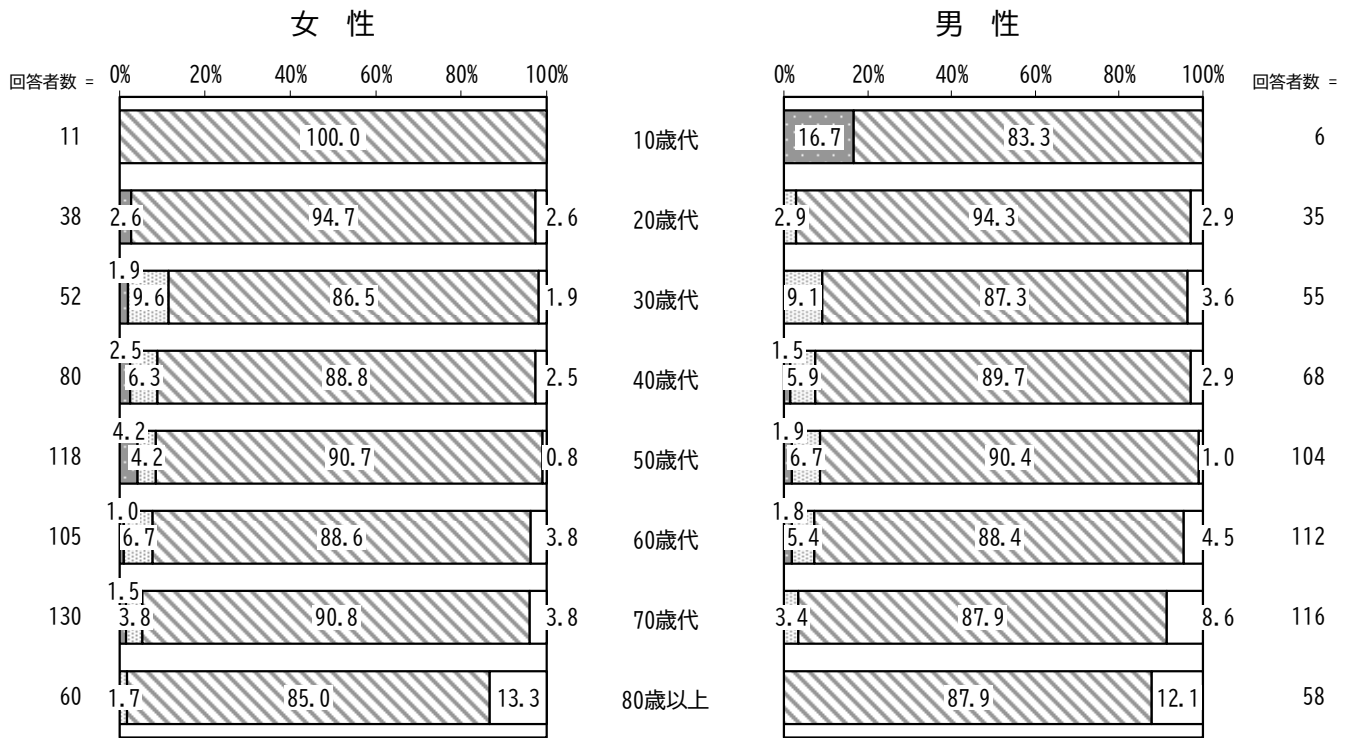
⑤携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど
【府比較】

大阪府と比較すると、「まったくない」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな差はみられません。



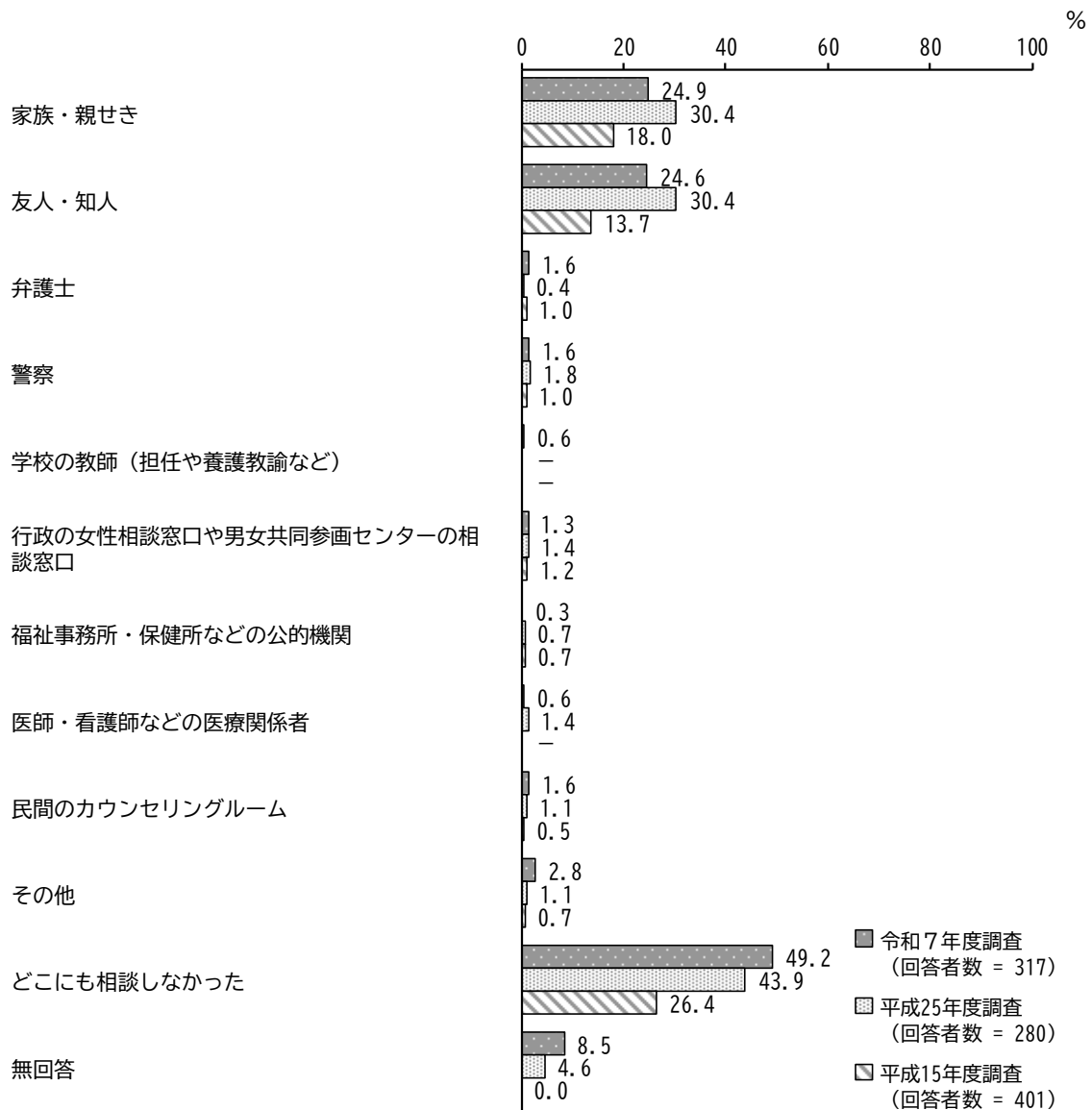
問 41-1 問 41 で1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答された方にお聞きします。
 あなたは暴力を受けたとき誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

【経年・府比較】

「どこにも相談しなかった」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「家族・親せき」の割合が 24.9%、「友人・知人」の割合が 24.6%となっています。

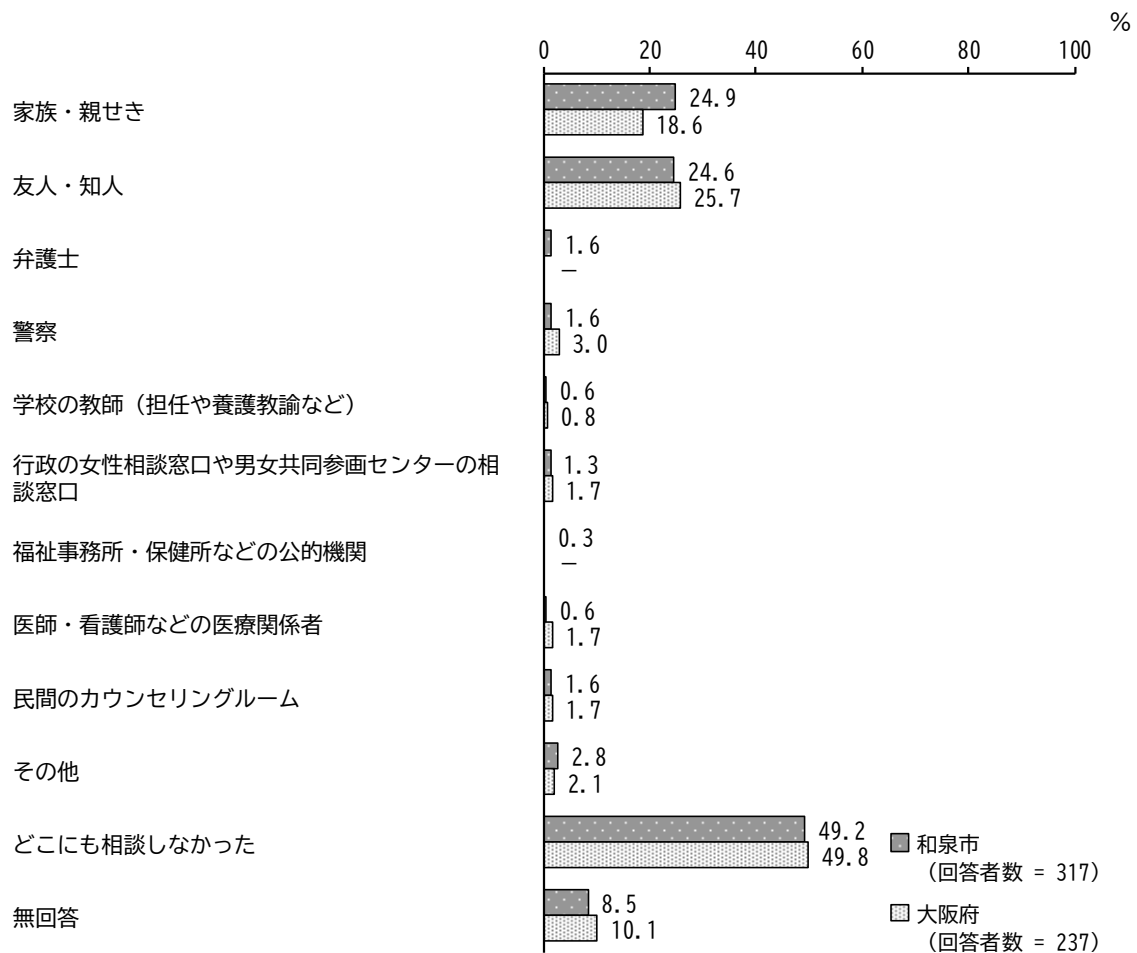
過去調査と比較すると、平成 15 年度調査から「どこにも相談しなかった」の割合が増加しています。また、平成 25 年度調査から「家族・親せき」「友人・知人」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「家族・親せき」の割合が高くなっています。



※平成 25 年度調査では、「学校の教師 (担任や養護教諭など)」がありませんでした。

平成 15 年度調査では、「学校の教師 (担任や養護教諭など)」、「医師・看護師などの医療関係者」がありませんでした。



※大阪府では、「学校の教師（担任や養護教諭など）」が「学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）に相談した」、「行政の女性相談窓口や男女共同参画センターの相談窓口」が「市町村など役所の相談窓口に相談した」、「医師・看護師などの医療関係者」が「医療関係者（医師、看護師など）に相談した」、「民間のカウンセリングルーム」が「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した」となっており、「弁護士」、「福祉事務所・保健所などの公的機関」がありませんでした。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では年代が下がるほど「家族・親せき」の割合が高い傾向にあり、男性では60歳代から30歳代まで年代が下がるほど「どこにも相談しなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親せき	友人・知人	弁護士	警察	学校の教師(担任や養護教諭など)	行政の女性相談窓口や男女共同参画センターの相談窓口	福祉事務所・保健所などの公的機関	医師・看護師などの医療関係者	民間のカウンセリングルーム	その他	どこにも相談しなかった	無回答
全体	317	24.9	24.6	1.6	1.6	0.6	1.3	0.3	0.6	1.6	2.8	49.2	8.5
女性 10歳代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	4	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	19	36.8	52.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.3	0.0
40歳代	28	35.7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	53.6	0.0
50歳代	35	34.3	31.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	42.9	2.9
60歳代	36	36.1	13.9	5.6	2.8	0.0	2.8	0.0	0.0	2.8	5.6	50.0	5.6
70歳代	53	28.3	24.5	1.9	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	5.7	35.8	15.1
80歳以上	20	5.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.0	20.0
男性 10歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
30歳代	11	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	63.6	0.0
40歳代	15	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	26.7
50歳代	35	20.0	20.0	0.0	5.7	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9	2.9	54.3	5.7
60歳代	21	19.0	38.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	52.4	9.5
70歳代	18	5.6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7
80歳以上	11	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	72.7	9.1

問 41-2 問 41-1 で「どこにも相談しなかった」と回答された方にお聞きします。
相談しなかったのはどうしてですか。(〇はいくつでも)

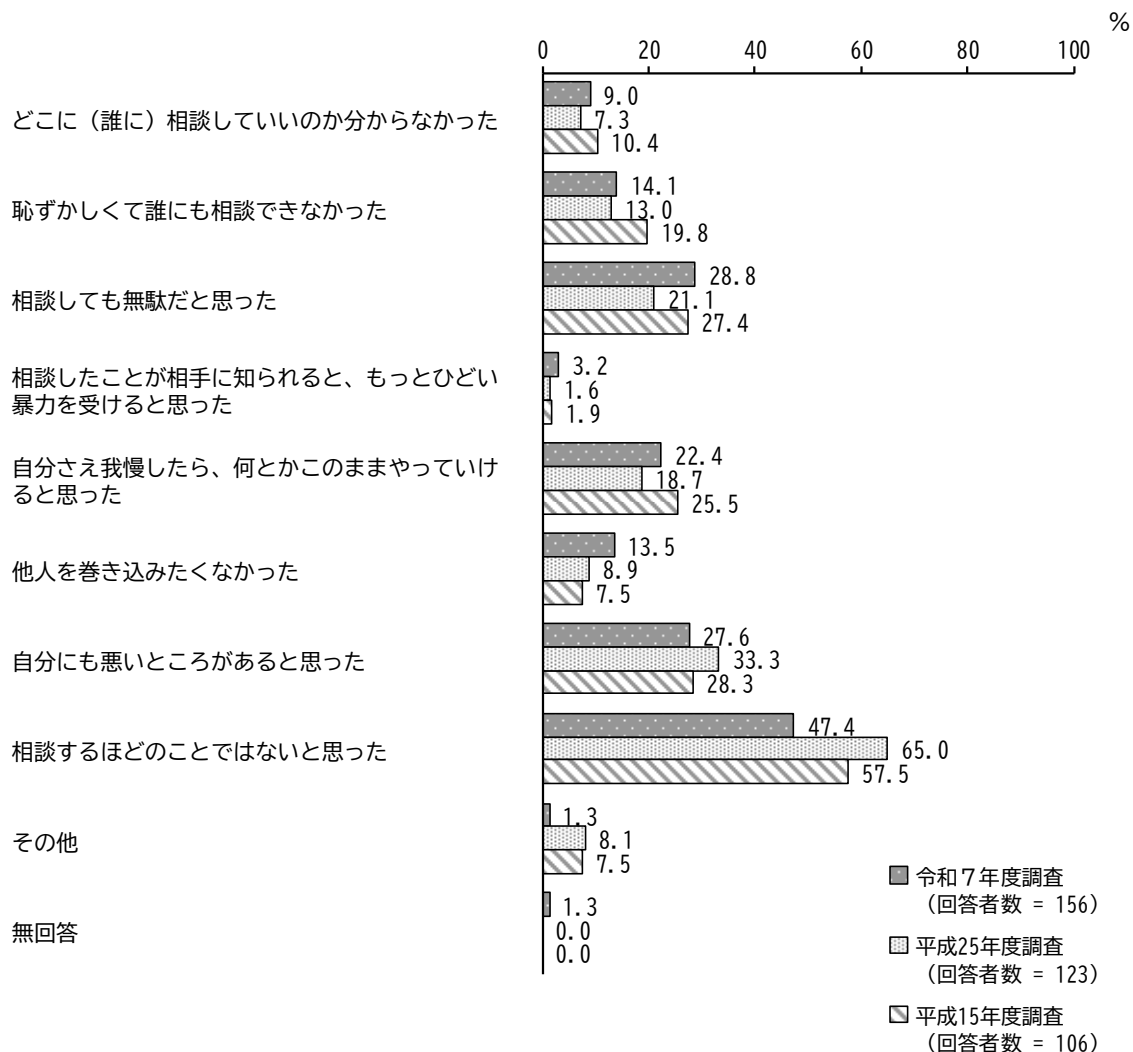
【経年・府比較】

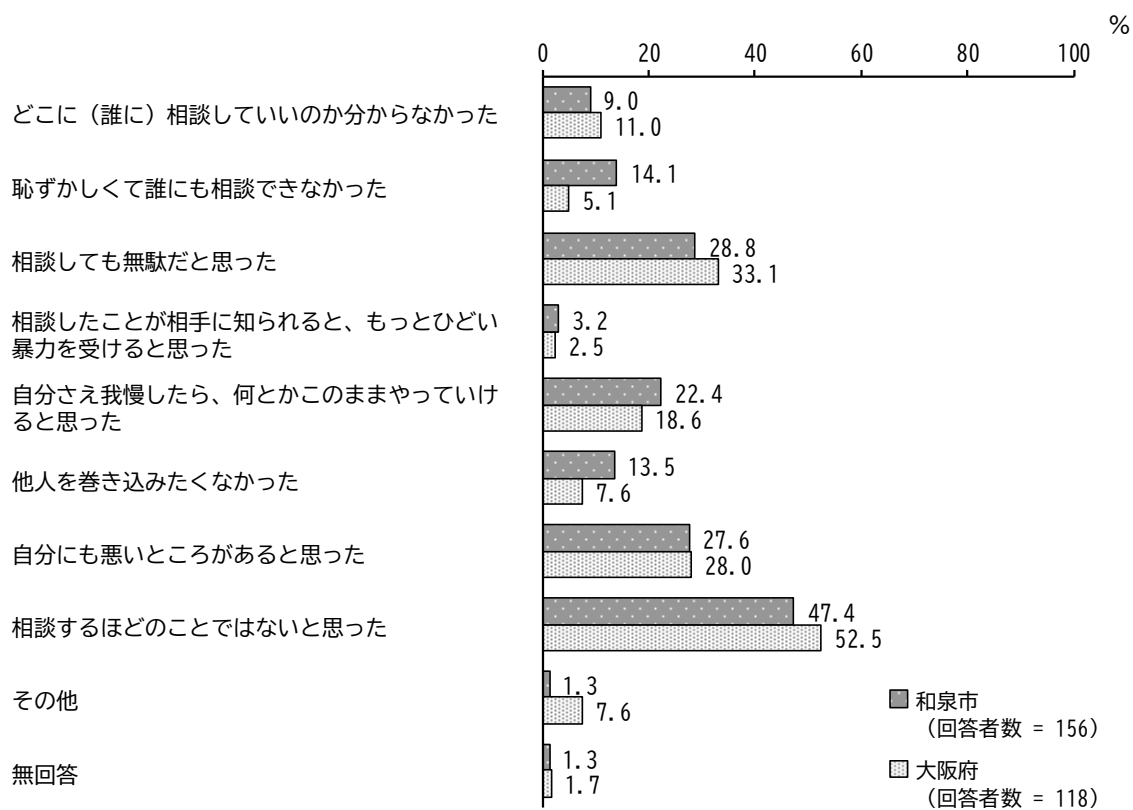
「相談するほどのことではないと思った」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」の割合が 28.8%、「自分にも悪いところがあると思った」の割合が 27.6%となっています。

過去調査と比較すると、平成 15 年度調査から「他人を巻き込みたくなかった」の割合が増加しています。

また、平成 25 年度調査から「相談しても無駄だと思った」の割合が増加しています。一方、「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことではないと思った」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「恥ずかしくて誰にも相談できなかった」「他人を巻き込みたくなかった」の割合が高くなっています。





※大阪府では、「相談したことが相手に知られると、もっとひどい暴力を受けると思った」が「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」となっていました。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代から70歳代まで年代が上がるほど「相談するほどのことではないと思った」の割合が高い傾向にあり、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていると」の割合が高い傾向にあります。

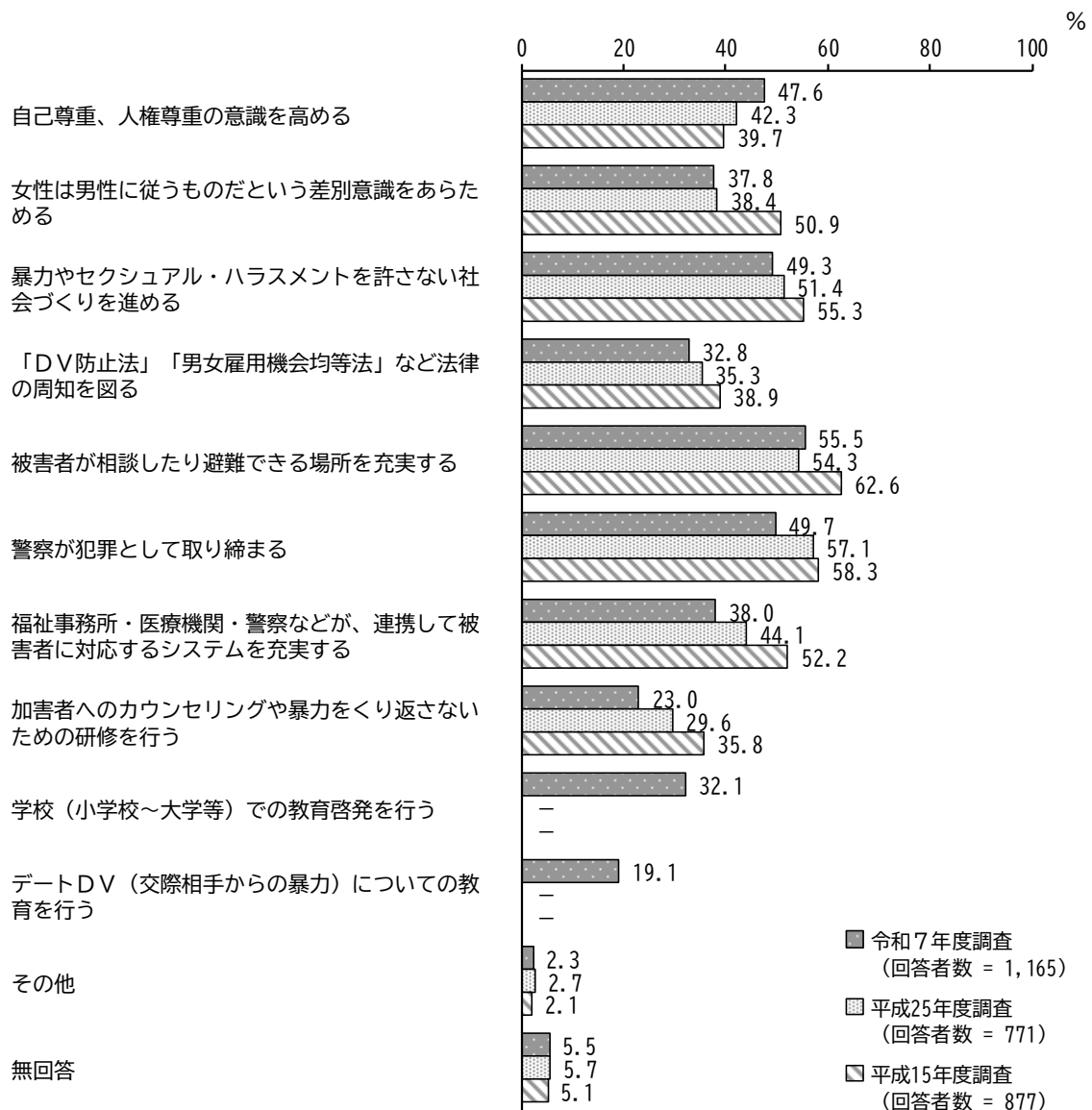
単位：%

区分	回答者数(件)	どこに(誰に)相談していいのか分からなかった	恥ずかしくて誰にも相談できなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことが相手に知られると、もっとひどい暴力を受けると思った	自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていると	他人を巻き込みたくなかった	自分にも悪いところがあると思った	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
全体	156	9.0	14.1	28.8	3.2	22.4	13.5	27.6	47.4	1.3	1.3
女性 10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	5	20.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
40歳代	15	6.7	6.7	33.3	0.0	26.7	20.0	20.0	33.3	0.0	0.0
50歳代	15	13.3	13.3	26.7	0.0	20.0	26.7	26.7	33.3	0.0	0.0
60歳代	18	0.0	16.7	11.1	11.1	44.4	11.1	16.7	44.4	0.0	5.6
70歳代	19	10.5	5.3	26.3	5.3	26.3	5.3	21.1	52.6	0.0	5.3
80歳以上	13	0.0	30.8	38.5	7.7	15.4	7.7	15.4	46.2	0.0	0.0
男性 10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
30歳代	7	14.3	14.3	28.6	0.0	28.6	0.0	42.9	42.9	0.0	0.0
40歳代	9	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	0.0	0.0
50歳代	19	10.5	21.1	42.1	0.0	15.8	15.8	31.6	52.6	5.3	0.0
60歳代	11	0.0	27.3	27.3	9.1	18.2	18.2	27.3	36.4	9.1	0.0
70歳代	12	16.7	16.7	25.0	0.0	16.7	25.0	33.3	66.7	0.0	0.0
80歳以上	8	12.5	12.5	25.0	0.0	25.0	12.5	50.0	87.5	0.0	0.0

問 42 ドメスティック・バイオレンス（DV）など男女間の暴力を防止するためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「被害者が相談したり避難できる場所を充実する」の割合が 55.5%と最も高く、次いで「警察が犯罪として取り締まる」の割合が 49.7%、「暴力やセクシュアル・ハラスメントを許さない社会づくりを進める」の割合が 49.3%となっています。

過去調査と比較すると、平成 15 年度調査から「自己尊重、人権尊重の意識を高める」の割合が増加しています。一方、「女性は男性に従うものだという差別意識をあらためる」「暴力やセクシュアル・ハラスメントを許さない社会づくりを進める」「DV防止法」「男女雇用機会均等法」など法律の周知を図る」「警察が犯罪として取り締まる」「福祉事務所・医療機関・警察などが、連携して被害者に対応するシステムを充実する」「加害者へのカウンセリングや暴力をくり返さないための研修を行う」の割合が減少しています。



※平成 25 年度調査、平成 15 年度調査では、「学校（小学校～大学等）での教育啓発を行う」、「デートDV（交際相手からの暴力）についての教育を行う」がありませんでした。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では80歳以上から20歳代まで年代が下がるほど「警察が犯罪として取り締まる」の割合が高い傾向にあり、男性では10歳代から70歳代まで年代が上がるほど「福祉事務所・医療機関・警察などが、連携して被害者に対応するシステムを充実する」の割合が高い傾向にあります。また、男性80歳以上で「自己尊重、人権尊重の意識を高める」、女性60歳代で「女性は男性に従うものだという差別意識をあらためる」、女性30歳代、女性70歳代で「被害者が相談したり避難できる場所を充実する」、女性20歳代、女性30歳代、女性60歳代で「学校（小学校～大学等）での教育啓発を行う」、女性30歳代で「デートDV（交際相手からの暴力）についての教育を行う」の割合が高くなっています。

単位：％

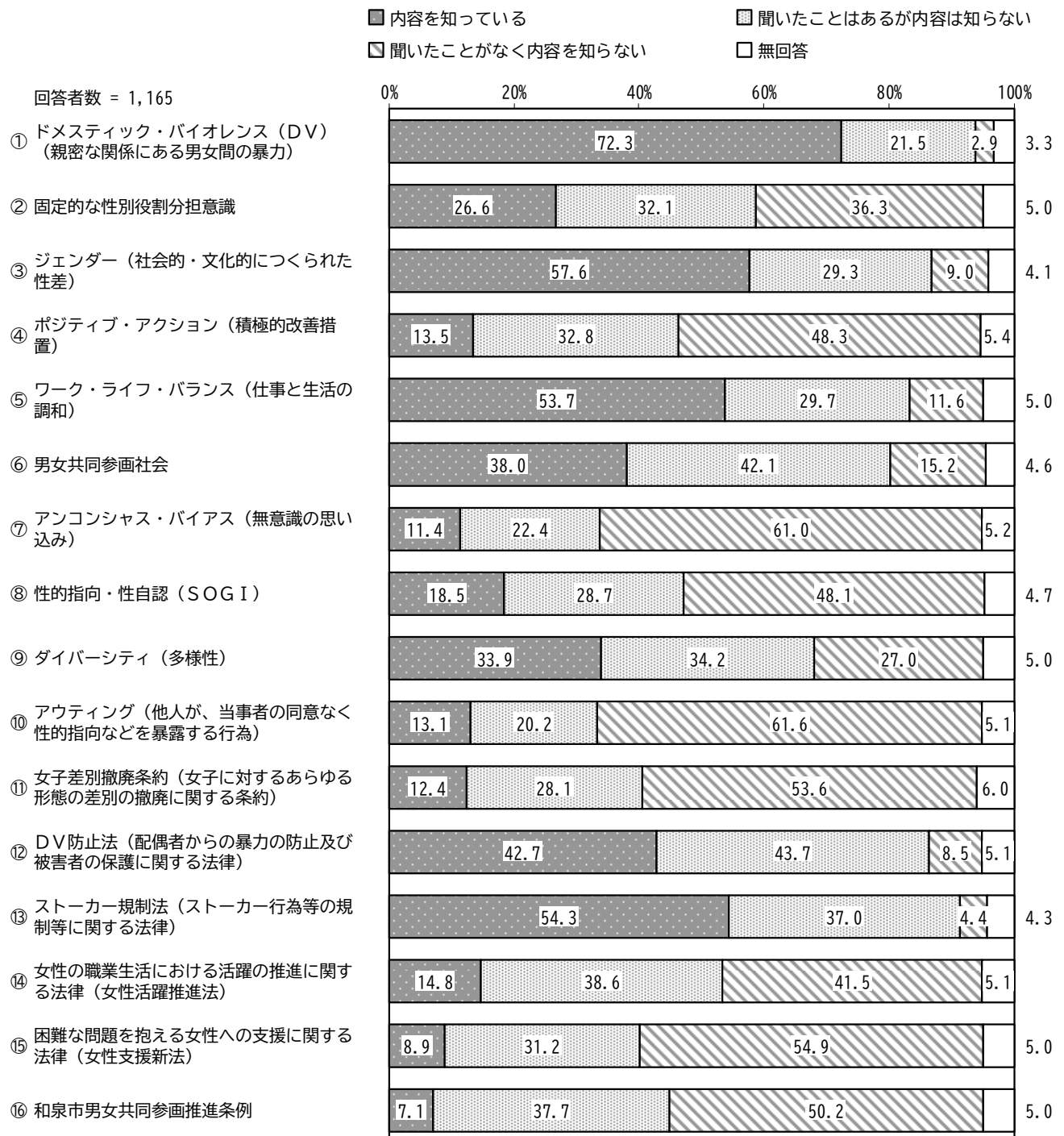
区分	回答者数 (件)	自己尊重、人権尊重の意識を高める	女性は男性に従うものだという差別意識をあらためる	暴力やセクシュアル・ハラスメントを許さない社会づくりを進める	「DV防止法」「男女雇用機会均等法」など法律の周知を図る	被害者が相談したり避難できる場所を充実する	警察が犯罪として取り締まる
全体	1,165	47.6	37.8	49.3	32.8	55.5	49.7
女性 10歳代	11	36.4	36.4	45.5	45.5	54.5	54.5
20歳代	38	57.9	42.1	57.9	36.8	42.1	65.8
30歳代	52	48.1	46.2	53.8	42.3	69.2	63.5
40歳代	80	42.5	37.5	43.8	21.3	55.0	58.8
50歳代	118	35.6	40.7	46.6	32.2	63.6	59.3
60歳代	105	54.3	54.3	56.2	41.0	64.8	51.4
70歳代	130	47.7	43.8	57.7	36.9	66.2	36.2
80歳以上	60	48.3	40.0	40.0	35.0	51.7	35.0
男性 10歳代	6	16.7	33.3	33.3	50.0	50.0	50.0
20歳代	35	42.9	31.4	42.9	37.1	48.6	60.0
30歳代	55	34.5	23.6	34.5	20.0	43.6	65.5
40歳代	68	38.2	35.3	48.5	23.5	55.9	48.5
50歳代	104	49.0	33.7	44.2	26.9	49.0	51.9
60歳代	112	53.6	35.7	58.0	37.5	53.6	48.2
70歳代	116	54.3	27.6	47.4	30.2	53.4	44.8
80歳以上	58	67.2	31.0	51.7	36.2	37.9	27.6

区分	福祉事務所・医療機関・警察などが、連携して被害者に対応するシステムを充実する	加害者へのカウンセリングや暴力をくり返さないための研修を行う	学校（小学校～大学等）での教育啓発を行う	デートDV（交際相手からの暴力）についての教育を行う	その他	無回答
全体	38.0	23.0	32.1	19.1	2.3	5.5
女性 10歳代	27.3	27.3	27.3	18.2	0.0	9.1
20歳代	28.9	26.3	44.7	31.6	5.3	5.3
30歳代	50.0	26.9	44.2	42.3	5.8	5.8
40歳代	32.5	15.0	36.3	18.8	5.0	3.8
50歳代	42.4	27.1	23.7	20.3	1.7	0.8
60歳代	45.7	31.4	43.8	28.6	1.0	2.9
70歳代	38.5	26.9	31.5	15.4	0.0	10.0
80歳以上	43.3	28.3	28.3	15.0	5.0	20.0
男性 10歳代	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0
20歳代	25.7	20.0	28.6	11.4	5.7	5.7
30歳代	27.3	18.2	32.7	27.3	3.6	3.6
40歳代	33.8	13.2	29.4	17.6	1.5	2.9
50歳代	31.7	25.0	27.9	15.4	1.9	1.9
60歳代	40.2	21.4	26.8	19.6	1.8	1.8
70歳代	42.2	19.8	36.2	7.8	0.0	6.0
80歳以上	39.7	15.5	29.3	8.6	1.7	12.1

10 男女共同参画の推進について

問 43 あなたは次の「言葉」や「法律等」をご存知ですか。あてはまるものを選んでください。(①～⑯のそれぞれについて1つに○)

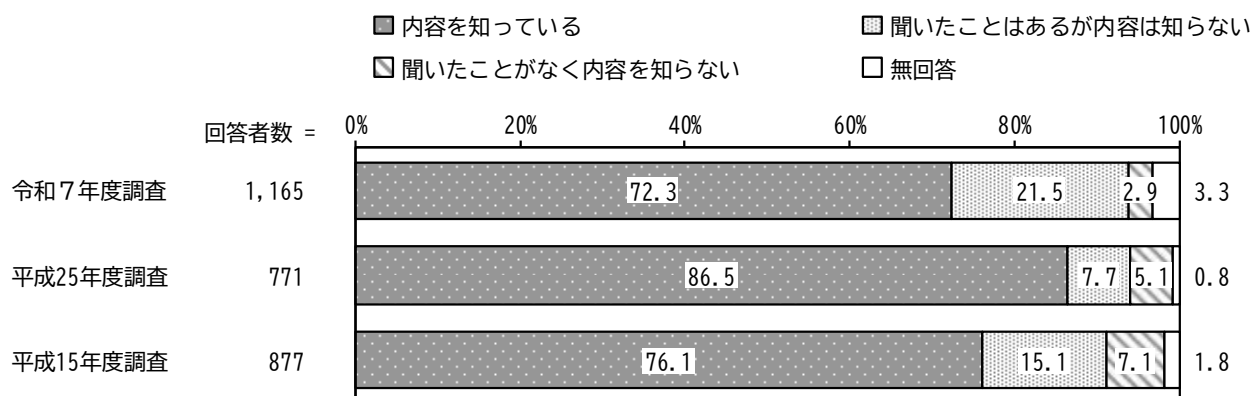
『①ドメスティック・バイオレンス（DV）（親密な関係にある男女間の暴力）』で「内容を知っている」が、『⑯DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）』で「聞いたことはあるが内容は知らない」が、『⑩アウティング（他人が、当事者の同意なく性的指向などを暴露する行為）』で「聞いたことがなく内容を知らない」が高くなっています。



①ドメスティック・バイオレンス（DV）（親密な関係にある男女間の暴力）

【経年比較】

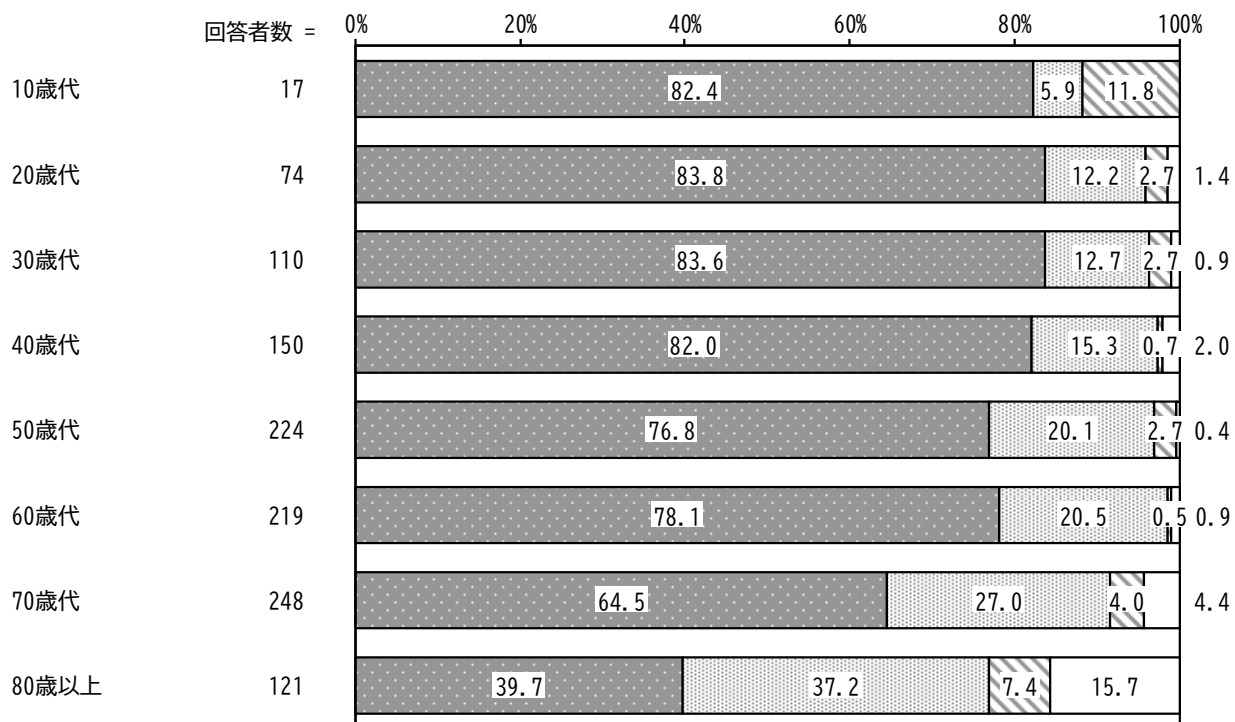
過去調査と比較すると、平成25年度調査から「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が増加しています。一方、「内容を知っている」の割合が減少しています。



※平成25年度調査では、「内容を知っている」が「知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」が「聞いたことがある」、「聞いたことがなく内容を知らない」が「知らない」となっていました。

【年代別】

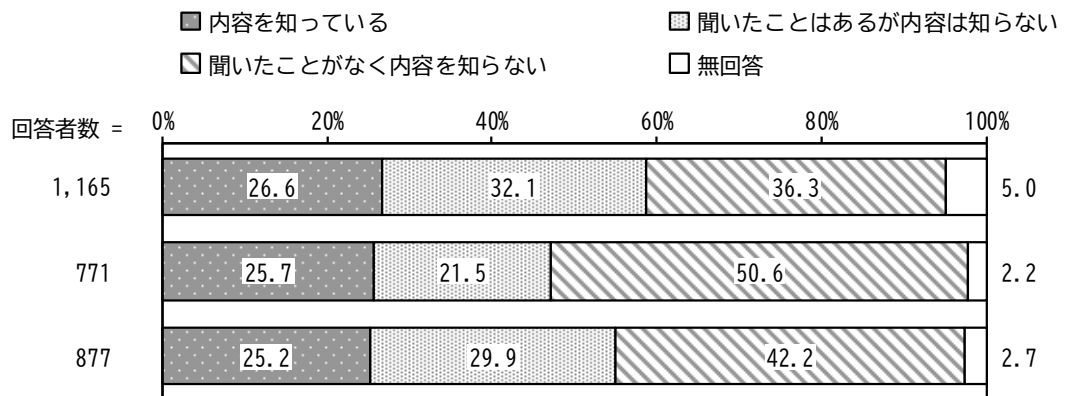
年代別にみると、年代が上がるほど「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。また、20歳代、30歳代で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



②固定的な性別役割分担意識

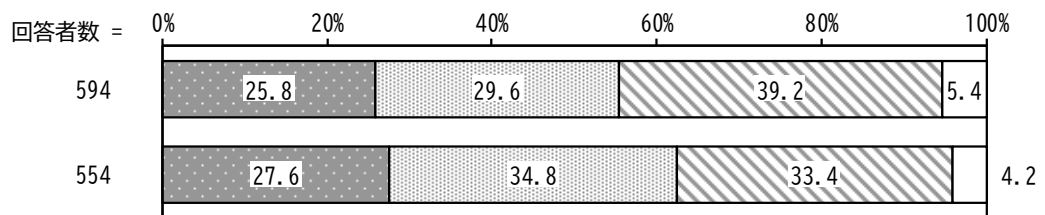
【経年比較】

過去調査と比較すると、平成25年度調査から「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が増加しています。一方、「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が減少しています。



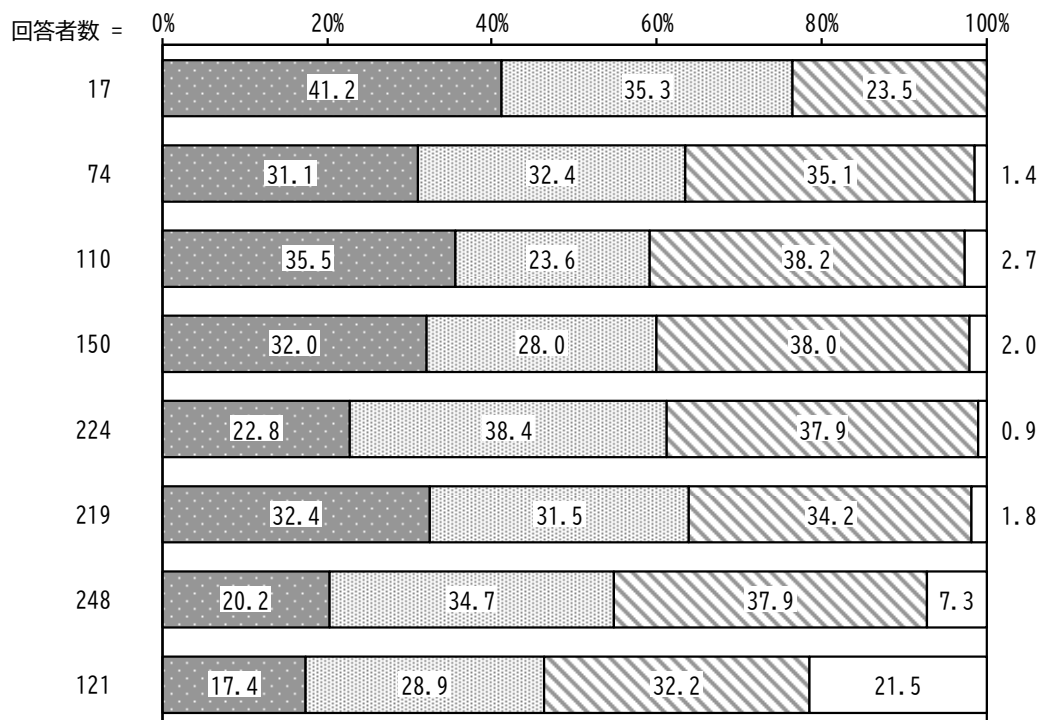
【性別】

性別にみると、女性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、男性で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

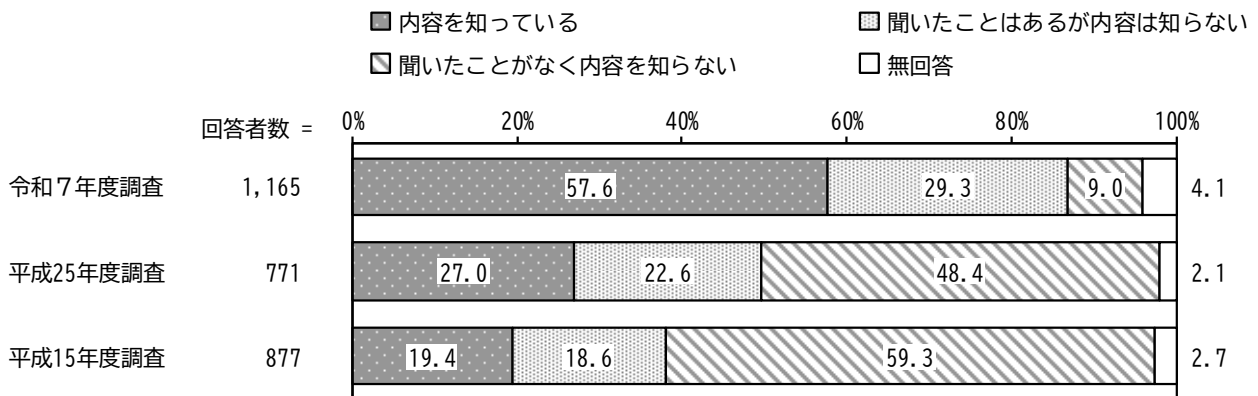
年代別にみると、10歳代で「内容を知っている」の割合が高く、「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が低くなっています。



③ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）

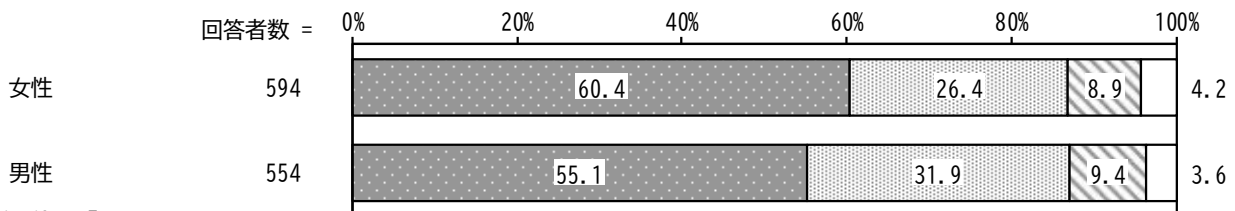
【経年比較】

過去調査と比較すると、平成15年度調査から「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が増加しています。一方、「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が減少しています。



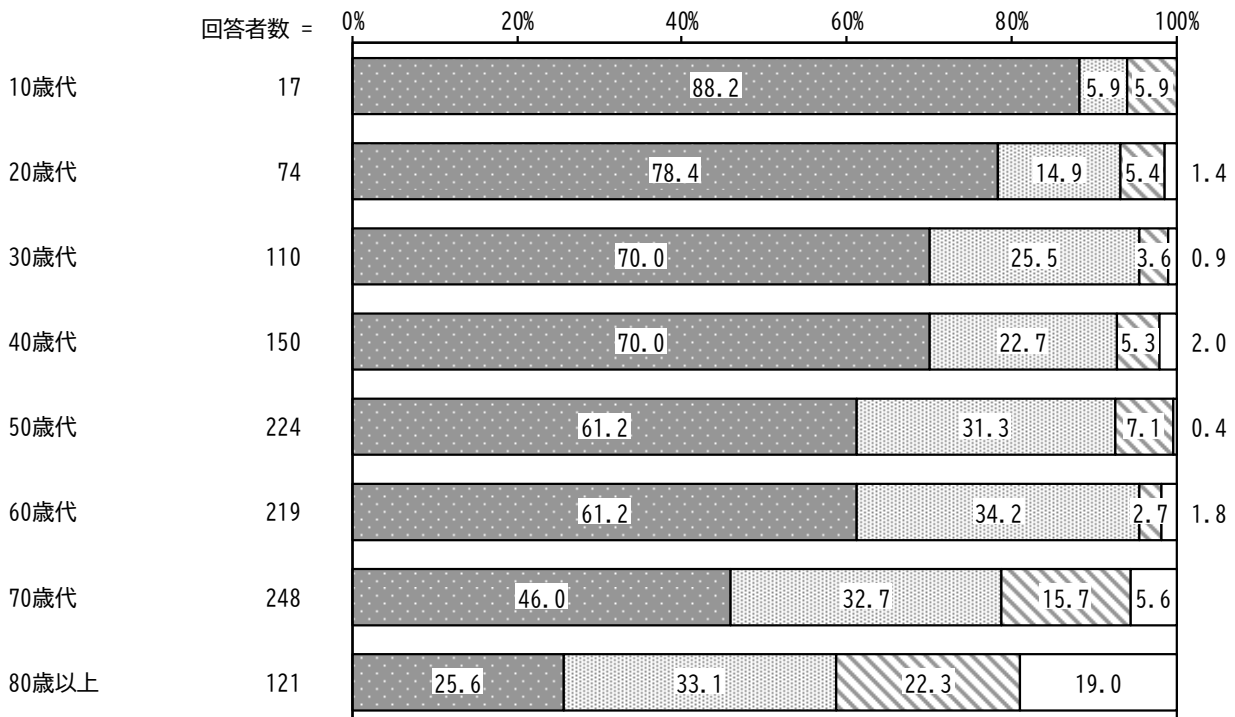
【性別】

性別にみると、女性で「内容を知っている」の割合が高く、男性で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別にみると、10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高い傾向にあります。

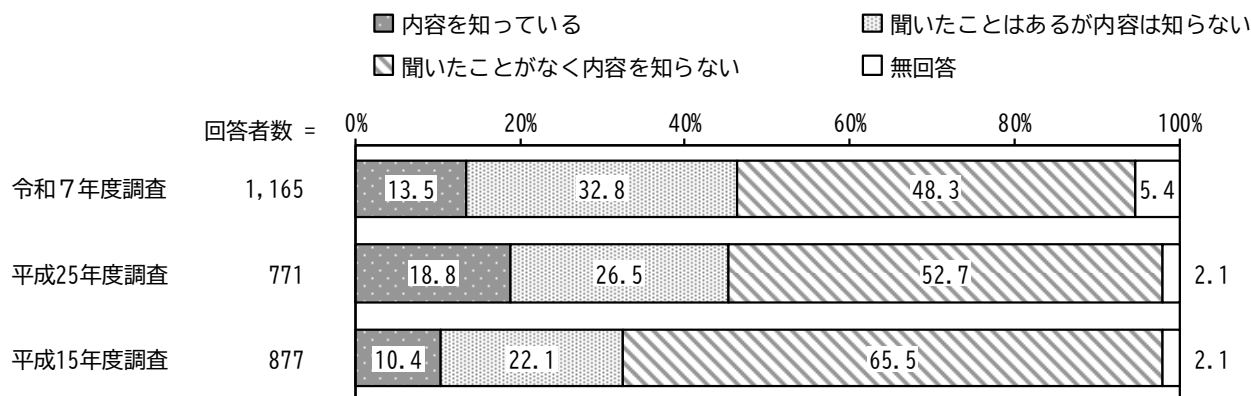


④ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

【経年比較】

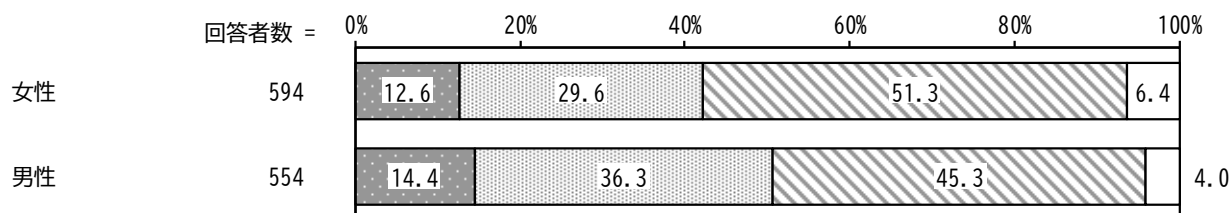
過去調査と比較すると、平成15年度調査から「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が増加しています。一方、「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が減少しています。

また、平成25年度調査から「内容を知っている」の割合が減少しています。



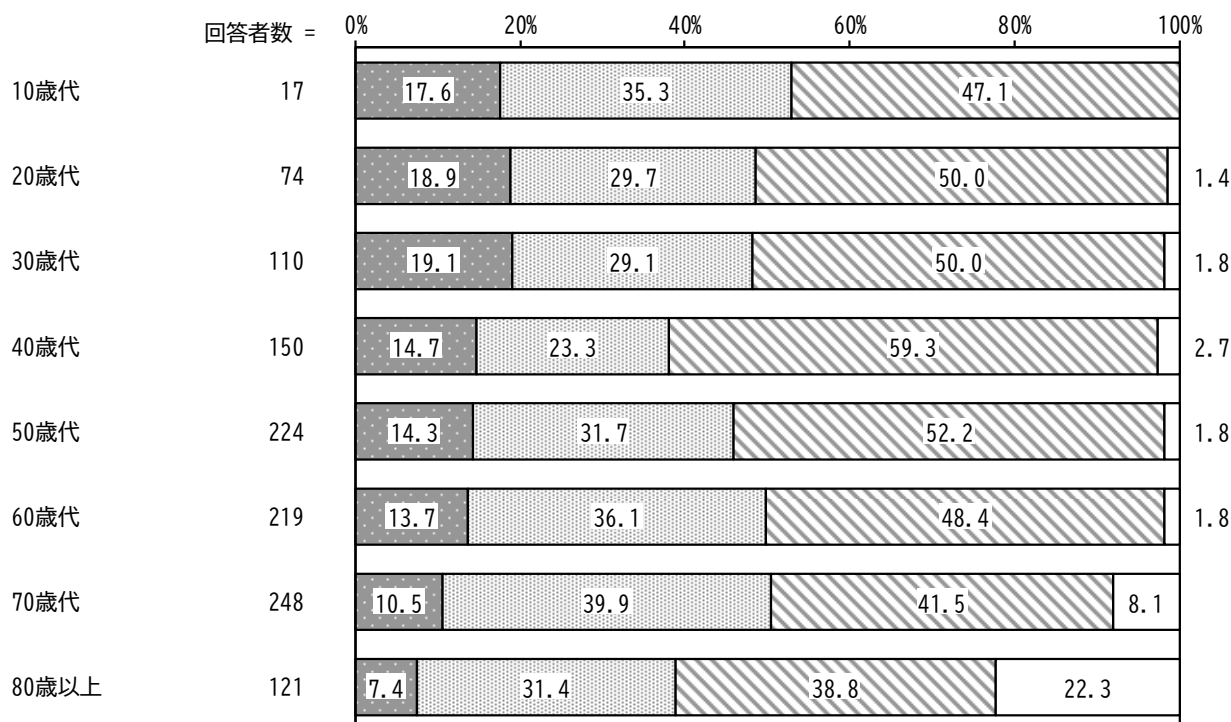
【性別】

性別にみると、女性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、男性で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

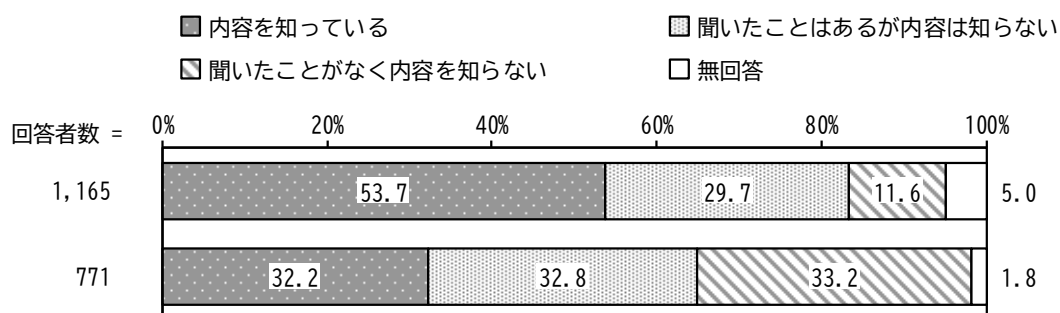
年代別にみると、80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「内容を知っている」の割合が高くなっています。また、40歳代で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高くなっています。



⑤ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

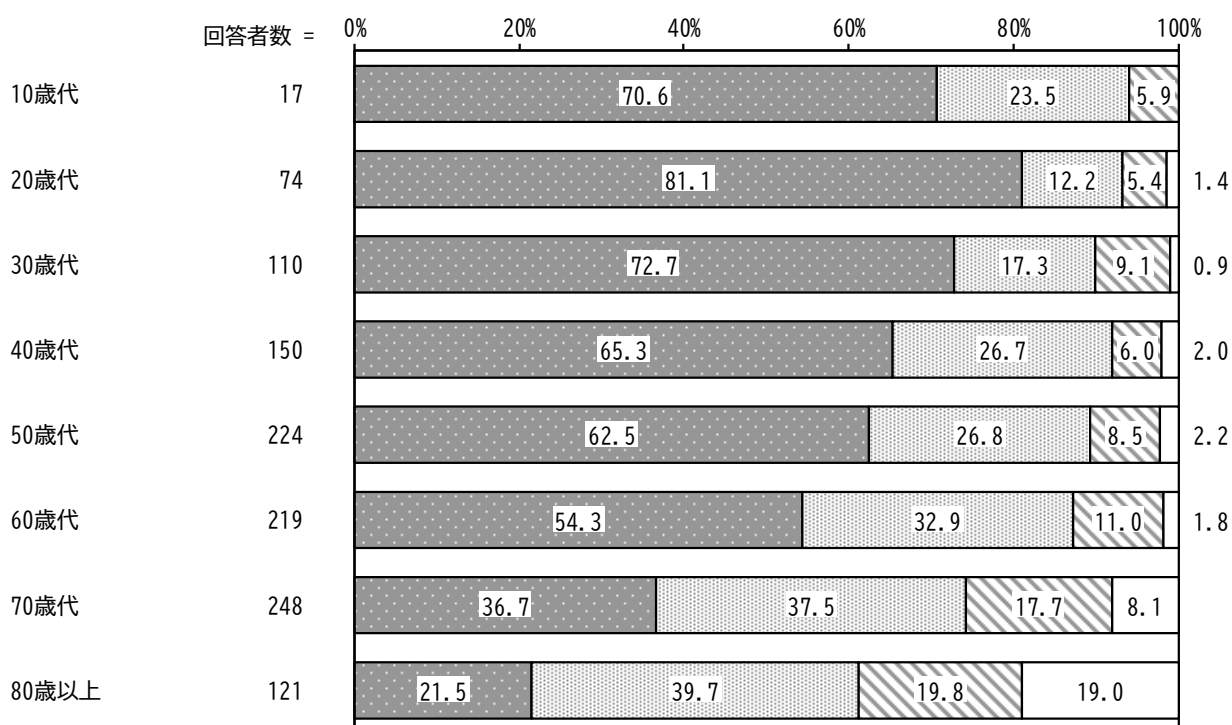
【経年比較】

平成25年度調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。一方、「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が減少しています。



【年代別】

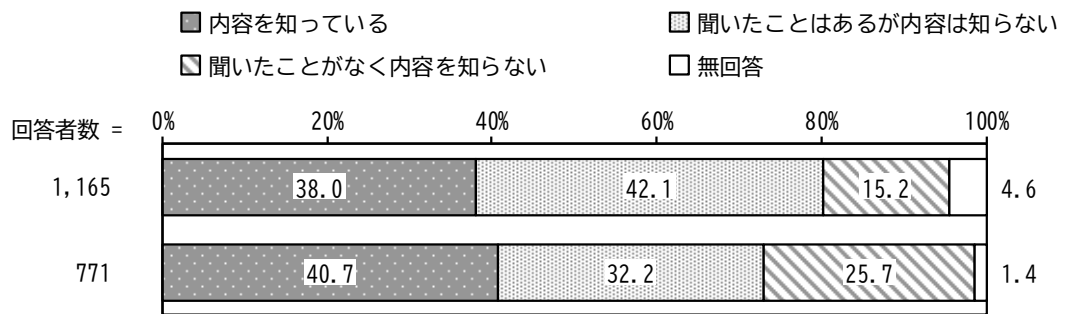
年代別にみると、20歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高く、「内容を知っている」の割合が低くなっています。



⑥男女共同参画社会

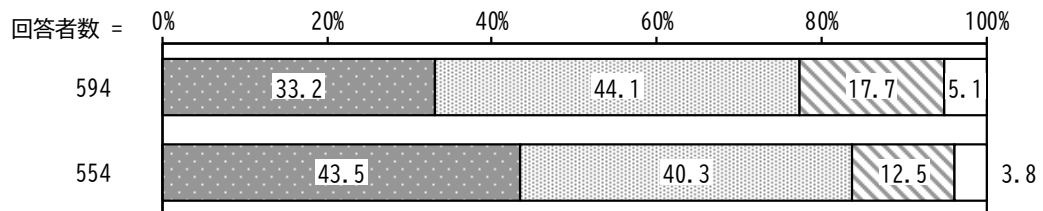
【経年比較】

平成 25 年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が増加しています。一方、「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が減少しています。



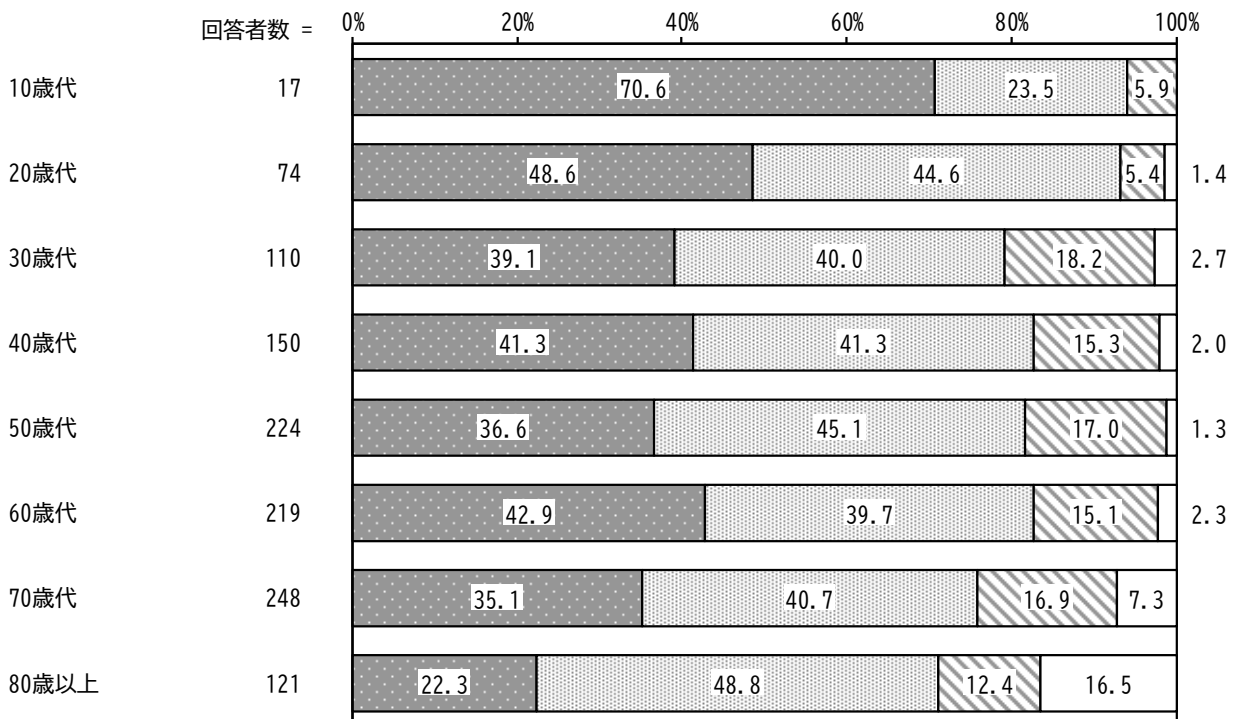
【性別】

性別にみると、女性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、男性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



【年代別】

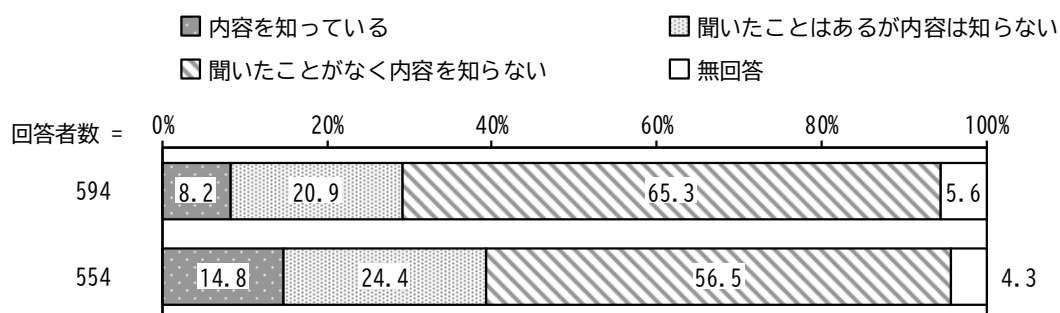
年代別にみると、50 歳代から 10 歳代まで年代が下がるほど「内容を知っている」の割合が高い傾向にあります。



⑦アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）

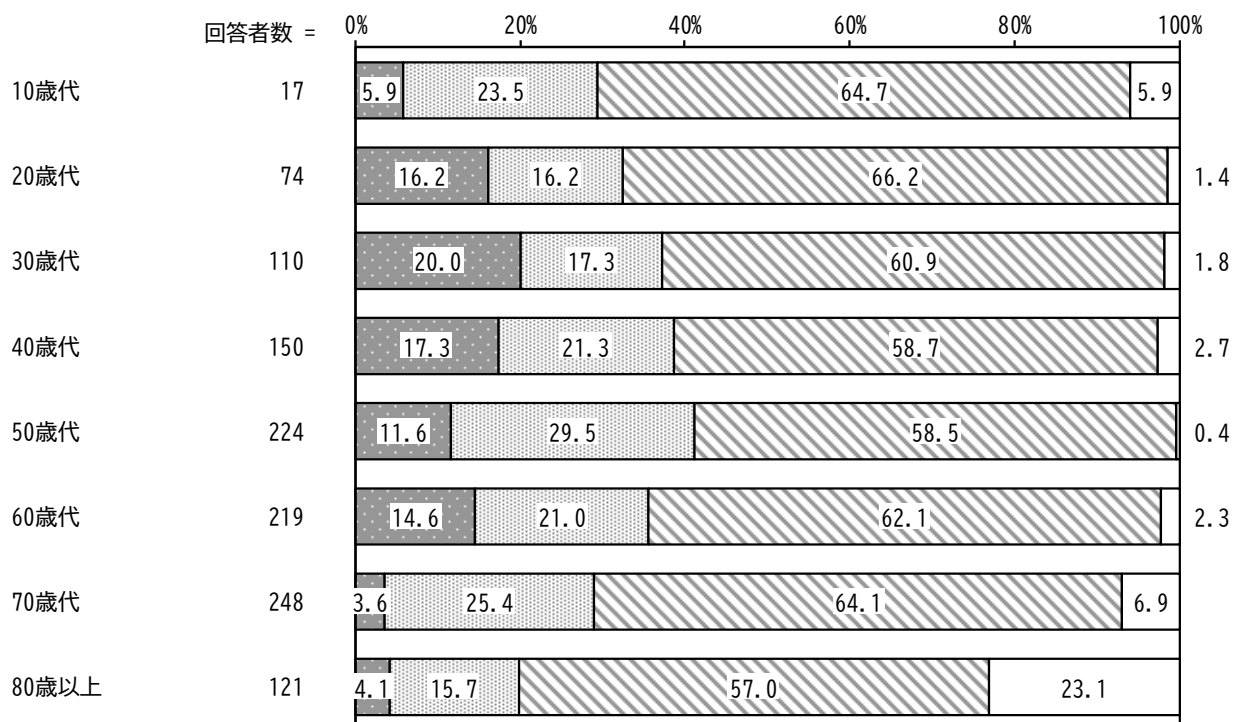
【性別】

性別にみると、女性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、男性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



【年代別】

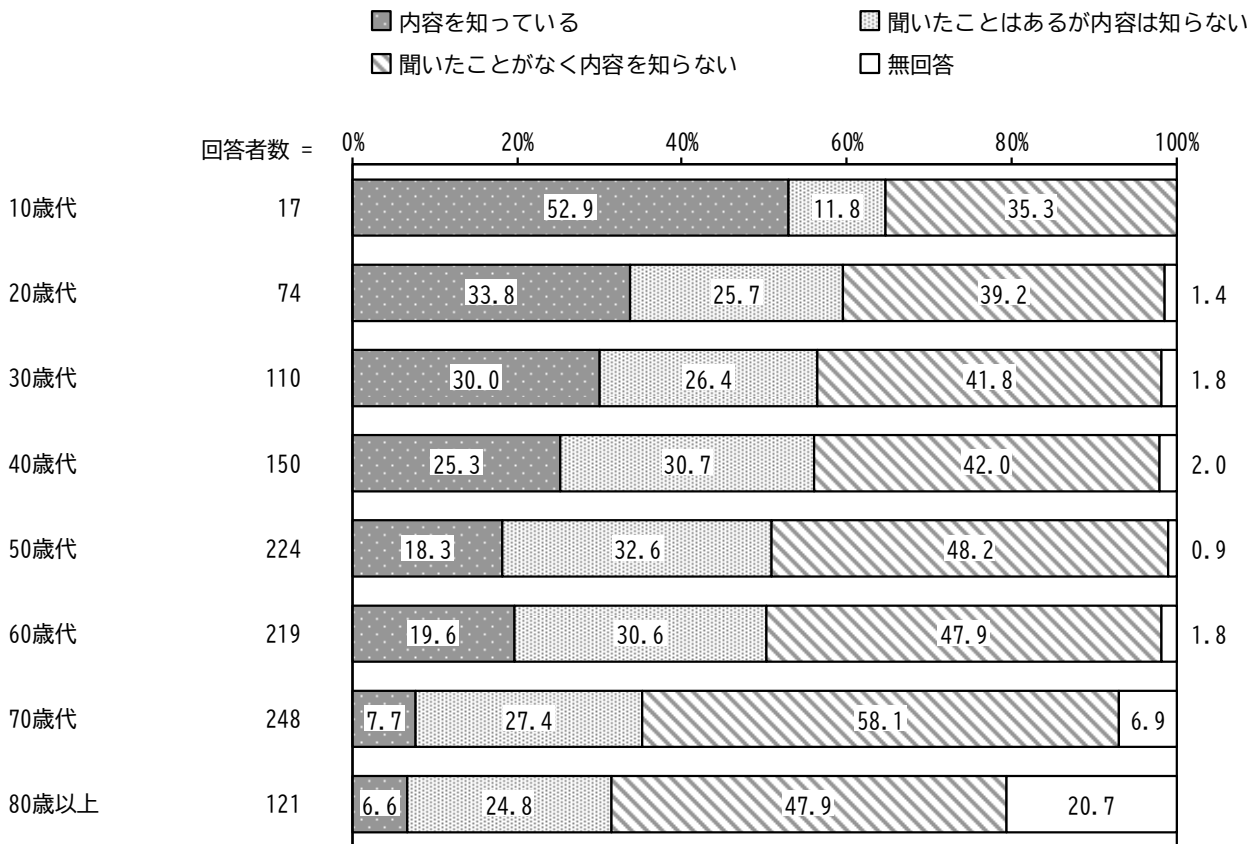
年代別にみると、70歳代から30歳代まで年代が下がるほど「内容を知っている」の割合が高い傾向にあります。



⑧性的指向・性自認（SOGI）

【年代別】

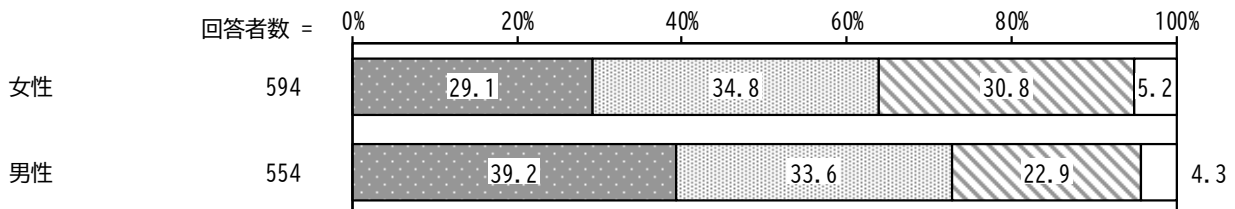
年代別にみると、年代が下がるほど「内容を知っている」の割合が高い傾向にあります。また、70歳代で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高くなっています。



⑨ダイバーシティ（多様性）

【性別】

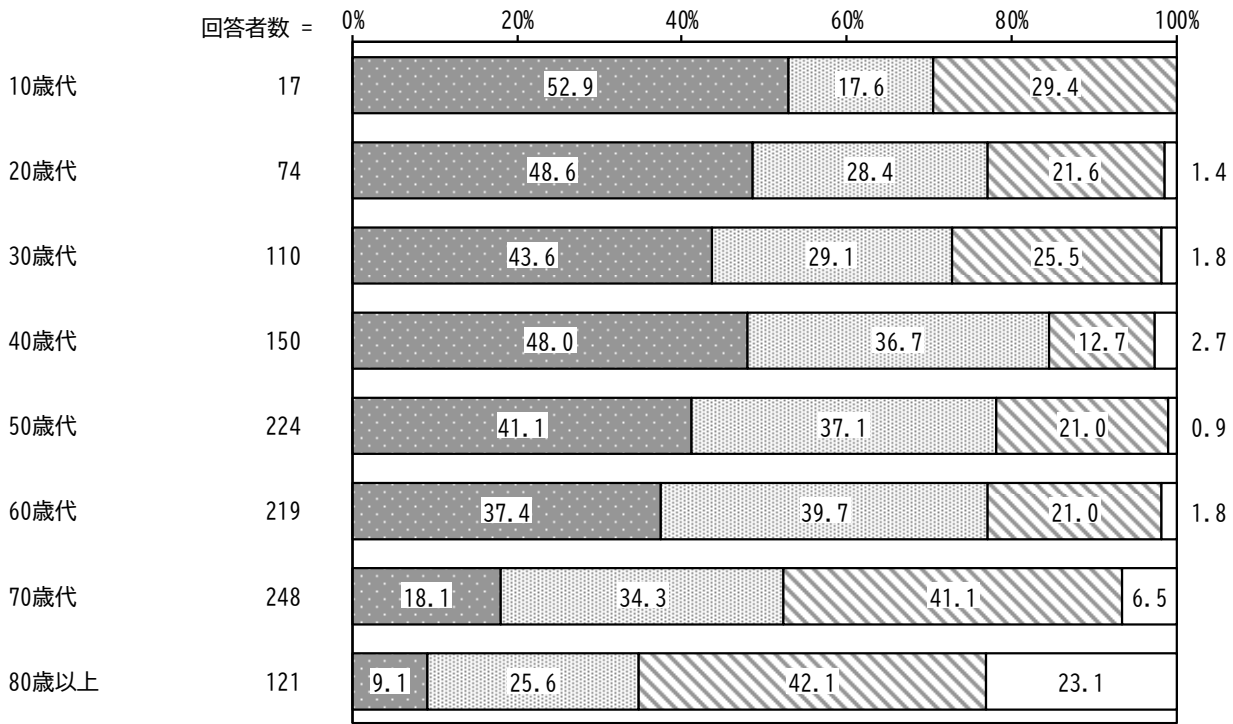
性別にみると、女性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、男性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別にみると、10歳代から60歳代まで年代が上がるほど「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。また、70歳代、80歳以上で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高くなっています。

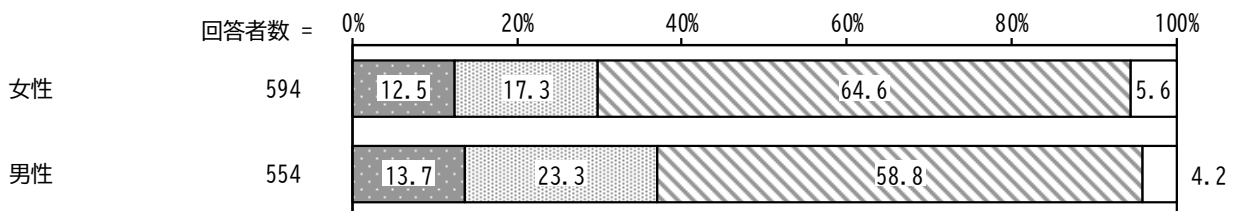
■ 内容を知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない
 ■ 聞いたことがなく内容を知らない □ 無回答



⑩アウティング（他人が、当事者の同意なく性的指向などを暴露する行為）

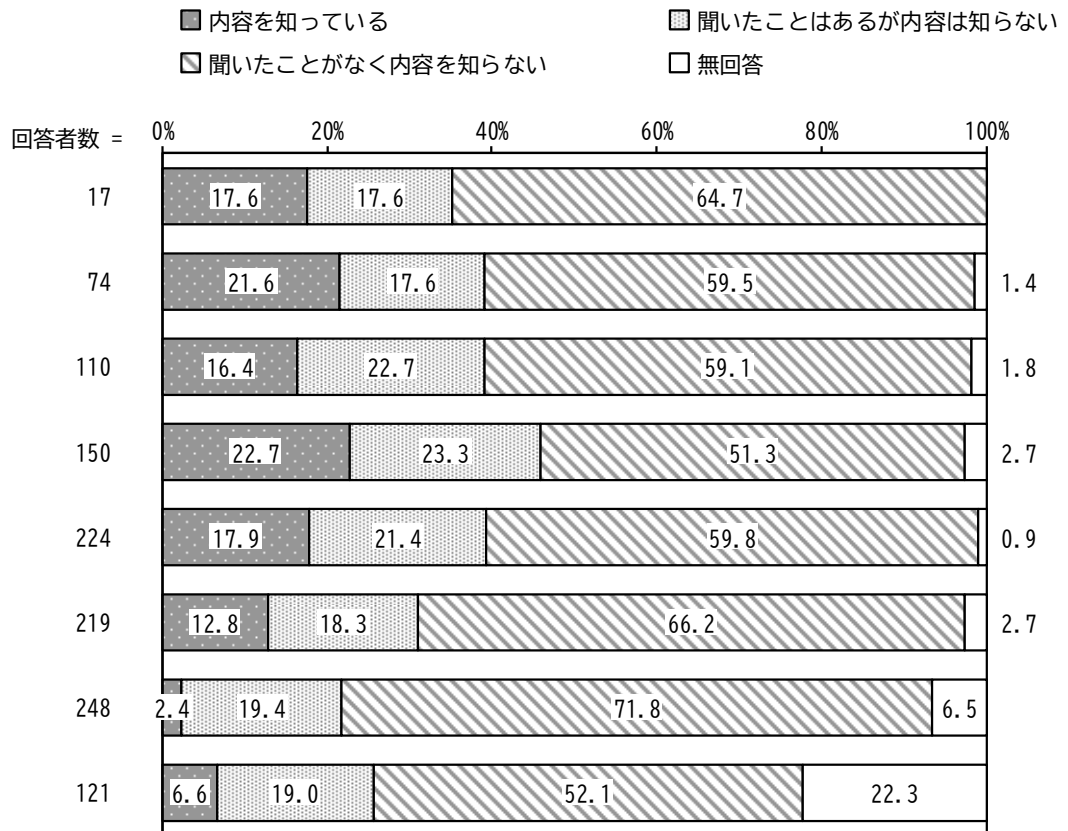
【性別】

性別にみると、女性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、男性で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

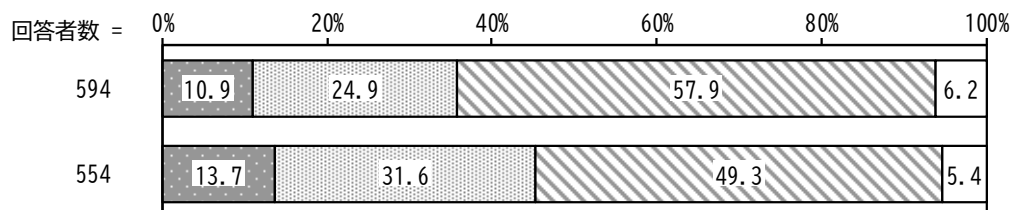
年代別にみると、70歳代で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、「内容を知っている」の割合が低くなっています。



①女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）

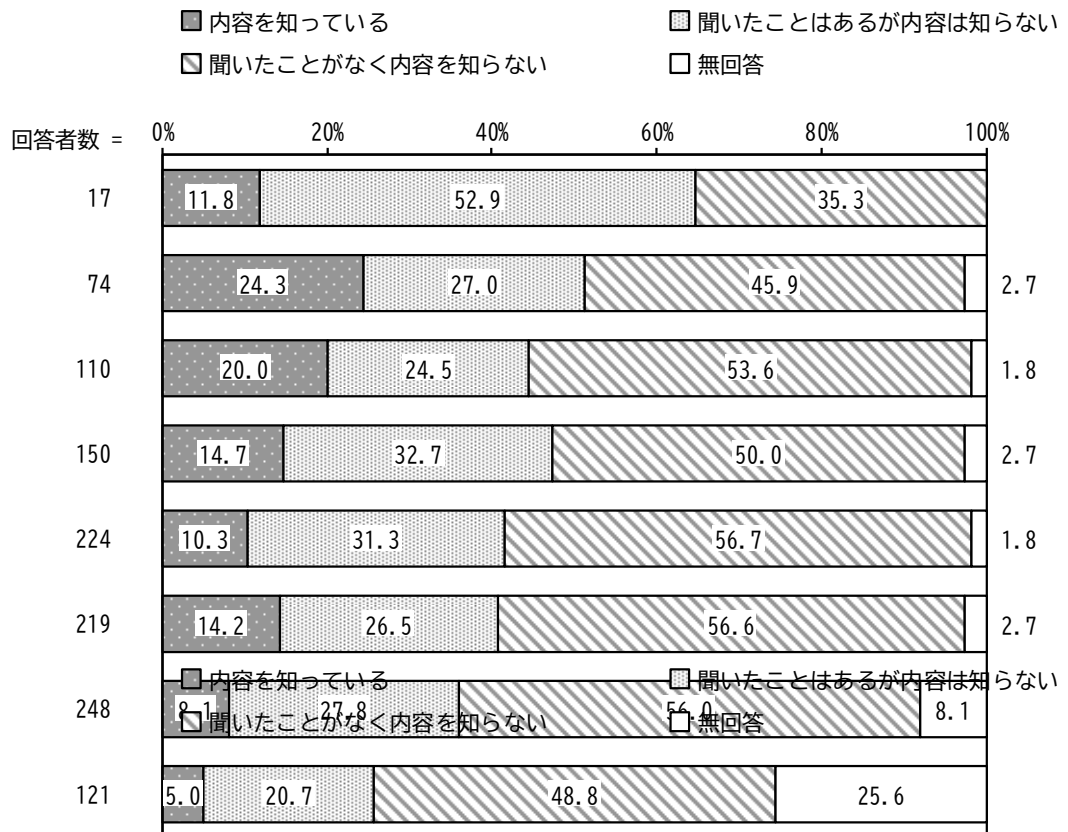
【性別】

性別にみると、女性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、男性で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

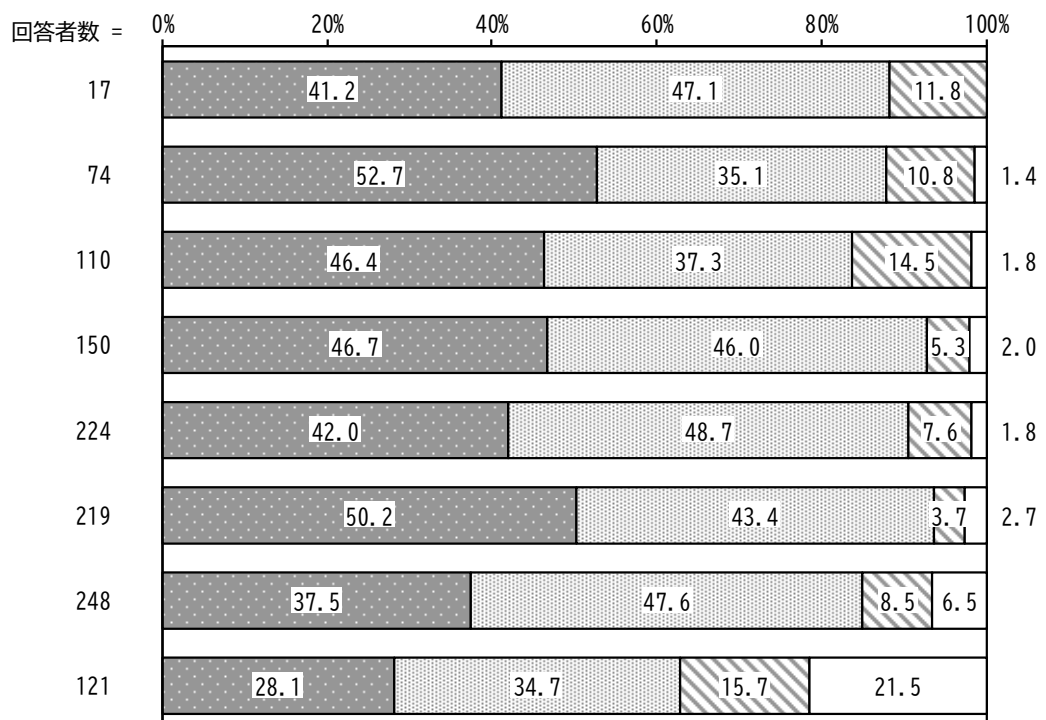
年代別にみると、80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高い傾向にあります。また、20歳代で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



⑫DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）

【年代別】

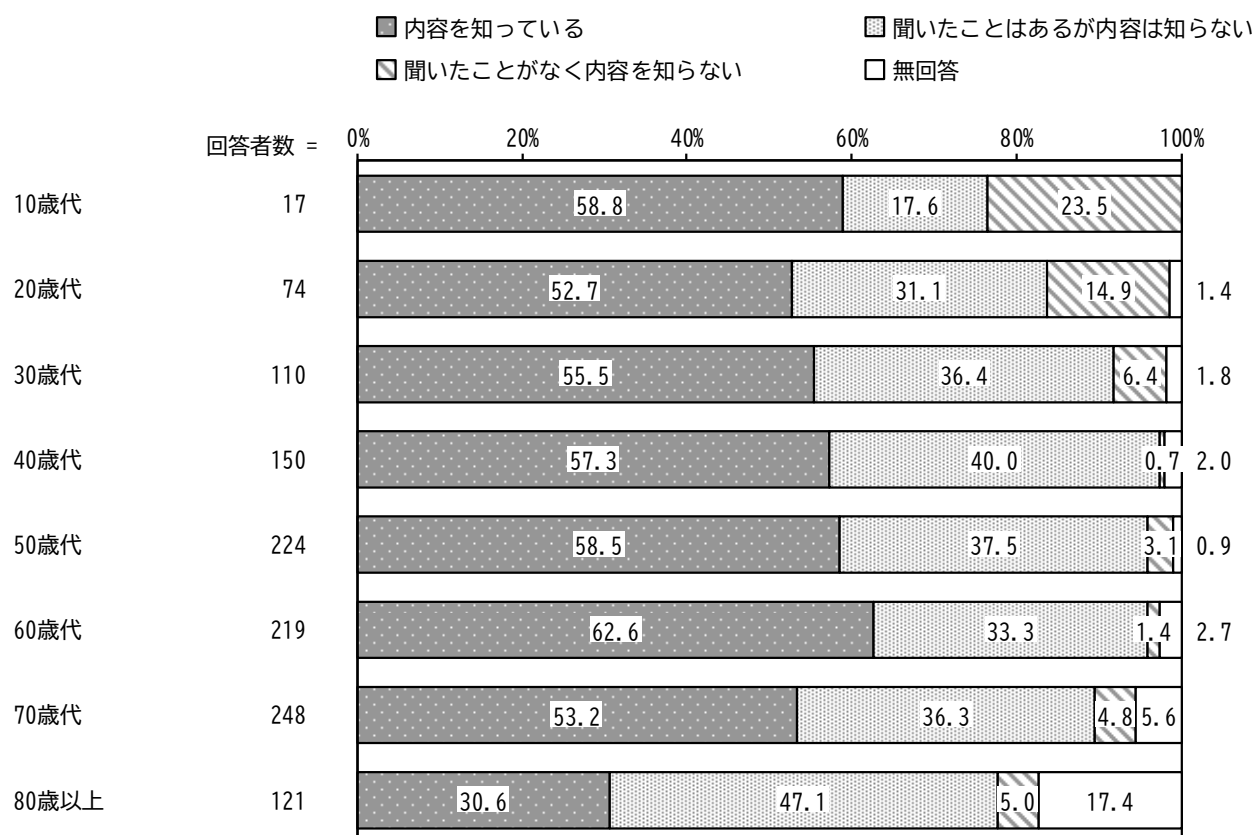
年代別にみると、20歳代、60歳代で「内容を知っている」、50歳代で「聞いたことはあるが内容は知らない」、30歳代、80歳以上で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高くなっています。



⑬ ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）

【年代別】

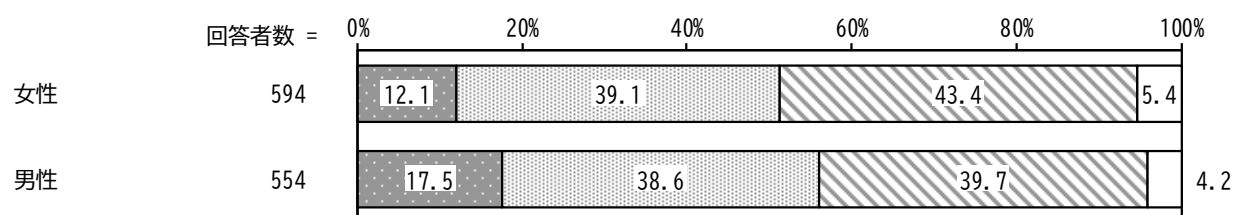
年代別にみると、20歳代から60歳代まで年代が上がるほど「内容を知っている」の割合が高くなっています。また、80歳以上で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。



⑭ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

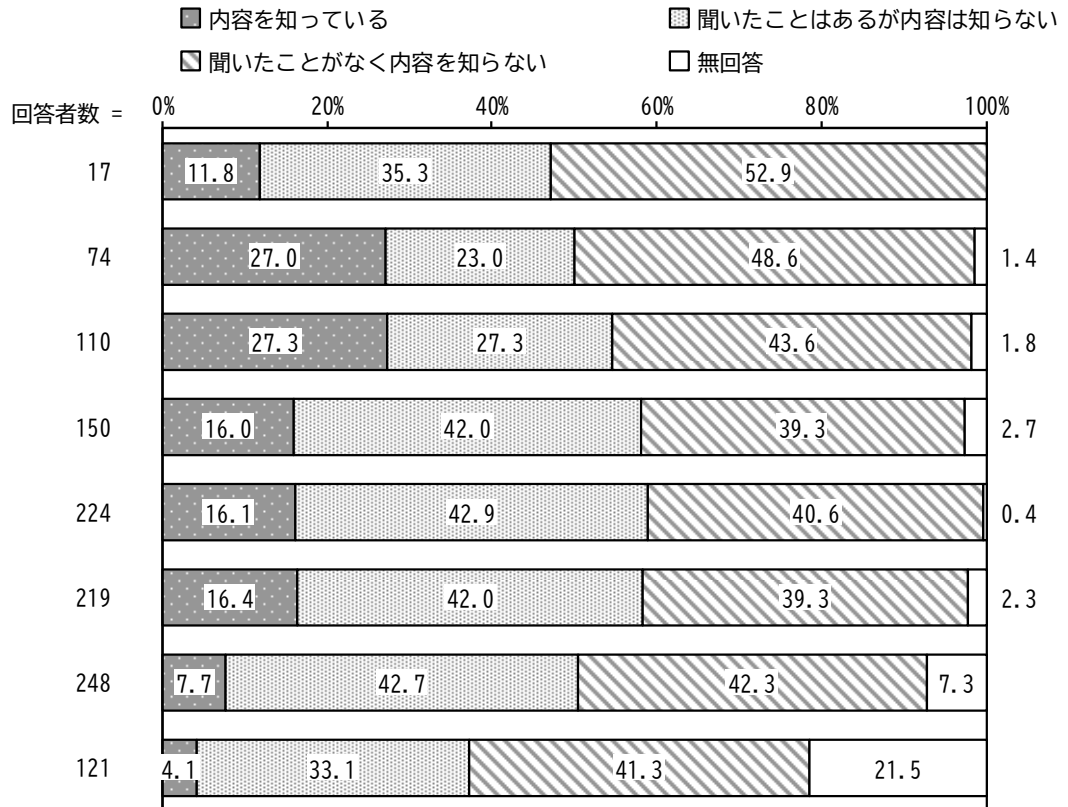
【性別】

性別にみると、男性で「内容を知っている」の割合が高くなっています。



【年代別】

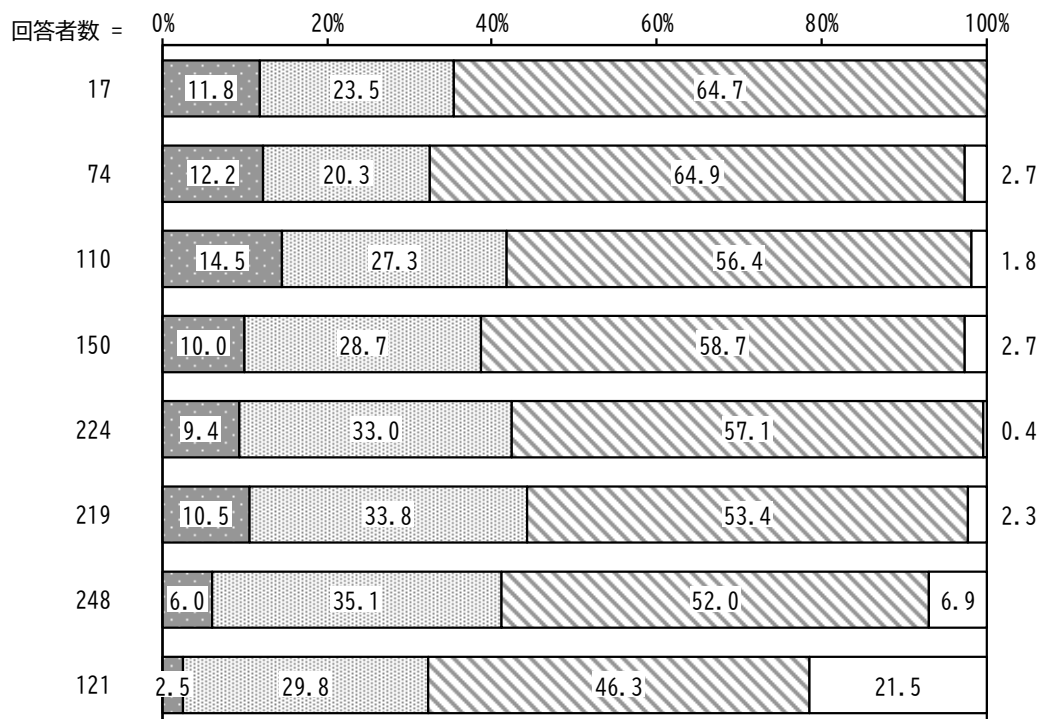
年代別にみると、60歳代から10歳代まで年代が下がるほど「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高い傾向にあります。また、20歳代、30歳代で「内容を知っている」の割合が高く、20歳代で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が低くなっています。



⑮ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）

【年代別】

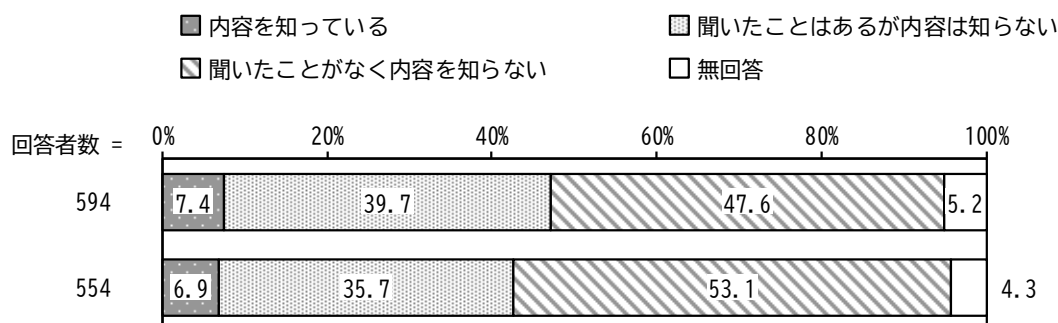
年代別にみると、80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど「内容を知っている」の割合が高い傾向にあります。また、20歳代で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高く、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が低くなっています。



⑩和泉市男女共同参画推進条例

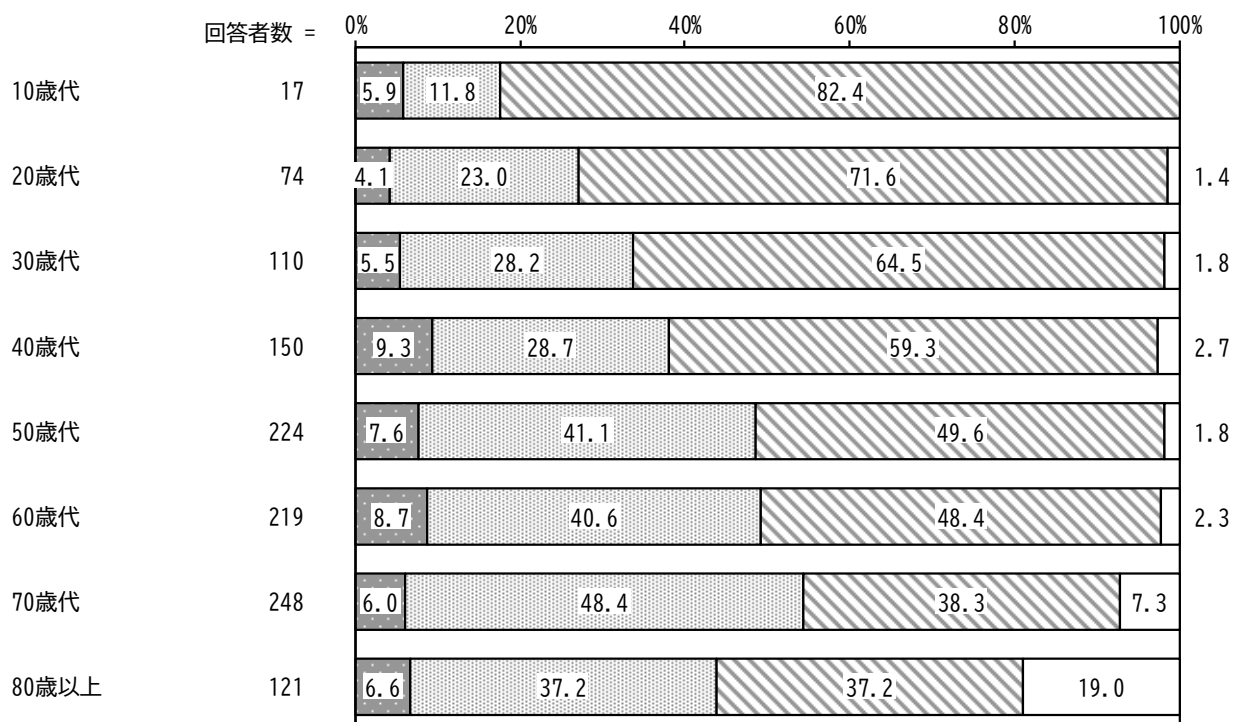
【性別】

性別にみると、男性で「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

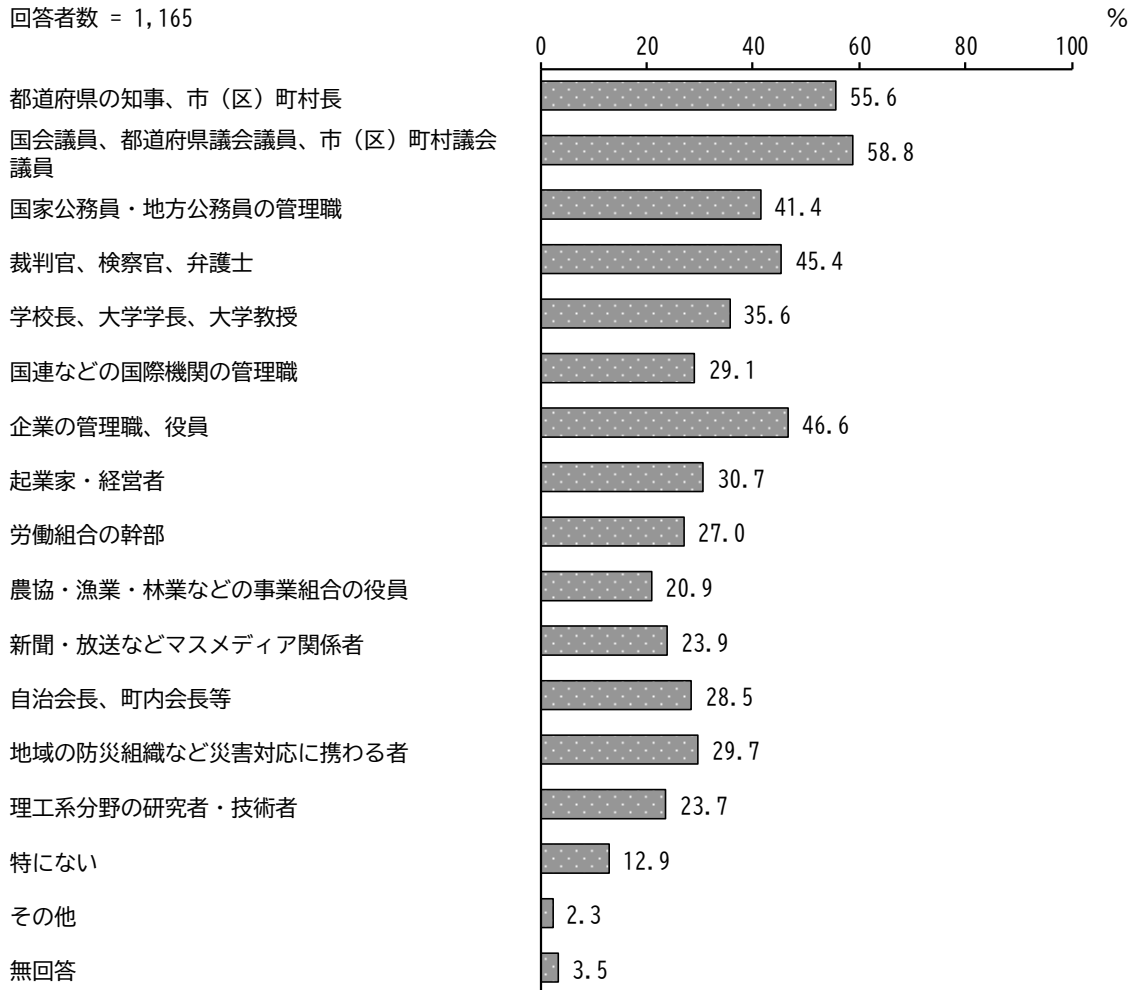
年代別にみると、年代が下がるほど「聞いたことがなく内容を知らない」の割合が高くなっています。また、70歳代で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっています。



問 44 次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方が良いと思うのはどれですか。この中からいくつでもあげてください。(〇はいくつでも)

「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「都道府県の知事、市（区）町村長」の割合が 55.6%、「企業の管理職、役員」の割合が 46.6%となっています。

回答者数 = 1,165



【性・年代別】

性・年代別にみると、10歳代から70歳代まで年代が上がるほど、女性では「新聞・放送などマスメディア関係者」の割合が高い傾向にあり、男性では「新聞・放送などマスメディア関係者」「地域の防災組織など災害対応に携わる者」の割合が高い傾向にあります。また、男性60歳代で「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」、女性60歳代で「裁判官、検察官、弁護士」「企業の管理職、役員」、女性40歳代で「学校長、大学学長、大学教授」、女性30歳代で「国連などの国際機関の管理職」、男性70歳代、男性80歳以上で「自治会長、町内会長等」の割合が高くなっています。

単位：％

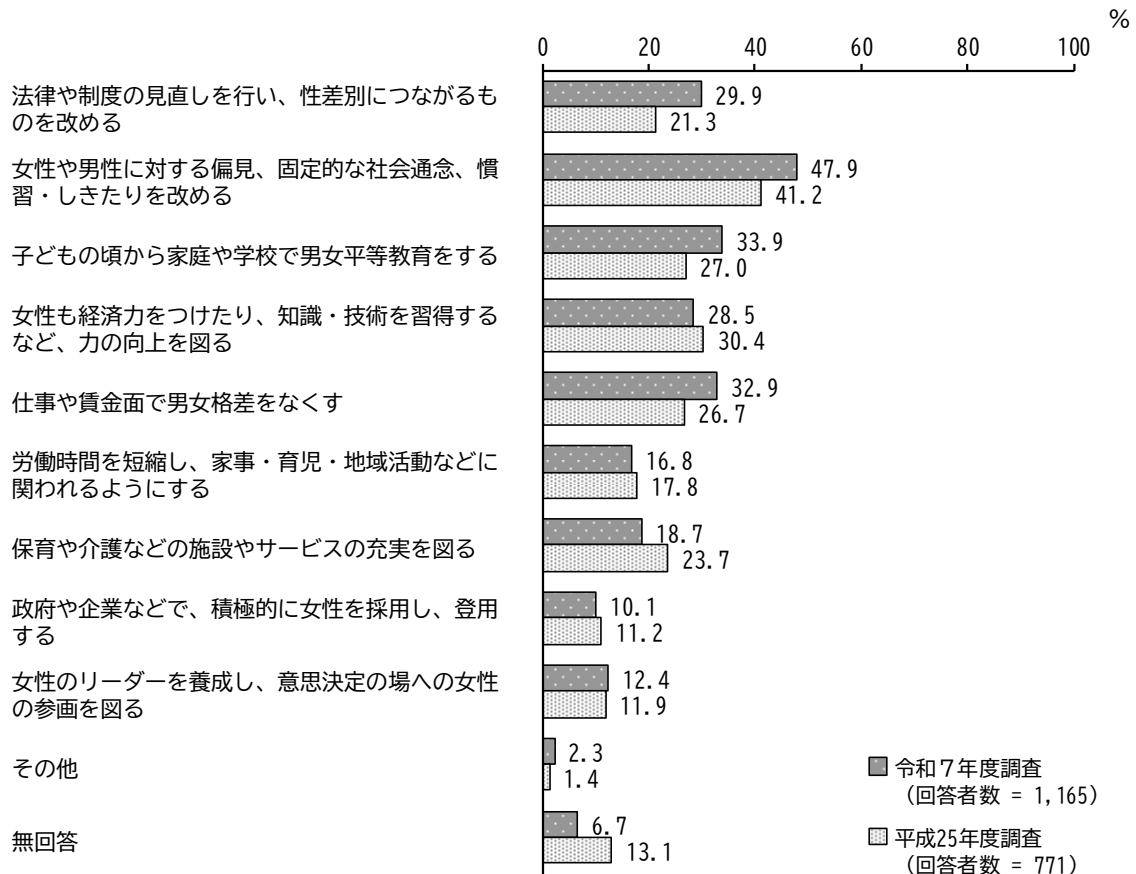
区分	回答者数 (件)	市(区)町村長 都道府県の知事、 町村長	国会議員、都道府 県議会議員、市 (区)町村議会議 員	国家公務員・地方 公務員の管理職	裁判官、検察官、 弁護士	学校長、大学学 長、大学教授	国連などの国際 機関の管理職	企業の管理職、役 員	起業者・経営者
全 体	1,165	55.6	58.8	41.4	45.4	35.6	29.1	46.6	30.7
女性 10歳代	11	45.5	63.6	27.3	36.4	27.3	36.4	18.2	18.2
20歳代	38	57.9	57.9	47.4	47.4	34.2	28.9	39.5	23.7
30歳代	52	59.6	55.8	48.1	53.8	36.5	40.4	44.2	36.5
40歳代	80	60.0	60.0	37.5	47.5	46.3	22.5	47.5	31.3
50歳代	118	58.5	60.2	44.9	50.8	35.6	25.4	47.5	31.4
60歳代	105	58.1	67.6	40.0	57.1	37.1	36.2	57.1	33.3
70歳代	130	57.7	54.6	43.1	49.2	30.0	27.7	46.9	26.2
80歳以上	60	45.0	50.0	41.7	40.0	35.0	28.3	36.7	23.3
男性 10歳代	6	66.7	33.3	16.7	33.3	66.7	0.0	16.7	16.7
20歳代	35	37.1	37.1	25.7	31.4	14.3	11.4	34.3	14.3
30歳代	55	41.8	50.9	30.9	30.9	32.7	21.8	34.5	20.0
40歳代	68	55.9	64.7	45.6	41.2	39.7	30.9	39.7	38.2
50歳代	104	55.8	54.8	30.8	37.5	36.5	29.8	50.0	31.7
60歳代	112	62.5	68.8	39.3	46.4	35.7	35.7	53.6	33.9
70歳代	116	55.2	63.8	50.9	50.9	38.8	32.8	50.9	38.8
80歳以上	58	50.0	53.4	50.0	31.0	36.2	20.7	46.6	29.3

区分	労働組合の幹部	農協・漁業・林業 などの事業組合 の役員	新聞・放送などマ スメディア関係 者	自治会長、町内会 長等	地域の防災組織 など災害対応に 携わる者	理工系分野の研 究者・技術者	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全 体	27.0	20.9	23.9	28.5	29.7	23.7	12.9	2.3	3.5
女性 10歳代	9.1	18.2	9.1	18.2	27.3	27.3	9.1	0.0	0.0
20歳代	26.3	18.4	21.1	18.4	28.9	18.4	21.1	2.6	0.0
30歳代	34.6	23.1	21.2	21.2	32.7	13.5	11.5	3.8	3.8
40歳代	27.5	17.5	22.5	27.5	23.8	15.0	15.0	0.0	1.3
50歳代	30.5	21.2	22.0	22.0	25.4	23.7	16.9	1.7	0.0
60歳代	28.6	16.2	25.7	27.6	36.2	26.7	7.6	0.0	2.9
70歳代	21.5	17.7	28.5	26.2	33.1	25.4	7.7	2.3	5.4
80歳以上	30.0	20.0	23.3	28.3	41.7	26.7	13.3	5.0	11.7
男性 10歳代	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
20歳代	11.4	8.6	11.4	14.3	17.1	5.7	25.7	2.9	2.9
30歳代	32.7	25.5	20.0	27.3	25.5	21.8	23.6	0.0	3.6
40歳代	27.9	26.5	23.5	29.4	27.9	32.4	14.7	4.4	2.9
50歳代	22.1	25.0	21.2	25.0	27.9	24.0	17.3	3.8	1.0
60歳代	27.7	26.8	25.9	35.7	30.4	25.0	8.0	1.8	0.9
70歳代	29.3	22.4	31.9	41.4	31.9	25.9	9.5	1.7	5.2
80歳以上	24.1	17.2	20.7	39.7	25.9	31.0	8.6	5.2	8.6

問 45 あなたは男女共同参画社会を実現するために、特に重要なことは何だと思えますか。
(〇は3つまで)

「女性や男性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」の割合が47.9%と最も高く、次いで「子どもの頃から家庭や学校で男女平等教育をする」の割合が33.9%、「仕事や賃金面で男女格差をなくす」の割合が32.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」「女性や男性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」「子どもの頃から家庭や学校で男女平等教育をする」「仕事や賃金面で男女格差をなくす」の割合が増加しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では年代が下がるほど「労働時間を短縮し、家事・育児・地域活動などに関われるようにする」の割合が高く、男性では10歳代から70歳代まで年代が上がるほど「政府や企業などで、積極的に女性を採用し、登用する」の割合が高い傾向にあります。また、女性20歳代で「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」、女性70歳代で「女性も経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、力の向上を図る」、女性60歳代で「保育や介護などの施設やサービスの充実を図る」の割合が高くなっています。

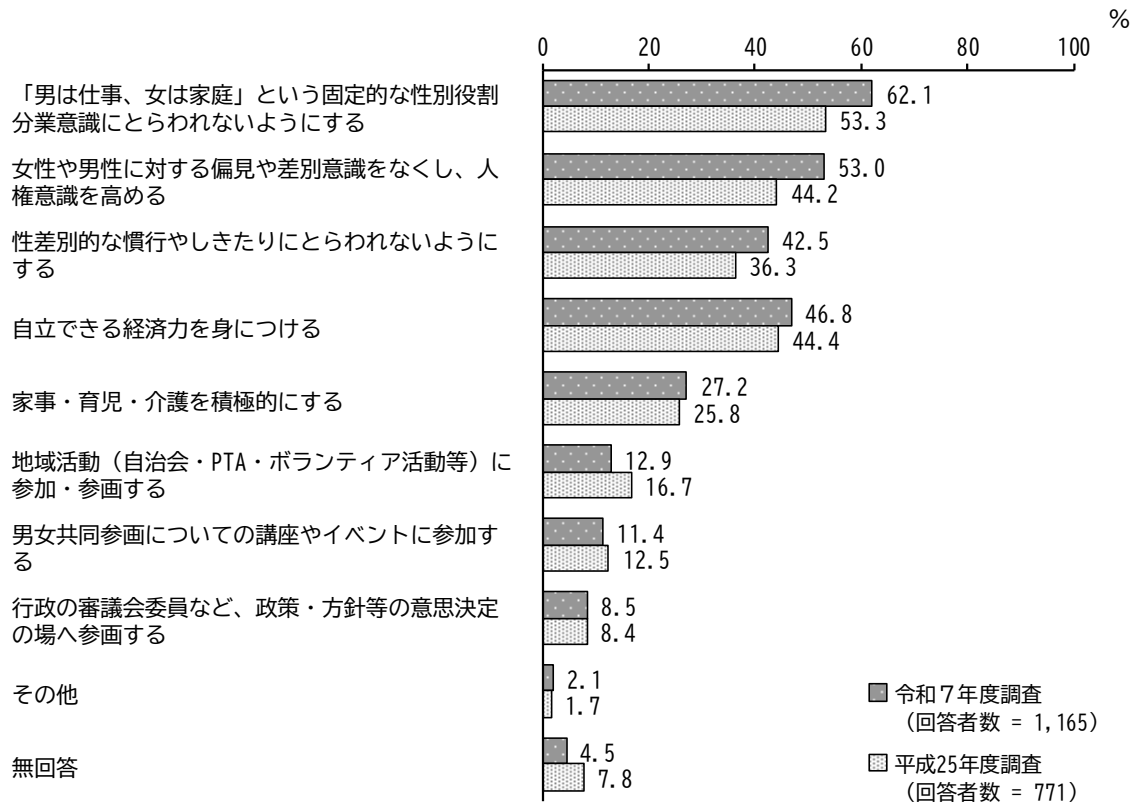
単位：%

区分	回答者数(件)	法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める	女性や男性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める	子どもの頃から家庭や学校で男女平等教育をする	女性も経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、力の向上を図る	仕事や賃金面で男女格差をなくす	労働時間を短縮し、家事・育児・地域活動などに関われるようにする	保育や介護などの施設やサービスの充実を図る	政府や企業などで、積極的に女性を採用し、登用する	女性のリーダーを養成し、意思決定の場への女性の参画を図る	その他	無回答
全体	1,165	29.9	47.9	33.9	28.5	32.9	16.8	18.7	10.1	12.4	2.3	6.7
女性												
10歳代	11	36.4	36.4	36.4	18.2	54.5	36.4	18.2	0.0	18.2	0.0	0.0
20歳代	38	44.7	50.0	34.2	15.8	44.7	28.9	15.8	5.3	10.5	2.6	5.3
30歳代	52	28.8	51.9	34.6	23.1	30.8	28.8	19.2	7.7	15.4	1.9	9.6
40歳代	80	26.3	47.5	35.0	27.5	33.8	22.5	8.8	11.3	5.0	1.3	7.5
50歳代	118	28.8	48.3	31.4	33.9	35.6	19.5	18.6	7.6	9.3	4.2	4.2
60歳代	105	30.5	50.5	33.3	36.2	41.0	16.2	32.4	10.5	7.6	1.0	2.9
70歳代	130	23.1	52.3	30.0	41.5	35.4	10.8	27.7	19.2	11.5	0.0	5.4
80歳以上	60	25.0	30.0	35.0	36.7	28.3	8.3	20.0	13.3	16.7	3.3	13.3
男性												
10歳代	6	33.3	66.7	33.3	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
20歳代	35	28.6	34.3	34.3	17.1	25.7	25.7	14.3	2.9	8.6	5.7	8.6
30歳代	55	29.1	50.9	27.3	27.3	21.8	16.4	20.0	3.6	14.5	5.5	3.6
40歳代	68	32.4	57.4	38.2	13.2	33.8	19.1	14.7	7.4	8.8	2.9	2.9
50歳代	104	32.7	52.9	37.5	26.9	21.2	17.3	14.4	8.7	12.5	2.9	6.7
60歳代	112	34.8	50.9	40.2	26.8	30.4	14.3	10.7	8.0	12.5	2.7	3.6
70歳代	116	26.7	45.7	34.5	28.4	36.2	12.9	20.7	12.1	20.7	0.9	7.8
80歳以上	58	34.5	34.5	29.3	19.0	31.0	8.6	13.8	13.8	17.2	1.7	20.7

問 46 男女共同参画社会を実現するために、あなたはどのようなことができますか。(〇はいくつでも)

「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分業意識にとらわれないようにする」の割合が62.1%と最も高く、次いで「女性や男性に対する偏見や差別意識をなくし、人権意識を高める」の割合が53.0%、「自立できる経済力を身につける」の割合が46.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分業意識にとらわれないようにする」「女性や男性に対する偏見や差別意識をなくし、人権意識を高める」「性差別的な慣行やしきたりにとらわれないようにする」の割合が増加しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど、女性では「地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動等）に参加・参画する」「行政の審議会委員など、政策・方針等の意思決定の場へ参画する」の割合が高く、男性では「地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動等）に参加・参画する」「男女共同参画についての講座やイベントに参加する」「行政の審議会委員など、政策・方針等の意思決定の場へ参画する」の割合が高い傾向にあり、「家事・育児・介護を積極的にする」の割合が低い傾向にあります。また、女性60歳代で「女性や男性に対する偏見や差別意識をなくし、人権意識を高める」、女性20歳代で「自立できる経済力を身につける」の割合が高くなっています。

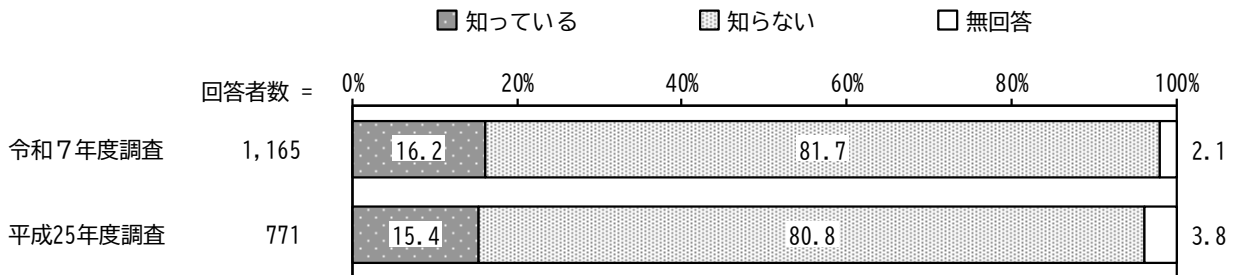
単位：％

区分	回答者数(件)	「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別意識をよそに、男女共同参画の意識を高める	女性や男性に対する偏見や差別意識をなくし、人権意識を高める	性差別的な慣行やしきたりにとらわれないようにする	自立できる経済力を身につける	家事・育児・介護を積極的にする
全体	1,165	62.1	53.0	42.5	46.8	27.2
女性 10歳代	11	63.6	63.6	63.6	54.5	36.4
20歳代	38	60.5	44.7	50.0	57.9	23.7
30歳代	52	59.6	53.8	42.3	53.8	38.5
40歳代	80	60.0	55.0	40.0	56.3	25.0
50歳代	118	63.6	49.2	45.8	55.1	20.3
60歳代	105	71.4	70.5	56.2	53.3	23.8
70歳代	130	67.7	58.5	36.9	50.0	18.5
80歳以上	60	61.7	43.3	33.3	53.3	13.3
男性 10歳代	6	66.7	50.0	66.7	16.7	33.3
20歳代	35	45.7	40.0	42.9	28.6	31.4
30歳代	55	56.4	30.9	32.7	49.1	41.8
40歳代	68	69.1	50.0	39.7	32.4	44.1
50歳代	104	61.5	48.1	38.5	41.3	34.6
60歳代	112	58.9	57.1	43.8	37.5	25.9
70歳代	116	59.5	55.2	45.7	42.2	28.4
80歳以上	58	65.5	55.2	36.2	43.1	22.4

区分	地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動等）に参加・参画する	男女共同参画についての講座やイベントに参加する	行政の審議会委員など、政策・方針等の意思決定の場へ参画する	その他	無回答
全体	12.9	11.4	8.5	2.1	4.5
女性 10歳代	9.1	27.3	18.2	0.0	9.1
20歳代	7.9	5.3	5.3	2.6	5.3
30歳代	15.4	15.4	15.4	7.7	3.8
40歳代	1.3	2.5	3.8	1.3	5.0
50歳代	5.1	7.6	5.9	0.8	1.7
60歳代	12.4	12.4	6.7	1.0	2.9
70歳代	16.2	16.9	8.5	0.0	4.6
80歳以上	23.3	16.7	16.7	5.0	10.0
男性 10歳代	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
20歳代	5.7	5.7	5.7	5.7	2.9
30歳代	12.7	9.1	5.5	5.5	3.6
40歳代	5.9	1.5	1.5	2.9	1.5
50歳代	14.4	8.7	6.7	1.9	1.9
60歳代	12.5	10.7	7.1	0.9	4.5
70歳代	19.0	17.2	12.9	1.7	4.3
80歳以上	25.9	19.0	15.5	1.7	13.8

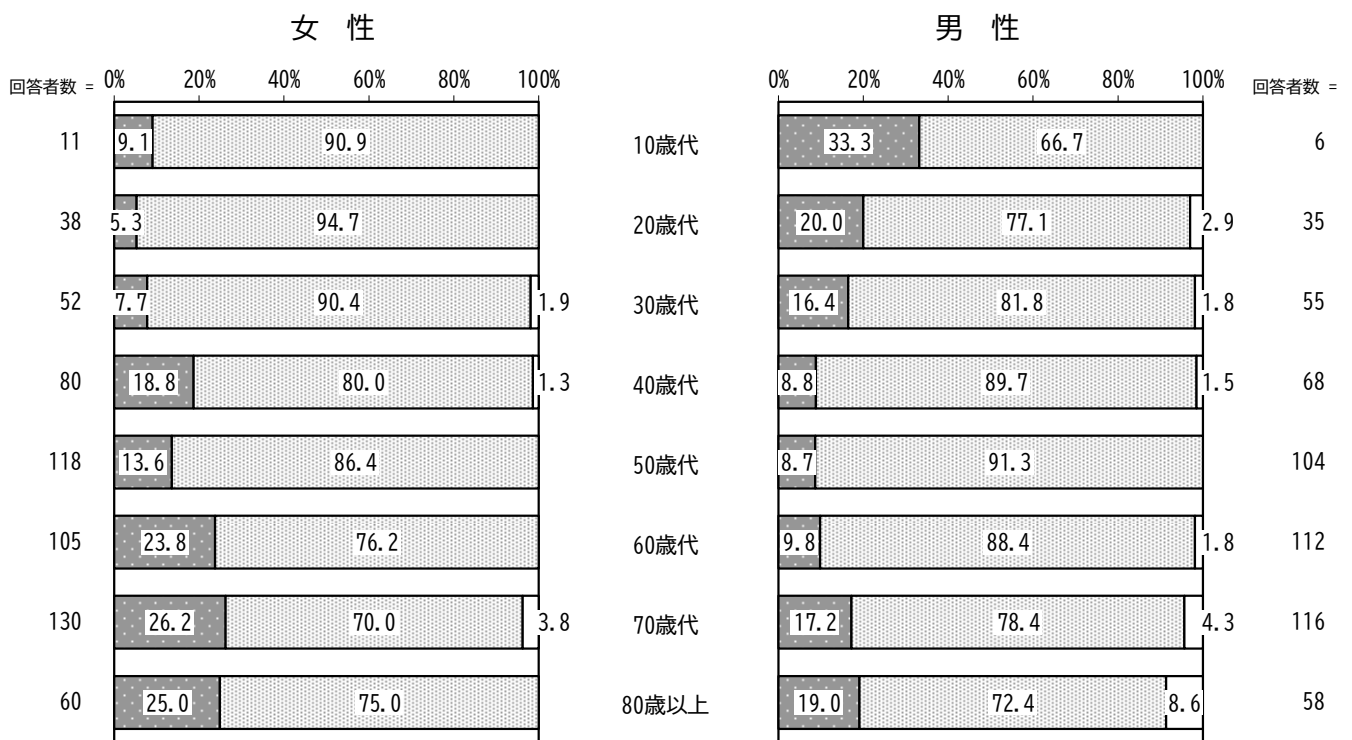
問 47 和泉市では、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設として「男女共同参画センター」をシティプラザに設置していますが、あなたはご存知ですか。
(〇は1つ)

「知っている」の割合が16.2%、「知らない」の割合が81.7%となっています。
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



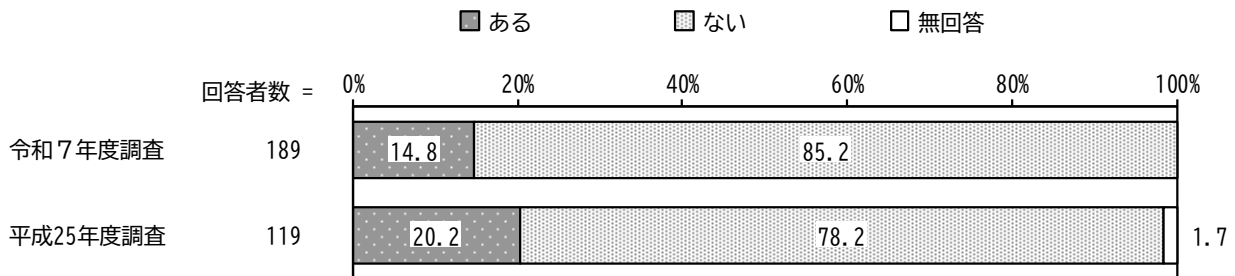
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では10歳代から50歳代まで年代が上がるほど「知らない」の割合が高くなっています。また、女性70歳代で「知っている」の割合が高くなっています。



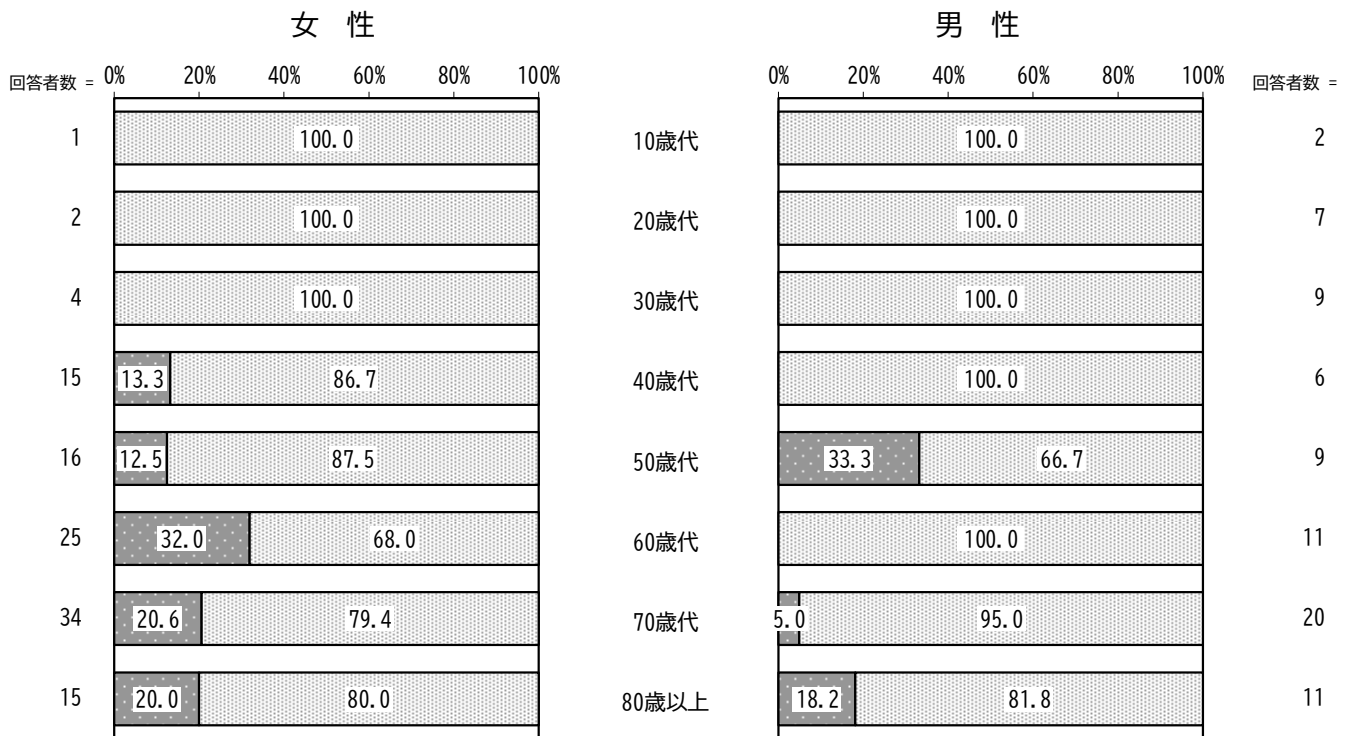
問 47-1 問 47で「知っている」と回答された方にお聞きします。
あなたは「男女共同参画センター」を利用したことがありますか。(○は1つ)

「ある」の割合が14.8%、「ない」の割合が85.2%となっています。
平成25年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加しています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では60歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「ある」の割合が高くなっています。



和泉市 男女共同参画に関する市民意識調査

調査の趣旨とご協力をお願い

和泉市では、男女が互いに人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、平成19年に「和泉市男女共同参画推進条例」を制定、平成27年には「第3期和泉市男女共同参画行動計画（オアシスプラン）」及び「和泉市配偶者等からの暴力防止及び被害者の支援に関する基本計画（DV防止基本計画）」を策定し、男女共同参画に関する様々な取組を進めています。

今回、第3期計画期間の終了にあたり、新たな第4期計画を策定することとなりました。この調査は、男女共同参画に対する市民の意識や現状についての考えをお聞かせいただき、計画策定の基礎資料とすることを目的としており、和泉市内の18歳以上の男女3,000人の方を無作為に選び実施するものです。

お答えは、すべて無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、回答された方にご迷惑をおかけするようなことはございません。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年12月

和泉市長 辻 宏康

— ご記入にあたってのお願い —

1. あて名のご本人が回答してください。（ご本人での回答が困難な方は、ご家族などの代筆や代筆などによりご回答いただいても結構です。）
2. 回答は、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。回答数は、各設問に（○印は1つ）（○印はいくつでも）などと指定してありますので、それに従って回答してください。
3. 回答の中で「その他」を選んだ場合は、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をできるだけご記入ください。
4. インターネットを利用してパソコンやスマートフォンなどからも回答できます。下記のURLにアクセスするか、右の二次元コードを読み込んでください。
URL : <https://questant.jp/q/l6l8YR5>
入力する際は、IDを入力してください。
I D : ●●●●●●



5. 回答は**令和8年11月8日（木）**までにお願いたします。調査票でご回答いただいた場合、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、ポストにご投函くださるようお願いいたします。

※本調査は、和泉市が「株式会社名豊」に委託して行っております。返信用封筒の宛先が「株式会社名豊」になっている旨を御了承ください。

《調査主体》

和泉市役所 総務部 人権・男女参画室

◇規程等などの理由で印刷物を送付することが困難な方は、下記連絡先までご相談ください。

和泉市役所 総務部 人権・男女参画室

電話 0725-99-8116（直通）

株式会社名豊

電話 052-526-6001

※12月27日～1月4日は閉庁日（休業日）となります。お問い合わせは12月26日まで、または1月5日以降にお願いいたします。

1 あなたについて

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

1. 女性 2. 男性 3. 1, 2のどちらでもない 4. 答えたくない

問2 あなたの年代は。(○は1つ)

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代
4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代
7. 70歳代 8. 80歳以上

問3 あなたがお住まいの地域(中学校区又は義務教育学区)はどこですか。中学校区がわからない方は、町名をお書きください。(○は1つ)

1. 和泉 2. 郷荘 3. 石尾
4. 北池田 5. 両池田 6. 光明台
7. 南松尾はつが野 8. 横尾 9. 富秋
10. 信太 11. 中学校区がわからない方→(町)

問4 あなたの家族構成はどれに当てはまりますか。(○は1つ)

1. 1人世帯 2. 一世代世帯(夫婦だけ)
3. 二世代世帯(親と子) 4. 三世代世帯(親と子と孫)
5. その他の世帯(具体的に)

問5 あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。またはしていませんか。(○は1つ)

1. 未婚 2. 結婚している(配偶者・パートナー(※)がいる)
3. 離婚し、現在は配偶者・パートナーはいない
4. 死別し、現在は配偶者・パートナーはいない

※パートナー：事実婚、生活の本拠を共にする交際相手のこと

問6 あなたはお子さんがいますか。(別居を含む)(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 5. 子どもはいない

問6-1 【お子さんがいる方にお聞きします。】
一番下のお子さんはどれに当てはまりますか。(○は1つ)

1. 3歳未満 2. 3歳以上就学前 3. 小学生
4. 中学生 5. 高校生 6. その他

問7 あなたの現在の就業形態、また、今後あなたが希望する就業形態についてお答えください。

(①～③のそれぞれについて1つに○)

また、配偶者・パートナーがおられる方は③についてもお答えください。(○は1つ)

※産休・育児休業・介護休業中の方は仕事をしているものとしてお答えください。

	専業主婦・主夫	専業主夫・主妻	無職	学生	その他			
①あなたの就業形態は	1	2	3	4	5	6	7	8
②あなたが今後希望する就業形態は	1	2	3	4	5	6	7	8
③配偶者・パートナーの就業形態は	1	2	3	4	5	6	7	8

※専業主婦・主夫：外で就業せず、家事や育児に専念する主婦・夫

※無職：専業主婦・主夫以外の方で、職業に就いていない状態の方

問8 昨年のあなたご自身の年間所得はいくらでしたか。(○は1つ)

※年間所得は、所得税・社会保険料等控除前の額とします。

1. 200万円未満
2. 200万円以上 400万円未満
3. 400万円以上 600万円未満
4. 600万円以上 800万円未満
5. 800万円以上 1,000万円未満
6. 1,000万円以上

問9 あなたが最後に通われた学校（中退を含む）はどれにあてはまりますか。

在学中の方は、現在通学されている学校をお答えください。(○は1つ)

1. 中学校、旧制小学校、旧制高等小学校
2. 高等学校、中卒が入学資格の専修学校、各種学校、旧制中学校
3. 短期大学、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校、各種学校、旧制高校、専門学校
4. 四年制大学
5. 大学院
6. その他（具体的に)

2 男女共同参画について

問10 あなたは次のような分野で男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。

(①～⑧のそれぞれについて1つに○)

	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえは男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえは女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6	6
②職場では	1	2	3	4	5	6	6
③地域活動の場では	1	2	3	4	5	6	6
④学校教育の場では	1	2	3	4	5	6	6
⑤政治の場では	1	2	3	4	5	6	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6	6
⑦社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6	6
⑧全体として	1	2	3	4	5	6	6

問11 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえはそう思う
3. どちらかといえはそう思わない
4. そう思わない

問12 「問11で「1.」または「2.」と回答された方にお聞きします。」

そう思う理由を教えてください。(○はいくつでも)

1. 日本の伝統・慣習だと思うから
2. 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから
3. 子どもの成長にとって良いと思うから
4. 個人的にそうありたいと思うから
5. その他（具体的に)

問13 「問11で「3.」または「4.」と回答された方にお聞きします。」

そう思わない理由を教えてください。(○はいくつでも)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
3. 男女ともに仕事と家庭に両立する方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
4. 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事を必要があると思うから
5. 一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから
6. 性別で役割分担をすべきでないから
7. その他（具体的に)

3 家庭生活、子育て等について

問14 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。

(①～⑥のそれぞれについて1つに○)

	もう思う	いさほど思う	まあ普通	さほど思う	あまり思わない	全く思わない
①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5	5
②女性は結婚したら、自分自身のことより家庭を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5	5
③夫の親を妻が介護するのは当然である	1	2	3	4	5	5
④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5	5
⑤子どもを産む回数や時期などは、女性の意思も尊重すべきである	1	2	3	4	5	5
⑥結婚してもうまくいかないときは、結婚を継続しなくてもよい	1	2	3	4	5	5
⑦未婚は別の姓を名乗ってもよい	1	2	3	4	5	5

問15 次のことからについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。

あなたの考えに近いものを選んでください。(①～⑥のそれぞれについて1つに○)

	主に男性が担う	女性が担う	性別関係なく	性別関係なく	性別関係なく	性別関係なく
①生活費をかせぐ	1	2	3	4	5	6
②日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
③日常の家事(炊事)	1	2	3	4	5	6
④日常の家事(洗濯)	1	2	3	4	5	6
⑤日常の家事(掃除)	1	2	3	4	5	6
⑥日常の家事(③～⑤以外の家事)	1	2	3	4	5	6
⑦老親や病身者の介護・看護	1	2	3	4	5	6
⑧子どもの教育としつけ、学校行事の参加	1	2	3	4	5	6
⑨乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
⑩自治会、町内会など地域活動(※)への参加	1	2	3	4	5	6

※「地域活動」とは、自治会、PTA、民生委員、NPOやボランティアでの活動などを指します。

問16 1日のうちであなたが仕事(在宅勤務を含む)や家事、育児、介護に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。(それぞれについて1つに○)

(1) 仕事(通勤時間を含む)

①平日(○は1つ)	②休日(○は1つ)
1. なし	1. なし
2. 4時間未満	2. 4時間未満
3. 4時間～8時間未満	3. 4時間～8時間未満
4. 8時間～12時間未満	4. 8時間～12時間未満
5. 12時間以上	5. 12時間以上

(2) 家事

①平日(○は1つ)	②休日(○は1つ)
1. なし	1. なし
2. 1時間未満	2. 1時間未満
3. 1時間～3時間未満	3. 1時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	4. 3時間～5時間未満
5. 5時間以上	5. 5時間以上

(3) 育児

①平日(○は1つ)	②休日(○は1つ)
1. なし	1. なし
2. 1時間未満	2. 1時間未満
3. 1時間～3時間未満	3. 1時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	4. 3時間～5時間未満
5. 5時間以上	5. 5時間以上

(4) 介護

①平日(○は1つ)	②休日(○は1つ)
1. なし	1. なし
2. 1時間未満	2. 1時間未満
3. 1時間～3時間未満	3. 1時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	4. 3時間～5時間未満
5. 5時間以上	5. 5時間以上

問17 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動（※）」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

※「地域活動」とは、自治会、PTA、民生委員、NPOやボランティアでの活動などを指します。

(1) 希望として (○は1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭や地域活動」を優先したい
3. 「個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい
8. その他：自由記述 ()

(2) 現実（現状）として (○は1つ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭や地域活動」を優先している
3. 「個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしている
8. その他：自由記述 ()

問18 あなたに介護が必要になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(○は1つ)

1. 介護保険を利用して、病院や老人ホームなどの施設で介護してほしい
2. 介護保険を利用して、ホームヘルパーのサービスを受けながら、家族や身内の人に介護してほしい
3. 介護保険を利用せず、家族や身内の人に介護してほしい
4. わからない
5. その他（具体的に)

問18-1 【問18で「2」「3」と回答された方にお聞きします。】

その場合、あなたは主に家族の誰に介護してほしいと思いますか。(○は1つ)

1. 配偶者	2. 娘	3. 息子
4. 娘の配偶者	5. 息子の配偶者	
6. その他（具体的に)		
7. まだ具体的に考えていない		

問19 あなたは次の制度の内容についてご存知ですか。また実際に取得したことがありますか。(○は1つ)

	A 内容を知っているか			B 取得したことがある	
	知っている	聞いたことがある	知らない	取得したことがある	取得したことがない
①育児休業制度	1	2	3	4	5
②介護休業制度	1	2	3	4	5

問19-1 【問19のBで「取得したことがない」と回答された方にお聞きします。】

その理由は何か。(○はいくつでも)

1. 職場でこれまでに取得した人を知らないから
2. 職場にそのような制度があるかわからないから
3. 仕事が忙しいから
4. 他の職員の負担や代替要員の配置など職場や上司、同僚へ気がねするから
5. 休業することで昇格・昇給などに不利になるのではないかと不安だから
6. 復職後に同じ仕事や希望する仕事につけるか不安だから
7. 利用することに対する職場内での理解が十分ではないため
8. 休業することで収入が減少することが不安だから
9. 他の家族など、育児や介護をする人がいたため、取得する必要がなかった
10. その他（具体的に)

問20 「職場での仕事」と「生活（趣味や家庭での時間など）」の調和を図る“ワーク・ライフ・バランス”という考え方があります。日々の暮らしの中の時間の使い方について、あなたの「希望」と「現実」をお答えください。(○は1つ)

	仕事優先	生活優先	仕事と生活の両方を優先	わからない
①希望	1	2	3	4
②現実	1	2	3	4

問 21 「男性はもっと家庭生活（家事や子育て、介護など）や地域活動に参加する必要がある」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. そう思う	2. そう思わない	3. どちらともいえない
---------	-----------	--------------

問 22 男性の家庭生活（家事や子育て、介護など）への参加を進めるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男性が家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと 2. 男性が家庭生活に参加することに対する社会の抵抗感をなくすこと 3. 労働時間短縮や休暇制度等、働き方の見直し 4. 男性が育児休業・介護休業を取ることを職場で奨励する 5. 男性のための、家事・育児・介護に関する講座や教室の開催 6. 男女の役割を決めつけるような子どもたちの育て方をしない 7. 男性どうしの地域でのネットワークづくり 8. その他（具体的に 9. 必要だと思わない

4 教育について

全員の方が問 23～問 27 をお答えください。

問 23 あなたは、女の子と男の子のしつけや教育についてどう思いますか。(○は1つ)

1. 女の子は女らしく、男の子は男らしくといった性別に応じたしつけや教育をする方がよい 2. 性別にこだわらず、同じようにしつけや教育をする方がよい 3. どちらともいえない

問 24 あなたは、女の子、男の子は、それぞれどのように育つのがおさわししいと思いますか。(①、②のそれぞれについて3つに○)

	やどしつに感ひりる あふた	自分 の 考 え を は た か り と 考 え ま ん	指 導 力 の あ ふ ま ん	責 任 感 の あ ふ ま ん	家 事 な ど 身 の 回 り の こ と が あ ふ ま ん と も あ ふ ま ん	経 済 的 自 立 が あ ふ ま ん
①女の子	1	2	3	4	5	6
②男の子	1	2	3	4	5	6

問 25 あなたは、女の子、男の子は、それぞれどのような生き方をするのが良いと思いますか。(①、②のそれぞれについて3つに○)

	社 会 的 な 地 位 を 得 る	精 神 的 に 自 立 し た 生 活 を ま か し る	人 間 性 豊 か な 生 活 を ま か し る	家 族 や 回 り の 人 た ち と 良 く 交 往 し る	社 会 に 貢 献 す る	ま か し た 性 格 や 才 能 を 生 か す	本 人 の 意 思 に 任 ず る	そ の 他	わ か ら な い
①女の子	1	2	3	4	5	6	7	8	9
②男の子	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 26 あなたは、学校の中で男女平等を進めるために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 子どもたちが男女平等を主体的に考える教育を進める 2. 教職員の男女平等教育に関する意識を深める 3. 保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会を持つ 4. 男女を必要以上に区別せず、個人の個性と能力を尊重した指導を公平に行う 5. ここからだからを大切に年齢に応じた性教育を行う 6. 男女にかかわらず基本的な教育として、働くことの意義を教える 7. 男女平等教育推進モデル校の取組を充実する 8. 校長・教頭の管理職に女性を積極的に登用する 9. その他（具体的に
--

問 27 少女や少年が性犯罪や事件に巻き込まれるケースを見聞きすることがあります。それらの防止について、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 自分や相手のところやからだを大切にすることを教える 2. とっさの時の自分の身の守り方を教える 3. 援助交際等の痴情行為は犯罪であることを教える 4. HIV（エイズウイルス）・性感染症などについての正確な情報を伝える 5. 薬物（シンナー、ドラッグ、覚せい剤など）の恐ろしさを知らせる 6. 携帯電話など出会い系サイトの危険性を知らせ、規制する法律をつくる 7. 児童買春・児童ポルノ禁止法の周知を図るとともに、取締りを強化する 8. 子どもたちが気軽に相談できる電話相談の充実を図る 9. その他（具体的に

問33 【問33は、仕事をしている方（非常勤、派遣、パート、アルバイトなども含む）にお聞きします。】

あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか

(①～⑨のそれぞれについて1つに○)

	いる	いる程度が	いない程度が	わからない
①募集・採用	1	2	3	4
②賃金	1	2	3	4
③仕事の内容	1	2	3	4
④昇進・昇格	1	2	3	4
⑤管理職への登用	1	2	3	4
⑥能力評価（業績評価・人事評価など）	1	2	3	4
⑦研修の機会や内容（キャリア支援）	1	2	3	4
⑧家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備	1	2	3	4
⑨育児・介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ	1	2	3	4

問34 男女がともに、仕事と家庭生活（家事や子育て、介護など）や地域活動を両立させるためには、

あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 女性も仕事を続けるのは当然だという意識を高め、社会的な風潮をつくる 2. 男性自身が家事・育児・介護・地域活動に参加するという意識を持って、実践する 3. 家族が仕事と家庭生活や地域活動との両立を理解し、協力する 4. 育児や介護、地域活動のための休暇などが取りやすい職場環境をつくる 5. 働いている人たちが、地域活動に参加しやすいような工夫をする 6. 労働時間を短縮する 7. 幼稚園・保育所・学童保育の充実を図る 8. 介護サービスの充実を図る 9. その他（具体的に） 10. 特にない)
--	---

問35 【64歳以下の方で、現在、専業主婦・専業主夫または、無職の方(学生は除く)にお聞きします。】

あなたは今後働きたいと思いますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない 4. その他（具体的に）)
---	---

12

問35-1 【問35で「1. はい」と回答された方にお聞きします。】

今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか。あてはまるものの番号をすべて選んでください。(○はいくつでも)

1. 保育施設に入所できなかったから 2. 延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないから 3. 仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから 4. 家事について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから 5. 育児について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから 6. 介護・看護について、施設やサービス等家族の協力が得られないから 7. 介護・看護について、施設やサービスを利用できなかったから 8. 働くことで家族に迷惑がかかると感じるから 9. 働くことで家庭の両方をうまくやっていると自信がないから 10. 仕事と家庭の両方をうまくやっていると不安を感じるから 11. 仕事に必要な知識や能力が備わっていないから 12. 職場での人間関係をうまくやっていると不安を感じるから 13. その他（具体的に：)
--	---

6 地域活動などへの参画について

問36 あなたは現在、地域活動など（自治会、子ども会、PTA活動、ボランティア活動、NPO活動など、趣味などの活動は除きます。）をしていますか。また、今後してみたいと思いますか。(○は1つ)

1. している 2. してみたい 3. 特にしたくはない	⇒問36-1、問36-2、問36-3へ進んでください ⇒問36-1、問36-3へ進んでください ⇒問36-4へ進んでください
------------------------------------	--

問36-1 【問36で「1. している」「2. してみたい」と回答された方にお聞きします。】

それはどのような活動ですか。(○はいくつでも)

1. 自治会、女性会（婦人会）、老人会、子ども会、PTA、子ども会、防災・防犯などの地域活動 2. 消費生活・環境保護・リサイクル問題等にかかわる活動 3. 子育て、高齢者介護、障がい者支援などにかかわる福祉・ボランティア活動 4. 国際理解・多文化共生を深めるような活動 5. 地域おこしやまちづくりに関する活動 6. 伝統行事（地域の祭りなど） 7. その他の活動（具体的に：)
--	---

13

問36-2 【問36で「1. している」と回答された方にお聞きします。】

その活動で、現在役職についていますか。または、役職についていた経験がありますか。(○は1つ)

1. 現在についている 2. 以前ついていた 3. ついた経験はない

問36-3 【問36で「1. している」「2. してみたい」と回答された方にお聞きします。】

あなたが地域活動をしようとする場合、障壁となっていること、障壁となるであろうと思われることがありますか。(○はいくつでも)

1. 仕事が増え、時間が少ない 2. 職場の上司や同僚の理解が得られない
 3. 家事・育児が増え、時間が少ない 4. 子どもの世話を頼めるところがない
 5. 親や病人の介護を頼めるところがない 6. 配偶者や家族の理解が得られない
 7. 経済的な余裕がない 8. 自分の健康や体力、気力に自信がない
 9. 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない 11. 慣習やしきたりになじめない
 10. 身近なところで活動する場所がない 12. その他(具体的に)
 13. 特に障壁はない

問36-4 【問36で「3. 特にしなくてはならない」と回答された方にお聞きします。】

その理由は何かですか。(○はいくつでも)

1. 仕事が増え、時間が少ない 2. 家事・育児が増え、時間が少ない
 3. 活動の曜日や時間帯が合わない 4. 活動自体が負担である
 5. 活動に関心がない、魅力を感じない 6. 自分がやりたい活動をしているグループや団体を知らない
 7. 自分の意見や考えが通りそうにない 8. 特定の性別や世代に役目が偏っていると感じる
 9. 自分の健康や体力、気力に自信がない 10. 身近なところで活動する場所がない
 11. 個人的な趣味や時間を優先したい 12. その他(具体的に)
 13. 特に理由はない

問37 自治会長やPTA会長などの役職に、女性の方はあなた自身が、男性の方はあなたの妻など身近な女性が推薦されたら、あなたはでしょうか。(○は1つ)

1. 引き受ける・引き受けることをすすめる 2. 断る・断ることをすすめる

問37-1 【問37で「2. 断る・断ることをすすめる」と回答された方にお聞きします。】

その理由は何かですか。(○はいくつでも)

1. 家事・育児・介護・介護に支障が出るから 2. 活動時間が長くなり、帰りが遅くなるから
 3. 男性が多数を占める組織に入ることには抵抗を感じるから
 4. 家族の支援、協力が得られないから
 5. 本人の経験が少ないから
 6. その他(具体的に)

7 防災について

問38 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があるかと思うことは何ですか。

(○は3つまで)

1. 避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、授乳室、防災対策等)
 2. 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること
 3. 乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性が必要とするものなどの備えやニーズの把握、支給する際の配慮
 4. 災害時の救護医療体制(診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)
 5. 被災者に対する相談体制
 6. 災害対策本部に女性が配置され、被災時の対応に女性の視点が入ること
 7. 防災・復興に関する計画の策定のための防災会議などに女性が参加し、男女共同参画の視点を計画や防災マニュアルなどに反映すること
 8. その他(具体的に)
 9. わからない
 10. 必要だと思わない

8 政策・方針決定の場への参画について

問39 あなたは政治・行政・職場や地域において、政策方針決定の場への女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別的意識 3. 家族の支援・協力が得られない
 2. 男性優位の組織運営 4. 女性の能力開発の機会が不十分 5. 女性側の積極性が十分ではない
 6. 女性の参画を進めようという男性側の積極性が十分ではない
 7. その他(具体的に)
 8. わからない

9 配偶者などへの暴力について

問 40 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(①～⑤のそれぞれについて1つに○)

	暴力 がなされた 場合	暴力 がなされ ない 場合	暴力 がなされ ない 場合 もある	暴力 がなされ ない 場合 もある とは
①平手で打つ	1	2	3	3
②なぐる、ける、人に物を投げる	1	2	3	3
③家具などの物にあたる、壊す、物を投げる	1	2	3	3
④なぐるふりをして、おどす	1	2	3	3
⑤望まないに性的な行為を強要する、近所に露かしない	1	2	3	3
⑥無理やりポルノ画像などを見せる	1	2	3	3
⑦何を言っても無視し続ける	1	2	3	3
⑧暴言をほいたり、ばかにしたり、見下したりする	1	2	3	3
⑨自由にお金を使かせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	1	2	3	3
⑩友達や身内とのメールや電話を手エックしたり、つきあいを制限したりする	1	2	3	3
⑪本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する	1	2	3	3
⑫子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう	1	2	3	3

問 41 あなたは配偶者や親密な関係にある恋人から以下のような暴力を受けたことがありますか。

(①～⑤のそれぞれについて1つに○)

	あ り ま す	あ ら ま り な い
①なぐる、ける、ものを投げつける、突き飛ばすなど	1	2
②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をほくなど	1	2
③望まないに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、近所に露かしないなど	1	2
④自由にお金を使かせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど	1	2
⑤携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど	1	2

問 41-1 「問 41」で1つでも「何回もあった」「1、2回あった」と回答された方にお聞きします。あなたは暴力を受けたとき誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(○はいくつでも)

1. 家族・親せき	2. 友人・知人
3. 弁護士	4. 警察
5. 学校の教師 (担任や養護教諭など)	
6. 行政の女性相談窓口や男女共同参画センターの相談窓口	
7. 福祉事務所・保健所などの公的機関	8. 医師・看護師などの医療関係者
9. 民間のカウンセリングルーム	10. その他 (具体的に)
11. どこにも相談しなかった	

問 41-2 「問 41-1」で「11. どこにも相談しなかった」と回答された方にお聞きします。]

相談しなかったのはどうですか。(○はいくつでも)

1. どこに (誰に) 相談していいのか分からなかった
2. 恥ずかしくて誰にも相談できなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことが相手に知られると、もっとひどい暴力を受けると思った
5. 自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていけると思った
6. 他人を巻き込みたくなかった
7. 自分にも悪いところがあると思った
8. 相談するほどのことではないと思った
9. その他 (具体的に)

問 42 ドメスティック・バイオレンス (DV) など男女間の暴力を防止するためには、あなたはどのよう
なことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 自己尊重、人権尊重の意識を高める
2. 女性は男性に従うものだという差別意識をあらためる
3. 暴力やセクシュアル・ハラスメントを許さない社会づくりを進める
4. 「DV防止法」「男女雇用機会均等法」など法律の周知を図る
5. 被害者が相談したり避難できる場所を充実する
6. 警察が犯罪として取り締まる
7. 福祉事務所・医療機関・警察などが、連携して被害者に対応するシステムを充実する
8. 加害者へのカウンセリングや暴力をくり返さないための研修を行う
9. 学校 (小学校～大学等) での教育啓発を行う
10. テートDV (交際相手からの暴力) についての教育を行う
11. その他 (具体的に)

10 男女共同参画の推進について

問43 あなたは次の「言葉」や「法律等」をご存知ですか。あてはまるものを選んでください。

(①～⑯のそれぞれについて1つに○)

	知っている	内聞 はほとんど ないが	内聞 はほとんど ないが	内聞 はほとんど ないが
①ドメスティック・バイオレンス (DV) (親密な関係にある男女間の暴力)	1	2	3	3
②固定的な性別役割分業意識	1	2	3	3
③ジェンダー (社会的・文化的につくられた性差)	1	2	3	3
④ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3	3
⑤ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3	3
⑥男女共同参画社会	1	2	3	3
⑦アンコンシャス・バイアス (無意識の思い込み)	1	2	3	3
⑧性的指向・性自認 (SOGI)	1	2	3	3
⑨ダイバーシティ (多様性)	1	2	3	3
⑩アウトティング (他人が、当事者の同意なく性的指向などを暴露する行為)	1	2	3	3
⑪女子差別撤廃条約 (女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)	1	2	3	3
⑫DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	1	2	3	3
⑬ストーカー規制法 (ストーカー行為等の規制等に関する法律)	1	2	3	3
⑭女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍推進法)	1	2	3	3
⑮困難な問題を抱える女性への支援に関する法律 (女性支援新法)	1	2	3	3
⑯和泉市男女共同参画推進条例	1	2	3	3

問44 次にあげるような職業や役職において、今後女性が増える方が良いと思うのはどれですか。

この中からいくつでもあげてください。(○はいくつでも)

1. 都道府県の知事、市 (区) 町村長	2. 国会議員、都道府県議会議員、市 (区) 町村議会議員
3. 国家公務員・地方公務員の管理職	4. 裁判官、検察官、弁護士
5. 学校長、大学学長、大学教授	6. 国連などの国際機関の管理職
7. 企業の管理職、役員	8. 起業家・経営者
9. 労働組合の幹部	10. 農協・漁業・林業などの事業組合の役員
11. 新聞・放送などマスメディア関係者	12. 自治会長、町内会長等
13. 地球の防災組織など災害対応に携わる者	14. 理工系分野の研究・技術者
15. 特になし	16. その他 (具体的に)

18

問45 あなたは男女共同参画社会を実現するために、特に重要なことは何だと思いますか。(○は3つまで)

1. 法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める
2. 女性や男性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める
3. 子どもの頃から家庭や学校で男女平等教育をする
4. 女性も経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、力の向上を図る
5. 仕事や専念面を短縮し、家事・育児・地域活動などに関われるようにする
6. 労働時間短縮、家事・育児・地域の充実を図る
7. 保育や介護などの施設やサービスの充実を図る
8. 政府や企業などで、積極的に女性を採用し、登用する
9. 女性のリーダーを養成し、意思決定の場への女性の参画を図る
10. その他 (具体的に)

問46 男女共同参画社会を実現するために、あなたはどのようなことができると思いますか。(○はいくつでも)

1. 「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分業意識にとらわれないようにする
2. 女性や男性に対する偏見や差別意識をなくし、人権意識を高める
3. 性別役割分業意識をなくし、人権意識を高める
4. 自立できる経済力を身につける
5. 家事・育児・介護を積極的にする
6. 地域活動 (自治会・PTA・ボランティア活動等) に参加・参画する
7. 男女共同参画についての講座やイベントに参加する
8. 行政の審議会委員など、政策・方針等の意思決定の場へ参画する
9. その他 (具体的に)

問47 和泉市では、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設として「男女共同参画センター」をシティプラザに設置していますが、あなたはご存知ですか。(○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問47-1 「問47で「1. 知っている」と回答された方にお聞きします。」

あなたは「男女共同参画センター」を利用したことがありますか。(○は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問48 あなたが「男女共同参画センター」に期待する役割がありましたら、ご自由にお書きください。

④ 質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒 (切手は不要です) に入れて令和8年1月8日 (木) までにポストにご投函くださるようお願いいたします。

19

和泉市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

発行：和泉市 和泉市総務部 人権・男女参画室
〒594-8501 大阪府和泉市府中町二丁目7番5号

電話：0725(99)8116